

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第344集

似内遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道釜石－秋田線建設工事関連遺跡発掘調査

(財)岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書第344集
似内遺跡発掘調査報告書正誤表

頁	行・No.	誤	正
38	24	第25号陥し穴状造構	25号陥し穴状造構
65	9	黒褐色土主体土層	黒褐色土主体の土層
148～188 の図版		遺物の縮尺はすべて 1/3 になっているが、同 頁内に縮尺が異なるも のがある。 (スケール入れ忘れ)	・原寸大 … 389 ・1/2 … 12, 25, 34～36, 77～79, 169 … 171, 202, 255, 287, 290, 326, 350, 352～356, 388, 390 391, 393, 394, 397, 411 ・1/4 … 5, 197, 235, 236, 240, 248, 309 310, 325, 349, 367, 370, 372, 379, 384, 387, 405, 412 ・1/5 … 385, 386
191(遺物 観察表内)	No.251	口径 20.8	なし(空欄)
195(遺物 観察表内)	No.389	計測値なし	長さ 1.3 幅 0.5 厚さ 0.2
196(遺物 観察表内)	No.351	幅 1.5	幅 6.7
	No.462	計測値なし	長さ(12) 幅 6.9
	No.463	長さ 7.2 幅 1.0	長さ(10) 幅 6.9
	No.464	長さ 5.4 幅 1.1	長さ 12.9 幅 12.9
	No.465	長さ 22.1 幅 7.5	長さ 2.2 幅 1.5

似内遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道釜石－秋田線建設工事関連遺跡発掘調査

序

岩手県には縄文時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地を有しており、平成11年度の岩手県教育委員会のまとめでは10,500箇所を超えております。先人たちの残した文化財を保護し、保存していくことは私たち県民に課せられた重大な責務であります。

一方、本調査の原因となりました東北横断自動車道路建設事業を例にあげるまでもなく、現代社会を豊かにし、快適な生活をおくための地域開発もまた県民の切実な願いであります。埋蔵文化財の保護・保存と地域開発事業という相容れない要素を持つ事業の調和のとれた施策が今日的な課題となっております。

当財団法人岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センターの創設以来、埋蔵文化財保護の立場にたって、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡について発掘調査を行い、その記録を残す処置をとつてまいりました。

本書は、日本道路公団東北支社による東北横断自動車道路建設事業に関連して平成10・11年度に行われた花巻市似内遺跡の発掘調査結果をまとめたものであります。本遺跡は、北上川右岸の河岸段丘上に立地し、調査の結果、平安時代の集落跡に伴う多量の遺物や遺構が発見され、貴重な資料を提供することができました。この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず、埋蔵文化財に対する理解の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成に御協力と御援助を賜りました日本道路公団東北支社や花巻市教育委員会をはじめとする多くの関係諸機関・関係各位に衷心より感謝申し上げます。

平成12年10月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 千葉 浩一

例　　言

1. 本報告書は、岩手県花巻市上似内第10地割66-1ほかに所在する似内遺跡の発掘調査の結果を収録したものである。
2. 本遺跡の岩手県遺跡登録台帳の遺跡番号と調査略号は次のとおりである。
ME 16-2299・NN-98 (99)
3. 本遺跡の調査は、東北横断自動車道路建設事業に伴う緊急発掘調査である。調査は、岩手県教育委員会事務局文化課の調整を経て、花巻市の委託を受けた財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
4. 野外調査の期間と調査面積・調査担当者は次のとおりである。

H10年度調査	発掘調査期間	平成10年8月7日～11月13日
	室内整理期間	平成10年11月1日～12月31日
	発掘調査面積	2,560m ²
	調査担当者	金子昭彦・松川由次・布谷義彦
H11年度調査	発掘調査期間	平成11年4月14日～10月7日
	室内整理期間	平成11年11月1日～3月31日
	発掘調査面積	7,853m ²
	調査担当者	濱浩二郎・熊谷佳恵

5. 座標原点の測量および空中写真撮影は、次の機関に委託した。
座標原点の測量——慶長測量設計株式会社、協進測量設計株式会社
空中写真撮影——東邦航空株式会社
6. 本報告書の執筆は以下のとおりである。
IV. 検出された遺構　濱浩二郎・金子昭彦・熊谷佳恵・松川由次（分担執筆により文末に執筆者を記載）
上記以外の執筆・編纂は濱浩二郎が行った。
7. 発掘調査において次の機関の協力を得た。
日本道路公団東北支社・花巻市教育委員会
8. 本遺跡の調査に関わる記録、遺物等の資料は、岩手県立埋蔵文化財センターに保管している。
9. 実測図の凡例は12頁に記載した。

目 次

序

例言

I. 調査に至る経過	3
II. 遺跡の立地と環境	3
1. 遺跡の位置	3
2. 地形・地質	3
3. 基本土層	5
4. 周辺の遺跡	5
III. 野外調査と整理方法	10
1. 野外調査	10
2. 室内整理	12
IV. 検出された遺構	13
1. 陥し穴状遺構	13
2. 土坑	26
3. 壺穴住居跡	36
4. 須恵器埋設遺構	97
5. 焼上遺構	98
6. 壺穴状遺構	102
7. 墓壙	105
8. 溝状遺構	106
9. 据立柱建物跡・柱穴列	111
V. 遺構外出土遺物	147
VI. まとめ	199
(1)遺構	199
(2)遺物	202
(3)おわりに	207

[図版目次]

第1図 遺跡位置図	1	第11図 19~24号陥し穴	18
第2図 遺跡周辺の地形図	2	第12図 25~30号陥し穴	19
第3図 遺跡周辺の地形分類図	4	第13図 31~36号陥し穴	20
第4図 基本土層	5	第14図 37~42号陥し穴	21
第5図 周辺の遺跡分布図	9	第15図 43~48号陥し穴	22
第6図 グリッド配置図	11	第16図 49~55号陥し穴	23
第7図 尖端凡例図	12	第17図 56~61号陥し穴	24
第8図 1~6号陥し穴	15	第18図 62~67号陥し穴	25
第9図 7~12号陥し穴	16	第19図 1~5号土坑	28
第10図 13~18号陥し穴	17	第20図 6~11号土坑	29

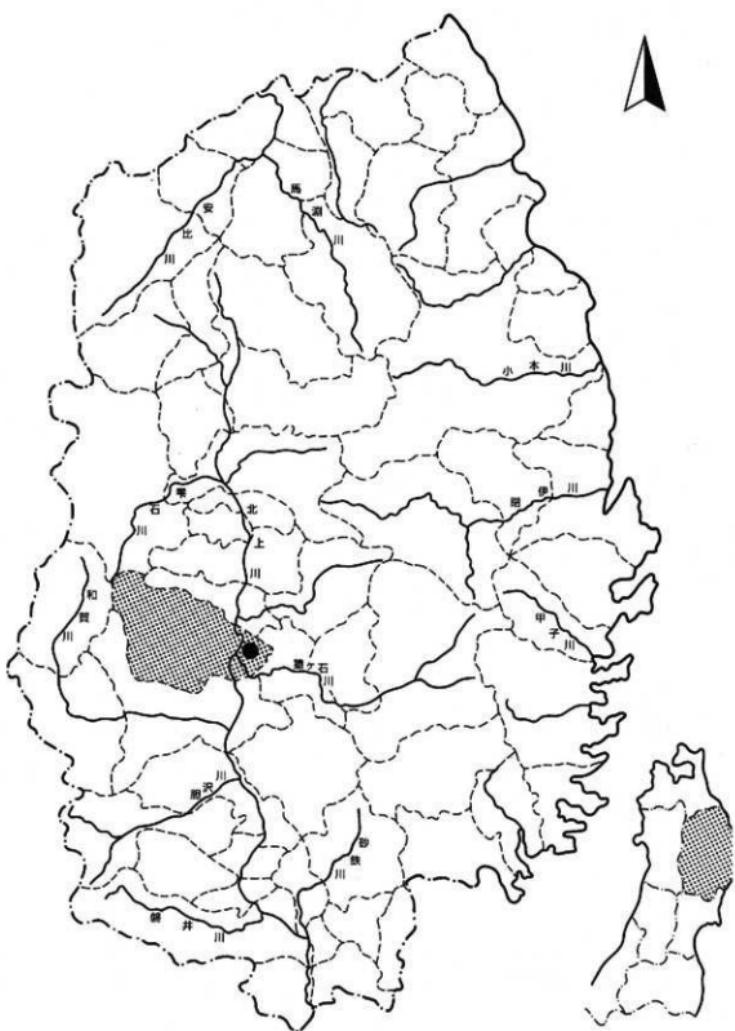
第21図	12~16号土坑	30	第59図	22号住居跡	78
第22図	17~20号土坑	31	第60図	23号住居跡	80
第23図	21~26号土坑	32	第61図	23号住居跡	81
第24図	27~31号土坑	33	第62図	24号住居跡	83
第25図	32~36号土坑	34	第63図	24号住居跡	84
第26図	37~41号土坑	35	第64図	25号住居跡	86
第27図	1号住居跡	37	第65図	25号住居跡	87
第28図	1号住居跡	38	第66図	26号住居跡	88
第29図	2号住居跡	39	第67図	27号住居跡	89
第30図	3号住居跡	41	第68図	27号住居跡	90
第31図	4号住居跡	42	第69図	28号住居跡	92
第32図	5号住居跡	45	第70図	29号住居跡	93
第33図	6号住居跡	46	第71図	29号住居跡	94
第34図	7号住居跡	47	第72図	30号住居跡	95
第35図	8号住居跡	49	第73図	31号住居跡	96
第36図	8号住居跡	50	第74図	須恵器埋設遺構	97
第37図	9号住居跡	51	第75図	1~3号焼土	100
第38図	10号住居跡	52	第76図	4~11号焼土	101
第39図	10号住居跡	53	第77図	12~14号焼土	102
第40図	11号住居跡	54	第78図	1号竪穴状遺構	103
第41図	12号住居跡	56	第79図	2号・3号竪穴状遺構	104
第42図	12号住居跡	57	第80図	1号・2号墓壙	105
第43図	13号住居跡	58	第81図	1~4号溝跡	107
第44図	14号住居跡	60	第82図	5~10号溝跡	108
第45図	14号住居跡	61	第83図	11~13号溝跡	109
第46図	15号住居跡	63	第84図	溝跡(断面)	110
第47図	15号住居跡	64	第85図	1~4号掘立柱建物跡	124
第48図	16号住居跡	66	第86図	5~8号掘立柱建物跡	125
第49図	16号住居跡・17号住居跡	67	第87図	9~12号掘立柱建物跡	126
第50図	17号住居跡	68	第88図	13~16号掘立柱建物跡	127
第51図	18号住居跡	69	第89図	17~20号掘立柱建物跡	128
第52図	19号住居跡	70	第90図	21号掘立柱建物跡・9~12号柱穴列	129
第53図	19号住居跡	71	第91図	13~15号柱穴列	130
第54図	20号住居跡	72	第92図	柱穴群(1)	131
第55図	20号住居跡	73	第93図	柱穴群(2)	132
第56図	20号住居跡	74	第94図	柱穴群(3)	133
第57図	21号住居跡	75	第95図	柱穴群(4)	134
第58図	22号住居跡	77	第96図	遺構配置図(調査区西側)	144

第97図 遺構配置図(調査区東側) ······	145 · 146	
第98図 住居跡内出土遺物(1) ······	148	
第99図 住居跡内出土遺物(2) ······	149	
第100図 住居跡内出土遺物(3) ······	150	
第101図 住居跡内出土遺物(4) ······	151	
第102図 住居跡内出土遺物(5) ······	152	
第103図 住居跡内出土遺物(6) ······	153	
第104図 住居跡内出土遺物(7) ······	154	
第105図 住居跡内出土遺物(8) ······	155	
第106図 住居跡内出土遺物(9) ······	156	
第107図 住居跡内出土遺物(10) ······	157	
第108図 住居跡内出土遺物(11) ······	158	
第109図 住居跡内出土遺物(12) ······	159	
第110図 住居跡内出土遺物(13) ······	160	
第111図 住居跡内出土遺物(14) ······	161	
第112図 住居跡内出土遺物(15) ······	162	
第113図 住居跡内出土遺物(16) ······	163	
第114図 住居跡内出土遺物(17) ······	164	
第115図 住居跡内出土遺物(18) ······	165	
第116図 住居跡内出土遺物(19) ······	166	
第117図 住居跡内出土遺物(20) ······	167	
第118図 住居跡内出土遺物(21) ······	168	
第119図 住居内出土遺物(22) ······	169	
第120図 住居内出土遺物(23) ······	170	
第121図 住居内出土遺物(24) ······	171	
第122図 住居内出土遺物(25) ······	172	
第123図 住居内出土遺物(26) ······	173	
第124図 住居内出土遺物(27) ······	174	
第125図 住居内出土遺物(28) ······	175	
第126図 住居内出土遺物(29) ······	176	
第127図 住居内出土遺物(30) ······	177	
第128図 住居内出土遺物(31) ······	178	
第129図 住居内出土遺物(32) ······	179	
第130図 住居内出土遺物(33) ······	180	
第131図 住居内出土遺物(34) ······	181	
第132図 住居内出土遺物(35) ······	182	
第133図 住居内出土遺物(36) ······		
	須恵器埋設遺構 ······	183
第134図 土坑内出土遺物(1) ······	184	
第135図 土坑内出土遺物(2) ······	185	
第136図 土坑内(3) ·溝跡(1)出土遺物 ······	186	
第137図 溝跡(2) ·遺構外出土遺物(1) ······	187	
第138図 遺構外出出土遺物(2) ······	188	

[写真図版目次]

写真図版1 空中写真① ······	217
写真図版2 空中写真② ······	218
写真図版3 基本土層 ······	219
写真図版4 1 · 2 · 4 ~ 6号陥し穴 ······	220
写真図版5 7 ~ 11号陥し穴 ······	221
写真図版6 12 ~ 15 · 17号陥し穴 ······	222
写真図版7 18 ~ 22号陥し穴 ······	223
写真図版8 23 ~ 27号陥し穴 ······	224
写真図版9 28 ~ 32号陥し穴 ······	225
写真図版10 33 ~ 36 · 38号陥し穴 ······	226
写真図版11 39 ~ 43号陥し穴 ······	227
写真図版12 44 ~ 48号陥し穴 ······	228
写真図版13 49 ~ 53号陥し穴 ······	229
写真図版14 54 ~ 58号陥し穴 ······	230
写真図版15 59 ~ 63号陥し穴 ······	231
写真図版16 3 · 16 · 37 · 64 ~ 67号 陥し穴 ······	232
写真図版17 1号住居跡 ······	233
写真図版18 2号住居跡 ······	234
写真図版19 3号住居跡 ······	235
写真図版20 4号住居跡 ······	236
写真図版21 5号住居跡 ······	237
写真図版22 5号住居跡 ······	238
写真図版23 6号住居跡 ······	239

写真図版24	7号住居跡	240	写真図版64	3~6号焼上	280
写真図版25	8号住居跡	241	写真図版65	7~10号焼上	281
写真図版26	9号住居跡	242	写真図版66	11~14号焼土	282
写真図版27	10号住居跡	243	写真図版67	須恵器埋設遺構、1号溝	283
写真図版28	11号住居跡	244	写真図版68	5~8号溝	284
写真図版29	12号住居跡	245	写真図版69	2·3·11号溝、1·2号墓壙	285
写真図版30	13号住居跡	246	写真図版70	遺構内出土遺物(1)	286
写真図版31	14号住居跡	247	写真図版71	遺構内出土遺物(2)	287
写真図版32	15号住居跡	248	写真図版72	遺構内出土遺物(3)	288
写真図版33	15号住居跡	249	写真図版73	遺構内出土遺物(4)	289
写真図版34	16号住居跡	250	写真図版74	遺構内出土遺物(5)	290
写真図版35	17号住居跡	251	写真図版75	遺構内出土遺物(6)	291
写真図版36	17号住居跡	252	写真図版76	遺構内出土遺物(7)	292
写真図版37	18号住居跡	253	写真図版77	遺構内出土遺物(8)	293
写真図版38	19号住居跡	254	写真図版78	遺構内出土遺物(9)	294
写真図版39	20号住居跡	255	写真図版79	遺構内出土遺物(10)	295
写真図版40	21号住居跡	256	写真図版80	遺構内出土遺物(11)	296
写真図版41	21号住居跡	257	写真図版81	遺構内出土遺物(12)	297
写真図版42	22号住居跡	258	写真図版82	遺構内出土遺物(13)	298
写真図版43	23号住居跡	259	写真図版83	遺構内出土遺物(14)	299
写真図版44	23号住居跡	260	写真図版84	遺構内出土遺物(15)	300
写真図版45	24号住居跡	261	写真図版85	遺構内出土遺物(16)	301
写真図版46	25号住居跡	262	写真図版86	遺構内出土遺物(17)	302
写真図版47	26号住居跡	263	写真図版87	遺構内出土遺物(18)	303
写真図版48	27号住居跡	264	写真図版88	遺構内出土遺物(19)	304
写真図版49	28号住居跡	265	写真図版89	遺構内出土遺物(20)	305
写真図版50	29号住居跡	266	写真図版90	遺構内出土遺物(21)	306
写真図版51	30号住居跡	267	写真図版91	遺構内出土遺物(22)	307
写真図版52	31号住居跡	268	写真図版92	遺構内出土遺物(23)	308
写真図版53	1号堅穴状遺構	269	写真図版93	遺構内出土遺物(24)	309
写真図版54	1~4号土坑	270	写真図版94	遺構内出土遺物(25)	310
写真図版55	5~8号土坑	271	写真図版95	遺構内出土遺物(26)	311
写真図版56	9·10·13·14号土坑	272	写真図版96	遺構内出土遺物(27)	312
写真図版57	15~18号土坑	273	写真図版97	遺構内出土遺物(28)	313
写真図版58	19·20·22·23号土坑	274	写真図版98	遺構内出土遺物(29)	314
写真図版59	24·27~29号土坑	275	写真図版99	遺構内出土遺物(30)	315
写真図版60	30~33号土坑	276	写真図版100	遺構内出土遺物(31)	316
写真図版61	34·37~39号土坑	277	写真図版101	遺構内出土遺物(32)	317
写真図版62	11·12·36·40·41号土坑	278	写真図版102	遺構内出土遺物(33)	318
写真図版63	21·25·26·35号土坑、1·2号焼土	279	写真図版103	遺構内出土遺物(34)	319



第1図 遺跡位置図



第2図 遺跡周辺の地形図

I. 調査に至る経過

平成9年9月18日付東北支北工第695号岩手県教育委員会委員長宛「平成10年度における埋蔵文化財関連開発事業計画」の回答書を提出し、平成9年10月17日付東北支北工第745号により、岩手県教育委員会事務局に「東北横断自動車道釜石～秋田線（東和～花巻間）の建設に伴う埋蔵文化財試掘について」（依頼）し、岩手県教育委員会事務局文化課は猿沢II遺跡を平成9年11月25・26日、似内遺跡を平成9年12月5日、高松寺遺跡を平成9年12月9・11日、上駒板遺跡を平成9年12月22日、平成10年2月2・3日で調査した結果、平成10年1月27日付文教第898号により上記の区間に對し調査対象（範囲および調査）総面積30,700m²と決定した。それを受け、当公社と岩手県教育委員会事務局文化課と（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターと平成9年12月22日に4遺跡の現地調査をし、その後、（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターと工事工程および発掘調査工事等の打ち合わせを重ね、平成10年4月からの埋蔵文化財発掘調査を確認した。

そして似内遺跡の調査を平成10年8月7日～11月13日、平成11年4月14～10月7日まで行った。

II. 遺跡の立地と環境

1. 遺跡の位置

遺跡の立地する花巻市は岩手県内陸部中央のやや南に位置する。市域は東西29.5km・南北27.5kmで、北西から南東に長いほぼ楕円の地形をなす。北は岩手郡平石町・稗貫郡石鳥谷町、東は和賀郡東和町、南は北上市・和賀郡江釣子村、西は和賀郡和賀町・沢内村に接し、総面積は387.73km²である。

似内遺跡は、JR花巻駅から北東に約3.5km、花巻市北部の北上川中流域右岸に位置する。

発掘調査前の遺跡の状況は民家跡、畑跡などで、遺跡の標高は75m前後、北上川よりの東側の低位段丘面より2～5mほど高い所に立地している。

2. 地形・地質

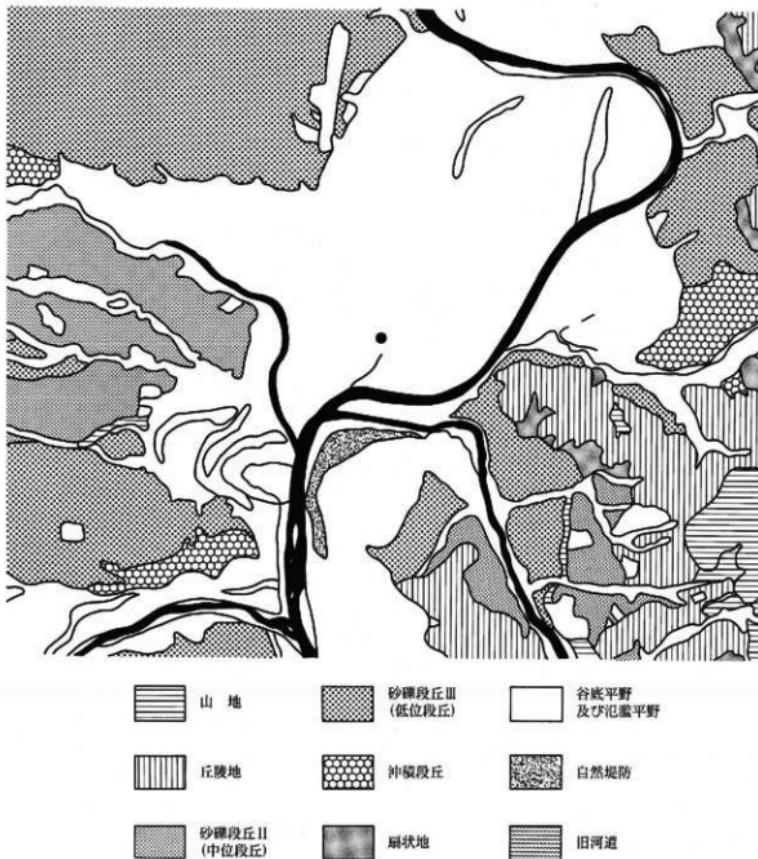
地形的には、市域東半中央には北上川が大きく蛇行して南流し、西には松倉山や円森山など標高200～900m級の山地が連なる急峻で起伏の大きな奥羽山系の支脈をなす山地からなる。東には比較的勾配が緩やかな標高150～250m前後の北上山地西麓の小丘陵や山地が張り出し、西縁に載る高松丘陵には宮沢賢治ゆかりの胡四王山を望む。市域の北西、塚瀬森に源を発する台川は、阿弥陀ヶ倉の渓谷をうがち釜淵の滝となって流下し、六郎山に源を発して沿線に台・花巻の温泉を湧出し、結ヶ瀬の滝となる湯ノ沢を合流、さらに鍋割川を合わせ瀬川となって東流し、流域には扇状地を発達させ、遺跡の南西1.8km地点で北上川と合流する。

地質は西側の奥羽山系には主に新第三紀中新世のグリーンタフ活動による安山岩質～流紋岩質岩が砂岩や砾岩・頁岩を伴い分布するほか、更新世や第四紀の岩盤層が分布する。さらに、東側の北上山系には泥岩お

よりチャートよりなる古生代二疊紀の地層や中生代の花崗岩類、斑レイ岩類、蛇紋岩類、さらに中新世の安山岩類と鮮新世の炭層をはさむ砂岩、頁岩層が分布している。

（参考文献）

岩手県花巻市教育委員会 1997『花巻市埋蔵文化財包蔵地分布図（H9年度版）』

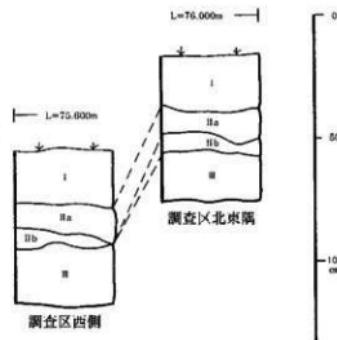


第3図 遺跡周辺の地形分類図

3. 基本土層

調査区内の高低差は南北方向で約20cm、東西方向で約100cmである。遺構検出面までの深さは浅いところで15~20cm、深いところで100cmにおよび、場所により検出面の標高は大きく異なる。第4図は調査区西側(80グリッド)及び、北東(24Jグリッド)の壁面に深堀りをかけたもので、これを遺跡の基本土層とした。

- 第Ⅰ層：10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり
植物根多く含む。現表土。層厚は16~28cm。
- 第Ⅱa層：10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり
暗褐色土(10YR3/3) 1~2%含む。8~14cm。
- 第Ⅱb層：10YR3/3 暗褐色土 粘性なし しまりあり
層厚は0~9cm。(遺構検出面)
- 第Ⅲ層：10YR3/4 暗褐色土 粘性あり しまりやあ
り(地山土)



第4図 基本土層

4. 周辺の遺跡

似内遺跡から南東に望む胡四王山には平安時代及び中世の遺跡である胡四王山館跡があり、また本遺跡と同じ、北上川西岸段丘上には北東方向2kmに平成9~10年に埋文センター、花巻市教育委員会によって調査が行われている平安時代の集落である庫理遺跡、北西1.5kmには平成10~11年に埋蔵文化財センターで調査を行っている石持I遺跡、南西に平安時代の下似内遺跡、南東に隣接して上似内遺跡と周辺には平安期の遺跡が多数確認されている。

似内遺跡の調査は平成4年に花巻市教育委員会で最初に行われ、今回が3回目になり、調査区は遺跡の北端部にあたる。また、今回の調査に先立ってH9年に行われた花巻市教育委員会の2回日の調査では竪穴住居跡2棟を検出し、うち1棟から土錐353点が出土する成果があがっている。

〈参考文献〉

- 岩手県 1976 「北上山系開発地域 土地分類基本調査 花巻」
岩手県花巻市教育委員会 1998 「花巻市内遺跡発掘調査報告書」(久保野II遺跡・本館II遺跡・似内遺跡)

周辺の遺跡

No	遺跡名	時代	種別	遺物・遺構
1	小森林館	中世	城館跡	土塁、堀、二郭、縄文土器
2	江曾	縄文	散布地	縄文土器
3	古館	中世	城館跡	土塁、堀
4	黒治館	中世	城館跡	土塁、堀、井戸
5	堀之内	中世	城館跡	堀
6	江曾一里塚	近世	一里塚	
7	江曾館	中世	城館跡	土塁、堀、井戸
8	拂館	中世	城館跡	古井戸、郭、土塁、堀
9	関口北船場館	中世	船着き場	
10	関口第	中世	城館跡	堀、古井戸
11	関口南船場館	中世	船着き場	
12	関口南館	中世	城館跡	郭
13	大西	縄文	散布地	縄文土器
14	葛船場	近世	渡し場跡	
15	七ツ森古墳群	縄文・古墳	散布地・古墳群	古墳、縄文土器、土師器
16	貝の浦Ⅰ	縄文・古代	散布地	縄文土器、土師器
17	七ツ森	縄文・古代	散布地	縄文土器、土師器
18	猪鼻	縄文・古代	散布地	縄文土器、土師器
19	貝の浦Ⅱ	縄文	散布地	縄文土器
20	下館	中世	城館跡	
21	関口西	中世	城館跡	
22	関口Ⅳ	中世	城館跡	
23	関口Ⅴ	中世	城館跡	土塁
24	猪鼻館	中世	散布地・城館跡	井戸、空堀、主郭
25	見山古墳群	古墳	古墳群	古墳
26	見山	縄文・古墳	散布地・古墳	縄文土器
27	馬場田	縄文	散布地	縄文土器
28	椎荷	縄文	集落跡	縄文土器
29	新田	縄文	散布地	縄文土器
30	反町	縄文・古墳	古墳群・祭祀跡	縄文土器、古墳、住居跡
31	大西橋	縄文	散布地	縄文土器
32	宿	縄文・古代	集落跡	縄文土器、土師器
33	宿館	中世	城館跡	土塁、堀
34	蛇鷹姫	平安	散布地	土師器
35	光勝寺本堂	中世	寺院跡	塚
36	光勝寺鐘楼	中世	寺院跡	礎石
37	沢流	縄文・古代	散布地	縄文土器、土師器
38	安堵屋敷	縄文・古代	散布地	縄文土器、土師器
39	長沢Ⅱ	縄文	散布地	縄文土器
40	長沢Ⅲ	縄文	散布地	縄文土器
41	寺場古塚	縄文	散布地	縄文土器
42	拂沢工	縄文	散布地	縄文土器
43	隅っこ館	中世	城館跡	堀、土塁
44	高煙	縄文	集落跡	縄文土器
45	長沢Ⅰ	縄文	散布地	縄文土器
46	長沢Ⅳ	縄文	散布地	縄文土器
47	佐渡川古墳群	古墳	古墳群	円墳21基以上、上部器
48	宮野目方八丁	平安	城館跡	癪穴住居跡、土師器、須恵器、鉄器、磁石、二重土里、堀
49	上ノ山	縄文・古代	散布地	縄文土器
50	上ノ山館	縄文・古代～中世	城館跡・散布地	堀、縄文土器(前・中期)、石器、土師器、須恵器

No	遺跡名	時代	種別	遺物・遺構
51	山の神	绳文	散布地	绳文土器(前期)、石器、土偶片
52	源明Ⅰ	平安	散布地	須恵器
53	葛	绳文・平安	散布地	绳文土器、上飾器
54	西宮野目	绳文	散布地	绳文土器(前・後・晚期)
55	新恩			
56	先鳳	绳文・近世	散布地・屋敷跡	绳文土器、石器、石核
57	十三塚		祭祀跡	塚、古錢
58	三桥	古代	散布地	土師器
59	石持Ⅱ	古代	散布地	土師器
60	馬立Ⅰ	平安	散布地	土師器
61	柏葉城	近世	散布地・城館跡	
62	田力中野	绳文・平安	散布地	绳文土器、土師器
63	馬立Ⅲ	平安	散布地	土師器
64	本蛇Ⅲ	中世	城館跡	郭、堀
65	石持Ⅰ	绳文・平安	集落跡	竪穴住居跡、落とし穴、土師器、須恵器
66	似内	绳文・平安・近世	集落跡	竪穴住居跡、落とし穴、土師器、須恵器、土鍬、鐵器、金粒
67	古館(領内館)	中世	城館跡	
68	摩理	绳文	散布地	绳文土器、土師器
69	漆市古墳群	古墳		古墳群
70	漆市館		城館跡	
71	東野袋	古代	散布地	土師器
72	矢沢吉堂	古代	集落跡	土師器、須恵器、鐵製鍤
73	上野々	绳文	散布地	石斧、石器
74	添市	绳文・弥生	散布地	绳文土器(前・中・晚期)、弥生土器(後期)、石器
75	陣ヶ森	中世	城館跡	塹、土壘
76	上幅	绳文・古代	集落跡	竪穴住居跡、石器、绳文土器
77	下幅	古代・平安	散布地	竪穴住居跡、土師器、須恵器
78	本館Ⅰ	绳文	散布地	绳文土器(晚期)、石器
79	本館Ⅱ	绳文	集落跡	落とし穴状遺構
80	下似内	古代	散布地	土師器、須恵器
81	下東	古代	散布地	土師器、須恵器
82	上似内	古代	散布地	土師器、須恵器
83	瀬ノ木Ⅱ	绳文	散布地	绳文土器、石器
84	瀬ノ木Ⅰ	绳文・弥生	散布地	绳文土器(晚期)、弥生土器
85	花巻城	中世～近世	城館跡	塹
86	堀炎Ⅱ	古代	散布地	土師器、須恵器、土鍬
87	高松Ⅰ	绳文	散布地	绳文土器(中期)
88	高松Ⅱ	绳文・弥生・平安	散布地	绳文土器(晚期)、弥生土器(谷切局)
89	高松Ⅲ	绳文・弥生	散布地	绳文土器、弥生上器、石器
90	若前堂	绳文	散布地	绳文土器
91	上台Ⅰ	绳文	散布地	绳文土器
92	古館(高木古館)	中世～近世	城館跡	塹
93	サイノ神	绳文	散布地	绳文土器(中期)
94	堀袋Ⅰ	绳文・古代	散布地	绳文土器、石器、土師器
95	安野Ⅰ	绳文	散布地	绳文土器(後期)
96	上台Ⅲ	绳文・古代	集落跡	绳文土器、石器、土師器
97	久田野Ⅰ	绳文	散布地	焼土遺構、绳文土器、スクレイバー
98	上台Ⅱ	绳文	經・塚	绳文土器
99	高木岡神社	绳文	集落跡	塚、白磁瓶
100	久田野Ⅱ	绳文	城館跡	竪穴住居跡、绳文土器(中期)
101	胡四十七山館	平安	城館跡	空塚、二面空塚、竪穴住居跡、绳文土器、土師器、須恵器、古錢、瓦石

No	遺跡名	時代	種別	遺物・遺構
102	概ノ木Ⅲ	绳文・古代	散布地	縄文土器、十脚器、須恵器、石器
103	矢沢八幡	平安・江戸	集落跡・城館跡	堅穴住居跡、獨立柱建物跡、房、十脚器、須恵器、古鏡、陶磁器、石器
104	越岸森	古代	経塚	上飾器
105	寺 場	古代	集落跡	堅穴住居跡、十脚器、須恵器
106	明ヶ沢	绳文	散布地	縄文土器(中期)、石器
107	高松寺跡		施寺跡	古碑
108	安野Ⅱ	弥生	集落跡	弥生土器、石斧
109	安野Ⅲ	绳文・古代	散布地	縄文土器、十脚器、石器
110	中野C	绳文・古代	集落跡	燒土、土坑、绳文上器、石器、土製耳栓、上飾器、石器
111	中野B	绳文	散布地	绳文上器(後期)、弥生土器、石器
112	中里一里塚	近世	一里塚	塚2基
113	中野D	绳文・古代	散布地	十坑、縄文土器(前・中期)、弥生土器(中期)、石器、上鏡片、上飾器
114	中野A	绳文	散布地	绳文土器、(中?)、土脚器、石器、須恵器(?)
115	高松山經塚	平安・近世	經塚・高寺跡	經塚、堅穴状遺構、白磁壺、常滑窯
116	朝森		塚	塚2基
117	桜 町			
118	不動I	绳文	集落跡	绳文上器(後・晚期)石器
119	不動II	古代	散布地	土脚器、須恵器、古鏡(寛永通宝)
120	板町窓跡	近世	窓跡	陶磁器、瓦片
121	上 館	中世・近世	城館跡	
122	高木中館	绳文・古代	散布地	绳文土器
123	長根Ⅲ	古代	散布地	
124	長根Ⅱ	古代	散布地	土脚器
125	八ツ森	绳文・古代	集落跡	堅穴住居跡ほか、绳文土器、石器、土脚器
126	山ノ神Ⅳ	绳文	散布地	縄文土器
127	外台河原	古代	散布地	上飾器
128	二丁目城	绳文・中世	城館跡	埴、土器、绳文土器(早期)
129	長根 I	古代	散布地	土脚器
130	荒尾遺	古代	集落跡	燒土、土脚器
131	小 袋	古代	散布地	上飾器
132	大沢II	绳文・中世	散布地	縄文土器、十脚器、須恵器
133	大沢 I	古代	集落跡	土脚器、須恵器
134	山ノ神Ⅲ	绳文	散布地	绳文上器
135	山ノ神II	绳文	散布地	縄文土器
136	山ノ神V	绳文	散布地	縄文土器
137	山ノ神 I	绳文	散布地	縄文上器
138	冲	古代	散布地	土脚器
139	宿 内	绳文	散布地	縄文土器
140	一丁目中村	古代	散布地	土脚器
141	葉師館	中世	城館跡	郭、塙
142	長根坂	绳文	散布地	縄文土器(晚期)、石器
143	中	平安	散布地	土脚器
144	平良木館		城館跡?	塙
145	明戸 I	绳文	集落跡	縄文土器(後期)、石器
146	明戸II	绳文・平安	集落跡	土脚器、绳文上器、石器
147	明戸IV	绳文	散布地	绳文上器、土脚器
148	長志田	绳文	散布地	縄文土器
149	明戸Ⅲ	绳文・古代	散布地	绳文土器、上脚器、石器
150	臥 牛	绳文	散布地	绳文上器(中・後・晚期)、須恵器、土偶
151	乱塙跡	中世	城館跡	带状腰郭、塙
152	長 根	绳文	散布地	绳文土器



第5図 周辺の遺跡分布図

III. 野外調査と整理方法

1. 野外調査

(1) グリッドの設定と遺構名

グリッドの設定にあたっては平面直角座標第X系、 $X = -65,700.000$ 、 $Y = 26,800.000$ を調査原点座標とし、原点とした。調査で使用した基準点の成果は次のとおりである。

基1 ($X = -65,800.000$ $Y = 27,000.000$)

基2 ($X = -65,800.000$ $Y = 27,020.000$)

原点から東方向へは1~25の数字を付し、南方向へはA~Yを与え、これを組み合わせて、1A、2Bのように表示した。1グリッドの大きさは $10 \times 10\text{m}$ で、遺構外の遺物の取り上げに際しては、4分割した小グリッドを用いた。遺構名は種別ごとに1号竪穴住居跡、2号土坑のように任意に名称を付した。

(2) 粗掘り

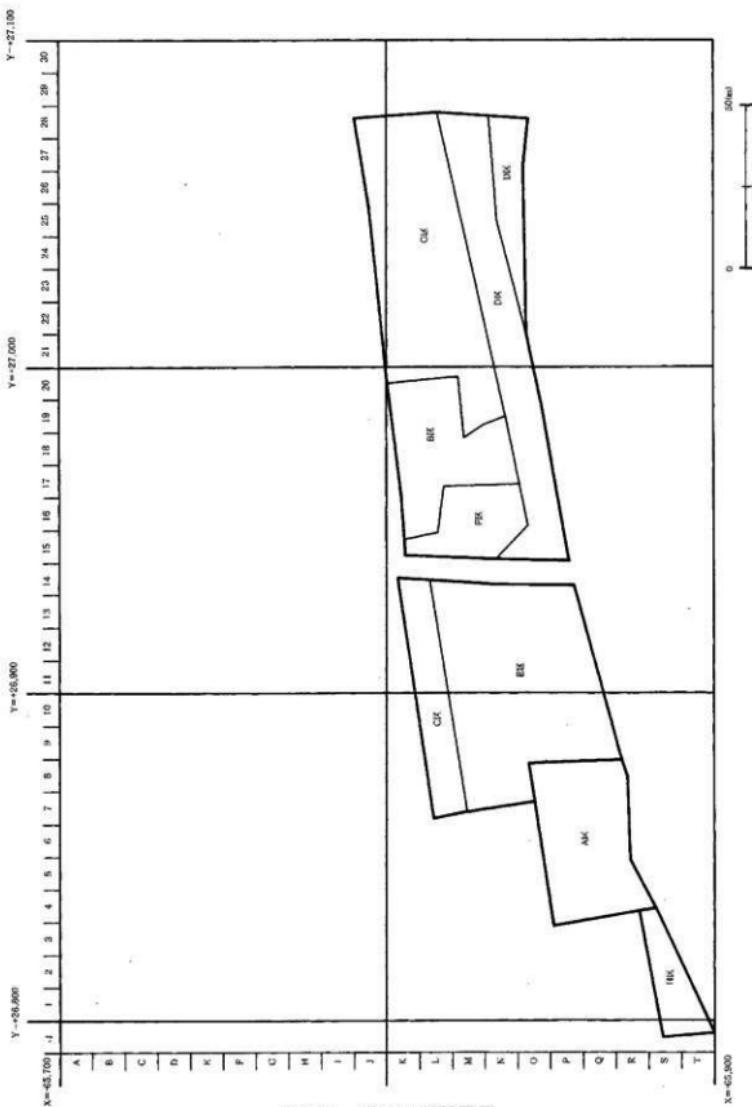
本調査に先立って岩手県教育委員会文化課が行った試掘調査によって今回の調査対象部分については遺構の粗密や層序・遺物の状況がある程度把握されていた。試掘の人らない所には人力によるトレンチを設定して、細部の状況を確認した。これにより遺構が検出するレベルまで遺物が少ないとあり、重機によって、表土を除去し、その後人力による遺構検出を行った。

(3) 遺構の精査と実測・遺物の取り上げ

検出された遺構は、竪穴住居跡・竪穴状遺構は4分法で精査を実施し、遺構の平面図・断面図は20分の1の縮尺で実測を行った。一部竪穴住居跡のカマド・炉の平面・断面については10分の1で実測している。溝跡や堀跡については平板測量で40分の1の平面図を作成した。なお断面図は20分の1である。その他の遺構については2分法で精査を実施し、基本的には平面図・断面図とともに20分の1の縮尺で実測したが、例外的に10分の1で実測を行った遺構もある。遺構内出土の遺物については、埋土上層に基づいて取り上げ、必要に応じて写真撮影・図面作成後に取り上げた。遺構外出土の遺物については、前述のとおり、調査区ごとに出土した層位を記して取り上げた。

(4) 写真撮影

野外調査での写真撮影は、 $6 \times 7\text{cm}$ 判カメラ(モノクロ)を1台、 35mm 判カメラ(モノクロ、カラー・リバーサル)を2台、この他にポラロイドカメラ1台をメモ的な用途として使用した。撮影に当たっては、撮影状況を記した「撮影カード」を事前に写し、整理時の混乱を防止した。また、調査終了にあたり調査現場の航空写真撮影を実施している。



第6図 グリッド配置図

2. 室内整理

(1) 作業手順

遺構については調査現場で作成した実測図の点検、合成、第2原図の作成、トレース図版作成の順に進めた。遺物については、接合、復原を行った後、仕分け・登録と併行して実測図の作成、トレース、写真撮影、図版作成を順に進めた。また、これらの作業と併行して原稿執筆をした。

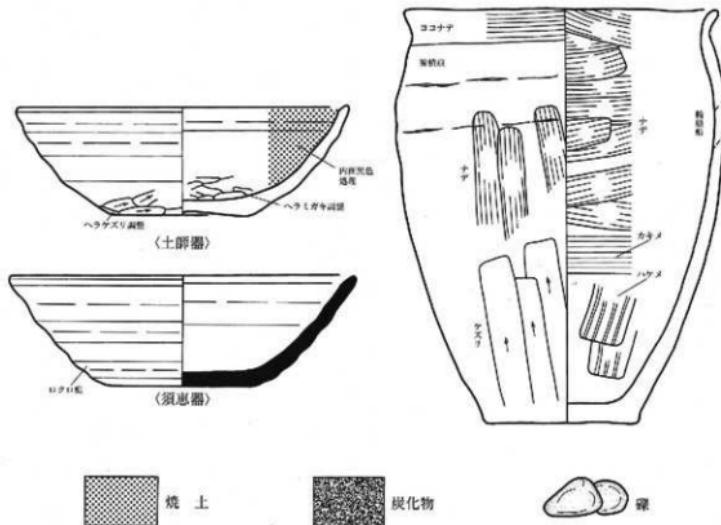
(2) 遺構

遺構図面の縮尺は堅穴住居跡・堅穴状遺構については平面図・断面図ともに50分の1、カマドの各部断面図は25分の1、溝状遺構は平面図100分の1、断面図40分の1、土坑・陥し穴状遺構は平面図・断面図ともに50分の1を原則として掲載したが、遺構の規模によって一部変更もあり、図面にはそれぞれスケール・縮尺率を付した。遺構写真の縮尺については不定である。

(3) 遺物

土器の実測図は原則として、反転実測が可能なものに限ったが、一部平面実測を行ったものもある。遺物写真の縮尺については実測図に準じている。遺物の実測図に付している番号は遺物写真図版に付した番号と同一である。拓本図版・写真図版掲載遺物の縮尺率は下記の通りである。

土器・陶磁器・礫石器・・・1/3 大型の土器・・・1/4 剃片石器・土製品・古銭・鉄製品・・・1/2
図版中の土器はP、礫はS、木片はWと表している。



第7図 実測凡例図

IV. 検出された遺構

1. 陥し穴状遺構

陥し穴状遺構は67基検出された。平面形のほとんどが溝型で細長楕円形の形状を呈している。平面形で最大的ものは開口部径486×25cmで最小のものは159×47cmであり、多くは開口部径約270×40cmの規模を持つ。また、最も深いもので116cm、浅いもので9cmを測り、約80~90cmの深さを持つものが半数を占める。

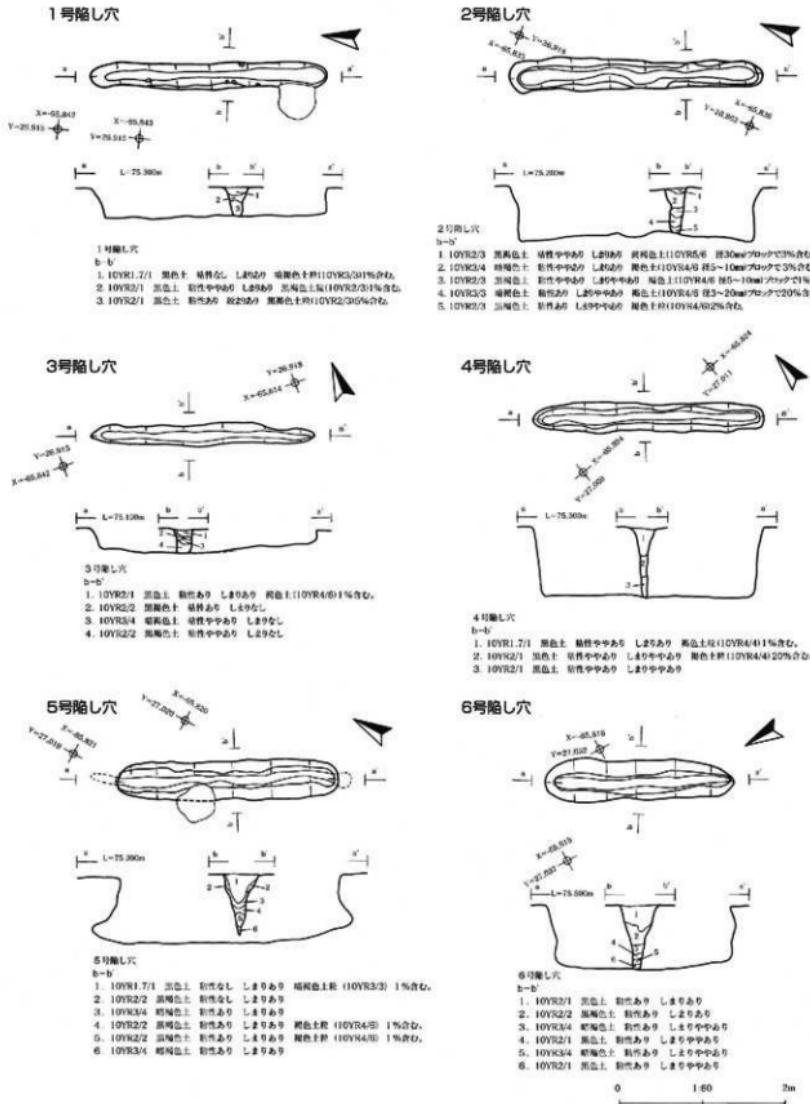
各陥し穴状遺構の位置・規模等については観察表に記載した。

(熊谷)

陥し穴状遺構観察表

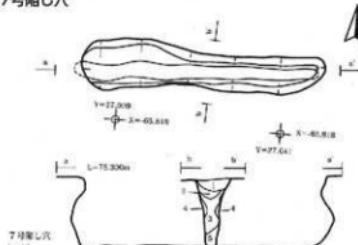
遺構名	位置	平面形	開口部径	底面径	深さ	長軸方向	埋 土	検出状況・重複関係	回数	写真
1号陥し穴	120	溝型	290×31	268×10	35	N~7°-W	全体が黒色土主体である。	柱穴と重複	8	4
2号陥し穴	16N	溝型	306×35	283×8	56	N~22°-W	黒褐色と暗褐色が交互に堆積。		8	4
3号陥し穴	120	溝型	263×24	255×13	27	N~70°-W	上位は黒色土、下位は黒褐色土と暗褐色土が交互に堆積。		8	16
4号陥し穴	21M 22M	溝型	279×31	261×10	85	K~51°-W	黒色土主体で中位に褐色土に混じる。		8	4
5号陥し穴	22M	溝型	268×45	316×11	74	N~29°-W	上位は黒色土、下位は黒褐色土と暗褐色土が交互に堆積。	柱穴と重複	8	4
6号陥し穴	24L	溝型	228×48	214×11	77	N~28°-E	上位は黒色土、下位は黒褐色土と暗褐色土が交互に堆積。		8	4
7号陥し穴	24L 25L	溝型	295×43	296×15	82	N~85°-E	黒色、黒褐色と暗褐色土がほぼ互換に堆積。		9	5
8号陥し穴	23L	溝型	275×43	268×10	81	N~68°-E	上位は黒褐色土、下位は黒色土主体で褐色土に混じる。		9	5
9号陥し穴	23K	溝型	298×35	289×12	78	N~70°-W	黄褐色土が黒色土に挟まれて堆積。		9	5
10号陥し穴	22L 23L	溝型	332×81	331×12	110	N~76°-W	上位は黒色土、下位は黒褐色土と暗褐色土が交互に堆積。	柱穴と重複	9	5
11号陥し穴	23K	溝型	288×56	324×15	88	N~90°-W	黄褐色土が黒褐色土に挟まれて堆積。		9	5
12号陥し穴	23K 24K	溝型	406×61	374×15	77	N~68°-E	黒褐色土と暗褐色土が交互に堆積。		9	6
13号陥し穴	22K	溝型	259×46	253×9	79	N~71°-W	黒褐色土と暗褐色土が交互に堆積。		10	6
14号陥し穴	22K	溝型	293×33	284×11	84	N~81°-E	全体が黒色土主体で上位はI号陥し穴の埋土の埋土。	I号陥し穴と重複しこれより古い。	10	6
15号陥し穴	24K	溝型	278×61	307×11	87	N~67°-E	上位は黒褐色土、下位は褐色土と黒褐色土に挟まれて堆積。		10	6
16号陥し穴	24J 24K	溝型	(290×44)	299×12	102	N~75°-E	暗褐色土と黄褐色土が交互に堆積。		10	16
17号陥し穴	24L 25L	溝型	302×81	333×9	101	N~70°-E	上位は黒褐色土、下位は褐色土と黄褐色土が交互に堆積。		10	6
18号陥し穴	24L 25L	溝型	288×65	300×13	98	N~68°-E	上位は黒褐色土、下位は黄褐色土が暗褐色土に挟まれて堆積。	柱穴と重複	10	7
19号陥し穴	25L 25M	溝型	250×61	311×24	98	N~78°-E	褐色土と黒褐色土と暗褐色土がほぼ互換に堆積。		11	7
20号陥し穴	24M	溝型	213×54	226×14	110	N~85°-W	上位は黒褐色土と暗褐色土が互換に、下位は褐色土と暗褐色土が互換。		11	7
21号陥し穴	23L	溝型	254×61	306×13	94	N~59°-E	褐色土と暗褐色土がほぼ互換に堆積。		11	7
22号陥し穴	21L	溝型	(151×29)	(163×14)	78	N~70°-E	黒褐色土が田畠土に汚染され堆積。	東部乱層により不明	11	7
23号陥し穴	24K	溝型	312×18	370×5	116	N~86°-E	全体が黒褐色土を主体とし、下位で黄褐色土が混じる。	7号住跡と重複し、これより古い。	11	8
24号陥し穴	18K	溝型	284×41	263×7	71	N~73°-W	当塗色土と薄褐色土が交互に堆積。		11	8
25号陥し穴	25L	溝型	222×56	235×34	81	N~59°-W	上位は黒褐色土、下位は黒褐色土が黄褐色を含む。	2号住跡と重複し、これより古い。	12	8
26号陥し穴	17N	溝型	230×50	211×12	80	N~78°-W	黒褐色土と黒褐色土が互換に堆積。		12	8
27号陥し穴	17N	溝型	193×52	200×9	89	N~77°-W	全体が黒褐色土を主体とする堆積。		12	8
28号陥し穴	16L	溝型	257×35	267×11	88	N~75°-E	ほぼ全層が黒褐色土、下層に黄褐色土に堆積。		12	9
29号陥し穴	16M	溝型	236×42	291×10	88	N~5°-E	上位は黒褐色土、下位は黒褐色土と暗褐色土が互換に堆積。		12	9
30号陥し穴	17K	横円形	275×74	314×10	90	N~87°-E	上位は黒褐色土、下位は黒褐色土と暗褐色土が互換に堆積。		12	9

遺跡名	位置	平面形	開口部形状	底面性	深さ	長軸方向	埋 土	検出状況・重複関係	回数	可測
31号廻し穴	12L	溝渠	171×30	164×15	55	N-87°-W	黄褐色土層が黒褐色土層に挟まれて堆積。		13	9
32号廻し穴	12L	椭円形	159×47	170×18	86	N-87°-W	黄褐色土層が暗褐色土層に挟まれて堆積。中位には黒褐色土を含む。		13	9
33号廻し穴	9N	溝型	365×32	349×18	77	N-76°-W	黒褐色土層が黒褐色土層に挟まれて堆積。		13	10
34号廻し穴	8N	溝型	265×57	246×22	74	N-52°-W	黒褐色土層が黒褐色土層に挟まれて堆積。		13	10
35号廻し穴	7M	溝渠	168×30	184×6	79	N-66°-E	上位は黒褐色土、下位には暗褐色土層が埋積。		13	10
36号廻し穴	7N 8N	溝渠	269×53	265×12	115	N-82°-W	上位は黒褐色土、下位には黄褐色土層が埋積して堆積。		13	10
37号廻し穴	15L	溝渠	273×28	314×7	64	N-62°-E	全位からは黒褐色土の堆積。	28号住居と重複し、これより古い。	14	16
38号廻し穴	7N	溝型	203×42	179×5	94	N-78°-E	黄褐色土層が黒褐色土層と暗褐色土層に挟まれて堆積。		14	10
39号廻し穴	15N	溝型	261×19	263×10	51	N-41°-W	上位は黒褐色土、下位には黒褐色土層が埋積。		14	11
40号廻し穴	20O	溝型	273×31	265×8	76	N-35°-W	上位は黒褐色土と黒褐色土が交互に下位には黒褐色土が埋積。		14	11
41号廻し穴	21N	溝渠	311×28	317×13	91	N-54°-W	黄褐色土層が黒褐色土層に挟まれて堆積。		14	11
42号廻し穴	24M 25M	溝型	311×44	326×16	81	N-84°-E	上位は黒褐色土、下位には暗褐色土、無褐色土の堆積。		14	11
43号廻し穴	23M	溝渠	234×47	224×15	93	N-4°-W	全体からは黒褐色土層が暗褐色土で中位には黒褐色土が埋積。		15	11
44号廻し穴	17O	溝型	(332×64)	336×14	81	N-73°-W	黒色土上に黒褐色土が交互に堆積。中位には黒褐色土を含む。		15	12
45号廻し穴	23N	溝型	(323×24)	(303×6)	77	N-58°-E	黒色土と黒褐色土が交互に埋積。	1号住居と重複	15	12
46号廻し穴	24N 25N	溝？	285×67	276×16	82	N-72°-W	上位は黒褐色土、下位には黒褐色土、暗褐色土、黒色土の堆積。	25号住居と重複し、これより古い。	15	12
47号廻し穴	24M 25M	溝？	252×68	372×15	81	N-81°-E	にぶい黒褐色土が黒色系に挟まれて堆積。	2号住居と重複し、これより新しい。	15	12
48号廻し穴	27M	溝渠	256×16	252×10	9	N-84°-W	暗褐色土、黒色土、にぶい黄褐色土が交互に埋積。		15	12
49号廻し穴	26M	溝型	272×31	233×20	11	N-82°-E	黒褐色土、黒色土の間に堆積。黒色土は深入る。		16	13
50号廻し穴	26M	溝渠	318×21	308×15	20	N-89°-W	黒褐色土上に、にぶい黄褐色土、黒色土の間に埋積。		16	13
51号廻し穴	26M	溝型	486×25	465×11	37	N-78°-W	にぶい、黄褐色土が暗褐色土、黒色土に挟まれて堆積。		16	13
52号廻し穴	26M	溝型	397×21	373×13	28	N-67°-W	上位は暗褐色土、下位にはにぶい黄褐色土が交互に埋積。		16	13
53号廻し穴	25N	溝型	288×74	284×27	93	N-81°-W	にぶい、黄褐色土が黒色系に挟まれて堆積。		16	13
54号廻し穴	25N 25N	溝型	343×50	331×19	95	N-68°-W	黒色土上ににぶい黄褐色土が交互に埋積。		16	14
55号廻し穴	16O	溝型	215×15	182×12	102	N-51°-W	黒褐色土が堆積。	20-21号住居と重複。これより古い。	16	14
56号廻し穴	17O	溝型	351×58	354×11	79	N-79°-W	堆積土中ににぶい黄褐色土がほぼ交互に埋積。		17	14
57号廻し穴	12L	溝渠	408×39	385×19	87	N-30°-E	黒褐色土と暗褐色土がほぼ交互に埋積。		17	14
58号廻し穴	13K	溝型	361×40	349×16	87	N-3°-E	上位は暗褐色土、下位には黒色系と褐色系が交互に堆積。		17	14
59号廻し穴	17O	溝型	215×44	273×11	113	N-70°-E	黒色土上ににぶい黄褐色土がほぼ交互に埋積。		17	15
60号廻し穴	12L	溝型	198×40	222×23	61	N-82°-E	にぶい黄褐色土が黒褐色土に挟まれて堆積。		17	15
61号廻し穴	12L	溝型	208×44	247×22	91	N-84°-E	黒色系と褐色系が交互に堆積。		17	15
62号廻し穴	11L	長方形	228×45	205×15	81	N-75°-E	にぶい黄褐色土が黒色系に挟まれて堆積。		18	15
63号廻し穴	10L	溝渠	241×31	255×17	45	N-87°-E	上位は黒褐色土、下位には黒褐色土と暗褐色土が交互に堆積。		18	15
64号廻し穴	23M	溝型	358×16	343×10	55	N-74°-W	上位は黒褐色土、下位には黒褐色土と黒褐色土が交互に堆積。	30号住居跡と重複し、これより古い。	18	16
65号廻し穴	24N	溝型	202×21	192×13	26	N-4°-E	黒褐色土の單層。	25号住居跡と重複し、これより古い。	18	16
66号廻し穴	22N	溝型	(310×21)	(266×11)	31	N-72°-E	黒褐色土が褐色土上に挟まれて堆積。	23号住居跡と重複し、これより古い。	18	16
67号廻し穴	23N 24N	溝型	304×16	241×6	21	N-77°-W	上位は25号住居疎ら、下位には黒褐色土、暗褐色土が堆積。	24号住居跡と重複し、これより古い。	18	16



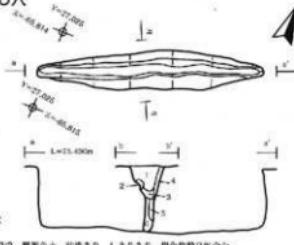
第8図 1~6号陥し穴

7号陥し穴



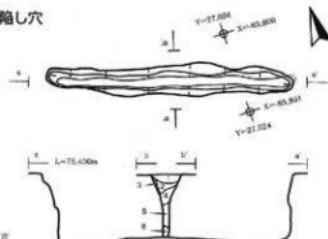
- b-d'
1. 10YR2/2 黒褐色土 動植物なし 疊くしまる
 2. 10YR3/4 暗褐色土 動植物あり しょりあり
 3. 10YR2/1 黄色土 動植物あり しょりあり
 4. 10YR2/2 黑褐色土 動植物ややあり しょりあり 黄褐色土層 (10YR5/4) 40%含む。
 5. 10YR3/4 暗褐色土 動植物ややあり しょりあり 黑色土 (10YR2/1) 黄褐色土 5%含む。

8号陥し穴



- b-d'
1. 10YR2/2 黑褐色土 動植物あり しょりあり 廃化腐鉄2%含む。
 2. 10YR4/4 黑褐色土 動植物あり しょりあり 廃化腐鉄1%含む。黒褐色土。
 3. 10YR2/3 黑褐色土 動植物あり しょりあり 廃化腐鉄1%含む。
 4. 10YR3/2 黄褐色土 動植物あり しょりややあり 廃化腐鉄1%含む。
 5. 10YR4/4 黄褐色土上 動植物あり しょりややあり 黄褐色土 (10YR5/4) 20cm ブロックで3%含む。
 6. 10YR3/4 黄褐色土 動植物あり しょりなし 黄褐色土 (10YR5/4) 20cm ブロックで3%含む。

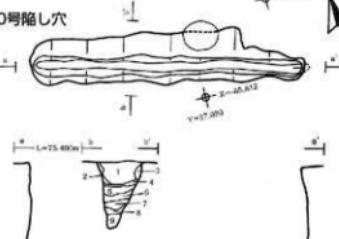
9号陥し穴



9号陥し穴
b-d'

1. 10YR2/2 黑褐色土 動植物あり しょりややあり 黄褐色土層 (10YR5/4) 2%含む。
2. 10YR2/2 黑褐色土 動植物あり しょりややあり 黄褐色土 (10YR5/4) 10cm ブロックで3%含む。
3. 10YR4/6 黄褐色土 動植物あり しょりあり 黄褐色土 (10YR5/4) 10cm ブロックで3%含む。
4. 10YR2/2 黑褐色土 動植物あり しょりややあり 黄褐色土 (10YR5/4) 20cm ブロックで3%含む。
5. 10YR5/6 黄褐色土層 動植物あり しょりあり 廃化腐鉄1%含む。
6. 10YR2/2 黑褐色土 動植物あり しょりあり

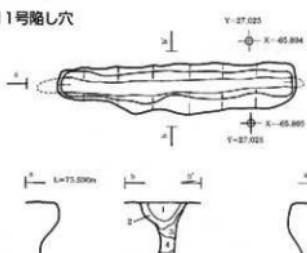
10号陥し穴



10号陥し穴
b-d'

1. 10YR2/1 黑褐色土 動植物あり しょりあり 黄褐色土層 (10YR5/4) 1%含む。
2. 10YR2/2 黑褐色土 動植物あり しょりあり 黄褐色土層 (10YR5/4) 3%含む。
3. 10YR2/3 黑褐色土 動植物あり しょりややあり 黄褐色土 (10YR4/6) 3%含む。
4. 10YR2/5 黑褐色土 動植物あり しょりやや 黄褐色土 (10YR4/6) 5%含む。
5. 10YR2/2 黑褐色土 動植物あり しょりやや 黄褐色土 (10YR4/6) 1%含む。
6. 10YR2/3 黑褐色土 動植物あり しょりやや 黄褐色土 (10YR4/6) 1%含む。
7. 10YR2/2 黑褐色土 動植物あり しょりやや 黄褐色土 (10YR5/4) 5%含む。
8. 10YR2/5 黑褐色土 動植物あり しょりやや 黄褐色土 (10YR5/4) 10cm ブロックで20%含む。
9. 10YR5/6 黄褐色土層 動植物あり しょりあり 黄褐色土 2%含む。

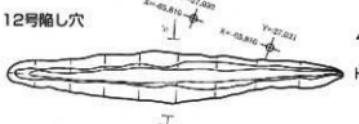
11号陥し穴



11号陥し穴
b-d'

1. 10YR2/2 黑褐色土 動植物あり しょりあり
2. 10YR2/2 黑褐色土 動植物あり しょりあり 黄褐色土層 (10YR5/4) 3%含む。
3. 10YR2/2 黑褐色土 動植物あり しょりあり 黄褐色土 (10YR5/4) 10cm ブロックで15%含む。
4. 10YR5/6 黄褐色土 動植物あり しょりあり 黄褐色土 1%含む。
5. 10YR2/2 黑褐色土 動植物あり しょりあり 黄褐色土 (10YR5/4) 10cm ブロックで5%含む。
6. 10YR2/2 黑褐色土 動植物あり しょりややあり

12号陥し穴



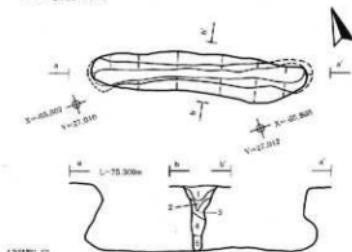
12号陥し穴
b-d'

1. 10YR2/2 黑褐色土 動植物あり しょりみち 黄褐色土 (10YR5/4) 10cm ブロックで2%含む。
2. 7.5YR4/4 黄褐色土 動植物あり しょりやや 黄褐色土 (10YR5/4) 15cm ブロックで3%含む。
3. 10YR2/3 黄褐色土 動植物あり しょりあり 黄褐色土 (10YR4/4) 30cm ブロックで15%含む。
4. 10YR2/3 黄褐色土 動植物あり しょりややあり 黄褐色土 (10YR5/4) 3%含む。

0 1.60 3m

第9図 7~12号陥し穴

13号陥し穴



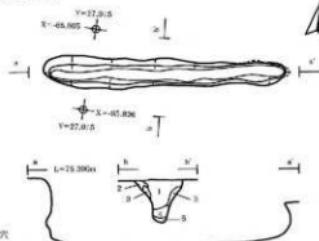
13号陥し穴

b-h'

1. 10YR2/2 黒褐色土 動植物あり L25m弱 硫化物1%含む
2. 10YR2/2 黑褐色土 動植物あり しまさかり 黄褐色土(10YR5/8)と3%硫化物で切替
3. 10YR3/4 黑褐色土 動植物あり しまさかり 黄褐色土(10YR5/8)と20cmで7%含む 硫化物1%含む
4. 10YR2/2 黑褐色土 動植物あり しまさかり 黄褐色土(10YR5/8)と20cmで7%含む 硫化物1%含む
5. 10YR2/3 黑褐色土 動植物あり しまさかり 黄褐色土(10YR5/8)と2%含む

14号陥し穴

14号陥し穴



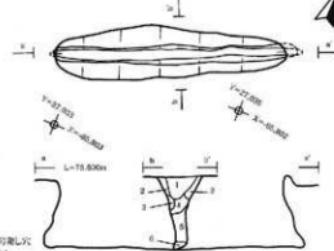
14号陥し穴

b-h'

1. 10YR2/2 沿地帯土 動植物あり L20m弱 明褐色土(7.5YR5/8)と3%含む
2. 10YR2/2 黑褐色土 動植物あり L6m弱 動植物あり(10YR5/8)と10cm ブロックで2%含む
3. 10YR2/2 黑褐色土 動植物あり しまさかり 黄褐色土(10YR5/8)と20cm 硫化物1%含む
4. 10YR2/2 黑褐色土 動植物あり しまさかり 黄褐色土(10YR5/8)と30cm 硫化物1%含む
5. 10YR2/3 黑褐色土 動植物あり しまさかり 黄褐色土(10YR5/8)と7.5YR5/8 1%含む

*1~4番は本道地帯付近空穴状造の埋土

15号陥し穴

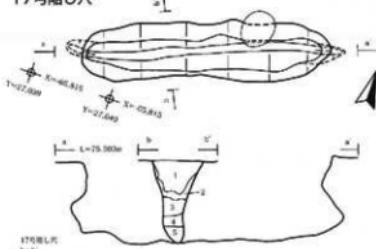


15号陥し穴

b-h'

1. 10YR2/2 黑褐色土 動植物あり L25m弱 硫化物1%含む しまさかり 黄褐色土(10YR5/8)と1%含む
2. 10YR3/4 しまさかり 動植物あり しまさかり 黄褐色土(10YR5/8)と10~20cm ブロックで2%含む
3. 10YR2/2 黑褐色土 動植物あり しまさかり 黄褐色土(10YR5/8)と20cm 硫化物1%含む
4. 10YR2/2 黑褐色土 動植物あり しまさかり 黄褐色土(10YR5/8)と20cm 硫化物1%含む
5. 10YR2/3 黑褐色土 動植物あり しまさかり 黄褐色土(10YR5/8)と2%含む
6. 10YR2/2 黑褐色土 動植物あり しまさかり 黄褐色土(10YR5/8)と1%含む

17号陥し穴

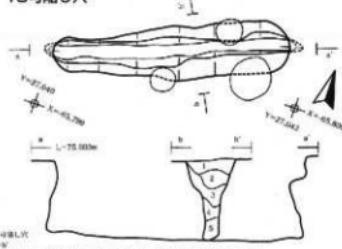


17号陥し穴

b-h'

1. 10YR2/2 動植物あり しまさかり 黄褐色土(10YR5/8) 1%含む
2. 10YR3/3 黑褐色土 動植物あり しまさかり 黄褐色土(10YR5/8) 10~20cm ブロックで2%含む
3. 10YR2/2 黑褐色土 動植物あり しまさかり 黄褐色土(10YR5/8) 10~20cm 硫化物1%含む
4. 10YR2/2 黑褐色土 動植物あり しまさかり 黄褐色土(10YR5/8) 2% 硫化物1%含む
5. 10YR2/3 黑褐色土 動植物あり しまさかり 黄褐色土(10YR5/8) 1%含む

18号陥し穴

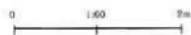


18号陥し穴

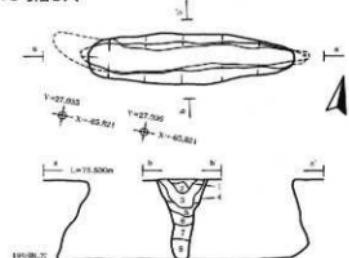
b-h'

1. 10YR2/2 黑褐色土 動植物あり しまさかり 黄褐色土(10YR5/8) 1%含む
2. 10YR2/2 黑褐色土 動植物あり しまさかり 黄褐色土(10YR5/8) 10~20cm ブロックで2%含む
3. 10YR2/2 黑褐色土 動植物あり しまさかり 黄褐色土(10YR5/8) 3%含む
4. 10YR2/2 黑褐色土 動植物あり しまさかり 黄褐色土(10YR5/8) 2%含む
5. 10YR2/2 黑褐色土 動植物あり しまさかり 黄褐色土(10YR5/8) 10~20cm ブロックで2%含む
6. 10YR2/3 黑褐色土 動植物あり しまさかり 黄褐色土(10YR5/8) 1%含む

第10図 13~18号陥し穴

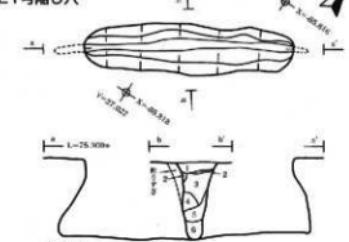


19号陥し穴



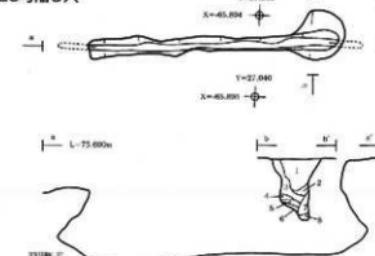
- b-1
1. 10YR4/3 黄褐色土 塩分有り L=25m 砂岩の上に位置する。底質は砂質である。
2. 10YR5/2 黑褐色土 塩分有り L=25m 砂岩の上に位置する。底質は砂質である。
3. 10YR5/2 黑褐色土 塩分有り L=25m 砂岩の上に位置する。底質は砂質である。
4. 10YR5/2 黑褐色土 塩分有り L=25m 砂岩の上に位置する。底質は砂質である。
5. 10YR5/2 黑褐色土 塩分有り L=25m 砂岩の上に位置する。底質は砂質である。
6. 10YR5/2 黑褐色土 塩分有り L=25m 砂岩の上に位置する。底質は砂質である。
7. 10YR5/2 黑褐色土 塩分有り L=25m 砂岩の上に位置する。底質は砂質である。
8. 10YR5/2 黑褐色土 塩分有り L=25m 砂岩の上に位置する。底質は砂質である。

21号陥し穴



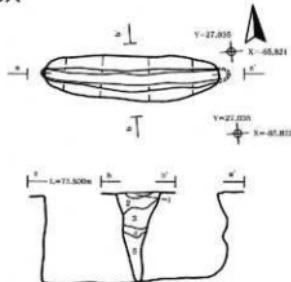
- b-1
1. 10YR5/2 黑褐色土 塩分有り しまりあり
2. 10YR5/2 黑褐色土 塩分有り しまりあり 埋め土 (10YR5/2) 30%含む。
3. 10YR5/2 黑褐色土 塩分有り しまりあり 埋め土 (10YR5/2) 5%含む。
4. 10YR5/2 黑褐色土 塩分有り しまりあり 埋め土 (10YR5/2) 5%含む。
5. 10YR5/2 黑褐色土 塩分有り しまりややあり 埋め土 (10YR5/2) 10%含む。
6. 10YR5/2 黑褐色土 塩分有り しまりややあり 埋め土 (10YR5/2) 5%含む。

23号陥し穴



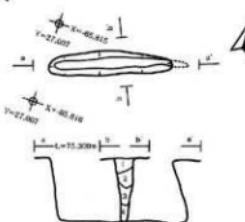
- b-1
1. 10YR5/2 黑褐色土 塩分有り L=25m 黑褐色土 (10YR5/2) 5%含む。
2. 10YR5/2 黑褐色土 塩分有り L=25m 黑褐色土 (10YR5/2) 30%含む。
3. 10YR5/2 黑褐色土 塩分有り L=25m 黑褐色土 (10YR5/2) 5%含む。
4. 10YR5/2 黑褐色土 塩分有り L=25m 黑褐色土 (10YR5/2) 70~80%含む。
5. 10YR5/2 黑褐色土 塩分有り L=25m 黑褐色土 (10YR5/2) 5%含む。
6. 10YR5/2 黑褐色土 塩分有り L=25m 黑褐色土 (10YR5/2) 5%含む。
7. 10YR5/2 黑褐色土 塩分有り L=25m 黑褐色土 (10YR5/2) 5%含む。
8. 10YR5/2 黑褐色土 塩分有り L=25m 黑褐色土 (10YR5/2) 5%含む。

20号陥し穴



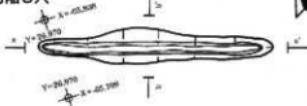
- b-1
1. 10YR5/2 黑褐色土 塩分有り L=25m 黑褐色土 (10YR5/2) 5%含む。
2. 10YR5/2 黑褐色土 塩分有り L=25m 黑褐色土 (10YR5/2) 5%含む。
3. 10YR5/2 黑褐色土 塩分有り L=25m 黑褐色土 (10YR5/2) 5%含む。
4. 10YR5/2 黑褐色土 塩分有り L=25m 黑褐色土 (10YR5/2) 5%含む。
5. 10YR5/2 黑褐色土 塩分有り L=25m 黑褐色土 (10YR5/2) 5%含む。

22号陥し穴



- b-1
1. 10YR5/2 黒褐色土 塩分なし しまりあり 黑褐色土 (10YR4/6) 3%含む。
2. 10YR5/2 黑褐色土 塩分あり しまりあり 明るい黒褐色土 (10YR3/3) 3%含む。
3. 10YR5/2 黑褐色土 塩分あり しまりあり 明るい黒褐色土 (10YR5/6) 5%含む。
4. 10YR5/2 黒褐色土 塩分あり しまりややあり 明るい黒褐色土 (10YR5/6) 3%含む。

24号陥し穴

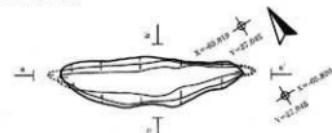


- b-1
1. 10YR5/2 黑褐色土 塩分有り L=25m 黑褐色土 (10YR5/4) 5%含む。
2. 10YR5/2 黑褐色土 塩分有り L=25m 黑褐色土 (10YR5/4) 5%含む。
3. 10YR5/2 黑褐色土 塩分有り L=25m 黑褐色土 (10YR5/4) 5%含む。
4. 10YR5/2 黑褐色土 塩分有り L=25m 黑褐色土 (10YR5/4) 5%含む。
5. 10YR5/2 黑褐色土 塩分有り L=25m 黑褐色土 (10YR5/4) 5%含む。
6. 10YR5/2 黑褐色土 塩分有り L=25m 黑褐色土 (10YR5/4) 5%含む。
7. 10YR5/2 黑褐色土 塩分有り L=25m 黑褐色土 (10YR5/4) 5%含む。

0 1.60 2m

第11図 19~24号陥し穴

25号陥し穴



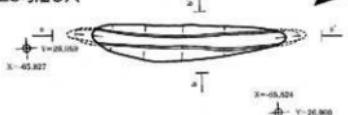
25号陥し穴 井戸記

1. 10YR2/3 黒褐色土 勝性なし L=75.00m 高度地帯上10YR5/3 10YR5/2 10YR5/1
2. 10YR2/2 黒褐色土 勝性なし L=75.00m 高度地帯上10YR5/3 10YR5/2 10YR5/1
3. 10YR2/1 黒褐色土 勝性なし L=75.00m 高度地帯上10YR5/3 10YR5/2 10YR5/1
4. 10YR5/2 黒褐色土 勝性なし L=75.00m 高度地帯上10YR5/3 10YR5/2 10YR5/1
5. 10YR5/1 黒褐色土 勝性なし L=75.00m 高度地帯上10YR5/3 10YR5/2 10YR5/1
6. 10YR5/0 黒褐色土 勝性なし L=75.00m 高度地帯上10YR5/3 10YR5/2 10YR5/1
7. 10YR2/2 黒褐色土 勝性なし L=75.00m 高度地帯上10YR5/3 10YR5/2 10YR5/1
8. 10YR2/1 黒褐色土 勝性なし L=75.00m 高度地帯上10YR5/3 10YR5/2 10YR5/1
9. 10YR2/0 黒褐色土 勝性なし L=75.00m 高度地帯上10YR5/3 10YR5/2 10YR5/1
10. 10YR2/2 黒褐色土 勝性なし L=75.00m 高度地帯上10YR5/3 10YR5/2 10YR5/1
11. 10YR2/1 黒褐色土 勝性なし L=75.00m 高度地帯上10YR5/3 10YR5/2 10YR5/1

25号陥し穴 井戸記

1. 10YR2/3 黒褐色土 勝性なし L=75.00m 高度地帯上10YR5/3 10YR5/2 10YR5/1
2. 10YR2/2 黒褐色土上部 勝性なし L=75.00m 高度地帯上10YR5/3 10YR5/2 10YR5/1
3. 10YR2/1 黒褐色土 勝性なし L=75.00m 高度地帯上10YR5/3 10YR5/2 10YR5/1
4. 10YR5/2 黒褐色土 勝性なし L=75.00m 高度地帯上10YR5/3 10YR5/2 10YR5/1
5. 10YR5/1 黒褐色土 勝性なし L=75.00m 高度地帯上10YR5/3 10YR5/2 10YR5/1
6. 10YR5/0 黒褐色土 勝性なし L=75.00m 高度地帯上10YR5/3 10YR5/2 10YR5/1
7. 10YR2/2 黒褐色土 勝性なし L=75.00m 高度地帯上10YR5/3 10YR5/2 10YR5/1
8. 10YR2/1 黒褐色土 勝性なし L=75.00m 高度地帯上10YR5/3 10YR5/2 10YR5/1
9. 10YR2/0 黒褐色土 勝性なし L=75.00m 高度地帯上10YR5/3 10YR5/2 10YR5/1

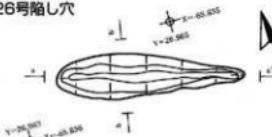
29号陥し穴



29号陥し穴 井戸記

1. 10YR2/2 黒褐色土 勝性なし L=75.00m
2. 10YR2/1 黒褐色土 勝性なし L=75.00m 黑褐色土 (10YR5/3 75~50mm ブロックで10%含む)
3. 10YR2/0 黑褐色土 勝性なし L=75.00m 黑褐色土 (10YR5/3 75~30mm ブロックで3%含む)
4. 10YR2/2 黑褐色土下部 勝性なし L=75.00m 黑褐色土 (10YR5/3 75~30mm ブロックで3%含む)
5. 10YR2/1 黑褐色土 勝性なし L=75.00m 黑褐色土 (10YR5/3 75~30mm ブロックで3%含む)
6. 10YR2/0 黑褐色土 勝性なし L=75.00m 黑褐色土 (10YR5/3 75~30mm ブロックで3%含む)
7. 10YR5/2 黑褐色土下部 勝性なし 黑褐色土 (10YR5/2 新) 5%含む。

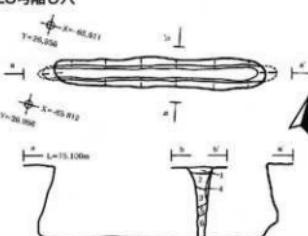
26号陥し穴



26号陥し穴 井戸記

1. 10YR2/3 黒褐色土 勝性なし L=75.00m 高度地帯上10YR5/3 10YR5/2 10YR5/1
2. 10YR2/2 黒褐色土 勝性なし L=75.00m 高度地帯上10YR5/3 10YR5/2 10YR5/1
3. 10YR2/1 黒褐色土 勝性なし L=75.00m 高度地帯上10YR5/3 10YR5/2 10YR5/1
4. 10YR5/2 黑褐色土 勝性なし L=75.00m 高度地帯上10YR5/3 10YR5/2 10YR5/1
5. 10YR5/1 黑褐色土 勝性なし L=75.00m 高度地帯上10YR5/3 10YR5/2 10YR5/1
6. 10YR5/0 黑褐色土 勝性なし L=75.00m 高度地帯上10YR5/3 10YR5/2 10YR5/1

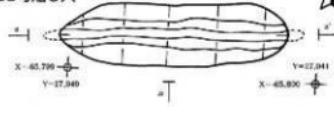
28号陥し穴



28号陥し穴 井戸記

1. 10YR2/3 黑褐色土 勝性なし L=75.00m
2. 10YR2/2 黑褐色土 勝性なし L=75.00m 黑褐色土 (10YR5/3 75~50mm ブロックで20%含む)
3. 10YR2/1 黑褐色土 勝性なし L=75.00m 黑褐色土 (10YR5/3 75~50mm ブロックで20%含む)
4. 10YR5/2 黑褐色土 勝性なし L=75.00m 高度地帯上10YR5/3 10YR5/2 10YR5/1
5. 10YR5/1 黑褐色土 勝性なし L=75.00m 高度地帯上10YR5/3 10YR5/2 10YR5/1
6. 10YR5/0 黑褐色土 勝性なし L=75.00m 高度地帯上10YR5/3 10YR5/2 10YR5/1

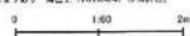
30号陥し穴



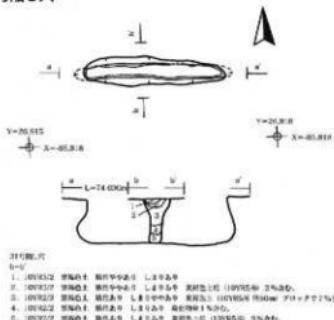
30号陥し穴 井戸記

1. 10YR2/1 黒色土 勝性なし しまりあり
2. 10YR2/2 黒色土 勝性なし しまりあり
3. 10YR2/3 黑褐色土2%と10YR5/4(褐色地帯上8%)の混在 勝性なし しまりあり
4. 10YR2/4 黑褐色土 勝性なし しまりあり 黑色土 (10YR2/2) 勝性に5%含む。
5. 10YR2/2 黑褐色土 勝性あり しまりあり 黑色土 (10YR2/4) 5%含む。

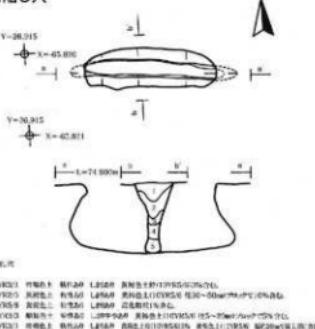
第12図 25~30号陥し穴



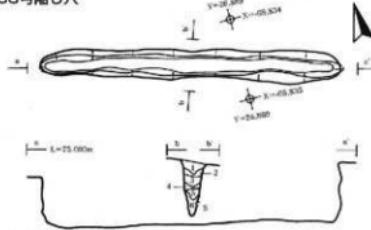
31号陥し穴



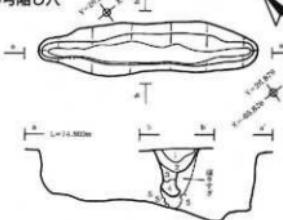
32号陥し穴



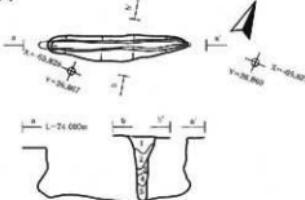
33号陥し穴



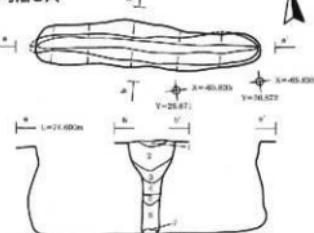
34号陥し穴



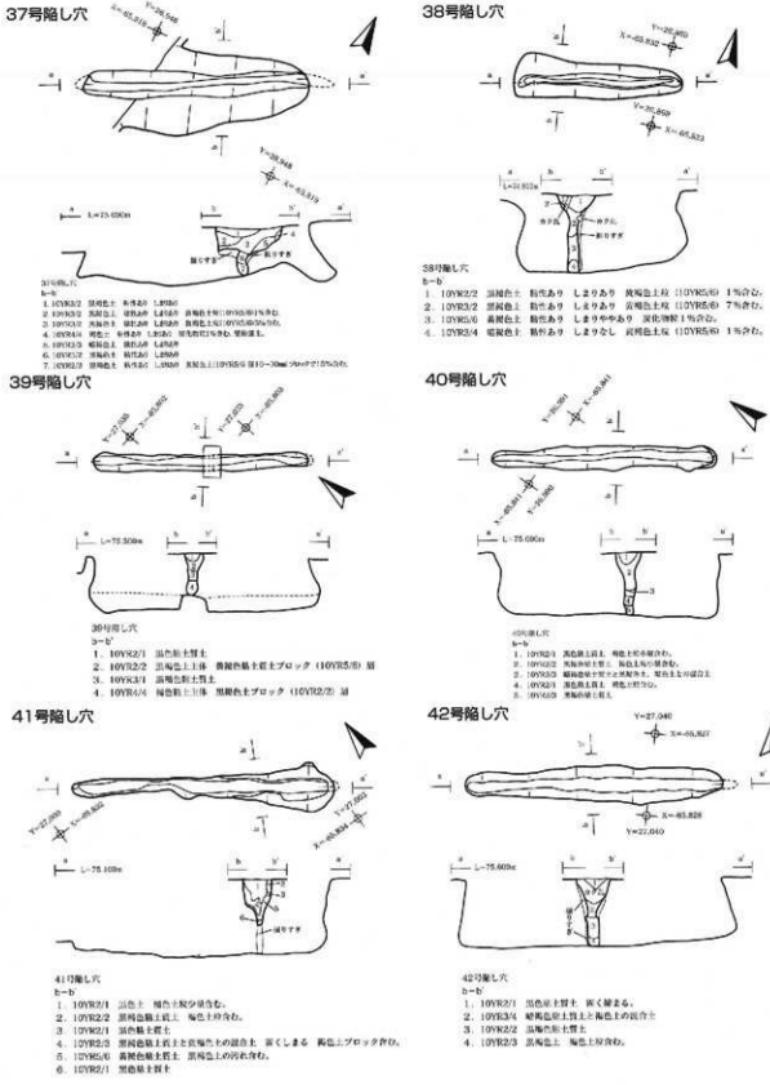
35号陥し穴



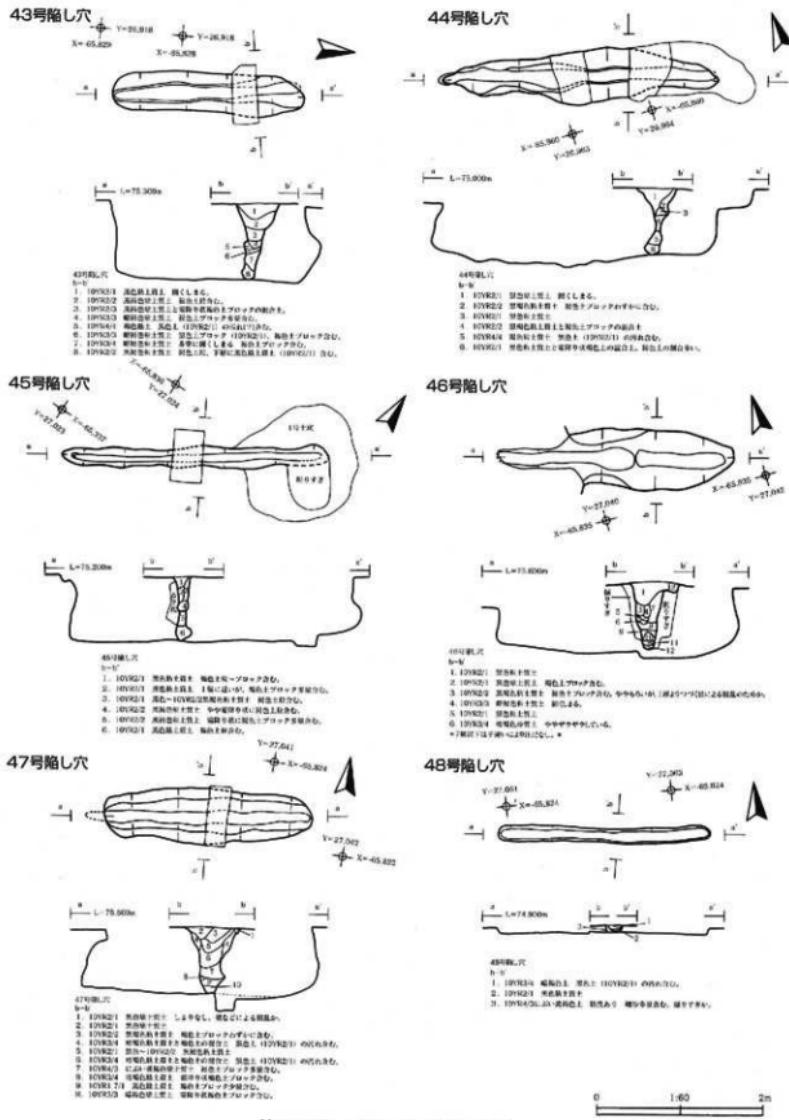
36号陥し穴



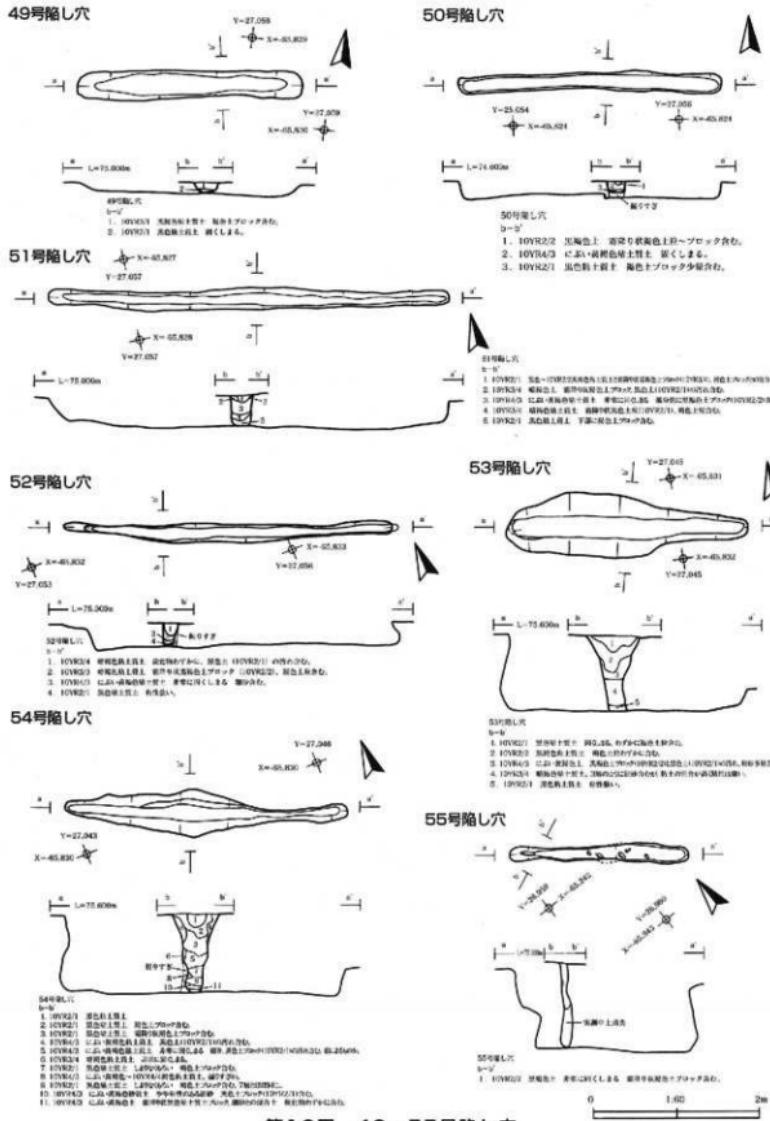
第13図 31~36号陥し穴



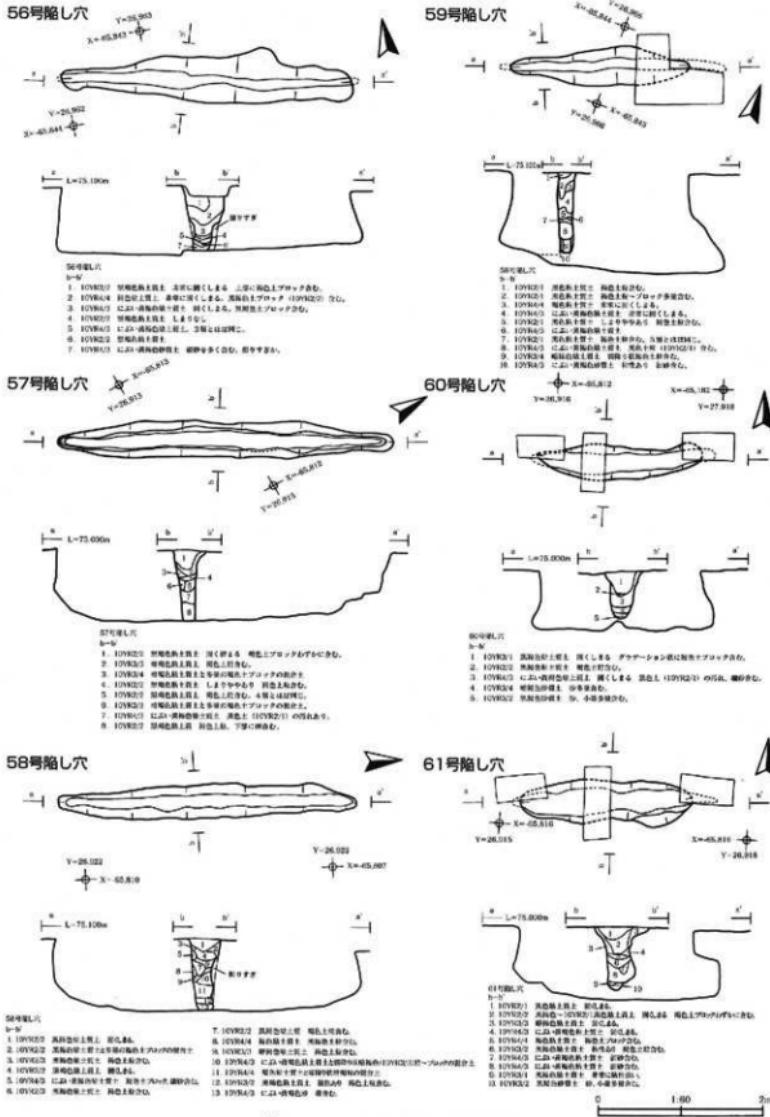
第14図 37~42号陥し穴



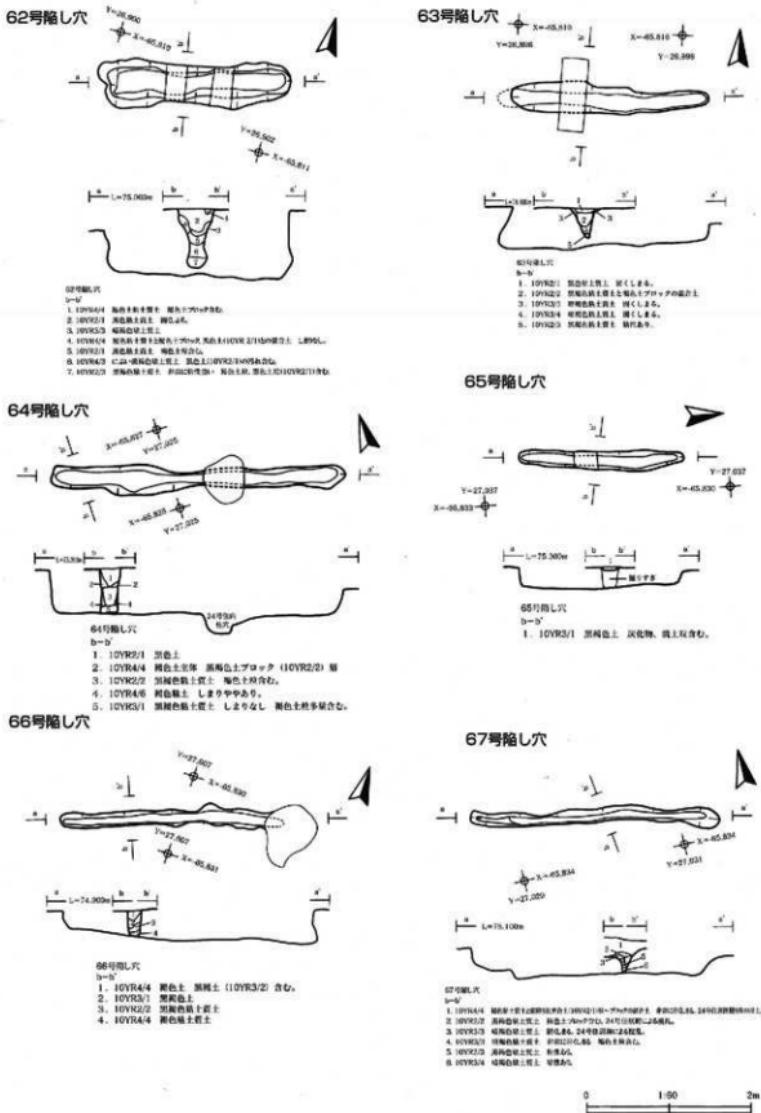
第15図 43~48号陥し穴



第16図 49～55号陥し穴



第17図 56~61号陥し穴



第18図 62~67号陥し穴

2. 土坑

41基検出された。調査区のはば全域で検出されているが、約8割は道路東側調査区である。平面形は円形12基、楕円形22基、隅丸方形1基、長方形4基、不整形2基で楕円形が約5割を占める。規模は最小のもので開口部幅76×69cm、最大で291×256cm、深さは10~127cmである。

時期は出土遺物・検出状況等から縄文時代の土坑と考えられるものが5基、平安時代が13基、古代~中世が2基、近世が1基、時期不明のものが20基である。

特筆される土坑として数基挙げておく。まず1・2号土坑は縮穴状遺構と重複関係にある。いずれも縮穴状遺構に切られている事から土坑はそれより古い縄文時代の遺構と考えられる。1号土坑の断面形はプラスコ状を呈している。

9号土坑では土師器の环が2・3枚ずつ重なって計9枚出土している。この中には竪で文字が書かれた土師器が1枚含まれていた。9号土坑の埋上状況をみると、初めビーカー型に大きく掘り込んだ後、黄褐色土を埋め戻したと考えられる。土師器は保管、あるいは埋納した可能性もある。

13号土坑と15号土坑は異なる平面形・規模を持つが、土坑のプランほぼ全面に薄い土器片を多量に含むという共通性を持つ。また、炭化物も含んでいる。15号土坑は11号住居と重複関係にあり本遺構の方が新しい。

36号土坑は円形を呈し、壁はやや外形し、上部ほど広くなる井戸状の土坑である。検出面からおよそ1.3m付近に地下水位があったためその付近の精査は困難であったが、そこより深くなる事はないようで、出土遺物もないことから井戸と断定は出来なかった。

各土坑の位置・規模等については観察表に記載した。

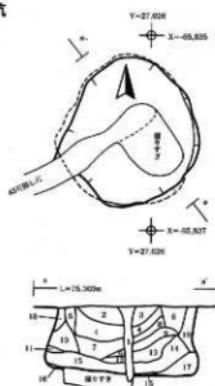
(熊谷)

土坑観察表

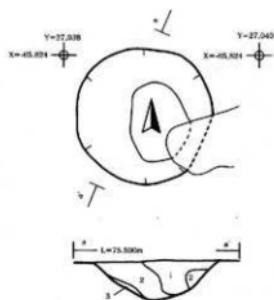
遺構名	位置	平面形	開口部幅	底部径	深さ	埋 土	剖面	備 考	図版	写真
1号土坑	23N	円形	139×135	150×138	71	上位は黒褐色土層に炭化物が含まれ、下位には褐色土が堆積。	45号縮穴より古い。プラスコ型の土坑。縄文時代の遺構。	19	54	
2号土坑	24M	円形	1138×139	79×58	41	全体に黒褐色土を主体とする層が堆積。	47号縮穴より古い。縮土・検出状況から縄文時代の遺構。	19	54	
3号土坑	25M 25K	楕円形	159×131	78×75	55	全体に黒褐色土を主体とする層が堆積。	埋土から縄文時代の遺構である。	19	54	
4号土坑	25N	円形	180×190	86×56	74	縄褐色土層と黒褐色土層が交互に堆積。	埋土から縄文時代の遺構である。	19	54	
5号土坑	25N	隅丸方形	92×100	58×61	24	上位は黒褐色土、下位は褐褐色土の層が堆積。	埋土から縄文時代の遺構である。	19	55	
6号土坑	22N	不整な円形	123×136	53×52	26	全体に黒褐色土を主体とする層が堆積。	埋土から縄文時代の遺構か?	20	55	
7号土坑	26N	不整形	90×79	41×30	13	全体に黒褐色土を主体とする層が堆積。	413~415 出土遺物から平安時代の遺構である。	20	55	
8号土坑	26N	楕円形	65×53	38×30	10	全体に黒褐色土を主体とする層が堆積。	416、出土遺物から平安時代の遺構である。	20	55	
9号土坑	26N	楕円形	115×104	104×81	34	中央はほぼ黒褐色土で両側は黒褐色土層が堆積。	418~427 出土遺物から平安時代の遺構である。	20	56	
10号土坑	19N	楕円形	176×108	108×70	62	全体に黒褐色土を主体とする層が堆積。	428~430 出土遺物から平安時代の遺構である。	20	56	
11号土坑	16K	楕円形	90×76	56×48	27	上位は黒褐色土、下位は黒褐色土の層が堆積。	431、出土遺物から平安時代の遺構である。	20	62	
12号土坑	19N	不整な長方形	110×81	79×54	16	上位に焼土、中~下位は黒褐色土の層が堆積。	出土遺物から平安時代の遺構である。	21	62	
13号土坑	18M	不整な円形	76×69	71×61	12	全体が黒褐色土、両側面に磨擦した褐色土層が堆積。	出土遺物から平安時代の遺構である。	21	56	

遺構名	位置	平面形	廻口部径	底面径	深さ	埋 土	社跡	備 考	周囲
14号土坑	15M	不整な 長方形	135×92	(101×69)	36	上位は黒褐色土、下位は暗褐色 土の層が堆積。		出土遺物から平安時代の遺構で ある。	21 56
15号土坑	16K	不整形	168×158	135×124	18	上位は土礫片を多量に含む黒褐 色土、下位は黒褐色土の層が堆積。	433	11号住居より新しい。出土遺物が ら平安時代の遺構である。	21 57
16号土坑	15O	横円形	138×91	101×51	33	上位は黒褐色土、下位は黒褐色土 の層が堆積。		埋土から古代の遺構である。	21 57
17号土坑	18O	横円形	225×137	202×96	105	上～中位は黒褐色土、下位は 黄褐色土の層が堆積。	434～ 437	出土遺物から平安時代の遺構で ある。	22 57
18号土坑	15O	不整な 横円形	(150×118)	94×42	44	上、下位は黒褐色土、中位は 褐色土に焼土を多量含む。		1号溝に切られ、検出状況から平 安時代の遺構である。	22 57
19号土坑	24M	円形	196×185	150×148	20	全体に黒褐色土を主体とする層 が堆積。		出土遺物から平安時代の遺構で ある。	22 58
20号土坑	26N	横円形	203×164	86×61	67	上位は褐色土、中～下位は黒褐 色土の層が堆積。	438	出土遺物から平安時代の遺構か ?	22 58
21号土坑	24N	不整な 横円形	153×125	110×103	28	全体に黒褐色土を主体とする層 が堆積。		25号住居内斜穴より新しい。 平安時代の遺構か?	23 63
22号土坑	11L	不整な 円形	129×137	38×22	32	上～中位は褐色土、下位は 黒褐色土の層が堆積。		埋土から古代～中世の遺構であ る。	23 58
23号土坑	12L	不整な 円形	97×91	76×90	15	上位は黒褐色土、下位は暗褐色 土の層が堆積。		埋土から古代～中世の遺構であ る。	23 58
24号土坑	11L	円形	205×203	170×174	31	全体に黒褐色土を主体とする層 が堆積。	439	埋土から中世の遺構か?	23 59
25号土坑	12P	横円形	111×88	62×53	23	上位は黒褐色土、下位は黒褐色土 の層が堆積。			23 63
26号土坑	12O	横円形	103×92	52×41	51	全体がほぼ暗褐色土、下位に 褐色土の層が堆積。		柱穴に切られる。	23 63
27号土坑	12P	円形	126×106	66×63	57	全体が黒褐色土、上位に小量 多量含む。	440, 441	出土遺物は流れ込みか?	24 59
28号土坑	12P	横円形	212×189	35×81	35	全体に黒褐色土を主体とする層 が堆積。			24 59
29号土坑	10M	円形	102×98	61×59	98	上位は暗褐色土、中～下位は 黒褐色土の層が堆積。			24 59
30号土坑	21M	横円形	156×144	132×112	24	上位は黒褐色土、下位は黒褐色土 の層が堆積。			24 60
31号土坑	22L	不整な 長方形	185×101	167×82	33	全体に黒褐色土を主体とする層 が堆積。	442		24 60
32号土坑	25K	不整な 横円形	205×160	172×75	80	上位は黒褐色土、中位は黒褐色土、 下位は黃褐色土の層が堆積。	443		25 60
33号土坑	19K	横円形	117×71	102×44	16	全体に黒褐色土を主体とする層 が堆積。	444	出土遺物は流れ込みか?	25 60
34号土坑	18K	横円形	106×65	68×30	43	全体に黒褐色土を主体とする層 が堆積。			25 61
35号土坑	20K	不整な 横円形	(141×49)	(100×34)	16	全体に黒褐色土を主体とする層 が堆積。			16 63
36号土坑	8H	円形	148×142	55×59	127	全体に黒褐色土を主体とする層 が堆積。			25 63
37号土坑	24L	不整な 横円形	176×116	100×19	40	全体に黒褐色土を主体とする層 が堆積。			26 61
38号土坑	22K	横円形	291×256	205×181	44	全体に黒褐色土を主体とする層 が堆積。			26 61
39号土坑	24L	横円形	131×91	69×59	39	上位は暗褐色土、下位は黒褐色 土の層が堆積。			26 61
40号土坑	23L	横円形	168×150	143×117	118	暗・黒褐色土と黄褐色・褐色土の層 が互に堆積。			26 62
41号土坑	22N	横円形	156×109	102×66	13	上位は黒褐色土、下位は暗褐色 土の層が堆積。		埋土から近世遺構と思われる。	26 62

1号土坑



2号土坑

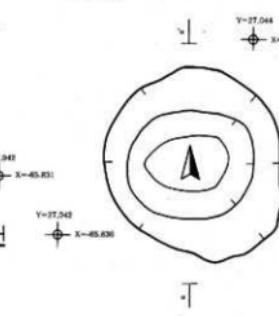


- 2号土坑
a-a'
1. 10YR2/2 黒褐色粘土質土
2. 10YR2/3 深褐色粘土質土
3. 10YR3/4 暗褐色粘土質土
3層から上層にいくに従って、様々に色調が明るくなっていく

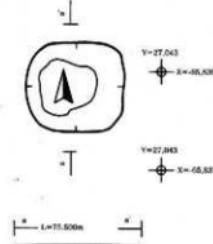
3号土坑

1. 10YR2/2 黑褐色粘土質土。下部はど色調が暗い。
2. 10YR2/3 黑褐色粘土質土。1層に灰分が中程度。
3. 10YR2/3 黑褐色粘土質土。10cmで黒褐色の土質を認めた。
4. 10YR2/3 黑褐色粘土質土。10cmで黒褐色の土質を認めた。
5. 10YR2/3 黑褐色粘土質土。10cmで黒褐色の土質を認めた。
6. 10YR2/3 黑褐色粘土質土。10cmで黒褐色の土質を認めた。
7. 10YR2/3 黑褐色粘土質土。10cmで黒褐色の土質を認めた。
8. 10YR2/3 黑褐色粘土質土。10cmで黒褐色の土質を認めた。
9. 10YR2/3 黑褐色粘土質土。10cmで黒褐色の土質を認めた。
10. 10YR2/3 黑褐色粘土質土。10cmで黒褐色の土質を認めた。
11. 10YR2/3 黑褐色粘土質土。10cmで黒褐色の土質を認めた。
12. 10YR2/3 黑褐色粘土質土。10cmで黒褐色の土質を認めた。
13. 10YR2/3 黑褐色粘土質土。10cmで黒褐色の土質を認めた。
14. 10YR2/3 黑褐色粘土質土。10cmで黒褐色の土質を認めた。
15. 10YR2/3 黑褐色粘土質土。10cmで黒褐色の土質を認めた。
16. 10YR2/3 黑褐色粘土質土。10cmで黒褐色の土質を認めた。
17. 10YR2/3 黑褐色粘土質土。10cmで黒褐色の土質を認めた。
18. 10YR2/3 黑褐色粘土質土。10cmで黒褐色の土質を認めた。
19. 10YR2/3 黑褐色粘土質土。10cmで黒褐色の土質を認めた。
20. 10YR2/3 黑褐色粘土質土。10cmで黒褐色の土質を認めた。
21. 10YR2/3 黑褐色粘土質土。10cmで黒褐色の土質を認めた。
22. 10YR2/3 黑褐色粘土質土。10cmで黒褐色の土質を認めた。
23. 10YR2/3 黑褐色粘土質土。10cmで黒褐色の土質を認めた。
24. 10YR2/3 黑褐色粘土質土。10cmで黒褐色の土質を認めた。
25. 10YR2/3 黑褐色粘土質土。10cmで黒褐色の土質を認めた。
26. 10YR2/3 黑褐色粘土質土。10cmで黒褐色の土質を認めた。
27. 10YR2/3 黑褐色粘土質土。

4号土坑

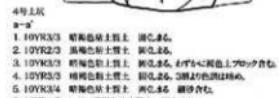


5号土坑



3号土坑

- 3号土坑
a-a'
1. 10YR2/2-3 黑褐色粘土質土。下部はど色調が暗い。
2. 10YR2/3 黑褐色粘土質土。1層に灰分が中程度。
3. 10YR3/4 暗褐色粘土質土
全体的に何回もまっているが、木根などによる汚れの部分も多い

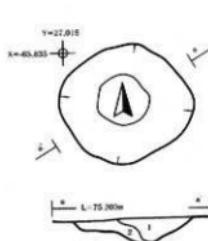


5号土坑

- 5号土坑
a-a'
1. 10YR2/3 黑褐色粘土質土 固化する 黄色ブロック化も 有る場合。
2. 10YR3/4 暗褐色粘土質土 固化する。
- 0 1:50 2m

第19図 1~5号土坑

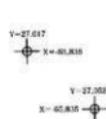
6号土坑



6号土坑

- a-a'
1. IOYR2/2-3 黑褐色粘土質土、深くしまる。
 2. IOYR2/3 黑褐色粘土質土、深くしまる。1層より下がるの色斑。

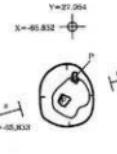
7号土坑



7号土坑

- a-a'
1. IOYR3/1 黑褐色土、堅性やや硬め、L約60cm、褐黒褐色土層1.0m厚(YSR2/2含む)、半明色粘土層(YSR2/2)、底部地盤1.0-2.0m厚(YSR2/2)。
 2. IOYR3/1 黑褐色土、堅性土。

8号土坑

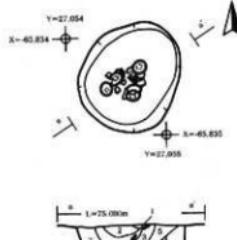


8号土坑

- a-a'
1. IOYR3/1 褐黒褐色土70%+IOYR2/4褐黒褐色土30%の混合土、堅性なし、L約50cm、半明色粘土層(YSR2/2)、底部地盤1.0-2.0m厚(YSR2/2)。
 2. IOYR2/3 黑褐色土、堅性土、L約60cm、褐黒褐色土層1.0m厚(YSR2/4含む)。

10号土坑

9号土坑



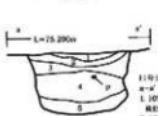
9号土坑

- a-a'
1. IOYR5/4 深い褐褐色土、堅性やや硬め、L約60cm、堅性地盤。
 2. IOYR5/2 黑褐色土、堅性土、L約60cm、堅性土層1.0m厚(YSR2/2含む)、底部地盤0.2m厚(YSR2/2含む)。
 3. IOYR5/4 坚硬土、堅性中等、L約50cm、深い褐褐色土層(YSR4) 0.5-1.0m厚。
 4. IOYR5/2 黑褐色土、堅性中等、L約50cm、堅性土層(YSR4) 0.5-1.0m厚。
 5. IOYR5/4 黑褐色土、堅性中等、L約50cm、堅性地盤。
 6. IOYR5/2 黑褐色土、堅性中等、L約50cm、堅性地盤。
 7. IOYR5/5 黑褐色軟土質土、堅性土、L約50cm、堅性地盤。
 8. IOYR5/5 黑褐色軟土質土、堅性土、L約50cm、堅性地盤。
 9. IOYR5/5 黑褐色軟土質土、堅性土、L約50cm、堅性地盤。

10号土坑



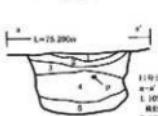
10号土坑



10号土坑

- a-a'
1. IOYR2/1 黑褐色土、堅性中等、L約60cm、堅性地盤1.0m厚(YSR2/2含む)。
 2. IOYR1/2 黑褐色土、堅性中等、L約60cm、堅性地盤1.0m厚(YSR2/2含む)。
 3. IOYR2/2 黑褐色土、堅性中等、L約60cm、堅性地盤1.0m厚(YSR2/2含む)。
 4. IOYR2/2 黑褐色土、堅性中等、L約60cm、堅性地盤1.0m厚(YSR2/2含む)。
 5. IOYR2/1 黑褐色土、堅性中等、L約60cm、堅性地盤1.0m厚(YSR2/2含む)。

11号土坑

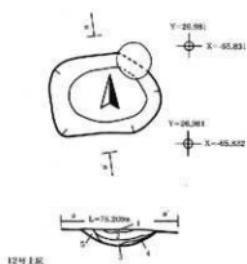


11号土坑

0 1:50 2m

第20図 6~11号土坑

12号土坑



12号土坑

1. SYR4/6 細泥色灰土 粘性あり 黄色物30%含む。
2. 10YR2/3 黑褐色土 粘性あり L=0.5m厚 布赤褐色土層(10YR5/6)1%、
緑色土 (10YR2/2) 1%含む。
3. 10YR3/2 黑褐色土 粘性あり L=0.5m厚 布綠褐色土層(10YR4/4)30%含む。
4. 10YR2/2 黑褐色土 粘性あり L=0.5m 黃色土ブロック(10YR4/4)径10~30mm30%含む。
5. 10YR3/3 黑褐色土 粘性あり L=0.5m 黃色土ブロック(10YR4/4)径5~20mm20%含む。

12号土坑

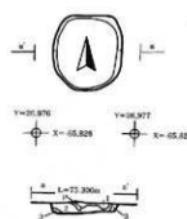
a-a'

1. 10YR2/3 黑褐色土 粘性あり L=0.5m厚 布黃褐色土層(10YR5/6)5%。

2. 10YR2/2 黑褐色土 粘性あり L=0.5m厚 黃色土層(10YR4/4)2%。

3. 10YR4/4 黄色土 粘性あり L=0.5m

13号土坑



13号土坑

a-a'

1. 10YR2/3 黑褐色土 粘性あり L=0.5m厚 布黃褐色土層(10YR5/6)1%。

2. 10YR2/2 黑褐色土 粘性あり L=0.5m厚 黃色土層(10YR4/4)1%。

3. 10YR4/4 黄色土 粘性あり L=0.5m

14号土坑



14号土坑

a-a'

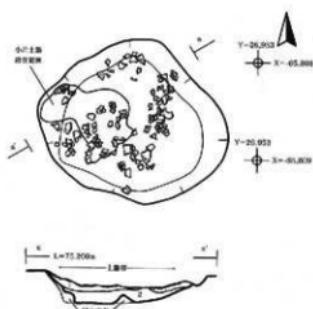
1. 10YR2/3 黑褐色土 粘性あり L=0.5m厚 布黃褐色土層(10YR5/6)1%。

2. 10YR2/2 黑褐色土 粘性あり L=0.5m厚 黃色土層(10YR4/4)1%。

3. 10YR4/4 黄色土 粘性あり L=0.5m

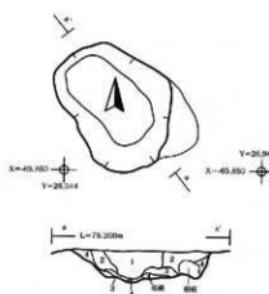
16号土坑

15号土坑



15号土坑

1. 10YR2/2 黑褐色土 粘性あり しまりあり 灰褐色土 (10YR3/4) 3%、上部片多く含む。
2. 10YR2/1 黑褐色土 粘性あり しまりあり にいし黄褐色土 (10YR5/4) 20%含む。



16号土坑

a-a'

1. 10YR2/1 黑褐色土層 厚くしまる。

2. 10YR2/ 黑褐色土 緑色に褐褐色土ブロック (径50cm)、褐色土塊含む。

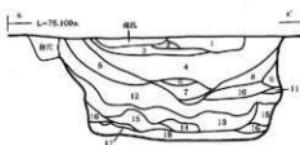
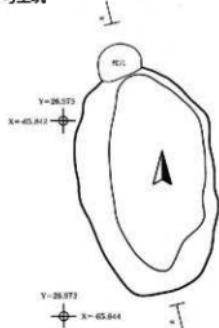
3. 10YR2/2 黑褐色土 层状土塊多量含む。

4. 10YR2/ 黑褐色土 厚くしまる。

第21図 12~16号土坑



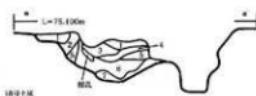
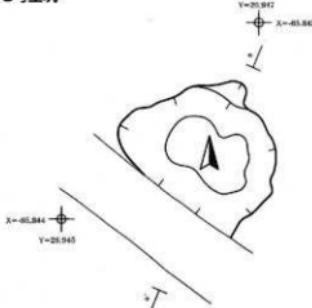
17号土坑



17号土坑

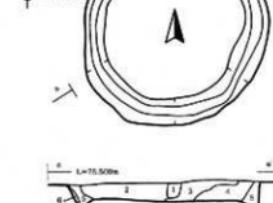
1. 10YR2/2 黑褐色土質土 帶有黑色斑點。
2. 10YR3/3 黑褐色帶有黑色斑點。
3. 7.7YR2/2 黑褐色帶有黑色斑點土 帶有輕微鹽分。
4. 10YR2/2 黑褐色土質土 帶有輕微鹽分。
5. 10YR2/2 黑褐色土質土 帶有輕微鹽分。
6. 10YR2/2 黑褐色土質土 帶有黑色斑點土 帶有黑色土塊或黑色土塊。
7. 10YR2/2 黑褐色土質土 帶有黑色土塊或黑色土塊。
8. 10YR2/2 黑褐色土質土。
9. 10YR2/2 黑褐色土質土 帶有黑色土塊或黑色土塊。

18号土坑



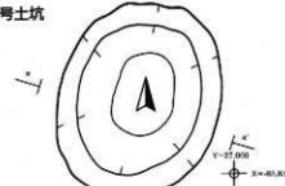
1. 10YR2/2 黑褐色土質土 帶有黑色斑點。
2. 10YR2/2 黑褐色土質土 帶有黑色斑點。
3. 7.7YR2/2 黑褐色土質土 帶有輕微鹽分。
4. 7.7YR4/4 黑褐色土質土 帶有輕微鹽分。
5. 10YR2/2 黑褐色土質土 帶有輕微鹽分。
6. 10YR2/2 黑褐色土質土 帶有黑色土塊或黑色土塊。
7. 10YR2/2 黑褐色土質土 帶有黑色土塊。

19号土坑



1. 10YR2/2-2/3 黑褐色粘土質土。
2. 10YR2/2 黑褐色粘土質土，黑色土塊少。
3. 10YR2/2-2/3 黑褐色粘土質土，下面有黑色土塊或黑色土塊。
4. 10YR2/2 黑褐色粘土質土，含沙量少。
5. 10YR2/2 黑褐色粘土質土，含沙量少。
6. 10YR2/2 黑褐色土質土 10YR4/4 黑褐色土的混合土。原土質土，表面被黑色土塊或黑色土塊。

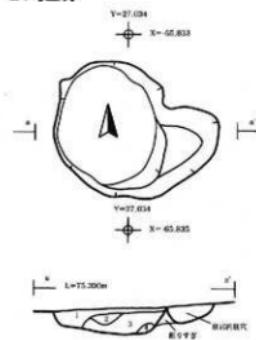
20号土坑



1. 10YR4/4 黑褐色土質土，含沙量少。
2. 10YR2/2 黑褐色土質土，含沙量少。
3. 10YR2/2 黑褐色土質土，含沙量少 L80%。
4. 10YR2/2 黑褐色土質土，含沙量少 L80%。
5. 10YR2/2 黑褐色土質土 10YR4/4 黑褐色土的混合土。原土質土，表面被黑色土塊或黑色土塊。

第22図 17~20号土坑

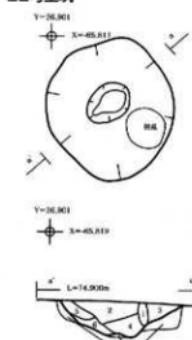
21号土坑



21号土坑

1. 10YR2/2 黑褐色粘土質土 カバ付 帯状の黒褐色土粒、炭化物。
1'付近に地化泥灰を含む。腐殖化度高い。
2. 10YR2/2 黑褐色粘土質土 カバ付 带状の黒褐色土粒、炭化物。
1'付近に地化泥灰を含む。腐殖化度高い。
3. 10YR2/2 黑褐色粘土質土 带状の黒褐色土粒、
1'付近に地化泥灰を含む。下部黒褐色土粒の混合部。
4. 10YR2/2 黑褐色粘土質土 カバ付 黑褐色土粒含む。

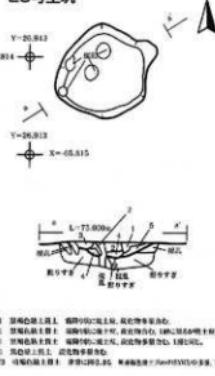
22号土坑



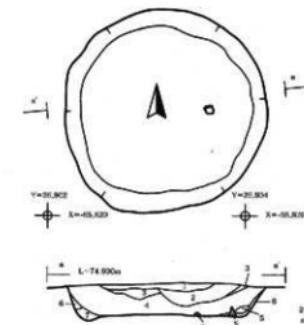
22号土坑

1. 10YR2/1 黑褐色土質土 黑色土粒含む。
2. 10YR4/4 黑褐色粘土質土 混合黑褐色土
1'付近に地化泥灰を含む。10YR2/3 黑褐色土粒含む。
3. 10YR2/1 黑褐色粘土質土 黑色土粒含む
1'付近に地化泥灰を含む。10YR2/2 黑褐色土粒含む。
4. 10YR2/1 黑褐色粘土質土 カバ付 黑褐色土粒含む。
5. 10YR2/1 黑褐色粘土質土 黑色土粒含む。
6. 10YR2/1 黑褐色粘土質土 カバ付 黑褐色土粒含む。

23号土坑



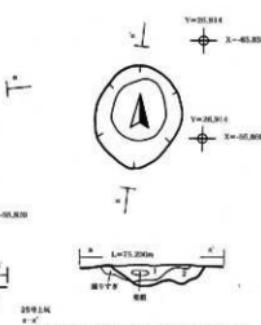
24号土坑



24号土坑

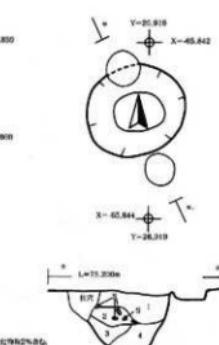
1. 10YR2/1 黑褐色粘土質土 カバ付 黑褐色土粒含む。1'付近。
2. 10YR2/1 黑褐色粘土質土 カバ付 黑褐色土粒含む。
1'付近に地化泥灰。
3. 10YR2/1 黑褐色粘土質土 カバ付 黑褐色土粒、1'付近に地化泥灰。
4. 10YR2/1 黑褐色粘土質土 カバ付 黑褐色土粒、1'付近に地化泥灰。
5. 10YR2/1 黑褐色粘土質土 カバ付 黑褐色土粒含む。
7. 10YR2/2 黑褐色粘土質土 カバ付 黑褐色土粒。

25号土坑



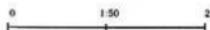
1. 10YR2/1 黑褐色土質土 カバ付 黑褐色土粒含む。1'付近に地化泥灰。
2. 10YR2/1 黑褐色土質土 カバ付 黑褐色土粒含む。1'付近に地化泥灰。

26号土坑



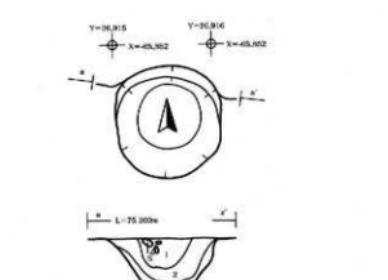
26号土坑

1. 10YR2/3 黑褐色土 腐性土中含む 1'付近 小量(約5cm)地化泥灰含む。
2. 10YR2/3 黑褐色土 腐性土中含む L=65.84 L=65.85含む。
3. 10YR4/6 黑褐色土 腐性土中含む L=65.84 L=65.85含む。
4. 10YR3/4 明褐色土 腐性土中含む L=65.84 L=65.85含む。



第23図 21~26号土坑

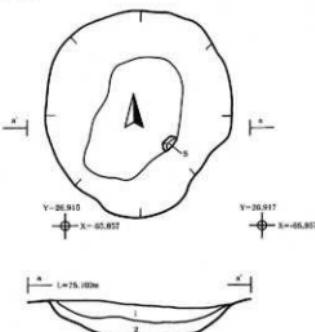
27号土坑



27号土坑

- a-a'
1. IOYR2/1 黒褐色土 勾性なし 固くしまる 中~小塊多結合
2. IOYR2/2 黑褐色土 勾性なし 固くしまる
3. IOYR2/2 黑褐色土50%とIOYR4/6褐色土50%の混合土 勾性なし しまりあり

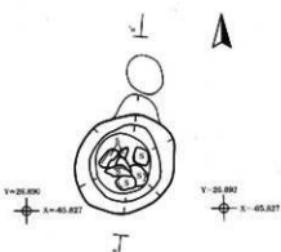
28号土坑



28号土坑

- a-a'
1. IOYR2/1 黑褐色土 勾性なし しまりあり 褐色土層 (IOYR4/4) 混合物5%含む
2. IOYR2/2 黑褐色土 勾性中あり しまりあり 褐色土層 (IOYR4/4) 2%含む

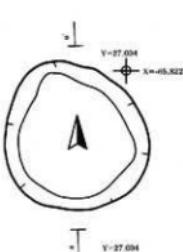
29号土坑



29号土坑

- a-a'
 1. IOYR2/1 黑褐色土 勾性あり L=89.9±0.9 褐色土層 (IOYR5/5) 1%含む
 2. IOYR2/2 黑褐色土 勾性あり L=89.9±0.9 に加え褐色土 (IOYR4/3) 3%含む
- 3 IOYR2/2 黑褐色土 勾性あり L=89.9±0.9 黑褐色土層 (IOYR5/5) 25%含む
- 4 IOYR2/2 黑褐色土 勾性あり L=89.9±0.9 黑褐色土層 (IOYR5/5) 50%含む
- 5 IOYR2/2 黑褐色土 勾性あり L=89.9±0.9 黑褐色土層 (IOYR5/5) 50%含む
- 6 IOYR2/2 黑褐色土 勾性あり L=89.9±0.9 黑褐色土層 (IOYR5/5) 50%含む
- 7 IOYR2/2 黑褐色土 勾性あり L=89.9±0.9 黑褐色土層 (IOYR5/5) 50%含む
- 8 IOYR2/2 黑褐色土 勾性あり L=89.9±0.9 黑褐色土層 (IOYR5/5) 50%含む
- 9 IOYR2/2 黑褐色土 勾性あり L=89.9±0.9 黑褐色土層 (IOYR5/5) 50%含む
- 10 IOYR2/2 黑褐色土 勾性あり L=89.9±0.9 黑褐色土層 (IOYR5/5) 50%含む

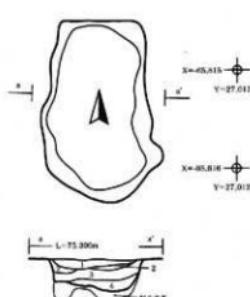
30号土坑



30号土坑

- a-a'
 1. IOYR2/1 黑褐色土 勾性あり L=89.9±0.9 褐色土層 (IOYR5/5) 1%含む
 2. IOYR2/2 黑褐色土 勾性あり L=89.9±0.9 に加え褐色土 (IOYR4/3) 3%含む
- 3 IOYR2/2 黑褐色土 勾性あり L=89.9±0.9 黑褐色土層 (IOYR5/5) 25%含む
- 4 IOYR2/2 黑褐色土 勾性あり L=89.9±0.9 黑褐色土層 (IOYR5/5) 50%含む
- 5 IOYR2/2 黑褐色土 勾性あり L=89.9±0.9 黑褐色土層 (IOYR5/5) 50%含む

31号土坑



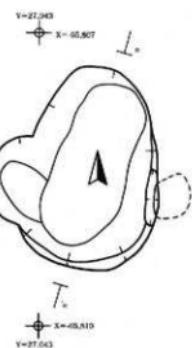
31号土坑

- a-a'
1. IOYR2/1 黑褐色土 勾性あり L=89.9±0.9 黑褐色土層 (IOYR5/5) 1%含む
2. IOYR2/2 黑褐色土上層 勾性あり L=89.9±0.9 に加え褐色土 (IOYR4/3) 5%含む
3. IOYR2/2 黑褐色土 勾性あり L=89.9±0.9 黑褐色土層 (IOYR5/5) 25%含む
4. IOYR2/2 黑褐色土 勾性あり L=89.9±0.9 黑褐色土層 (IOYR5/5) 50%含む

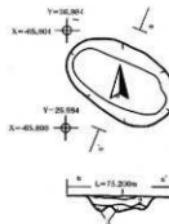


第24図 27~31号土坑

32号土坑



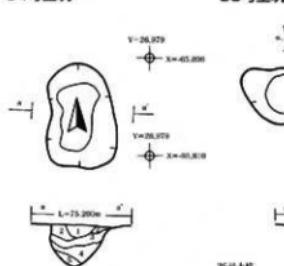
33号土坑



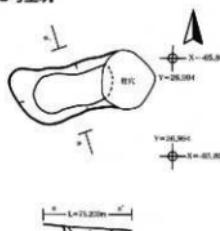
33号土坑

1. 10YR2/1 黑褐色土 稀少みどり L50cm 氯化物2%、硫酸性土(10YR2/4)2%含む。
2. 10YR2/2 黑褐色土 稀少みどり L50cm 酸化物1%、稀少みどり(10YR4/8)2%含む。
3. 10YR2/2 黑褐色土 稀少みどり L50cm 風化上部(10YR6/4)10%含む。

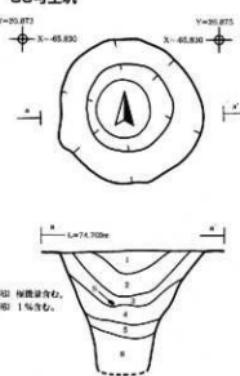
34号土坑



35号土坑



36号土坑



34号土坑

1. 10YR2/1 黑色土 稀少なし しまりあり
2. 10YR2/1 黑色土 稀少あり しまりあり
3. 10YR2/1 黑色土 稀少あり しまりあり 稀少色灰土 (5YR4/8) 5%含む
4. 10YR2/1 黑色土 稀少あり しまりあり 氯化物1% (5Y7n) 硫酸性含む。
5. 10YR2/1 黑色土 稀少あり 薄くしまる 灰色土 (10YR6/4) 50%含む。

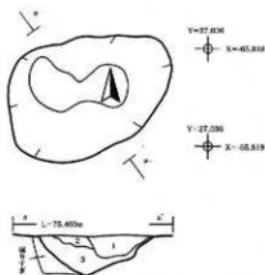
35号土坑

1. 10YR2/2 黑褐色土 稀少ややみどり しまりあり 黑褐色土(10YR5/6)30%含む
2. 10YR2/2 黑褐色土 稀少みどり L50cm 黑褐色土(10YR5/6)30%、黑褐色土(10YR5/1) 小量酸性含む。
3. 10YR2/2 黑褐色土 稀少みどり L50cm 黑褐色土(10YR5/6)30%含む。
4. 10YR2/2 黑褐色土 稀少みどり L50cm 黑褐色土(10YR5/6)30%含む。
5. 10YR2/2 黑褐色土(10YR5/6)30%含む。
6. 10YR2/2 黑褐色土 稀少みどり L50cm 黑褐色土(10YR5/6)30%含む。

0 1:50 2m

第25図 32~36号土坑

37号土坑

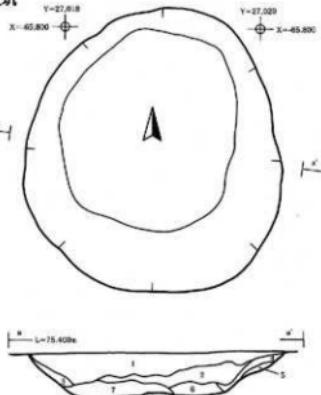


37号土坑

a-a'

1. 10YR2/1 黒色土 基性なし しまりあり 暗褐色土粒 (10YR3/4) 1% 含む。
2. 10YR1.7/1 黑色土 基性なし しまりあり
3. 10YR2/1 黑色土 基性あり しまりややあり 暗褐色土 (10YR3/4) 5% 含む。

38号土坑

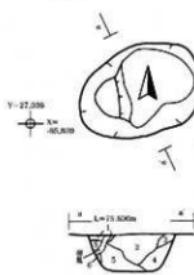


38号土坑

a-a'

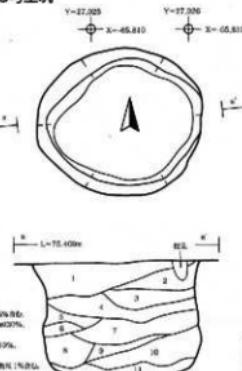
1. 10YR2/2 黑褐色土 基性あり L=90cm 黄褐色土粒 (10YR5/4) 1% 含む。
2. 10YR2/3 黑褐色土 基性あり L=10cm 黄褐色土粒 (10YR5/3) 2% 含む。
3. 10YR2/2 黑褐色土 基性あり L=90cm 黄褐色土粒 (10YR5/4) H=10~30mm 5% 含む。
4. 10YR3/2 暗褐色土 基性あり L=90cm 黄褐色土粒 (10YR5/4) 5% 含む。
5. 10YR2/3 暗褐色土 基性あり L=90cm 黄褐色土粒 (10YR5/4) 多量、炭化物 1% 含む。
6. 10YR2/3 黑褐色土 基性あり L=90cm 黄褐色土粒 (10YR5/4) 5% 含む。
7. 10YR2/3 黑褐色土 基性あり L=90cm 黄褐色土粒 (10YR5/4) 5% 含む。

39号土坑



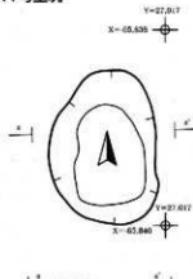
- 39号土坑
a-a'
1. 10YR2/3 黑褐色土 基性あり L=90cm 黄褐色土粒 (10YR5/4) 1% 含む。
 2. 10YR2/3 黑褐色土 基性あり L=90cm 黄褐色土粒 (10YR5/4) H=10~30mm 5% 含む。
 3. 10YR2/3 黑褐色土 基性あり L=90cm 黄褐色土粒 (10YR5/4) 10% 含む。
 4. 10YR2/3 黑褐色土 基性あり L=90cm 黄褐色土粒 (10YR5/4) 1% 含む。
 5. 10YR2/3 黑褐色土 基性あり L=90cm 黄褐色土粒 (10YR5/4) 10% 含む。
 6. 10YR2/3 黑褐色土 基性あり L=90cm 黄褐色土粒 (10YR5/4) 10% 含む。

40号土坑



- 40号土坑
a-a'
1. 10YR2/3 黑褐色土 基性あり L=90cm 黄褐色土粒 (10YR5/4) 1% 含む。
 2. 10YR2/3 黑褐色土 基性あり L=90cm 黄褐色土粒 (10YR5/4) 1% 含む。
 3. 10YR2/3 黑褐色土 基性あり L=90cm 黄褐色土粒 (10YR5/4) 1% 含む。
 4. 10YR2/3 黑褐色土 基性あり L=90cm 黄褐色土粒 (10YR5/4) 1% 含む。
 5. 10YR2/3 黑褐色土 基性あり L=90cm 黄褐色土粒 (10YR5/4) 1% 含む。
 6. 10YR2/3 黑褐色土 基性あり L=90cm 黄褐色土粒 (10YR5/4) 1% 含む。
 7. 10YR2/3 黑褐色土 基性あり L=90cm 黄褐色土粒 (10YR5/4) 1% 含む。
 8. 10YR2/3 黑褐色土 基性あり L=90cm 黄褐色土粒 (10YR5/4) 1% 含む。
 9. 10YR2/3 黑褐色土 基性あり L=90cm 黄褐色土粒 (10YR5/4) 1% 含む。
 10. 10YR2/3 黑褐色土 基性あり L=90cm 黄褐色土粒 (10YR5/4) 1% 含む。
 11. 10YR2/2 黑褐色土 基性あり L=90cm 黄褐色土粒 (10YR5/4) 1% 含む。

41号土坑



41号土坑

a-a'

1. 10YR2/3 黑褐色土 基性あり L=90cm 黄褐色土粒 (10YR5/4) 1% 含む。
 2. 10YR2/3 暗褐色土 基性あり L=90cm 黄褐色土粒 (10YR5/4) 5% 含む。
- 0 1:50 2m

第26図 37~41号土坑

3. 壁穴住居跡（住居状含む）

今回の調査で検出された壁穴住居跡は全部で31棟である。このうち1～29号住居跡が古代（平安時代）、30・31号住居跡が中世に属するものである。遺構は調査区の西と東で異なった様相を呈し、東側に古代の住居跡が密集しているのに対し、西側に向かって遺構の密度は落ちる。住居の構造は、古代の住居跡でカマドをもたないものは3棟、遺構の一部が調査区外に延びてカマドの有無が確認できないものが3棟で、他はすべてカマドを1基ないし、2基有する。カマドの向きは北が5棟、東が14棟、南が3棟、住居の拡張に伴ってカマドが北から東に作り替え変えられたものが1棟である。

中世の住居跡はいずれも古代の住居跡が散在する調査区北西部で検出された。

1号住居跡

遺構（第27・28図、写真図版17）

〈位置・重複関係〉16N・17Nグリッドに跨って位置し、表土下第Ⅲ層で検出された。カマドの一部が攪乱のため消滅している。重複する遺構はない。

〈規模・平面形・方向〉規模は426×388cm、総床面積は約16.52m²、平面形は方形を呈し、主軸方向はE-9°-Nである。

〈埋土〉上位は暗褐色土、中～下位はの黒褐色土を基調とする層が堆積する。

〈壁〉壁は外傾して立ち上がり、壁の残存高は攪乱の影響受ける東壁以外は北壁21cm、西壁20cm、南壁16cmである。

〈床面〉床面は平坦であるが、緩い凸凹が全面ある。また後世の柱痕が多く残る。全面に掘り方を持ち、微量の褐色土粒、黄褐色土粒を含む黒褐色土で貼り床されている。厚さは9～26cmである。

〈土坑〉P1・P2の2基が検出された。P2は出土遺物から貯蔵穴と考えられる。

〈柱穴状土坑〉P3～P6の4基が検出された。いずれも浅く主柱穴かどうかは不明である。

〈カマド〉東壁のやや南寄りに設けられている。微量の赤褐色の焼土粒が46×32cmの範囲に広がり、焼土の厚さは最大で8cmである。煙道部は掘り込み式の構造で長さは106cm、煙出し部に向かい緩く傾斜して下る。煙出し部は約60cm、最深部は約20cmで断面形は緩い「U」字状を呈する。口径部よりさらに16cm東に延びる。煙道部は東方向に緩く下り、最深部は48cmである。袖部は地山である褐色、黄褐色シルト混じりの黒褐色土を貼って固めて構築されている。

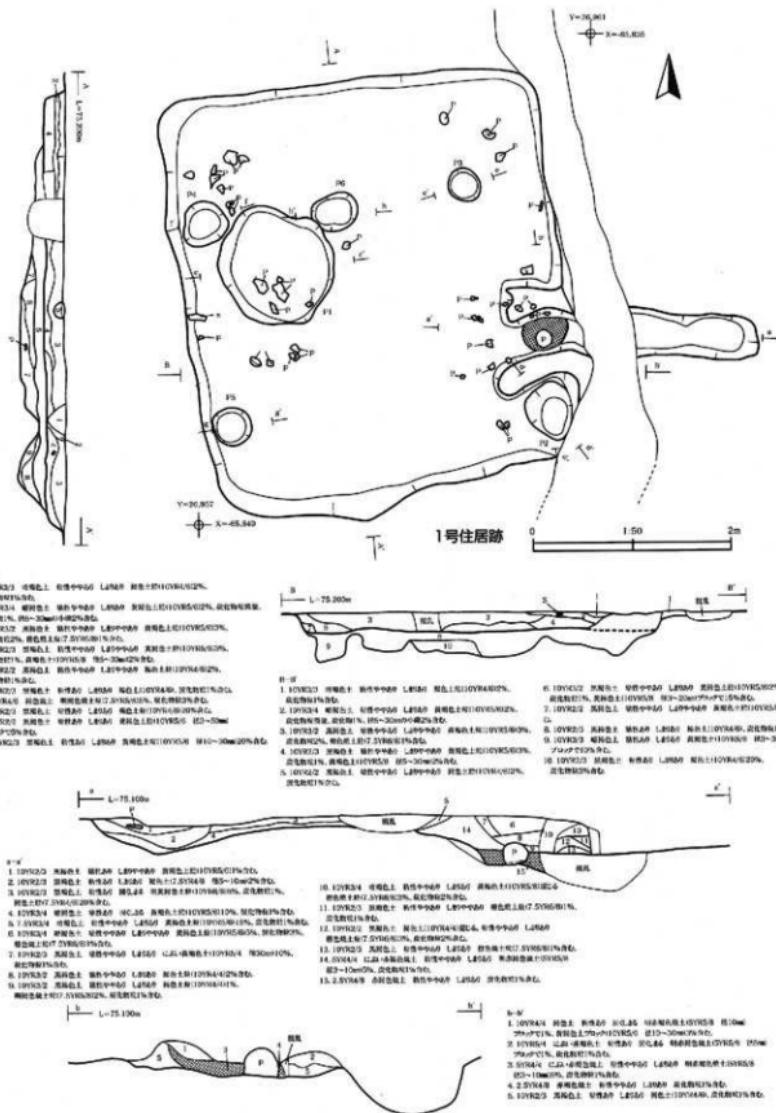
遺物（第98図、写真図版70・103）

1～6が出土した。1～3は酸化炎焼成の杯で成形はロクロ、1は内面に黒色処理が施されている。底部の切り離し技法は1・2は回転糸切りで2は糸切り後ヘラケズリ再調整が施されている。4は酸化炎焼成の甕でカマドの支脚と思われ、伏せた状態で出土した。成形はロクロ、内面に黒色処理が施されている。底部は切り離し後、再調整が制御下半～底面に施される。5は還元炎焼成の甕で住居の床面付近まとめて出土した。他に磨石が床面上から1点（6）出土している。

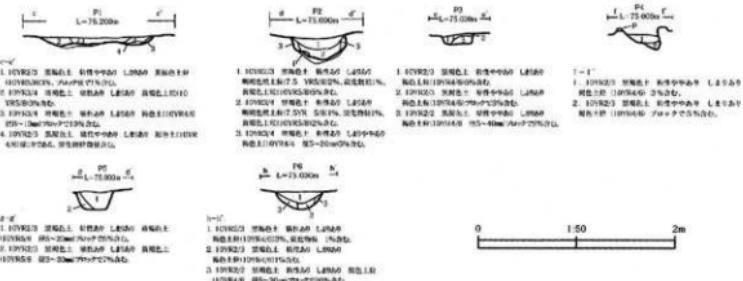
（溜）

土坑類計測表

土坑No	P1	P2	P3	P4	P5	P6
直径(cm)	130×118	60×48	36×31	46×44	40×40	48×38
深さ(cm)	8	21	10	14	18	18



第27圖 1号住居跡



第28図 1号住居跡

2号住居跡

遺構（第29図、写真図版18）

〈位置・重複関係〉 25Kグリッドに位置し、第Ⅱb層で検出された。東半は削平されて消滅しており、西半のみ残存する。また、第25号陥り穴状構造と重複し、これを切っている。

〈規模・平面形・方向〉 規模は南北467cm、残存部床面積は約14m²、平面形は方形状を呈すると推測される。主軸方向はS-13°-Wである。

〈埋土〉 上～中位は微量の明褐色土粒を含む黒色土、下位は微量の褐色上粒を含む黒褐色土の堆積である。

〈壁〉 壁は外傾して立ち上がり、消滅した東壁以外の残存高は北壁13cm、西壁13cm、南壁7cmである。南壁のプランは曖昧である。

〈床面〉 床面は平坦で固く、全面に掘り方を持ち、黒褐色土と黄褐色土の混合土上に貼り床されている。厚さは2～19cmである。

〈土坑〉 P 1～P 4の4基が検出された。P 3、P 4はカマドの燃焼部と一部重なる。

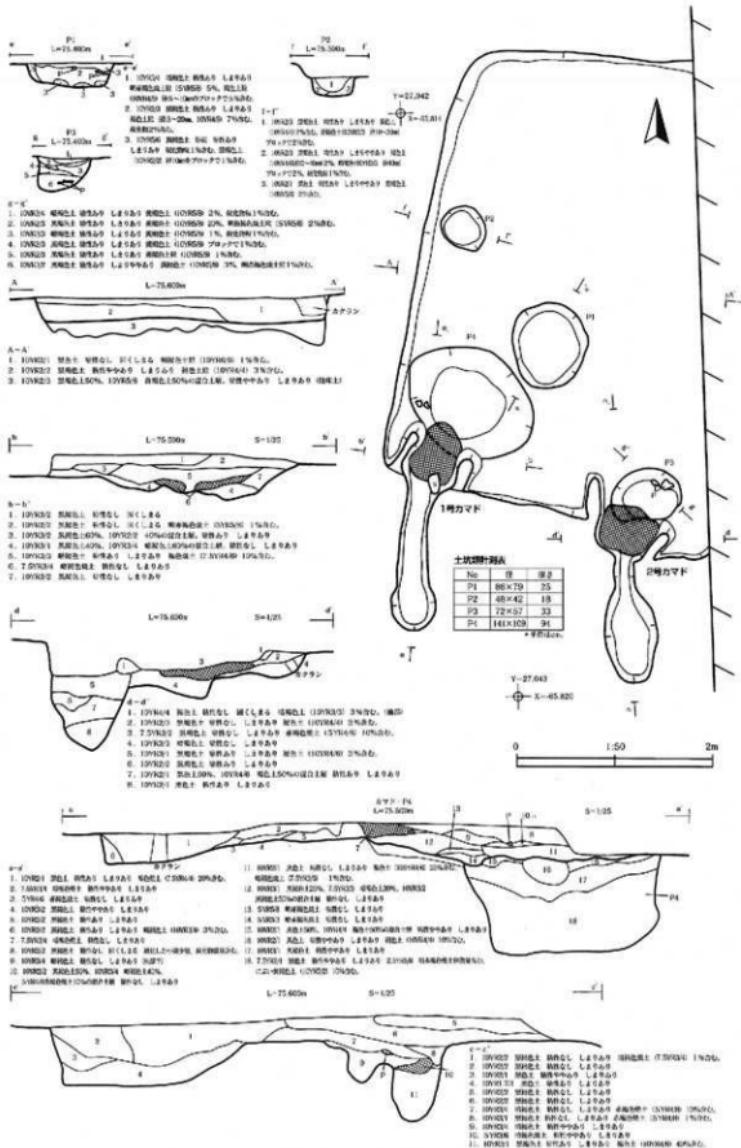
〈柱穴〉 9基はいずれも住居跡の検出面での確認で、これより新しい時期の遺構である。

〈カマド〉 南壁に2基設けられている。1号カマドは南壁の西端に設けられ、暗褐色の焼土層が62×40cmの範囲に広がり、焼土の厚さは8～10cmである。煙道～煙出し部の長さは155cmで、煙出し部に延びるに従い、緩く下り、最深部は30cmある。袖部は黒褐色土を基調とするシルトを貼って固めたものを芯材としていると観察されたが、遺構の残存状況が不良のため詳細に閲覧することは不明な点も多い。

2号カマドも1号カマドと類似した構造で赤褐色の焼土層が56×46cmの範囲に広がり、焼土の厚さは6～11cmである。煙道～煙出し部の長さは126cmで、煙出し部に延びるに従い、緩く下り、最深部は51cmある。袖部は暗褐色土混じりの褐色土を基調とするシルトを貼って固めたものを芯材としている。

遺物（第99図、写真図版71）

7～12が出土した。7・8は酸化炎焼成の环で7は住居覆土、8は1号カマド付近からの出土である。成形はロクロ、底部の切り離しは回転糸切り、9は還元炎焼成の环で底部の切り離しは回転へら切り無調整である。10・11は酸化炎焼成の甕でP 5、11はP 3の埋土から出土した。いずれも成形はロクロで、10の底部の切り離し技法は回転糸切りである。12は釣針状の鉄製品で埋土中からの出土である。（潤）



第29図 2号住居跡

3号住居跡

遺構 ((第30図・写真図版19)

〈位置・重複関係〉20M、21Mグリッドに跨って位置し、表上下第Ⅲ層で検出された。遺構西側に幅30~38cmの溝が南北に延び、これに切られる。

〈規模・平面形・方向〉規模は467×413cm、総床面積は約19.28m²、平面形は方形を呈し、主軸方向はE-11°-Nである。

〈堆土〉全体が黒色土を基調とする土層の堆積で、全体に褐色土粒が混入している。

〈壁〉壁は外傾して立ち上がり、壁面残存高は北壁22cm、西壁16cm、南壁24cm、東壁16cmである。

〈床面〉床面は平坦で、水が頻繁に通る粘土質土のため固く結まっており、全面の一部分に浅い掘り方を持ち、黒褐色土混じりの黒色土で貼り床されている。厚さは4~10cmである。

〈土坑〉P 1~P 6の6基が検出された。P 6は南壁を切って掘られP 5と重複する。

〈柱穴〉6基が検出された。P 7、P 8、P 12は浅く、深さはそれぞれ4cm、13cm、15cmである。

〈カマド〉東壁のやや南寄りに設けられている。赤褐色の焼上層が63×59cmの範囲に広がり、焼上の厚さは4~13cmである。煙道部の長さは175cmで、煙出し部の口径部よりさらに16cm東に延びる。煙道部は東方向に緩く下り、最深部は48cmである。袖部は地山である褐色シルトに黒褐色土が混ざった土を貼って固めたものを芯材としている。

遺物 (第99・100図、写真図版71・72)

13~25が出土した。13~18は酸化炎焼成の灰で13~15・18は住居埋土、16はP 6、17はP 5から出土した。いずれも成形はロクロで13~17の内面は黒色処理が施され、底部の切り離し技法は14は切り離し後のケズリ再調整により不明、他は回転糸切りによる。17の器面には墨書きによる文字が書かれている。21は酸化炎焼成の灰で器高は低く、皿に近い形態を呈し、口唇の一部が湾曲する。18・19はカマド付近から出土した還元炎焼成の灰で、成形はロクロ、底部の切り離し技法は回転糸切りによる。22は還元炎焼成による皿で成形はロクロ、底部の切り離し技法は回転糸切りによる。23・24は住居覆土から出土した酸化炎焼成の甕で成形はロクロ、23の底部の切り離し技法は回転糸切りによる。25は埋土中より出土した刀子である。

(溜)

4号住居跡

遺構 ((第31図・写真図版20)

〈位置・重複関係〉21M、22Mグリッドに跨って位置し、表下下第Ⅲ層で検出された。重複する遺構はない。

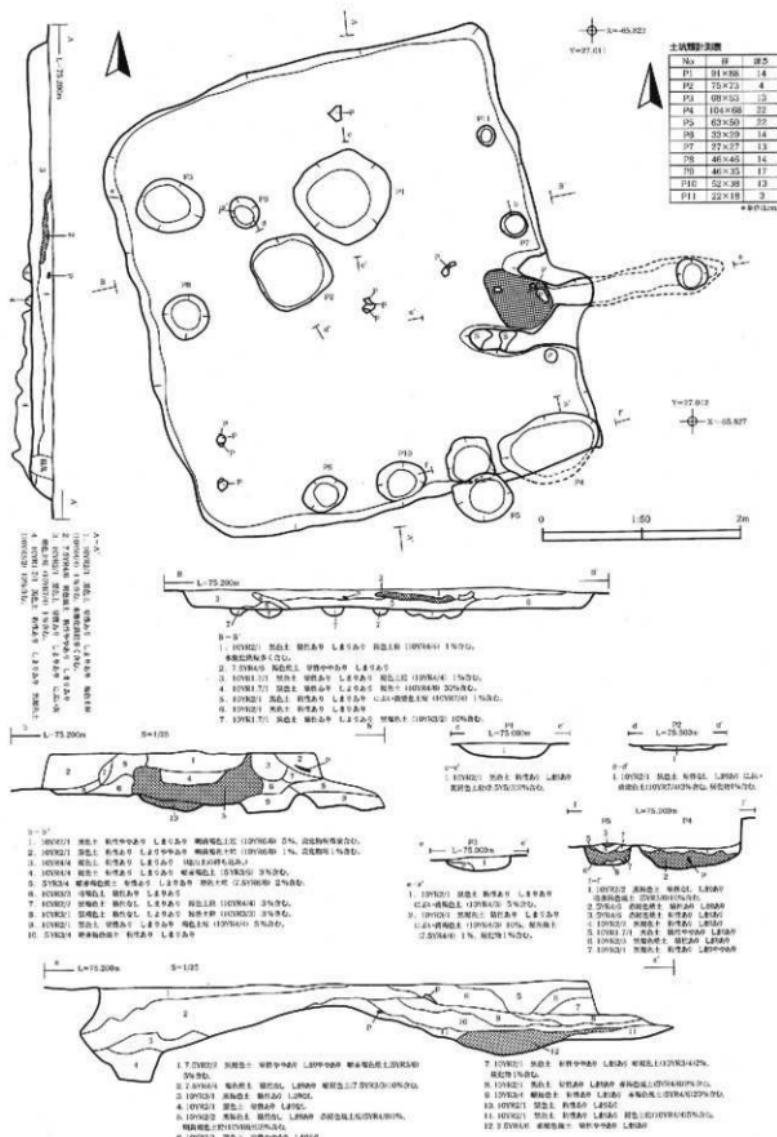
〈規模・平面形・方向〉規模は419×322cm、総床面積は約13.49m²、平面形は長方形で主軸は真東方向である。〈埋土〉自然堆積を呈し、上~中位は黒色、黒褐色上層、下位は黒色土を主とした堆積状況である。

〈壁〉壁は垂直に近い傾斜で立ち上がり、壁面残存高は北壁17cm、西壁16cm、南壁14cm、東壁28cmである。

〈床面〉床面は平坦で、やや固さがある。全面に掘り方を持ち、暗褐色土混じりの黒色土で貼り床され、厚さは2~26cmである。

〈柱穴〉柱穴状の小土坑が2基検出され、いずれも浅い。

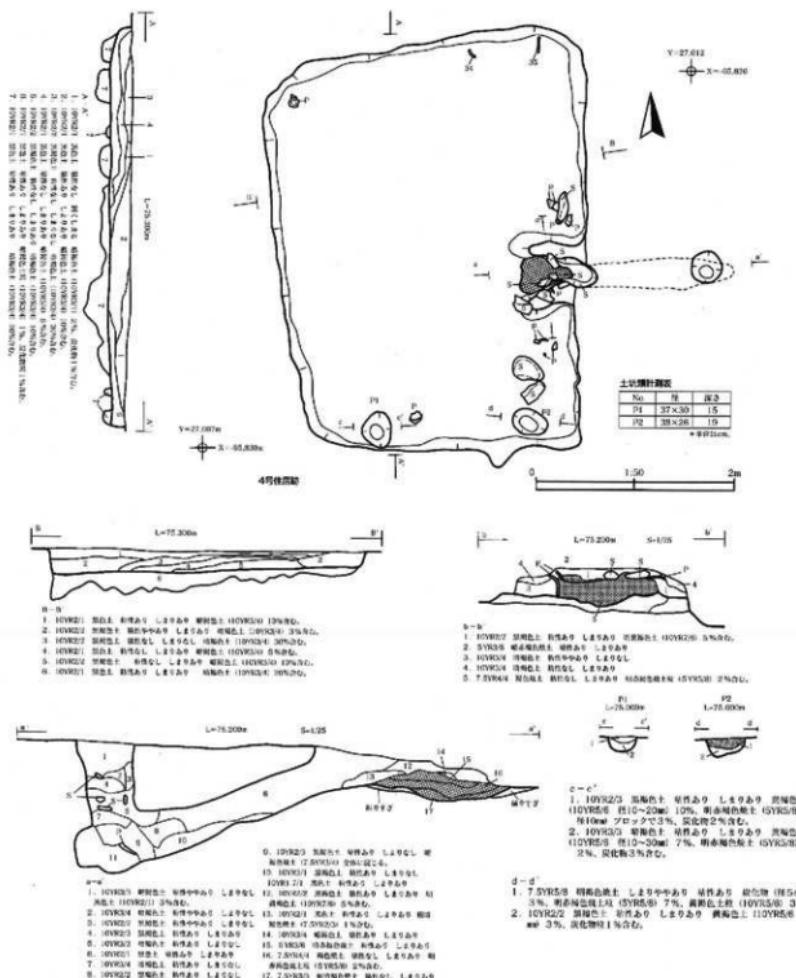
〈カマド〉東壁のやや南寄りに設けられている。褐色、暗赤褐色焼土層が52×36cmの範囲に広がり、焼土の厚さは8~14cmである。煙道部は割り置き式で長さは160cm、煙道部は東方向に21°の傾斜で下る。煙出し部の口徑部は32×30cm、深さは66cmのピットで底面には径10cmほどの礫が散在している。カマドの袖部は暗褐色土と径12~15cmの礫を混せて固めて芯材としている。東方向に緩く下り、最深部は48cmである。袖部は地山である褐色シルトに黒褐色土が混ざった土を貼って固めたものを芯材としている。



第30図 3号住居跡

遺物 (第100・101図・写真図版72・73)

26~36が出土した。26~29は酸化炎焼成の壺で成形はロクロ、26~27は内面に黒色処理が施されている。30~32は酸化炎焼成の非ロクロ成形の甕で30は貼り床土、31は住居埋土、32は床面から出土した。33は還元炎焼成の甕で煙道部から出土している。34~36は鉄製品で34は刀子莖、35は不明、36は鎌である。(瀬)



第31図 4号住居跡

5号住居跡

遺構（第32図、写真図版21・22）

〈位置・重複関係〉 20Nグリッド北半に位置し、表土下第Ⅲ層で検出された。重複する遺構はない。遺構の南1/3はH10年度、北2/3はH11年度調査区と別々に精査が行われたため調査に検出面やプランにやや不正確な箇所が生じた。

〈規模・平面形・方向〉 規模は346×331cm、総床面積は約11.05m²、平面形は台形で主軸はおよそE-12°-S方向である。

〈埋土〉 自然堆積を呈し、上～中位は黒色土、下位は黒褐色土で構成され、全体に浅黄褐色土粒（10YR8/4）を2～3%含む。

〈壁〉 壁はやや外傾して立ち上がり、壁面残存値は北壁40cm、西壁36cm、南壁手前で46cm、東壁37cmである。

〈床面〉 床面は平坦で、やや固さがある。部分的に掘り方を持ち、黄褐色土混じりの黒色土で貼り床され、厚さはおよそ10～25cmである。

〈柱穴〉 南壁に沿って2基が検出されたが性格は不明である。

〈土坑〉 1号カマドの右袖南側に1基検出された。P2に切られ、規模は幅73×55cm、深さ17cmである。

〈カマド〉 東壁に2基検出された。1号カマドは東壁の南端に設けられ袖は無く、焚き口は東に50cmほど入った位置にあり、赤褐色焼上ブロックが37×36cmの範囲に広がる。焼上の厚さは2～14cmである。煙道部は掘り込み式の構造で長さは71cm、幅は18～19cmで東方向に傾斜なく延び、ピット状の煙出し部へと続く。煙出し部の口径部は41×32cm、深さは43cmである。2号カマドは東壁のやや北寄りに設けられ、燃焼部は約60×40cm範囲にわたる。煙道部は削り貫き式の構造で長さ110cm、約17°の傾斜で煙出し部へと下る。煙出し部の口径部は36×30cm、深さは48cmである。袖は褐灰色土（地山上）に少量の土器片を混ぜて固め、芯材としている。

遺物（第102図・写真図版73）

37～44が出土した。37は酸化炭焼成、38～40還元炭焼成の坏で成形はロクロ、底部の切り離しは37は切り離し後の再調整により不明、38・39は回転窓切り無調整、40は回転窓切りの技法による。41～44は非ロクロ成形による酸化炭焼成の甕で41は1号カマドの崩落土、42は貼り床上、他は住居埋土から出土した。腹部の器面調整は41は内面ハケメ、外面ナデ、42・43は両面ハケメ、44は両面ナデがそれぞれ施されている。（酒）

6号住居跡

遺構（第33図・写真図版23）

〈位置・重複関係〉 21Mグリッド南半に位置し、表土下第Ⅲ層で検出された。重複する遺構はない。

〈規模・平面形・方向〉 規模は304×271cm、総床面積は約8.23m²、平面形は方形状で主軸はおよそE-20°-S方向である。

〈埋土〉 自然堆積を呈し、全体が黒褐色土を基調とした層の堆積で褐色土粒、暗褐色土粒などの含有量によって3層に分けられる。

〈壁〉 壁はやや外傾して立ち上がり、壁面残存値は北壁13cm、西壁16cm、南壁14cm、東壁15cmを計測し、削平の影響で残存値は低い。

〈床面〉 床面は平坦で、固さはあまりない。部分的に掘り方を持ち、暗褐色土が少量混じる黒色、黒褐色土で貼り床され、厚さはおよそ4～22cmである。

（柱穴）5基が検出された。規模はP4は径22×18cm、深さ11cm、P5は径20×20cm、深さ14cmと浅い。
（土坑）南壁に沿って3基検出された。規模はP1は径69×53cm、深さ25cm、P2は径62×58cm、深さ28cm、P3は径57×49cm、深さ10cmである。

（カマド）東壁の中央よりやや南側に設けられている。燃焼部には焼土粒が50×23cmの範囲に広がり、焼上の厚さは10~16cmである。煙道部は掘り込み式の構造で長さは144cm、東方向に11°の傾斜で延び、50cmを越えた位置で平坦になり、煙出し部で再び27°の傾斜で下る。煙出し部の口径は50×42cm、深さは60cmである。袖は幅10~15cm、長さ約50cmの縁を芯材として床面に立てて埋め込み、床面から出した部分の外側に暗褐色土を覆って構築している。

遺物（第102~103図、写真図版74）

45~50が出土した。45・46は酸化炎焼成の壺で45はP1、46は貼り床土中からの出上で成形はロクロ、底部の切り離しは回転糸切りで、45の内面には黒色処理が施されている。47は住居土中位から出土した還元炎焼成の壺で成形はロクロ、底部の切り離しは回転糸切りの技法である。48~50は酸化炎焼成の壺で成形はいずれもロクロによる。

(酒)

7号住居跡

遺構（第34図、写真図版24）

（位置・重複関係）24K・25Kグリッドに跨って位置し、表土下第Ⅲ層で検出された。23号陥し穴と重複し、これを切る。

（規模・平面形・方向）規模は405×384cm、総床面積は約15.55m²、平面形は方形で主軸はおよそN-9°~W方向である。

（埋土）自然堆積を呈し、全体が黒褐色土を基調とした層の堆積で、黒色土、暗褐色土が混じる。

（壁）壁は外傾して立ち上がり、壁面残存高は北壁は14cm、他は西壁31cm、南壁30cm、東壁34cmを計測する。

（床面）床面は平坦で、固さはあまりない。全面に掘り方を持ち、黒褐色土と、黄褐色土の混合上で貼り床され、厚さはおよそ8~30cmである。

（土坑）P1、P2の2基が検出された。いずれも浅く、横円状である。P1は貯蔵穴と考えられる。

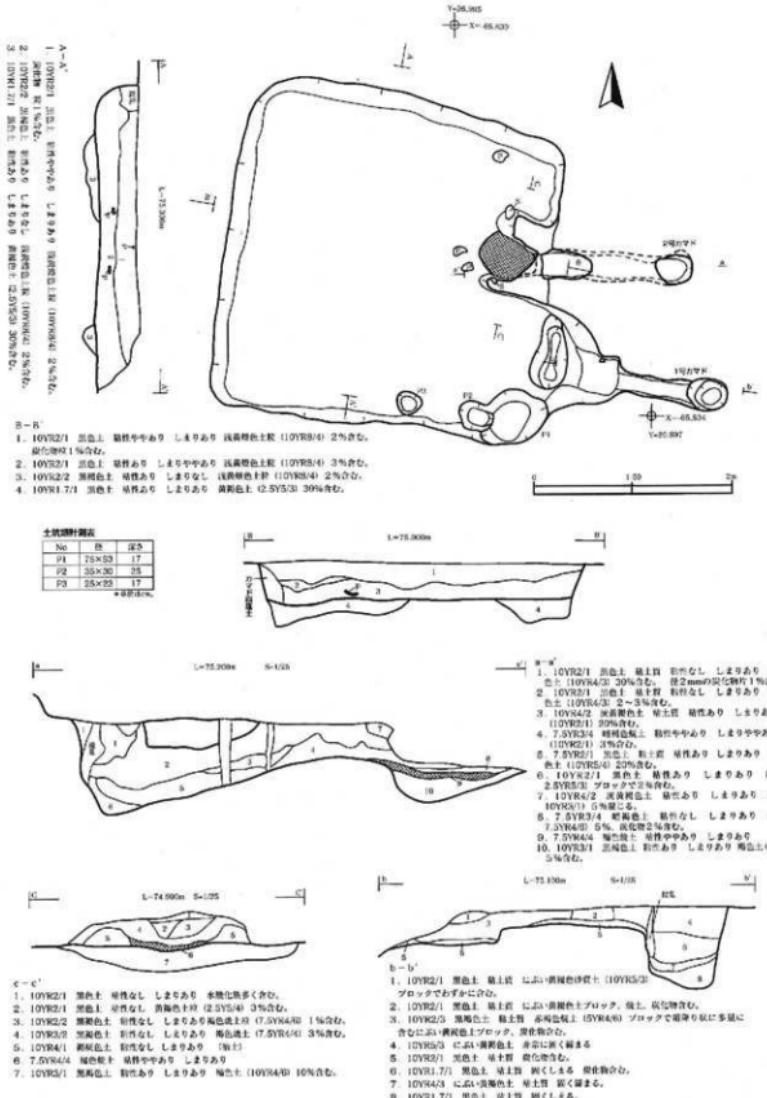
（柱穴）4基が検出された。いずれも位置的に主柱穴の可能性はない。

（カマド）北壁の中央部に設けられている。燃焼部には焼土粒が51×51cmの範囲に広がり、焼土の厚さは最大で13cmである。煙道部は引り抜き式の構造で長さは113cm、煙出し部はピット状を呈し、径32cm、深さは53cmである。袖は砂質の黄褐色土（地山）を持ち込んで固めたものある。

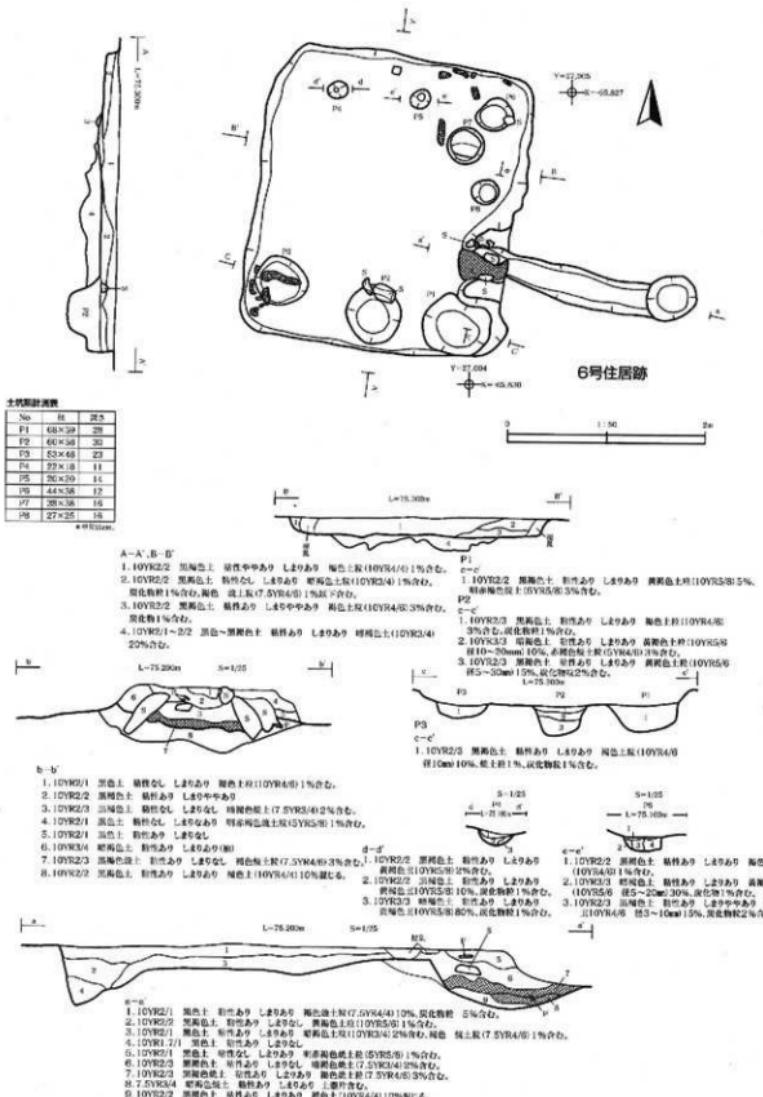
遺物（第103~105図、写真図版74・75）

51~74が出土した。51~63は酸化炎焼成の壺で52・62は床面直上、58はP1、57はカマド付近、他は住居土中位から出土した。成形はいずれもロクロで51~57の内面はミガキが施され、黒色処理されている。底部の切り離しは大半は回転糸切りであるが51・53・54・57は切り離し後の再調整のため不明である。また54・57は底面のみならず体部下半にもケズリ調査が施されている。64~68は還元炎焼成の壺でいずれも住居の覆土上～中位からの出土で成形はロクロ、底部の切り離しは回転糸切りの技法で、68は回転籠削りによる再調整が施されている。70・71は酸化炎焼成の壺で住居の覆土からの出土である。成形は70は非ロクロ、71はロクロで71は内面に黒色処理が施され、底面は切り離し後、籠ナデ再調整が施され、胴部下半にはケズリが施されている。72~74は還元炎焼成の壺で成形はロクロで蓋面調整は胴部下半にケズリが施されている。

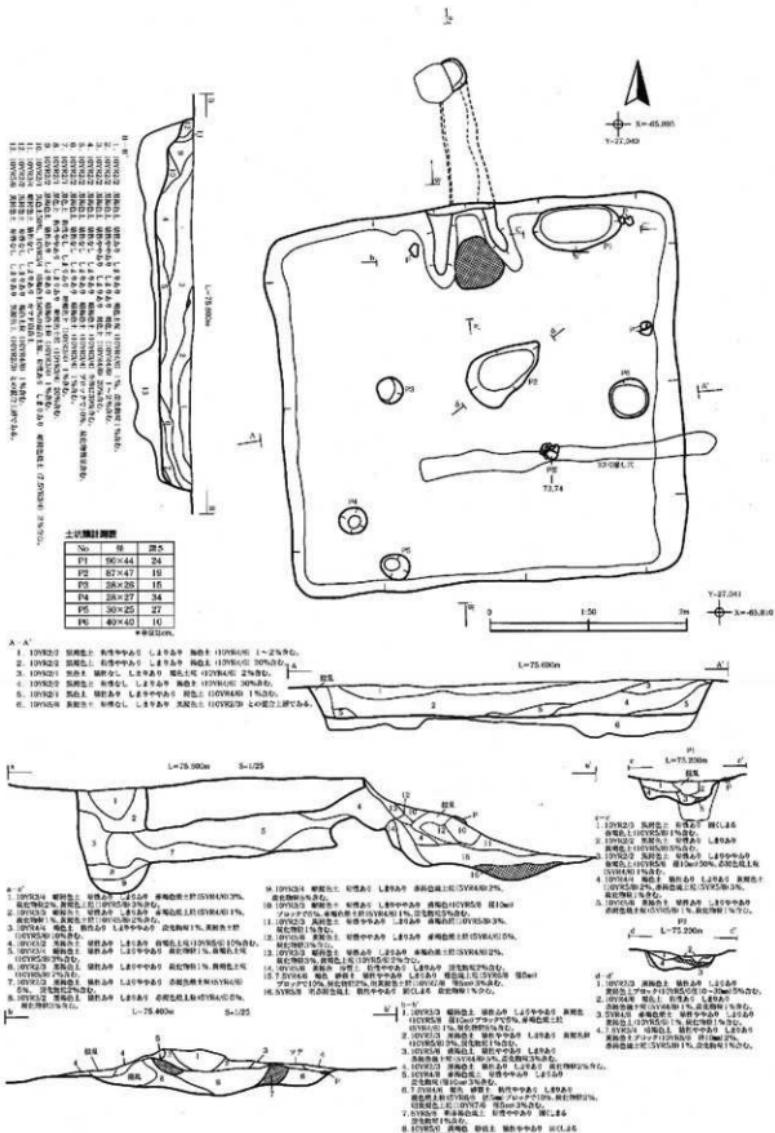
(酒)



第32図 5号住居跡



第33図 6号住居跡



第34図 7号住居跡

8号住居跡

遺構（第35・36図、写真岡版25）

〈位置・重複関係〉24K・24Lグリッドに跨って位置し、表上下第II b層で検出された。重複する遺構はないが遺構の北側と東側を幅約1m拡張した跡が覗えた。

〈規模・平面形・方向〉規模は掘削前が361×332cm、総床面積は約11.98m²、拡張後が463×430cm、総床面積は約19.90m²で平面形はいずれも正方形で主軸はS-3°-Wのほぼ真南方向である。

（埋土）自然堆積を呈し、上位は黒褐色土、中～下位は黒色土、黒褐色土を基調とした土層堆積である。

（壁）壁は南北壁が緩い立ち上がりに対し、東西壁はやや垂直ぎみに立ち上がる。壁面残存値は北壁14cm、西壁13cm、南壁10cm、東壁17cmと削平の影響で残存値は低い。

（床面）床面は平坦で、やや固さがあり、全体的に掘り方を持ち、黒色土と褐色土の混合上で貼り床され、厚さはおよそ4～28cmである。

（土坑）7基検出された。P1は径58×40cm、深さ34cm、P2は径59×50cm、深さ33cm、P3は径106×79cm、深さ34cm、P4は径97×92cm、深さ65cm、P5は径41×31cm、深さ29cm、P6は径50×50cm、深さ29cmである。P7は堀り方の痕の可能性がある。

（カマド）南壁の東端に設けられている。燃焼部には暗赤褐色焼土粒が82×46cmの範囲に広がる。焼土の厚さは最大で13cmである。燃焼部は掘り込み式の構造で長さは108cm、南方向に傾斜なく延び、煙出し部は径51×48cm、深さ60cmである。袖は暗褐色土を持ち込んで固めたもので、燃焼部側にはぶい赤褐色焼土混じりである。

遺物（第105～108図、写真岡版76～78）

75～171が出土した。75・76は理上からの出土で75は酸化炎焼成の灰、76は高台環の台部で成形はいずれもロクロ、75の内面には黒色処理が施され、底部の切り離しは回転糸切りの技法による。床面からは94点の土器が一括出土し、P5からは長い柄状の形態で全面にミガキが施された土製品が出土している（171）。

（酒）

9号住居跡

遺構（第37図、写真岡版26）

〈位置・重複関係〉23Kグリッドに位置し、表土下第III層で検出された。重複する遺構はないが遺構の表面はかなり削平されている。

〈規模・平面形・方向〉規模は300×301cm、総床面積は約9.03m²で平面形は正方形を呈し、主軸はE-5°-Sのほぼ真東方向である。

（埋土）全体的に黒褐色土が主体であるが、部分的に黒色土と暗褐色土が混じる。

（壁）壁は外傾して立ち上がり、壁面残存値は北壁10cm、西壁7cm、南壁8cm、東壁10cmと削平の影響で残存値は低い。

（床面）床面は平坦で、やや固さがあるものの、明確なしまりはない。全体的に掘り方を持ち、黒色土と褐色土の混合土で貼り床され、厚さはおよそ4～12cmである。

（土坑）5基検出された。P1は貯蔵穴で径72×60cm、深さ16cmを計る。他の土坑の性格については不明である。

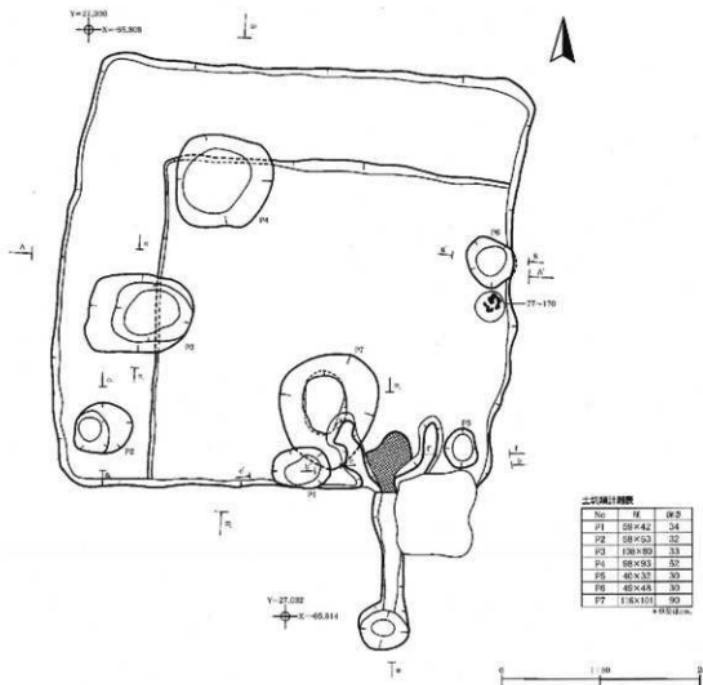
（カマド）東壁の南よりに設けられている。カマドの軸方向は住居とはやや異なりE-17°-Sで燃焼部には明確な燃焼痕はなく、僅かに褐色焼土粒が周辺に散在するのみである。袖は黒褐色土混じりの黒色土を持

ち込んで貼って固めたもので左側の袖は残存しない。煙道部は掘り込み式の構造で、壁面から70cm位置までは削平によって、消滅している。残存する煙道部は長さ75cmで地表から17°の傾斜で煙出し部に下り、煙出し部の深さは35cm、最深部は径19×18cmのピット状を呈する。

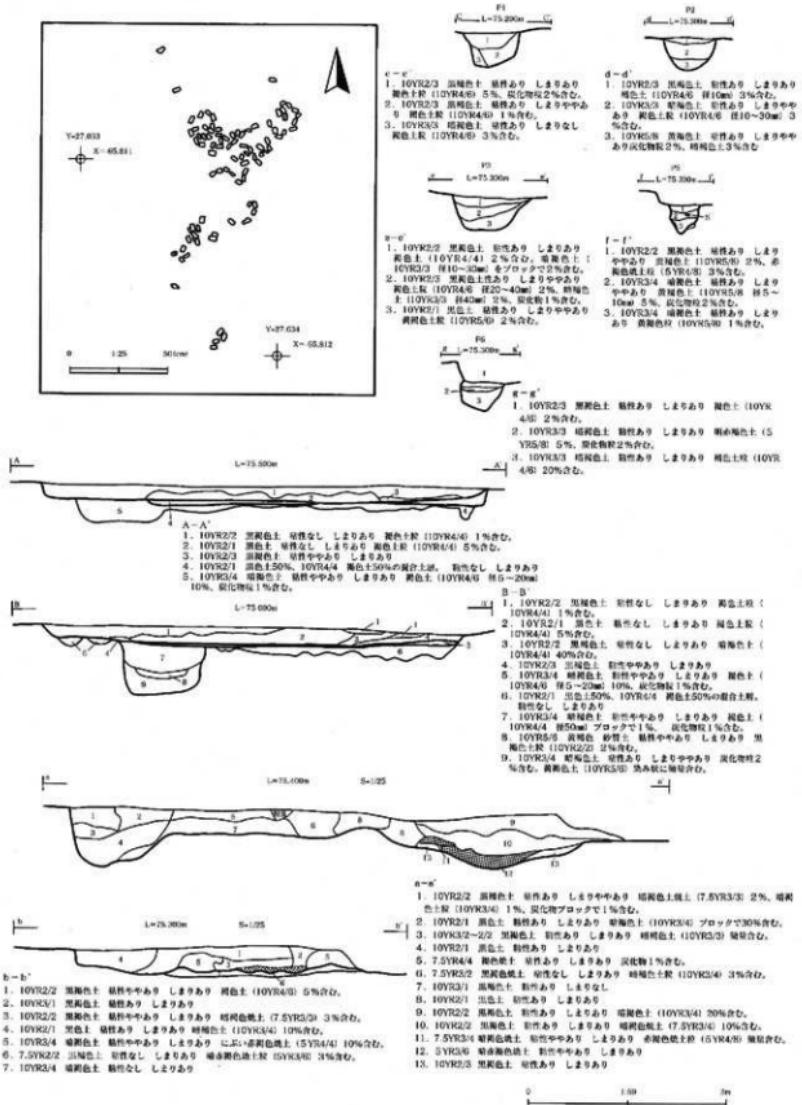
遺物 (第107図・写真図版79)

172~202が出土した。172・173は酸化炎焼成の壺で172はカマド脇、173は住居埋土から出土した。成形はいずれもロクロで内面には黒色処理が施され、底部の切り離しは回転糸切りの技法による。174・175は酸化炎焼成の甕で174は住居埋土、175はカマド付近から出土している。成形はロクロで174は器面外面にケズリが施されている。

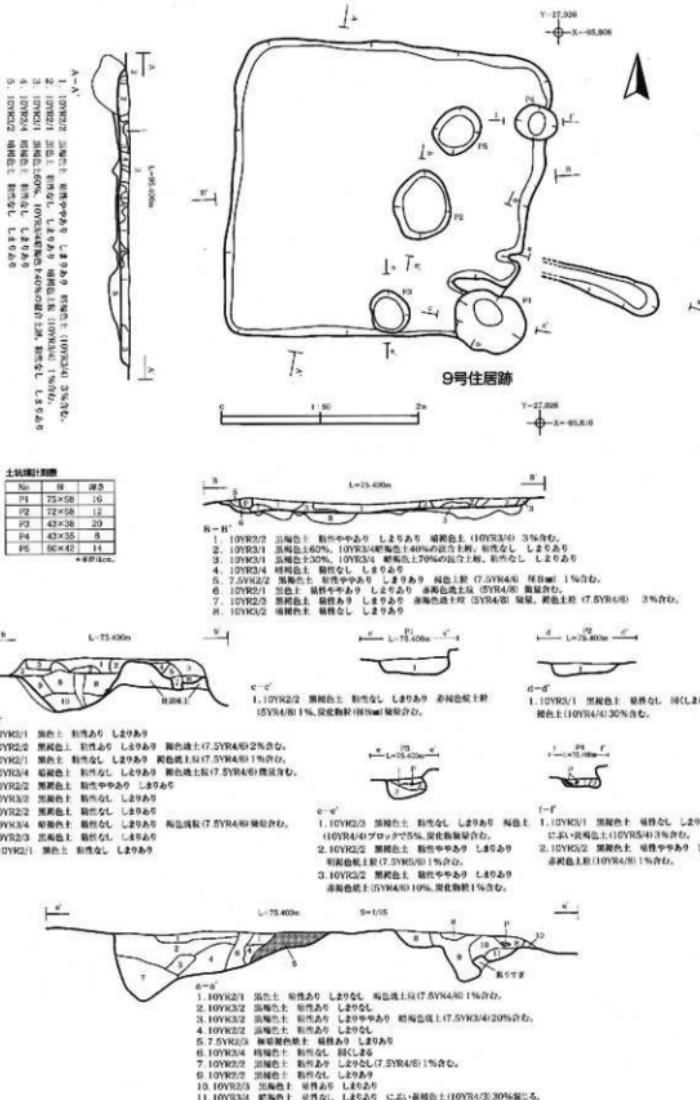
(溜)



第35図 8号住居跡



第36図 8号住居跡



第37図 9号住居跡

10号住居跡

遺構（第38・39図、写真図版27）

〈位置・重複関係〉23J・24Jなどに跨って位置し、表土下の第II b層で検出された。重複する遺構はない。
〈規模・平面形・方向〉規模は352×329cm、総床面積は約11.58m²で平面形は方形を呈し、主軸はE-Nの東方向である。

〈埋土〉全体的に黒色土が主体で、黒褐色土が部分的に混じる。

〈壁〉壁は外傾して立ち上がり、壁面残存は北壁8cm、西壁8cm、南壁6cm、東壁9cmと削平の影響で残存は低い。

〈床面〉床面は平坦で、やや固さがあるものの、明確なしまりはない。全体的に掘り方を持ち、黒色土と褐色土の混合土で貼り床され、厚さはおよそ4~18cmである。

〈土坑〉P1~P5の5基検出された。用途はP1は貯蔵穴であるが他は不明である。

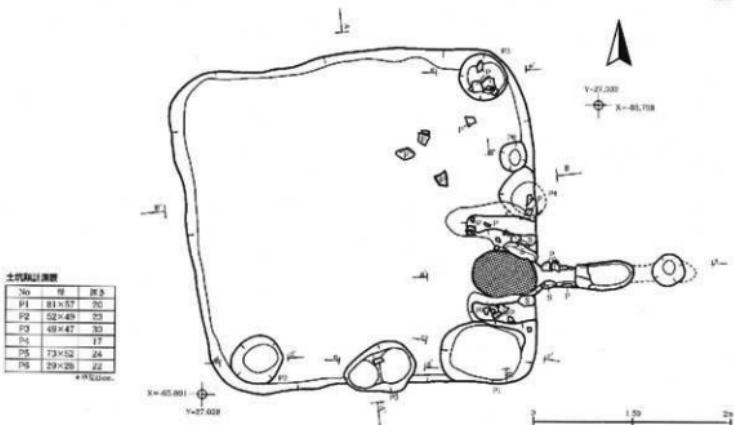
〈柱穴〉柱穴状の小ピット（P6）が東壁面際に1基検出されたが柱穴かどうかは不明である。

〈カマド〉東壁の南より設けられ、カマドの軸方向は住居とはほぼ同じである。燃焼部は赤褐色焼土粒を主体に径64×40cmの範囲におよび、最大8cmの厚さで堆積する。焼土粒は場所によって確認できない箇所もあり、全体的に焼土粒以外のシルトも多く混じっている。袖は20cm前後の疊を床面を掘り込んで立てて理めて芯材とし、これににぶい黄褐色土、黒褐色土や土器小片を混ぜて固めて構築されている。煙道部は割り貫き式の構造で長さ112cm、幅24cmで底面・側面には土師器甕の破片が敷かれている。煙出し部は径35×31cm、深さ43cmでピット状を呈する。

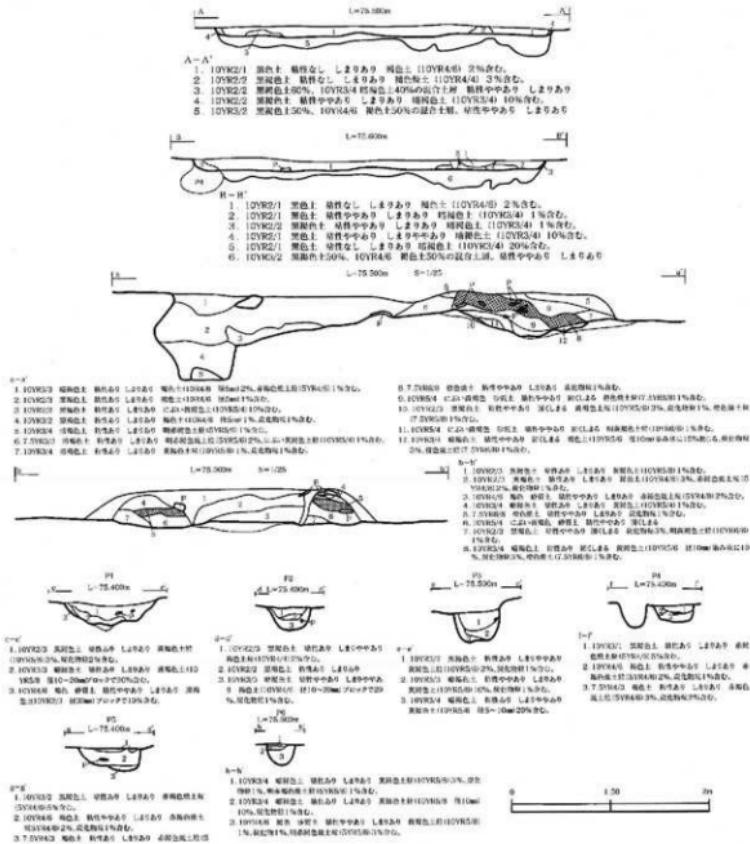
遺物（第108~110図・写真図版79・80）

176~186が出土した。176・177は酸化炎焼成の壺で成形はロクロ、底部の切り離しは回転糸切りの技法による。178はP1から出土した還元炎焼成の壺で成形はロクロ、底部は欠損している。179~184は酸化炎焼成の甕で180はカマド袖部、183はP1埋土、184は煙道部からの一括出土である。179~182は器外面下半にケズリが施されている。187は還元炎焼成による甕の胴部破片で外面には叩き目、内面には当て具痕が残る。186は耳皿で調整はミガキが施されている。

(酒)



第38図 10号住居跡



第39図 10号住居跡

11号住居跡

遺構 (第40図、写真図版28)

〈位置・重複関係〉16K、16Lグリッドに跨って位置し、表土下第Ⅲ層で検出された。11号土坑、15号土坑と重複し、これらに切られる。

〈規模・平面形・方向〉規模は285×247cm、総床面積は約7.03m²で平面形は方形状を呈する。主軸方向はN-12°-Eの北北東方向である。

〈埋土〉自然堆積であるが、全体に搅乱を受けているため曖昧である。埋土は黒褐色上主体で、褐色土と暗褐色土が僅かに混じる。

〈壁〉壁はいずれも外傾して立ち上がる。壁面残存値は北壁24cm、西壁22cm、南壁20cm、東壁30cmである。

〈床面〉床面は擾乱の影響もあり凹凸が多い。また全体に掘り方をもち、黒色土混じりの暗褐色土が6~16cmの厚さで貼られている。

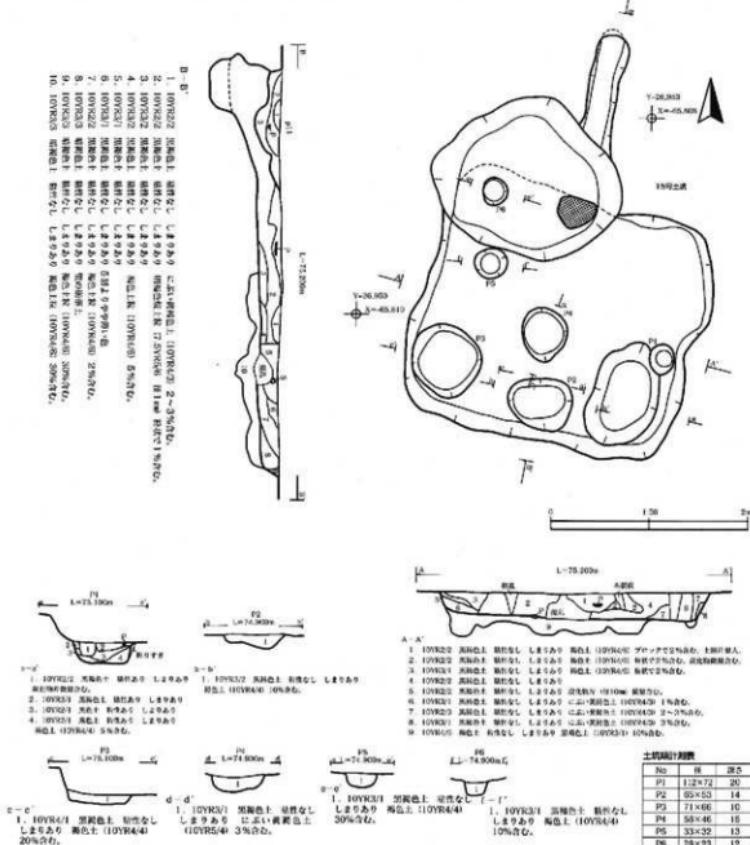
〈土坑〉6基検出された。P1~P4は性格不明の土坑でP5、P6は柱穴状の小土坑である。

〈カマド〉北壁の中央~やや西よりに構築され、主軸は住居の主軸と同じN-12°-Eの北北東方向である。カマドの袖は15号土坑との切り合いによって消滅しており、燃焼部に38×33cmの範囲で焼上が拡がっている。煙道部の長さは約120cm前後と考えられ、住居壁から約20°の傾斜で煙出し部へ下っている。煙出し部の深さは74cmでピット状を呈する。

遺物 (第110図、写真図版80)

187は埋土から出土した酸化炎焼成の甕で器面調整はナテの調整が施されている。

(翻)



第40図 11号住居跡

12号住居跡

遺構（第41・42図、写真図版29）

〈位置・重複関係〉 20Kグリッドに位置し、表上下第II b層で検出された。重複する遺構はなく、遺構の中心部に径258×258cmの搅乱がある。また東と北方向に拡張したと思われ、東方向へは約240cmの拡張跡が認められる。

〈規模・平面形・方向〉 規模は625×580cm、総床面積は約36.25m²で平面形は方形状を呈し、主軸はE-5°-Sのほぼ真東方向である。

〈埋土〉 上位は黒色土主体、中～下位は褐色土混じりの黒褐色土で構成されている。

〈壁〉 壁はやや外傾するかほぼ垂直で立ち上がる。壁面残存高は北壁20cm、西壁20cm、南壁25cm、東壁22cmである。

〈床面〉 床面は平坦で、固さがあり、ほぼ全面に掘り方を持つ。これに黒色土と褐色土の混合土で貼り床されている。

〈土坑・柱穴〉 10基検出された。P 1は径96×88cm、深さ26cmの貯蔵穴で、カマドの脇に掘られている。

〈カマド〉 東壁の南よりに設けられている。カマドの軸方向は住居とほぼ同じ真東方向である。燃焼部には92×60cmの範囲に暗褐色焼土が散在し、最も焼成の強い焼き口付近には径50×47cm、厚さ12cmの範囲で赤褐色焼土が堆積している。袖は褐色焼土混じりの暗褐色土を持ち込み、少量の土器片と共に固めたものである。煙道部は割り貫き式の構造で長さ129cm、幅約35cmで約7°の傾斜で煙出し部へと下る。煙出し部は径36×28cmのピット状を呈し、底面には10cm大の礫が混入している。

遺物（第110・111図、写真図版81）

188～194は酸化炎焼成の壺で成形はロクロ、192はP 1、194はカマド付近からの出土で、188～193は内面に黒色処理が施されている。底部の切り離し技法は189・193～195は回転糸切り、188・190は回転鋸切りによる。195は還元炎焼成の壺で成形はロクロ、底部の切り離し技法は回転糸切りである。196～200は酸化炎焼成の甕で198は床面から出土した。成形は196～198はロクロ、199・200は非ロクロによるもので196の底部切り離しは回転糸切りである。201・202は鉄製品で201は刀子、202は雁又鐵で住居床面から出土している。
(翻)

13号住居跡

遺物（第43図、写真図版30）

〈位置・重複関係〉 20Lグリッドに位置し、表土下第III層で検出された。重複する遺構はない。

〈規模・平面形・方向〉 規模は350×324cm、総床面積は約11.34m²で平面形は方形状を呈し、主軸はE-3°-Nのほぼ真東方向である。

〈埋土〉 自然堆積で、上位は黒褐色土、中～下位は黒色、黒褐色土で構成されている。

〈壁〉 壁はいずれも外傾して立ち上がる。壁面残存高は北壁17cm、西壁14cm、南壁15cm、東壁8cmである。

〈床面〉 床面は平坦で、ほぼ全面に掘り方を持つ。ただし、北～中央部と南側の様相は異なり、北～中央部は3～10cmの堀り方であるのに対し、南側の1/3は10～18cmと深い掘り方を持つ。また、掘り方には黒褐色土、褐灰色土、にぶい黄褐色土粒などの混合土が貼られている。

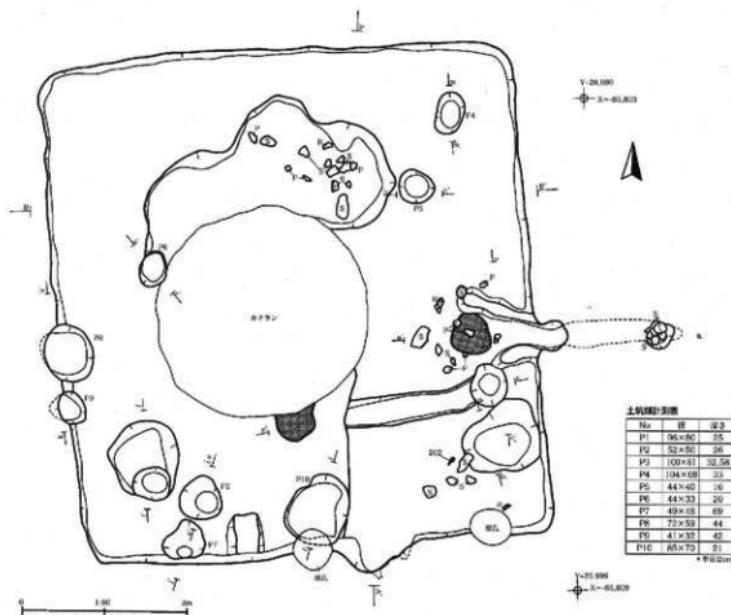
〈柱穴・土坑〉 2基検出された。いずれもカマド脇からの検出でP 1は径74×68cm、深さ30cm、P 2は径34×34cm、深さ15cmの柱穴状小土坑である。

〈カマド〉 東壁の南よりに設けられている。カマドの軸方向は住居とほぼ同じ真東方向である。燃焼部には

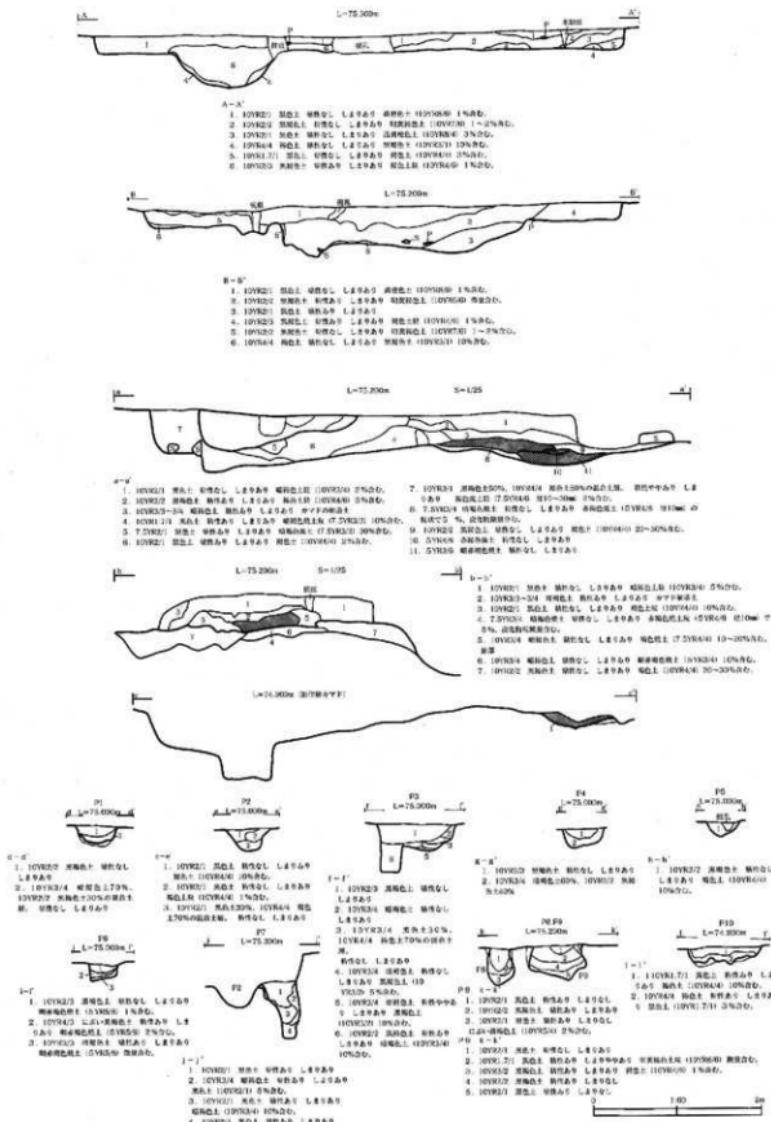
10cmある。袖は黄褐色の粘土質土を持ち込んで固めたものである残存状況は芳しくない。煙道部は掘り込み式の構造を呈し、長さは約100cm、幅約25cmで約15°の傾斜で煙出し部へと下る形態から割り貫き式の構造であった可能性も考えられる。煙出し部は径34×32cm、深さ51cmのピット状を呈する。

遺物（第112図・写真図版82）

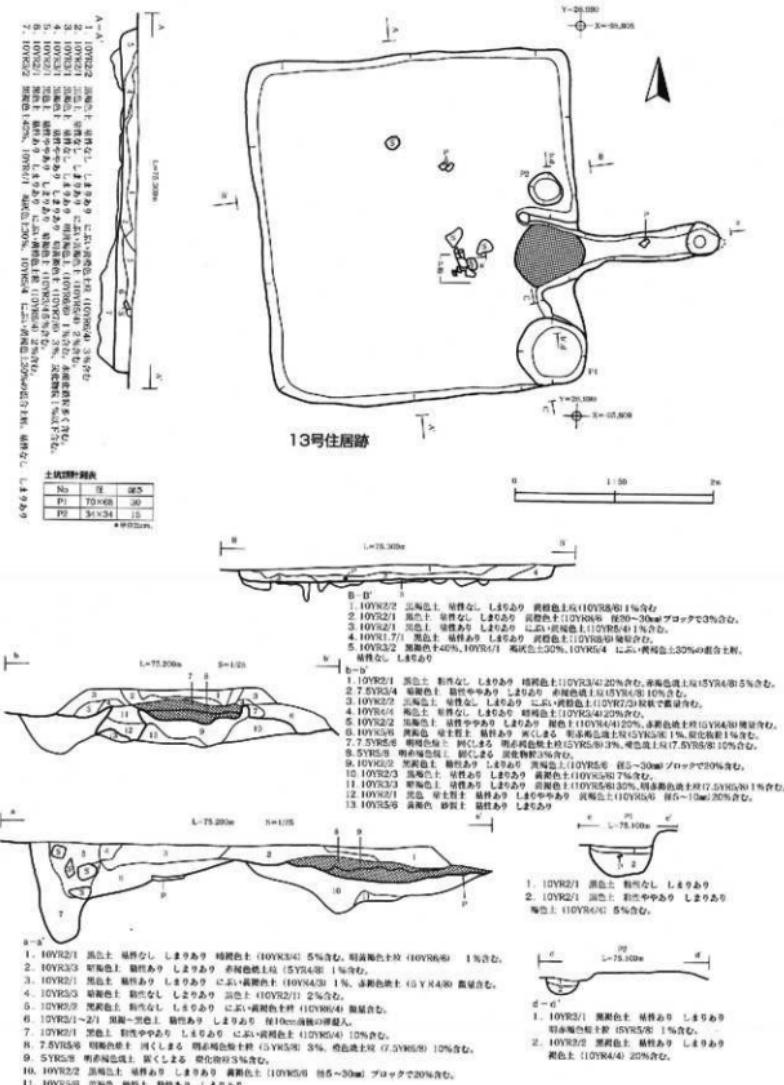
203は床面より出土した酸化炎焼成の壺で成形はロクロ、底部の切り離し技法は回転糸切りによる。204は埋上より出土した還元炎焼成の台付壺で成形はロクロ、底部の切り離し技法は回転糸切りによる。205は床面より出土した酸化炎焼成の長胴甕で成形はロクロである。他に埋下部から鎌が1点出土している（206）。（酒）



第41図 12号住居跡



第42図 12号住居跡



第43図 13号住居跡

14号住居跡

遺構 (第44・45図、写真図版31)

〈位置・重複関係〉 19番グリッドに位置し、表上下第Ⅲ層で検出された。カマドや床面の残存状況から拡張された住居跡と考えられる。重複する遺構はない。

〈規模・平面形・方向〉 規模は535×470cm、総床面積は約25.14m²で平面形は方形状を呈し、主軸はE-2°-Nのはば真東方向である。

〈埋土〉 自然堆積で、上～中位は黒褐色、褐色土、下位は黒色、黒褐色土で構成されている。

〈壁〉 壁はいずれも外傾して立ち上がる。横面残存高は北壁27cm、西壁32cm、南壁30cm、東壁24cmである。

〈床面〉 床面は平坦で、中央～東壁にかけて約316×330cmの範囲では地山を床面として残し、それ以外の全面に掘り方を持つ。掘り方には褐色土と黒色土の混合土が貼られ、厚さは4～27cmである。

〈土坑・柱穴〉 9基検出された。3基は住居の北西隅以外の壁際からの検出で土坑状の形態を有すが、形状、壁面など曖昧な部分も多い。P6、P7は床面からの検出である。

〈カマド〉 2基検出された。北壁に構築されたカマド（1号カマド）は拡張前の住居に伴うため、袖は既になく、燃焼部や煙道部も大半が削除、消失し、残存状況は不良である。煙道部は割り貫き式の構造で残存する長さは40cm、幅は40cmで約7°の傾斜で煙出し部へと下る。煙出し部の開口部は搅乱を受けているため正確な規模は判らないが、深さ35cmをもつピット状を呈する。燃焼部には約64×60cmの範囲に暗赤褐色焼土が貼りがり、層厚は最大で5cmである。2号カマドは東壁のやや南により構築され、袖は両方とも口径18cm、高さ27cmの上師器皿を伏せて置き、芯材とし、これに灰黄褐色土混じりの黒褐色土を持ち込んで貼り、固めて作られている。燃焼部には赤褐色焼土が幅54×34cmの範囲に広がり、層厚は最大で8cmある。煙道部は割り貫き式の構造で長さは124cm、幅は約29cmで約12°の傾斜で煙出し部へと下る。煙出し部は径43×36cm、深さ58cmで凹筒のピット状を呈する。

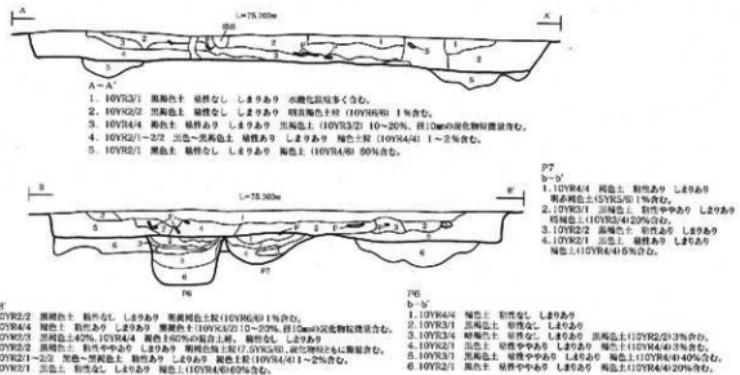
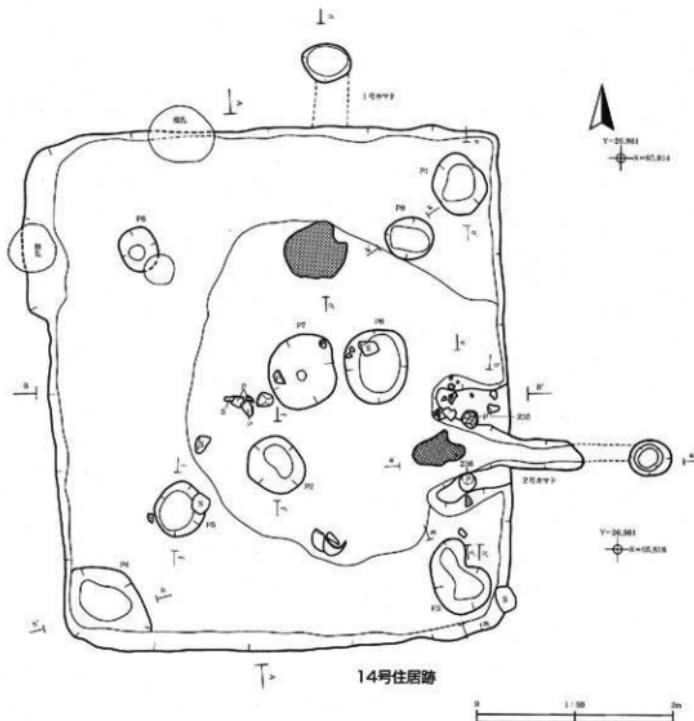
遺物 (第112～115図、写真図版82～85)

207～227は环形の土器で208・214・220・221は貼り床土、213・215・217～219・226は2号カマド袖部、223・224は住居床面、他は住居の覆土から出土している。207～219は酸化炎焼成のロクロ成形、207～217は内面に黒色処理が施されている。底部の切り離し技法は209・213・218は回転窓切り、211は切り離し後の再調整のため不明、他は回転糸切りである。内黒土器の底部切り離し後の底面～体部下のケズリ再調整は底糸切り、窓切り問わず半々である。220～228は還元炎焼成の環で成形はいずれもロクロ、底部の切り離し技法は220・222・226・228は回転窓切り、225は切り離し後の再調整のため不明、他は回転糸切りである。底部切り離し後、底面にケズリ再調整が施されているのは224・226である。230は酸化炎焼成の鉢で成形はロクロである。231～237は酸化炎焼成の甕で231は成形はロクロ、内面にミガキが施され、底部の切り離し技法は回転窓切りで回転窓削りによる再調整が胴部下～底面に施されている。235・236はカマドの芯材に使用された甕で235が左袖、236が右側の袖である。いずれも伏せた状態で置かれ、周りをシルトで覆われていた。237の器体外面の調整は口縁部はタタキ→ロクロナデ、胴部はタタキ→ミガキの順で調整が施されている。238～241は還元炎焼成による238は長颈瓶、他は甕でロクロ成形後、器体外面下半にケズリ調整が施されている。

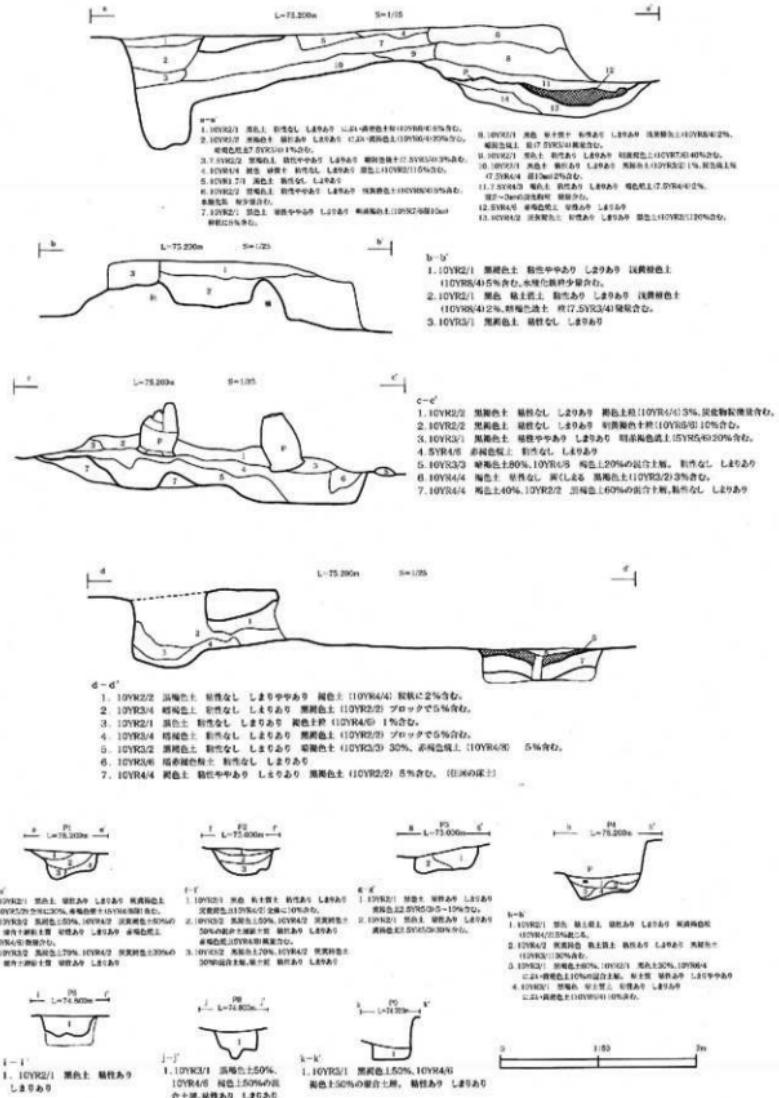
(瀬)

土坑類計測表

土坑No	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9
直徑(cm)	64×55	61×53	75×53	96×70	55×51	74×64	76×68	45×37	50×44
深さ(cm)	28	27	22	22	20	50	31	27	14



第44図 14号住居跡



第45図 14号住居跡

15号住居跡

遺構 (第46・47図、写真図版32・33)

〈位置・重複関係〉18L・19L・18M・19Mグリッドに位置し、表上下第III層で検出された。カマドや床面の残存状況から拡張された住居跡と考えられる。重複する遺構はない。

〈規模・平面形・方向〉規模は503×456cm、総床面積は約22.93m²で平面形は方形状を呈し、主軸はN-12°-Wのほぼ北北西方向である。

〈埋上〉自然堆積で、上～中位は黒色土、下位は黒褐色土で構成されている。

〈壁〉壁は外傾して立ち上がる。壁面残存高は北壁18cm、西壁30cm、南壁27cm、東壁18cmである。

〈床面〉床面は平坦で、中央～北壁より約354×276cmの範囲では地山を床面として残し、それ以外の全面に掘り方を持つが、これは、当初の住居跡を拡張するときに掘った跡と思われる。掘り方には黒色土と黒褐色土の混合土が貼られている。

〈土坑〉P1～P4が検出された。P3・P4は住居床面下で検出された。各土坑の計測値は表に記した。

〈柱穴〉7基検出された。いずれも拡張後の住居に伴う柱穴である。

〈カマド〉2基検出された。いずれも北壁の中央付近に構築され、東側のカマド(1号カマド)が拡張前の住居に伴うもので、雖は拡張後の住居と異なり真北方向で、袖は住居構築時に地山を残す、削り出しの構造で、右袖は既になく、左袖は新しいカマドの構築時に右袖の芯土として、利用されていたため残存していた。燃焼部は径46×44cmの範囲に赤褐色焼土が広がり、4cmの厚さで堆積する。煙道部は掘り込み式の構造で長さは約80cm、幅52cm、煙出し部の最深部は30cmである。西側に設けられたカマド(2号カマド)は掘り込み式の構造で煙道部の長さは約100cm、幅49～54cmあり、約8°の傾斜で煙出し部に下る。煙出し部の深さは69cmで煙道部より20cmほど深い。袖は上記のとおり右袖は1号カマドの左袖に黒褐色土が微量混ざった褐色土を持ち込んで固めて作られる。左袖は褐色土と黒褐色土の混合土を持ち込んで固めたものである。燃焼部には赤褐色焼土が径80×56cmの範囲に広がり、層厚は最大で6cmある。

遺物 (第116・117図、写真図版85・86)

244・245は酸化炎焼成の壺でカマド付近から出土した。内面には黒色処理が施され、器体の内面調整は244はナデ?、245はミガキである。底部の切り離しは回転糸切りの技法による。246・247は還元炎焼成の壺で床面直上から出土した。成形はロクロで底部の切り離しは回転糸切りの技法による。248～251は酸化炎焼成の非ロクロ成形の甕で器体の外表面調整は口縁部はいずれもヨコナデ、肩部は248～250はハケメ、251はナデが施される。252・253は還元炎焼成の甕で252はP2から出土した。成形はロクロ、器体外表面下はケズリが施されている。他に磨石が1点、また住居南西隅壁際の埋土七～中位からは鍵が1点出土している。

(添)

土坑類計測表

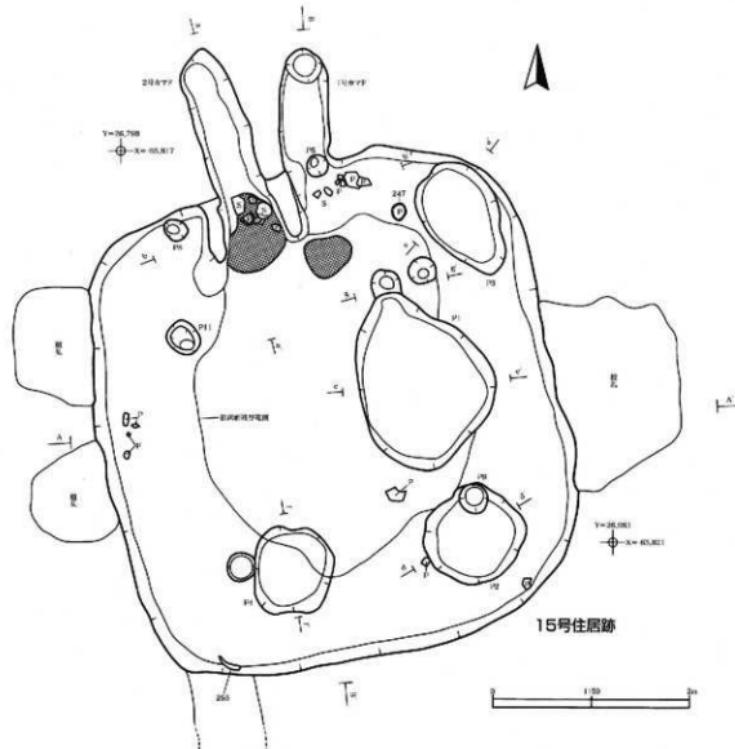
土坑No	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11
直径(cm)	186×137	103×101	123×73	84×82	22×22	30×29	29×27	24×20	31×29	29×28	35×33
深さ(cm)	22	30	25	16	45	26	49	35	29	57	36

16号住居跡

遺構 (第48・49図、写真図版34)

〈位置・重複関係〉19Mグリッドに位置し、表上下第III層で検出された。重複する遺構はない。

〈規模・平面形・方向〉規模は476×446cm、総床面積は約21.22m²で平面形は方形状を呈し、主軸はS-15°

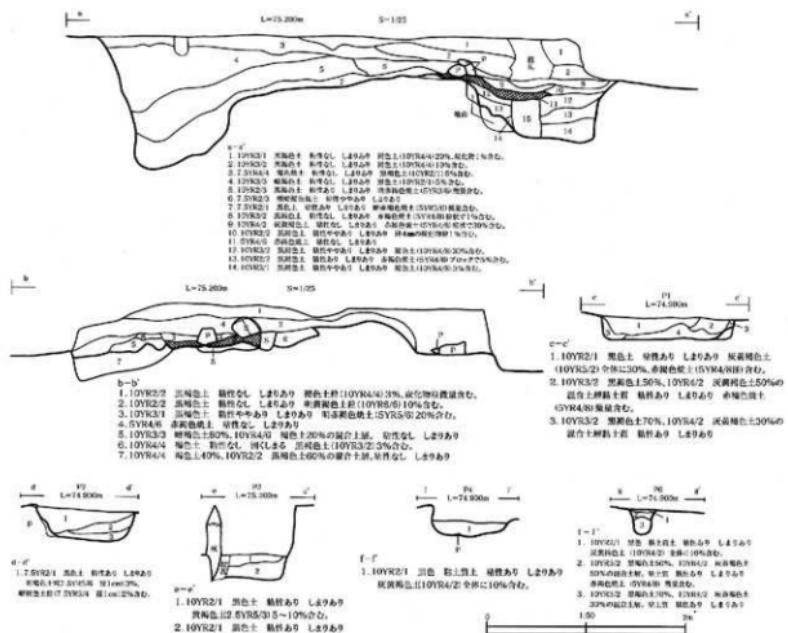


- A-A'
1. 10VR2/1 黒色土 動物なし しまりあり 淡黄褐色土(10VR8/3)1%、水溶化跡多く含む。
 2. 10VR2/2 淡褐色土 動物なし しまりあり
 3. 10VR3/1 黑色土 動物あり しまりあり 淡黄褐色土(10VR8/3)3%、径10mmの炭化物残骸含む。
 4. 7.SYR2/1 黑色土 動物あり しまりあり 黃褐色土(10VR5/6)20%含む。(黒土)

L=75.300m

- B-B'
1. 10VR2/1 黑色土 動物なし しまりあり 淡黄褐色土(10VR8/3)1%含む。
 2. 10VR2/2 淡褐色土 動物なし しまりあり
 3. 10VR3/1 黑色土 動物あり しまりあり 淡黄褐色土(10VR8/3)3%、径10mmの炭化物残骸含む。
 4. 7.SYR2/2 淡褐色土 動物なし 同C-C'層
 5. 10VR3/2 黑色土 動物あり しまりあり 径7mmの炭化物残骸含む。
 6. 10VR3/3 黑色土 動物あり しまりあり 径7mmの炭化物残骸含む。
7. 7.SYR2/2 淡褐色土 動物あり しまりあり
 8. 10VR4/2 にじみ・淡褐色土 動物ややあり しまりあり
 9. 10VR5/1 黑色土 動物なし しまりあり 淡黄褐色土(10VR8/3)1%、水溶化跡多く含む。
 10. 10VR5/2 黑色土 動物あり しまりあり 淡黄褐色土(10VR8/3)3%、
 径10mmの炭化物残骸含む。
 11. 7.SYR2/1 黑色土 動物あり しまりあり 黄褐色土(10VR5/6)20%含む。(黒土)

第46図 15号住居跡



第47図 15号住居跡

—Eの南南西方向である。

(埋上) 自然堆積を呈し、上位は黒褐色土、中～下位は黒色土で構成されている。

(壁) 壁はやや外傾ぎみに立ち上がる。壁面残存高は北壁24cm、西壁28cm、南壁19cm、東壁22cmである。

(床面) 床面は平坦で、やや緊さがある。住居西半の壁際には上端幅14～10cm、下端幅8～4cm、深さ4cmの溝が所々に巡る。また全面に掘り方をもち、褐色土と黒色土の混合土が厚さ9～34cm貼られている。

(土坑) 6基検出された。P1～P5はいずれも土器片が出土しており、貯蔵穴と考えられる。

(カマド) 南壁の東よりに構築され、主軸は住居の主軸とほぼ同じS-22°～Eの南南西方向である。カマドの袖部は左袖は24×14cmの縦を床面に差し込んで立てて芯材とし、その上に暗褐色のシルトを貼って固めている。右袖は縦は無く、シルトのみで構築されている。燃焼部には径56×56cmの範囲に於いて赤褐色焼土が張り、厚さは2～8cmある。煙道部は掘り込み式の構造で、長さは約130cm、幅は32cm、煙出し部は開口部径39×32cm、深さ52cmで煙道部より深い。またこれとは別に長さ50cm、幅32cmの煙道状の遺構も確認されたが後世の搅乱によって遺構の性格は不明である。

遺物(第117～118図・写真図版7)

256～258は酸化炎焼成の壺で256はP5、257はP3、258は住居床面からの出上でいずれも成形はロクロ、256・257は器体内面に黒色処理が施されている。底部の切り離しは回転糸切りの技法である。259・260はロクロ成形の還元炎焼成の壺で259はP5から出土し、底部切り離しは回転糸切りの技法である。281の体部には墨で文字が書かれている。261～263はいずれも酸化炎焼成の壺で261・263はP1、262はカマド焼成部、

からの出土である。いずれも成形はロクロで、底部の切り離しは回転糸切りの技法による。

(福)

17号住居跡

遺構（第49・50図・写真図版35・36）

〈位置・重複関係〉18Mグリッドに位置し、表土下第Ⅱ層で検出された。遺構の残存状況から焼失した住居跡と考えられる。重複する遺構はない。

〈規模・平面形・方向〉規模は430×384cm、総床面積は約16.51m²で平面形は台形状を呈し、主軸はE-8°-Nの東方向である。

〈埋土〉自然堆積を呈し、全体が黒褐色上主体+層堆積で、暗褐色土が一部に混じる。

〈壁〉壁はやや外傾して立ち上がる。壁面残存高は北壁16cm、西壁20cm、南壁27cm、東壁24cmである。

〈床面〉基本は平坦で、床面には焼土や炭化物（炭化米・胡桃等）が散在し、全面に掘り方を持つ。掘り方には赤褐色焼土泥じりの黒褐色土が貼られ、厚さは5~10cmである。

〈土坑〉3基検出された。P1は北東隅にあって規模は径80×74cm、深さ36cmで中からは炭化した柱材や胡桃4点などが出土している。P2はカマド脇の南東壁際にあり、規模は径78×75cm、深さ31cmで中からは完形の上層壊壊7枚が2・3枚ずつ重なって出土していることから貯蔵のための穴であると考えられる。P3は住居中央へや西よりで検出され、規模は径48×42cm、深さ54cmで、埋土中からは土器片や胡桃のかけらが出土している。

〈柱穴状小土坑〉2基検出された。P4は径40×40cm、深さ18cmの小土坑状を呈するが、住居構築時の掘り方によるものもある可能性もある。P5は径24×24cm、深さ38cmの柱穴状を呈する。単独であるが、住居跡に伴う遺構と思われる。

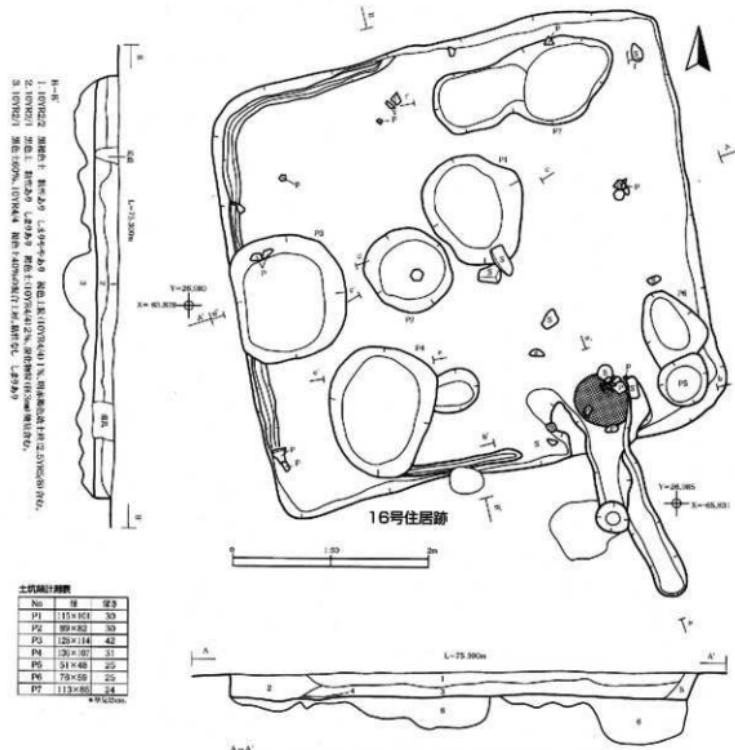
〈カマド〉東壁のやや南により構築され、主軸は住居の主軸とほぼ同じE-8°-Nの東方向である。カマドの構造は焚き口部分を黒釉の骨格は礫で組まれ、左袖には長さ24cm、幅8cm、右袖には長さ34cm、幅12cmの礫をそれぞれ床面に差して立て、天井に長さ48cm、幅24cm、厚さ9cmの礫を架橋（II）状に置き、これを芯とし、その上に褐色土を貼って構築している。燃焼部には径50×50cmの範囲に暗赤褐色焼土が掘り取り、焼土の厚さは8~12cmある。煙道部は割り貫き式の構造で、長さは約110cm、幅は35cm、約20°の傾斜で煙出し部へと下る。煙出し部の開口部径は28×24cm、深さ70cmで煙道部側に傾斜している。また煙道部の埋土中位付近からは束の実約170点が一括出土している。

〈他の施設〉P2の南西隣の南壁側からU縁部の欠けた運元炎焼成の甕が、5cmほど底部が床面に埋設した状態で出土した。状況から水を貯蔵していたと考えられる。

遺物（第118~120図・写真図版87~89）

264~278は酸化炎焼成の甕で、P2、P3から多く出土しておりP2からは267と268、274~275・276などは重なった状態で出土している。またP3からは6点が出土しているが床面出土の土器と接合するものが多く、P3から出土した土器片が内黒処理が施されているのに対し、床面出土の土器片には黒色が残っていない(269~273)。いずれも成形はロクロ、内面にミガキが施されている。280~283は高台甕でいずれも器体内面(280は内面)に黒色処理が施されている。286は運元炎焼成の甕でP2の手前に底部を床面に埋め込んだ状態で置かれていた。他には耳皿(287)、砥石(288~289)、また、床面からは雜穀類や胡桃(約130g)が多量出土しているほか、煙道部の堆土上から前述の甕の実170点(約270g)が出土している。

(福)



1. IOVR2/2 黒褐色土 勾性あり しまりあり 硬化土質 (IOVR4/4) 1% 混合褐色土質 (SYR4/8) 5% 含む。
 2. IOVR2/1 黑褐色土 勾性あり しまりあり 黑褐色土質 (IOVR4/4) 1% 混合褐色土質 (SYR4/8) 5% 含む。
 3. IOVR2/1 黑褐色土 勾性あり しまりあり 黑褐色土質 (IOVR4/4) 2% 混合褐色土質 (SYR4/8) 3% 含む。
 4. IOVR2/1 黑褐色土 勾性あり しまりあり 黑褐色土質 (IOVR4/4) 22% 褐色地土質 (SYR4/8) 7% 含む。
 5. IOVR1/7/1 黑褐色土 勾性あり しまりあり 黑褐色土質 (IOVR4/4) 1% 混合褐色土質 (SYR4/8) 1% 含む。
 6. IOVR2/2 黑褐色土 65% IOVR4/4 混合 14% 均合土層 勾性なし しまりなし

10. IOVR4/4 黑褐色土 勾性あり しまりあり 黑褐色地土質 (SYR4/8) 3% 含む。

3. IOVR2/2 黑褐色土 勾性あり しまりあり 黑褐色土質 (SYR4/8) 5% 含む。

4. IOVR2/2 黑褐色土 勾性あり しまりなし 黑褐色地土質 (SYR4/8) 5% 含む。

5. SYR3/3 黑褐色地土質 勾性あり しまりあり 黑褐色地土質 (SYR4/8) 5% 含む。

6. IOVR2/2 黑褐色土 勾性あり しまりあり 黑褐色地土質 (SYR4/8) 5% 含む。

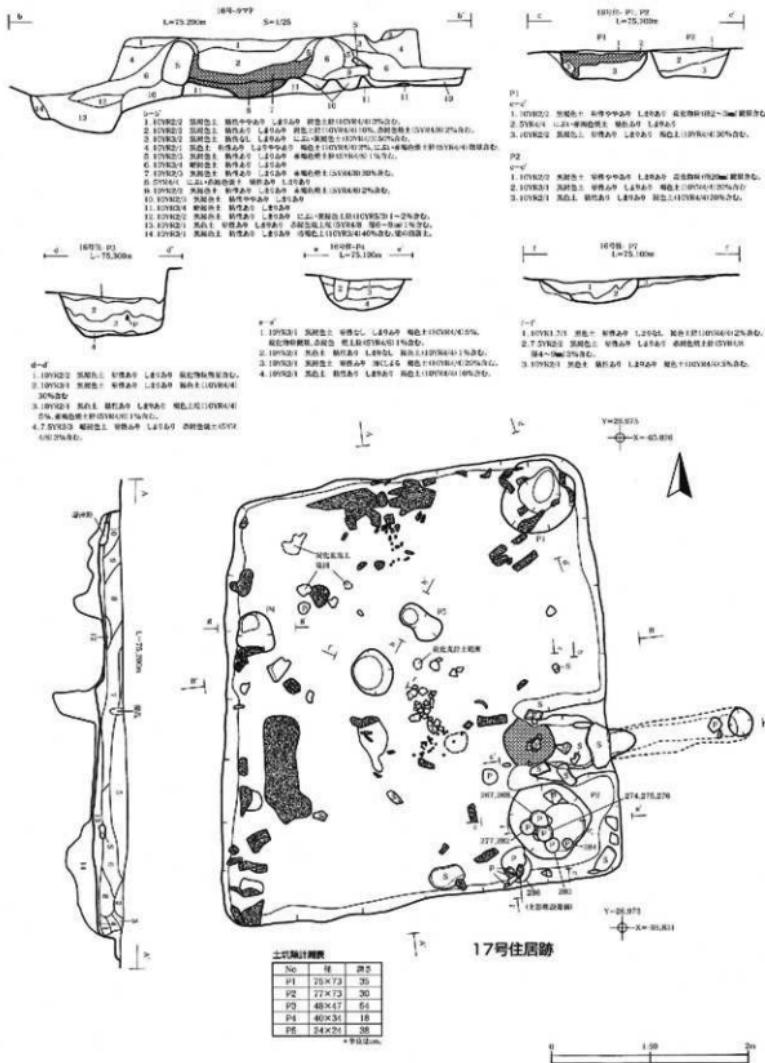
7. IOVR2/2 黑褐色土 勾性あり しまりあり 黑褐色地土質 (SYR4/8) 5% 含む。

8. IOVR2/2 黑褐色土 勾性なし しまりあり 黑褐色地土質 (IOVR4/4) 50% 含む。

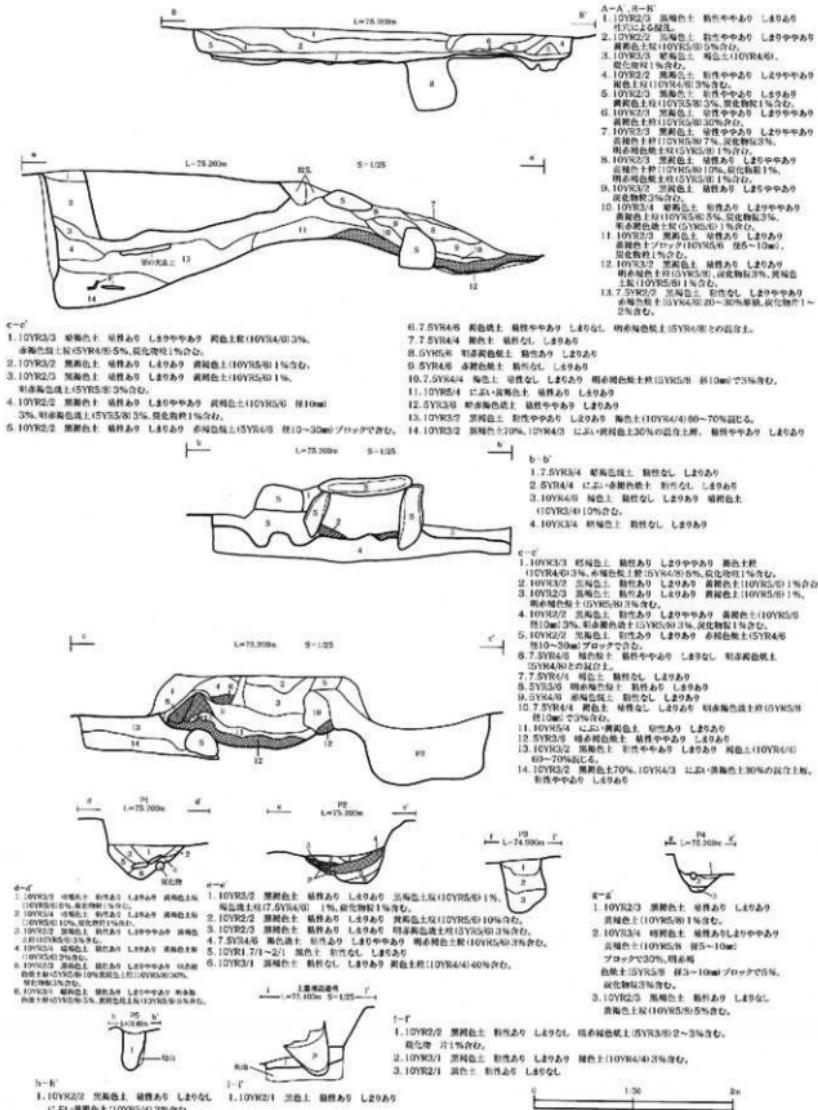
9. IOVR2/1 黑褐色土 勾性あり しまりやや硬り 黑褐色土質 (IOVR4/4) 12% に5% 黑褐色地土質 (SYR4/4) 5% 含む。

10. IOVR3/4 黑褐色土 勾性あり しまりなし

第48図 16号住居跡



第49図 16号、17号住居跡



第50図 17号住居跡

18号住居跡

遺構 (第51図・写真図版37)

〈位置・重複関係〉 19Kグリッドに位置し、表土下第三層で検出された。遺構の残存状況から焼失したと思われる。遺構の約1/3は調査区外で重複する遺構はない。

〈規模・平面形・方向〉 規模は248×240cm、総床面積は約5.95m²で平面形は正方形を呈する。

〈埋土〉 自然堆積で、上～中位は黒褐色土、下位は炭化物、褐色焼土の下位に黒褐色土層が堆積している。

〈壁〉 壁はいずれも外傾して立ち上がる。壁面残存高は北壁13cm、西壁14cm、南壁14cm、東壁19cmである。

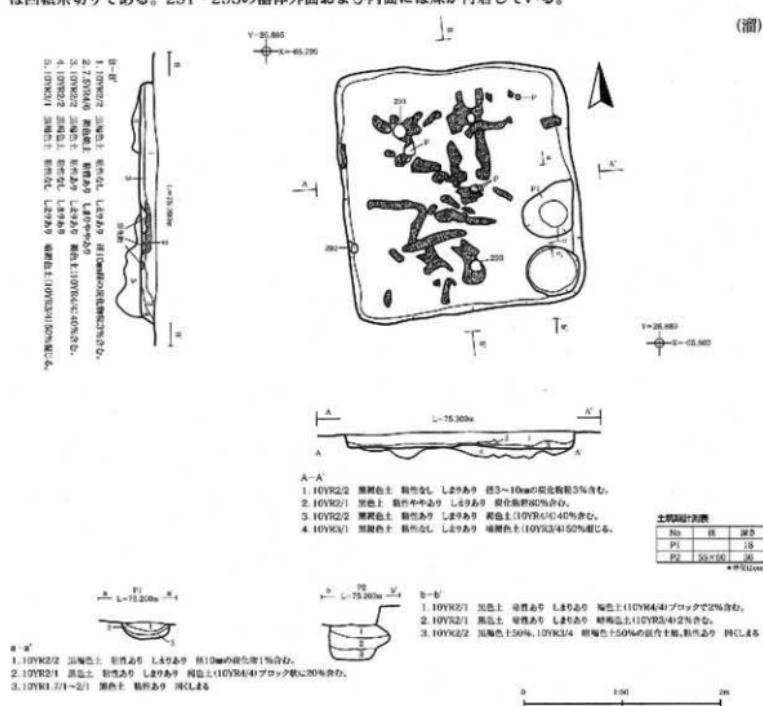
〈床面〉 床面は平坦～緩い凹凸で、全体に掘り方をもち、黒褐色土と暗褐色土の混合土が貼られている。厚さは6～25cmである。

〈土坑〉 2基検出された。P1は径65×48cm、深さ17cm、P2は径50×50cm、深さ35cmの規模である。

〈カマド〉 カマドは無く、また床面には炉跡の痕跡もない。

遺物 (第121図・写真図版89)

291～293が住居埋土1層から出土した。いずれも酸化炎焼成の坏で成形はロクロ、底部の切り離し技法は回転糸切りである。291・293の器体外面および内面には煤が付着している。



第51図 18号住居跡

19号住居跡

遺構（第52図・写真図版38）

〈位置・重複関係〉 15M、16Mグリッドに跨って位置し、表土下第Ⅲ層で検出された。遺構表面は削平が激しく、残存状況は芳しくない。

〈規模・平面形・方向〉 規模は341×307cm、総床面積は約10.46m²で平面形は南北辺がやや長い方形を呈する。主軸方向はE-18°-Nである。

〈埋土〉 自然堆積で、上～中位は黒褐色土、下位は暗褐色土が堆積している。

〈壁〉 壁はいずれも外傾して立ち上がる。壁面残存高は北壁8cm、西壁12cm、南壁8cm、東壁7cmである。

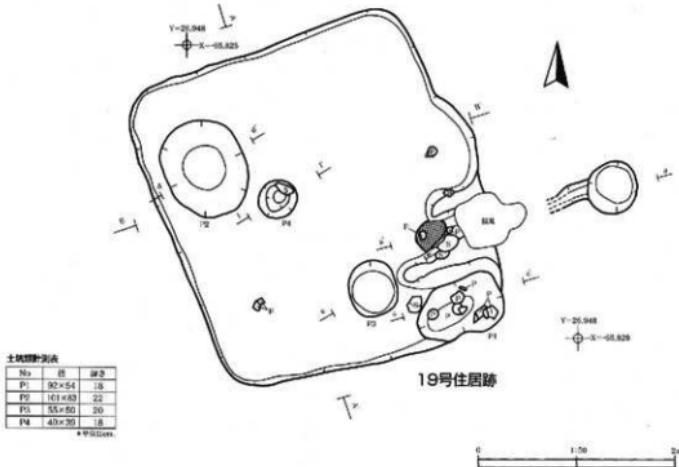
〈床面〉 床面は平坦～緩い凹凸の波があり、全体に掘り方をもち、黒褐色土と褐色土の混合土が貼られている。厚さは4～22cmである。

〈土坑〉 2基検出された。P1は径95×54cm、深さは20cm、P2は径46×43cm、深さは23cm、P3は径54×49cm、深さは22cmで埋土はいずれも自然堆積である。P1から遺物が多く出土している状況から貯蔵穴であったと考えられる。

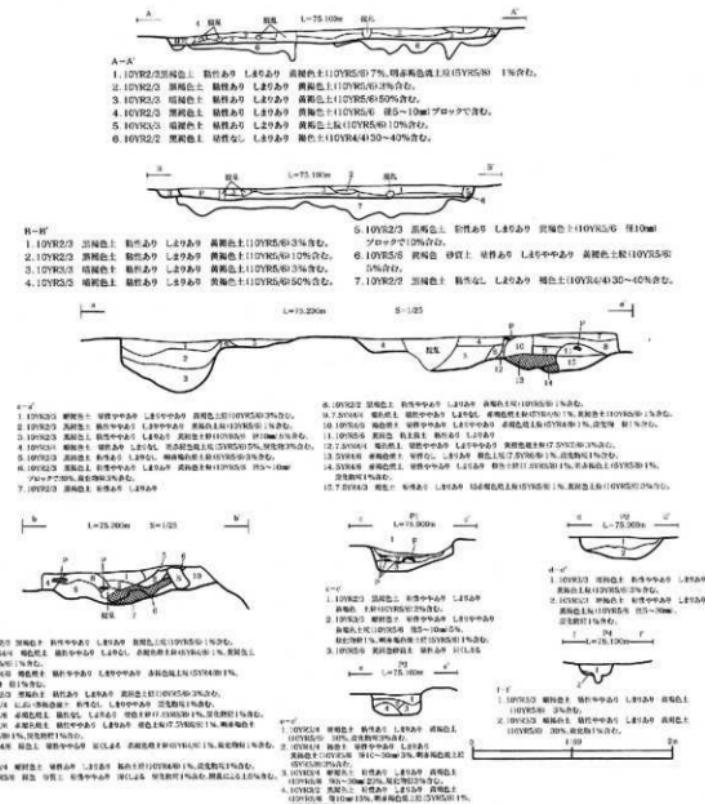
〈カマド〉 東壁のやや南よりに構築され、主軸は住居の主軸と同じE-18°-Nの東北東方向である。カマドの袖には磚や褐色土を持ち込んで固めて作られており、燃焼部には34×25cmの範囲に赤褐色焼上が塗がり、焼上の厚さは最大で約16cmある。煙道部は搅乱や削平の影響で一部分が残るのみであるが、掘り込み式の構造で長さは約1m強と推測できる。煙出し部の開口部径は51×50cmの円形で、深さは26cmである。

遺物（第121図・写真図版89）

294～299が出土した。いずれもP1より出土した酸化炎焼成の294は皿、295～299は壺で、成形はロクロ、294は器体両面、295は器体内面に黒色処理が施されている。底部の切り離し技法は298は切り離し後の再調整により不明、他は回転糸切りの技法が施されている。319は切り離し後、手持ち削りによる再調整が一部施されている。



第52図 19号住居跡



第53図 19号住居跡

20号住居跡

遺構（第54～56図、写真図版39）

＜位置・重複関係＞16J・16K・17J・17Kグリッドに跨って検出され21号住居跡の下に検出されたことからこれより古い時期に属する。55号陥入穴状遺構、44号陥入穴状遺構と重複し、これより新しい。

＜規模・平面形・方向＞規模は412×432cm、総床面積は約17.79m²、平面形は方形を呈し、主導方向はE-31°-Nである。

＜埋土＞全体的に黒褐色土による堆積で上位には炭化物、焼土などを含むが、中～下位にかけては焼けて炭化物、焼土面をなす場所と、そうでない場所がある。単層に近い。

＜壁面＞やや外反して立ち上がり、壁面の残存高は北壁29cm、南壁20cm、東壁16cm、西壁31cmである。

＜床面＞基本的に地山をそのまま床としている。カマド部分から南壁にかけて顯著な掘り方を持つ。

＜土坑＞4基の土坑（P1～4）を検出した。埋土から三つに分けられ、P1は住居廃絶時まで機能してい

たと思われる。P2は明らかに埋め戻されていた。P3とP4は、下部に黒褐色土、上部は焼土粒子を顯著に含む層、最上面は黒土に覆われており、廃絶時に機能していたかどうか微妙である。なお、P1から多量の土器が出土した。

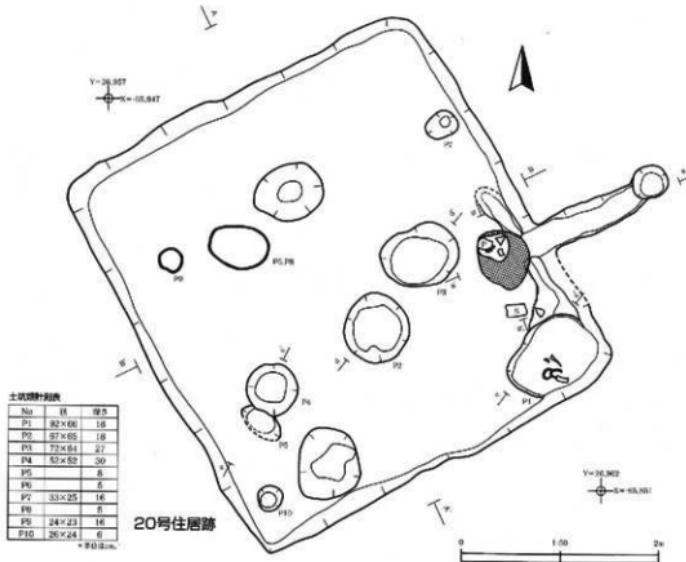
<柱穴>明確でないものもあるが、6基を確認した。規則的な配置ではない。P6とP8は重複している。
<カマド>東壁の南寄りに構築。掘り込み式。袖部は崩れ、残りは悪い。焚き口は、厚さ8cmの焼土が形成されている。

遺物（第121・122図、写真図版89・90）

P1およびその周辺から多量の土器が出土した。P1出土の土器の多くは、南東隅から滑り落ちたような状態で出土しているものが多い。303・300は東側から滑り落ちた状態で出土。カマド付近からはそのまま押しつぶされた状態ではなく、バラバラの状態である。カマド崩落土からも比較的多くの土器片が出土しており、これもカマドの上の東壁からそのまま滑り落ちたような状態で出土しているものが多い。（金子）

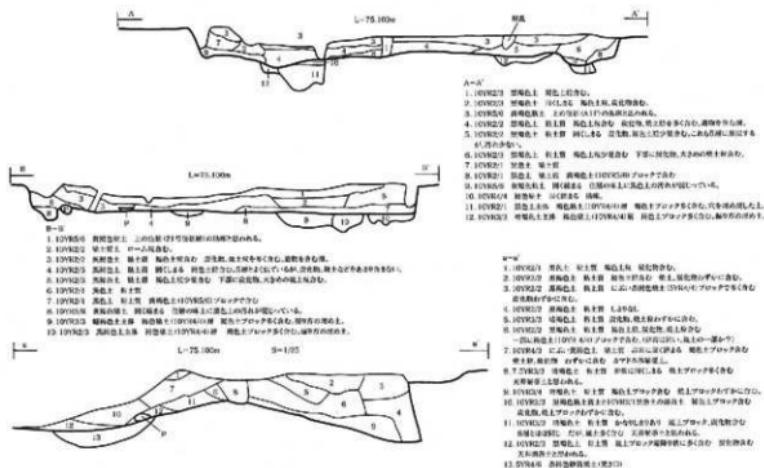
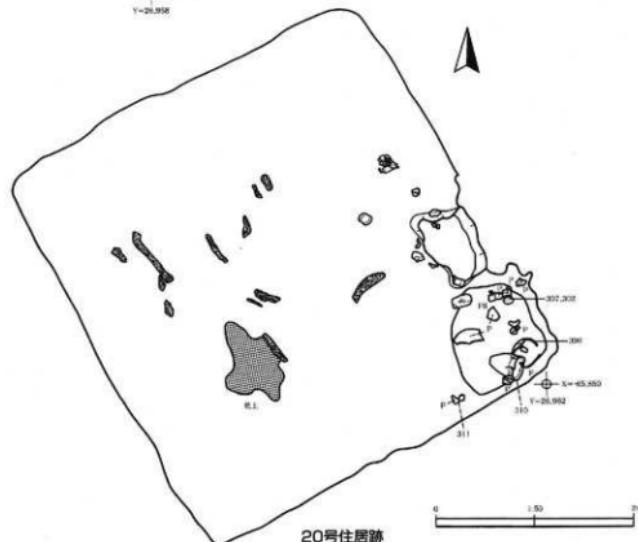
300・301は酸化炎焼成の坏で300は住居埋土、301はP1より出土した。いずれも成形はロクロで内面に黒色処理が施されている。300の底部の切り離しは回転糸切り技法による。302～304も酸化炎焼成の坏で302はカマド崩落土、304はP1より出土した。いずれも器面の調整は両面ロクロのみ施され、302・303の底部の切り離しは回転糸切り技法による。303の体部には墨書きによる文字旗が僅かに残る。305・306は還元炎焼成の坏で305は埋土、306は貼り床土中から出土した。いずれも器面の調整は両面ロクロ、底部の切り離しは回転糸切り技法による。307～314は酸化炎焼成の甕で307はカマドの崩落土内、313はP2、312はP1から出土した。いずれも非ロクロ成形で器面調整は口縁部はヨコナデ、胴部上位はナデ、ケズリ、ハケメなどが施される。

（源）

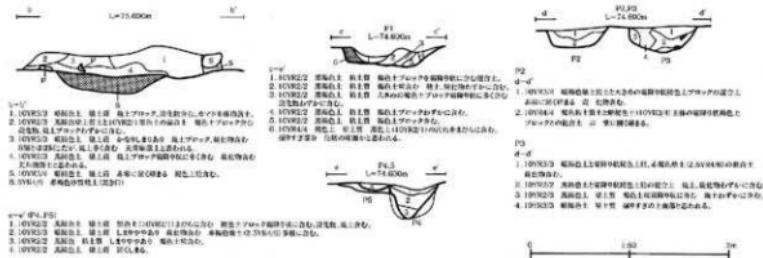


第54図 20号住居跡

X=45.810
Y=25.958



第55図 20号住居跡



第56図 20号住居跡

21号住居跡

遺構 (第57図、写真図版40・41)

<位置・重複関係>16J・16K・17J・17Kグリッドに跨って検出された。水田耕作時の擾乱のため輪郭ははっきりしなかった。20号住居跡と重複し、これより新しく、20号住居跡の埋土上に黄褐色土を貼って住居としているものである。

この黄褐色土を単なる埋土上的一部分とせず貼り床と考えたのは、以下の理由による。第1に、貼り床と推測した黄褐色粘土の範囲が、整った矩形をしていること。第2に、その範囲は、下の20号住居跡のプランを意識しているかのように、各辺が20号住居跡とほぼ平行の入れ子状になっていること。第3に、黄褐色土の表面は、多少の凸凹はあるながらも、基本的には水平である（中央に向かって傾斜していない）こと。第4に、黄褐色土上にはほぼ同じ厚さで分布していること。第5に、黄褐色土上面から遺物が大量に出土していること。この住居の範囲で遺物が多量に出土するのは、ここと下の20号住居跡床面だけである。

近世以降の溝跡、多くの柱穴状土坑（はぜ杭坑む）に切られている。

<規模・平面形・方向>規模400×434cm、残存する総床面積は約17.36m²、平面形は方形を呈し、主軸方向は不明である。

<埋土>上面はかなり削平され、単層に近い。全体的に黒褐色土を基調とし、黑色土、褐色土が一部混じる。<壁>不明。

<床面>下の20号住居跡の埋土である黒色土の上に黄褐色土を貼って床としている。固く締まる。貼床下が黒色土で締まりが弱いせいか、人が頻繁に載っていたと思われる場所が凹んでいて、壁際がやや高い。

<柱穴>擾乱を受けているため（近世以降の柱穴状土坑が多い）、はっきりしないが、6個の柱穴を確認した。あまり規則的な配置ではない。P1とP5は、新しい時期の可能性がある。

<周溝>埋土が住居下の黒色土（20号住居跡の埋土）と類似するため、はっきりしないが、全周はしないようである。
(金子)

遺物 (第123・124図、写真図版91・92)

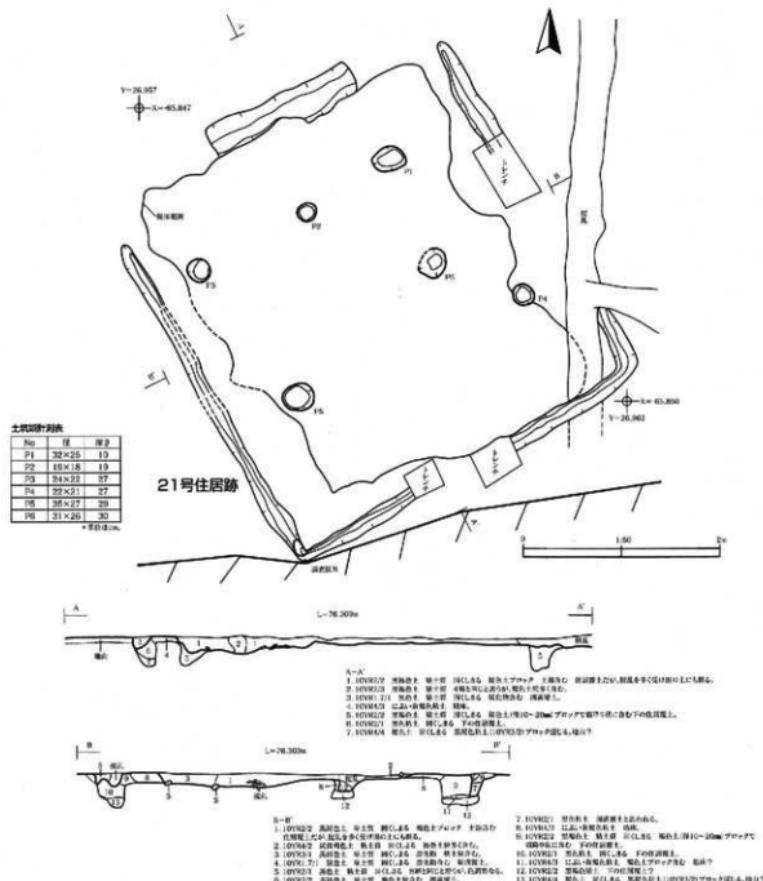
土器が多く出土し、30×40×30cmのコンテナ0.6箱程度出土した。セクションベルトの交叉部の北側の窓みから、多量の土器、礫（赤く焼けているもの、石皿状のもの含む）が出土した。

315～318はいずれも埋土より出土した酸化炎焼成の壺で成形はロクロ、315～317の内面には黒色処理が施されている。318の器体外面上には墨書による文字が僅かに残る。底部の切り離し技法はいずれも回転糸切りである。319は酸化炎焼成の壺の胴部下～底部破片で胴部にはケズリ、底部にはナデ、内面はミガキ調整および

黒色処理が調整が施されている。321は酸化炎焼成の小型の甕で器面の調整は画面にロクロナデによる。底部の切り離し技法は回転糸切りである。320・322・323は酸化炎焼成の甕の口縁～胴部上位の破片である。成形は320はロクロ、322・323は非ロクロ成形で器面調整は322・323は口縁部はヨコナデ、胴部外面はナデ、内面はいずれも横位にナデが施されている。324・325は還元炎焼成の甕で成形は324は輪積み→タタキ→ロクロ→外面下半ケズリの順である。325は外面叩き目痕が残る。他には貼り床土から古鉄(326)1点が出土している。

時期 出土遺物から平安時代の遺構と考えられる。

(酒)



第57図 21号住居跡

22号住居跡

遺構（第58・59図、写真図版42）

＜位置・重複関係＞20N・20Mグリッドに跨って位置し、西側の煙道部分が近世（近代？）の2号窓穴状遺構に切られている。

＜規模・平面形・方向＞規模は398×404cm。総床面積は約16.07m²。平面形は方形を呈している。主軸方向はE-10°-Nである。

＜埋土＞他より低く水に浸かりやすい場所であったせいか、粘土質の黒色土を基本とし、下面に拳大～人頭大の礫を多く含む。

＜壁＞垂直に近い角度で立ち上がり、壁面残存高は北壁25cm、南壁24cm、東壁20cm、西壁24cmである。

＜床面＞基本的に地山をそのまま床としているが、図に示したように（実際には東側はカマドの下まで）、周縁部には掘り方を持つ。掘り方の埋土は灰黄褐色粘土である。

＜土坑＞4基検出。カマド崩土下のP3は、他と規模が異なり、性格も違う可能性が考えられる。他の土坑の埋土は、P2は霜降り状の埋め戻した土、P4は住居埋土と同様の黒色土、P1は下層はP2号と同様だが上層はP4号と同様の黒色土であった。このことから、3基の土坑の間に時期差を考えることができ、P2→P1→P4の順に使われたと考えられる。

＜柱穴＞3基（P5～P7）を認定したが、はつきりしない。住居周囲にも柱穴状土坑が検出されているが、埋土等からいずれも近世のものと判断した。

＜カマド＞東壁ほぼ中央。検出時に2本の煙道らしきものが見えたが、埋土が非常に黒かったこともあって（焼土粒がほとんど全く検出されない）、どちらかは機乱と思われたが精査後、両方とも煙道と確認した。袖部は、住居埋土より黄色みが強い土の上に住居外から拳大の礫が流れ込むような状態で検出された。これを取り除いたところ、南側の煙道の延長部分には焚き口と思われる焼土が検出されたが、北側のそれには焼上が検出されなかつた。したがって、両者の間には時期差が想定され、北側が古く、南側が新しい。なお、北側の焚き口想定部分には、埋め戻された土坑が検出されている。

煙道は、両方とも削平されているようではつきりしないが、掘り込み式のようである。北側の煙道は、縁に礫を並べている。袖部は、崩れているので、不明である。焚き口は、約5cmの焼土が形成されていた。

遺物（第124図・写真図版92）

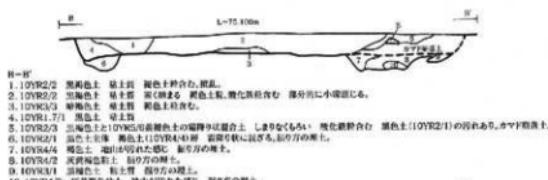
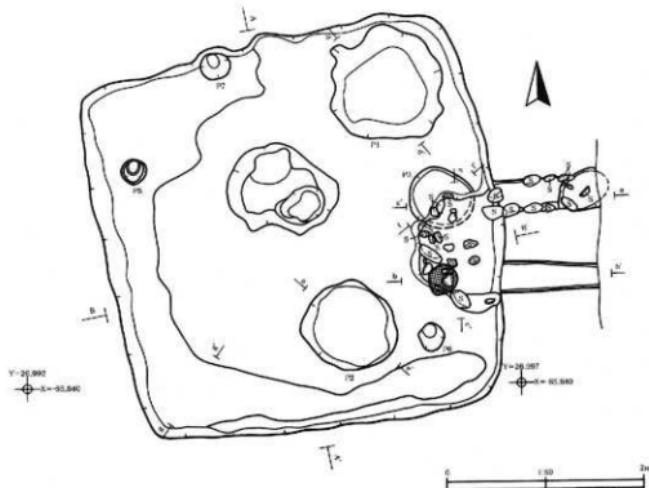
礫などが検出されたが、遺物の出土は非常に少ない。327～329は住居埋土から出土した醸化炭焼成の环で成形はロクロ、器体内面に黒色処理が施されている。底部の切り離し技法は328は静止糸切り後ケズリ再調整、329は回転糸切り技法による。

時期 出土遺物から平安時代の遺構と考えられる。

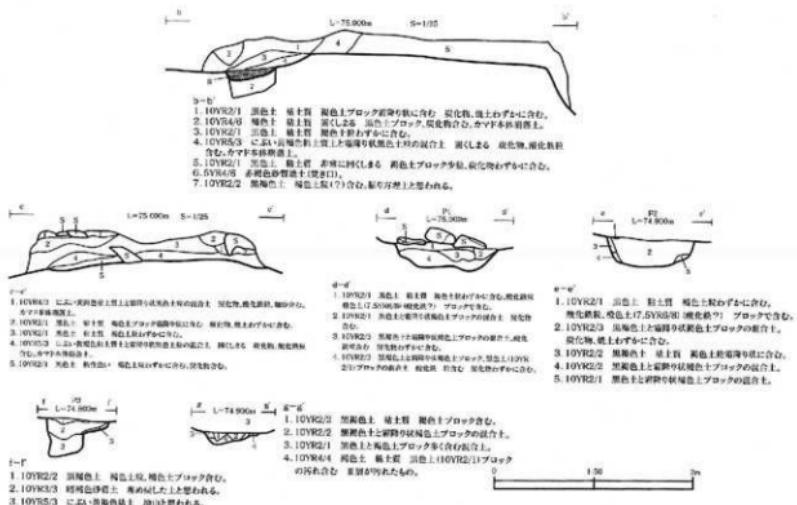
（金子）

土坑類計測表

土坑No	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7
直径(cm)	115×112	95×95	65×60	20×17	25×25	27×27	30×12
深さ(cm)	26	27	40	6	6	15	12



第58図 22号住居跡



第59図 22号住居跡

23号住居跡

遺構 (第60・61図、写真図版43・44)

＜位置・重複関係＞22N・22M・23N・23Mグリッドに跨って位置する。調査時には、北西隅を別の竪穴住居が切っていたように思われたが（塗土上部は水田耕作時の攪乱を大きく受けていた）、大部分が北側の次年度（平成11年度）調査区に統いていたので詳細は不明だった。次年度調査した結果、これは攪乱だと判断した。

＜規模・平面形・方向＞規模は545×621cm。総床面積の推計値は約33.84m²。平面形は、隅丸方形というより方形に近い。

＜埋土＞壁際に黒褐色土のある以外は、区別つきにくく、黒褐色土の単層に近い。

＜壁＞やや外反して立ち上がり、壁面残存高は北壁32cm、南壁20cm、東壁26cm、西壁24cmである。

＜床面＞須恵器埋甕の西側後方の一帯、焼土の隣を除いて、全面に掘り方を持つ。掘り方のない部分は、非常に固く締まる。

＜土坑＞床面に検出された坑のうち、比較的規模の大きな6基を土坑として認定したが、貯蔵穴のたぐいと思われるものは、P5とP6である。P2、P3は明らかに埋め戻しており、P4の11層も埋め戻したような土である。P6は、黒褐色の土を主体とした自然堆積である。P5は、上面がカマド本体の上で覆われておらず、崩れて埋まったものと思われる。この土坑の特に6～7層から大量の上器が出土した。完形のものも多いが、破片もあり、またカマド芯材と思われる板状の礫も含まれているので、必ずしも遭棄されたものとは思われない。また、この土坑の四隅には、直径11～17cm程度の小坑が見られた。埋土は、黒褐色シルト質のボソボソした土で、周囲の根穴とは明らかに異なる。この小穴は、この土坑に覆い（上屋？）があったこと

を示唆するのかもしれない。

＜柱穴＞14基検出された。明らかに作り替えが行われており、例えば、P13はP14に切られている。

＜カマド＞東壁南隅近くで、真っ赤に焼けて脆くなつた板状の石が検出され、周囲の上も地山上をブロック状に含むカマド本体が崩れたような土だったでカマドと判断した。精査の結果、焚き口らしい焼土は確認されたが、煙道は、想定される部分2m四方を約30cm下げても確認できなかつた（図中の溝状の部分は擾乱と思われる）。しかし、前述の石は焚き口上面にブリッジ状にわたすカマド芯材と思われるし、焚き口と思われる焼土も厚さ5cmあり、脇には貯蔵穴と思われる土坑も見られる。やはりカマドであるとしか考えられないで、通常のカマドとは異なる構造なのかも知れない。

＜須恵器大甕＞カマド西側後方左脇に検出された。上面が黒褐色土で覆われていたので、検出時には柱穴と考えていた。しかし、黒褐色土は口縁上面の一部だけで、すぐに大甕の口縁部が現れ、甕の中は空洞だった。口縁が床面よりやや下がるように、地山下の暗褐色土（いわゆる黒色帶）まで、甕の底がうまく合うように断面がU字形の土坑を掘り込んだ後（したがって底の部分は余分な掘り方は持たない）、大甕を入れ、湾曲する肩の部分より上を地山土で貼て埋め戻している。底の土は固く締まっていた。

＜焼土＞カマド後方、掘り方を持たず非常に固く締まる部分の北側に長さ95cm、幅50cm程度のやや長い不整形の焼土を検出した。明らかに床面が焼けており、焼土の厚さは5cmある。本住居は、理士に炭化材や焼土はほとんど確認できなかつたので、ここで火を焚いたことは確実と思われる。本焼土の北東側のP18の南側にも焼土が検出されたが、あまり強く火を受けていなかつたので精査しなかつた。規模は、長さ50cm、幅35cmの形である。

（金子）

遺構（第124～126図・写真図版92・93）

住居埋土からの遺物の出土は少なかつたが、南壁西半の壁際床面から鉄製品、石皿などが出土している。P5から大量の土器が出土したのは前述したとおりである。またP6の壁際から斜めに落ち込んだ形で4層から坪が出土している。

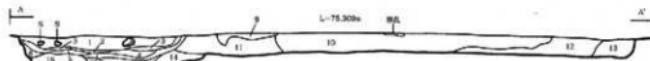
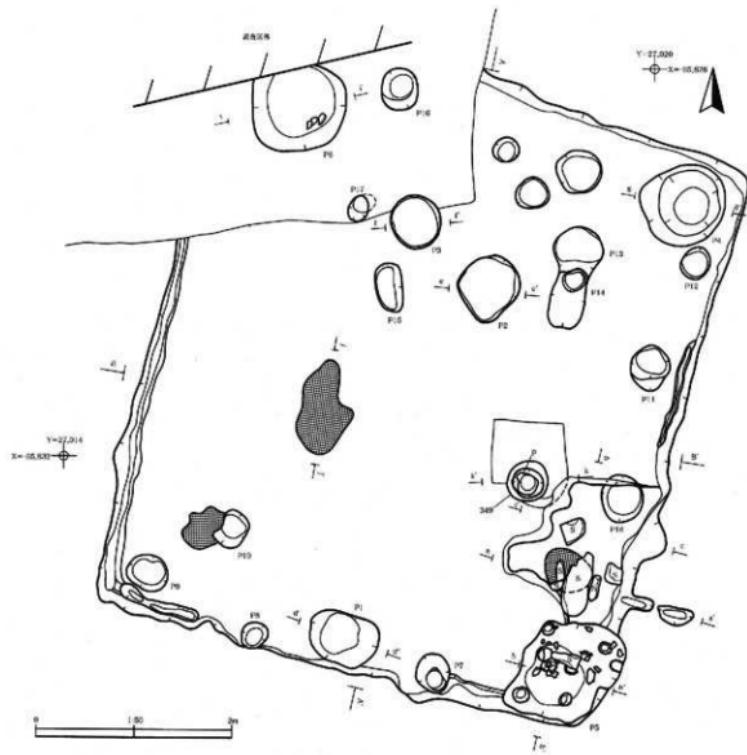
330～343は酸化炎焼成の坪で332・333・337・338はP5から出土した。いずれも成形はロクロで330は器体の画面、331～334は内面に黒色処理が施されている。また331・334の器体外表面は手持ち窓削り調整が施されている。底部の切り離し技法は344は切り離し後の再調整により不明、他は回転糸切りによる。344は酸化炎焼成の高台坪でカマド脇から出土した。器面調整はロクロナテ、台部にはナデが施されている。345・346は酸化炎焼成の台付皿で345はP6、346は埋土の広い範囲に散在していた。成形はロクロで台部は後付である。347は酸化炎焼成の小形壺で成形はロクロ、底面には回転糸切り後、ナデが施されている。348はP6から出土した酸化炎焼成の小形壺で成形はロクロ、底部の切り離しは回転糸切りの技法による。349は住居の床面を掘り込んで埋設された還元炎焼成の大甕である。器面調整は口縁部のみロクロ、胴部外面に叩き目痕が残る。他には刀子(352・353)2点、釘(354・355)2点、環状鉄製品(356)が出土しており、352・354はP6から出土した。

時期 出土遺物から平安時代の遺構と考えられる。

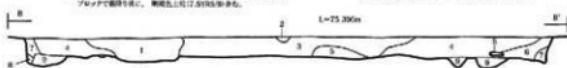
（瀬）

土坑類計測表

PNo	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9
直徑(cm)	93×51	68×62	54×50	88×80	102×97	100×98	41×36	29×25	43×37
深さ(cm)	24	46	54	55	27	57	59	82	20
P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18	
38×26	47×40	34×30			50×27	42×37	26×20	48×42	
17	26	23	44	73	18	43	70	23	

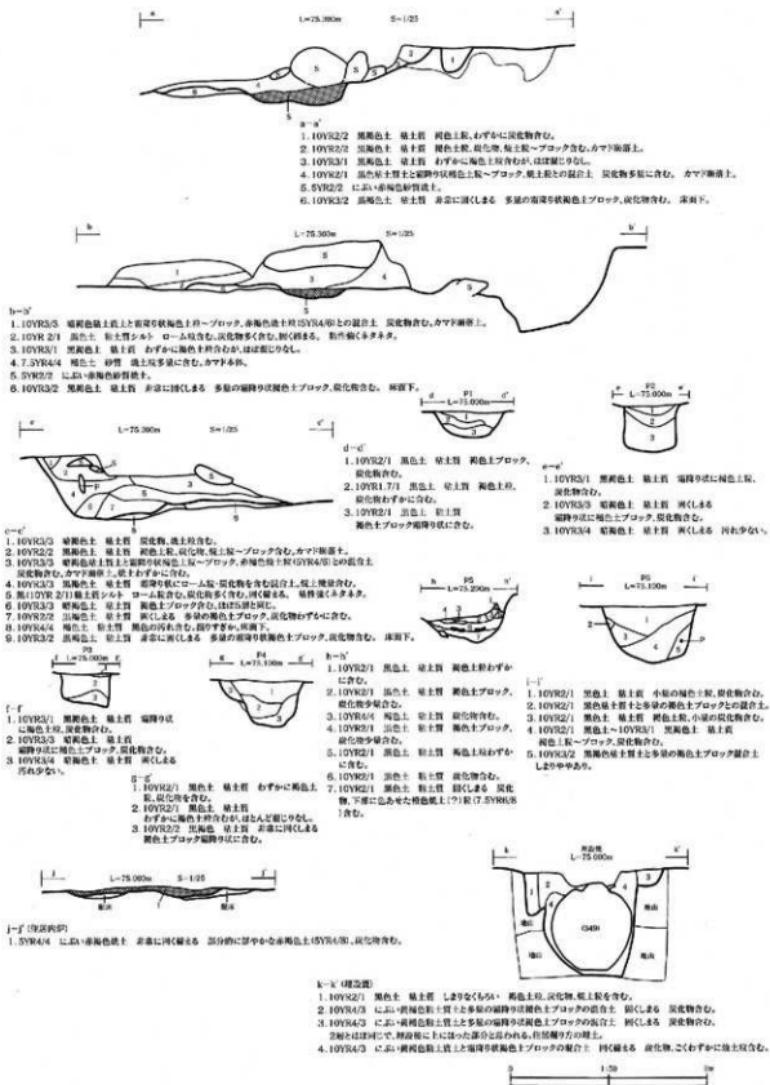


- A-A'
1. 10Y9221 黒褐色の土壁上に刷毛で刷毛した跡がある。刷毛跡。
 2. 10Y9222 黑褐色の土壁上に刷毛で刷毛した跡がある。
 3. 10Y9223 黑褐色の土壁上に刷毛で刷毛した跡がある。
 4. 10Y9224 黑褐色の土壁上に刷毛で刷毛した跡がある。
 5. 10Y9225 黑褐色の土壁上に刷毛で刷毛した跡がある。
 6. 10Y9226 黑褐色の土壁上に刷毛で刷毛した跡がある。
 7. 10Y9227 黑褐色の土壁上に刷毛で刷毛した跡がある。
 8. 10Y9228 黑褐色の土壁上に刷毛で刷毛した跡がある。
 9. 10Y9229 黑褐色の土壁上に刷毛で刷毛した跡がある。
 10. 10Y9230 黑褐色の土壁上に刷毛で刷毛した跡がある。
 11. 10Y9231 黑褐色の土壁上に刷毛で刷毛した跡がある。
 12. 10Y9232 黑褐色の土壁上に刷毛で刷毛した跡がある。
 13. 10Y9233 黑褐色の土壁上に刷毛で刷毛した跡がある。
 14. 10Y9234 黑褐色の土壁上に刷毛で刷毛した跡がある。
 15. 10Y9235 黑褐色の土壁上に刷毛で刷毛した跡がある。
 16. 10Y9236 黑褐色の土壁上に刷毛で刷毛した跡がある。
- ブロックで囲まれている、黒褐色土塗(10Y9221)。



- B-B'
1. 10Y9227 黑褐色の土壁上に刷毛で刷毛した跡がある。
 2. 10Y9228 黑褐色の土壁上に刷毛で刷毛した跡がある。
 3. 10Y9229 黑褐色の土壁上に刷毛で刷毛した跡がある。
 4. 10Y9230 黑褐色の土壁上に刷毛で刷毛した跡がある。
 5. 10Y9231 黑褐色の土壁上に刷毛で刷毛した跡がある。
 6. 10Y9232 黑褐色の土壁上に刷毛で刷毛した跡がある。
 7. 10Y9233 黑褐色の土壁上に刷毛で刷毛した跡がある。
 8. 10Y9234 黑褐色の土壁上に刷毛で刷毛した跡がある。
 9. 10Y9235 黑褐色の土壁上に刷毛で刷毛した跡がある。
 10. 10Y9236 黑褐色の土壁上に刷毛で刷毛した跡がある。
- 黒褐色土塗上に刷毛で刷毛した跡がある、黒褐色土塗(10Y9221)。

第60図 23号住居跡



第61図 23号住居跡

24号住居跡

遺構（第62・63図、写真図版45）

＜位置・重複関係＞23M・23N・24M・24Nグリッドに跨って位置する。東壁の一部を須恵器埋設遺構に切られ、東側に25号住居跡が接する。南側は近現代の窓穴（室あるいは防空壕）に壊されており、西側の床面の一部も現代の井戸に壊されている。

＜規模・平面形・方向＞824×872cm。総床面積は約71.85m²。直線的で、隅丸方形というより正方形に近い。主軸方向はN-8°-Wである。

＜埋土＞自然堆積を呈し、上層は黒色土、中～下位は褐色土による堆積である。それ以外には褐色土が堆積している部分もある。

＜壁＞ほぼ垂直に立ち上がり、壁面残存は北壁28cm、東壁38cm、西壁20cmである。

＜床面＞カマド部分を除いた周縁部溝状に掘り方を持つ。カマドの南側にやや固く締まる部分があるが、地山が砂質であるためか、全体的に固く締まる部分は少ない。

＜土坑＞なし。

＜柱穴＞検出時に9基確認し、掘り方の精査時に1基確認した。うち1基は近世以降の搅乱と思われるが、計9基が柱穴と認定される。柱穴P1～P4には、柱痕跡である黒色土（周囲は埋め戻した土）が認められたが、それ以外には認めらざ埋め戻した土のみであった。したがって、住居廃絶時には4本の柱が立っていたと思われる。それ以外の柱穴は、柱の建て直しによるものと思われるが、なぜ、南側の2本ばかり何回も建て直されたのかは判らない。

＜周溝＞南壁のほとんどが搅乱を受けているのではっきりしない部分もあるが、カマドのある北壁以外に周溝が認められた。断面V字状の小規模なものである。

＜カマド＞北壁の中央に構築。長さ約3m、煙出部の深さ約1mにも及ぶ大きなくくり抜き式の煙道である。煙道特に煙出直下は強い熱を受けて良く焼けている。袖部は、北側から崩れた感じで残りが悪く、その構造は推測できないが、上面等から比較的多くの土器が出土した。焚き口は、厚さ12cmほどの焼上が形成されていた。なお、カマド南側の溝状の穴は搅乱である。

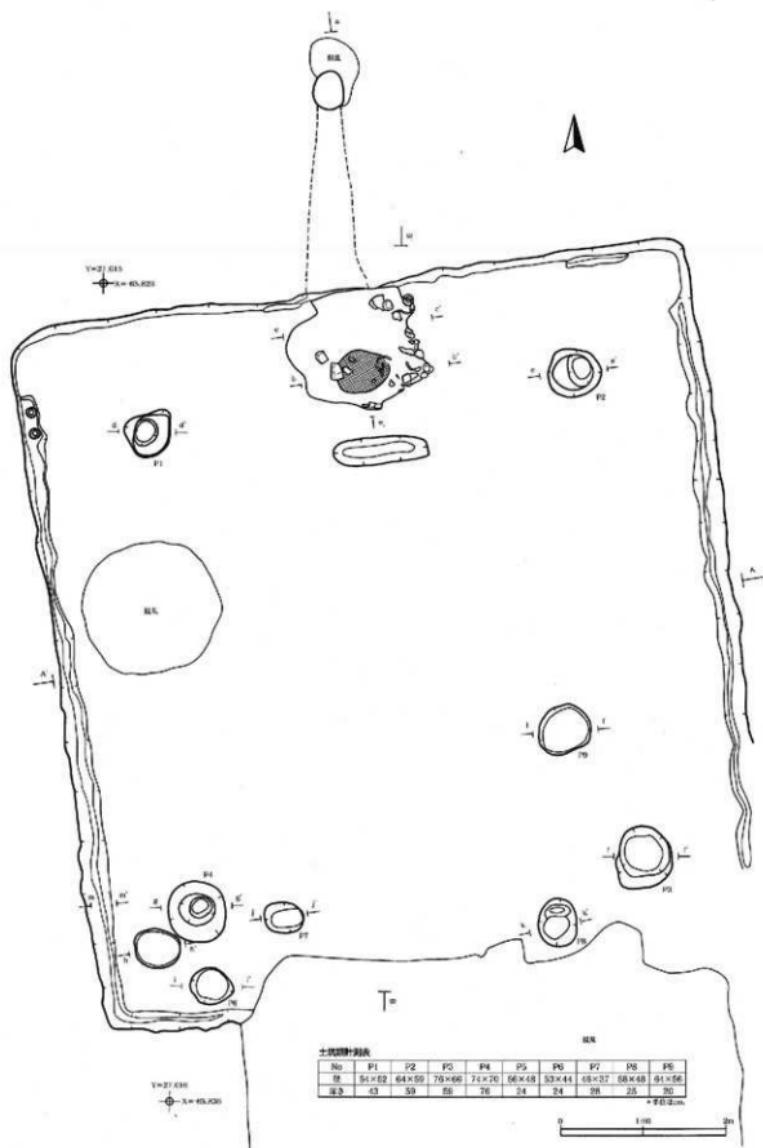
（金子）

遺物（第126～128図、写真図版93～95）

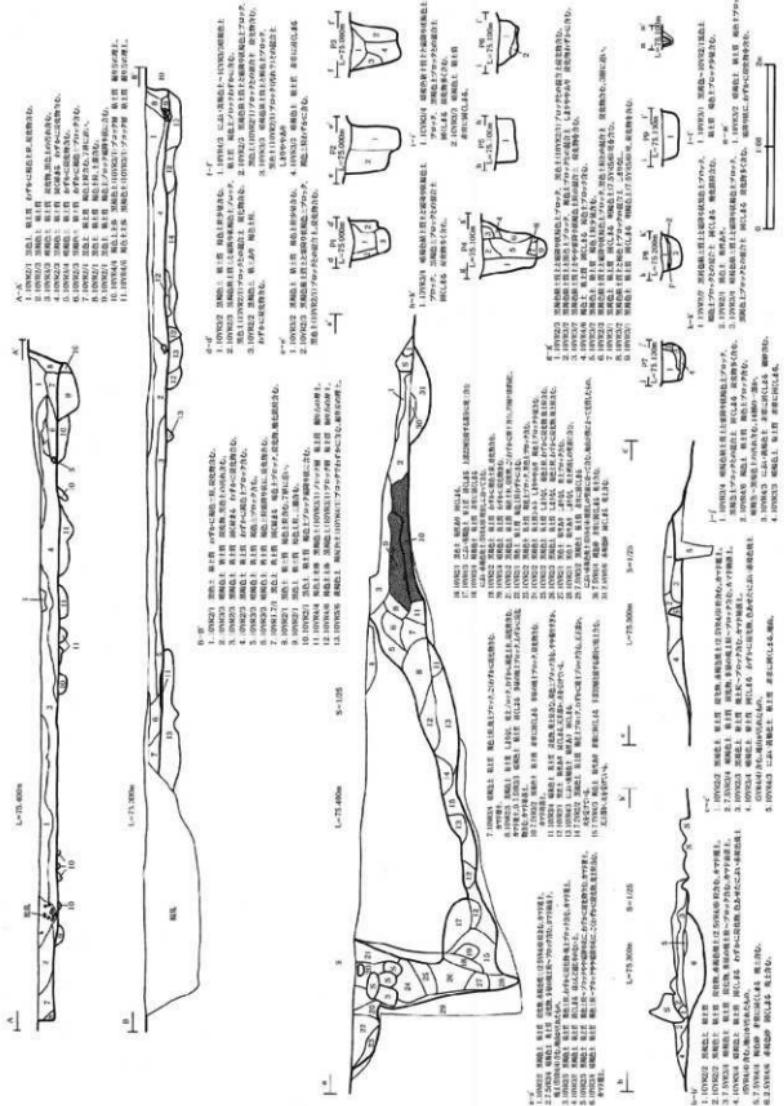
遺物の出土は少ないが、カマド周辺から比較的多くの土器が出土した。357～360は酸化炎焼成の壺で358は器面の両面、356は内面に黒色処理が施されている。また358の外面はミガキ後に胴部下半～底面に手持ち箒削り、357の底面は糸切り後回転箒削りによる内調整が施されている。361～364還元炎焼成の壺で364はカマドから出土した。いずれも成形はロクロで器面調整はロクロナデのみである。底部の切り離し技法は361・363・364は回転糸切り、362は回転箒切りである。また361は口縁部の一部が欠け、焦げ目が付いている。365～370はいずれも酸化炎焼成の壺で非ロクロ成形である。365・367・369は器体両面にハケメ痕が内面は横方向、外表面は縦方向につき、底部はナデ調整が施されている。366の内面は黒色処理、器面の調整はナデが施される。372は還元炎焼成の壺で口縁部のみロクロ、胴部には平行叩き目痕が残る。371はカマドから出土した還元炎焼成の長頸瓶で成形はロクロ、底には低い台が付く。

時期 出土遺物から平安時代の遺構と考えられる。

（瀬）



第62図 24号住居跡



第63図 24号住居跡

25号住居跡

遺構（第64・65図、写真図版46）

＜位置・重複関係＞24N・24Mグリッドに跨って位置し、第1号須恵器埋設遺構に切られ、24号住居跡に接する。南西隅を（21号土坑）土坑に切られる。南東隅で46号階下穴状遺構を切り、床面中央で65号階下穴状遺構を切る。

＜規模・平面形・方向＞639×660cm。総床面積は約42.17m²。西辺がやや斜めになっている方形で、北西隅に半円形の張り出し部を持つ。

＜埋土＞上～中位は黒褐色土。下位は黑色土を基調とする堆積である。床面からは多くの炭化材、焼土が確認され、焼失住居の可能性がある。ただし、炭化材は全てブロック状で、長く続くものはなかった。

＜壁＞垂直に近い角度で立ち上がり、壁面残存高は北壁33cm、南壁21cm、東壁26cm、西壁16cmである。

＜床面＞周縁部分全周にわたり掘り方を持ち、北西隅がやや広く掘り方を持つ。住居中央の焼上のある場所は掘り方が無く、やや固く締まるが、地山が砂質なためかそれほどでもない。

＜上坑＞南東隅に2基（P1、P2）検出したが、角にあるP2の方は、土器が大量に出土したので十坑と認定したが、むしろ床面より上から多く出土したので、特にこの土坑とは関係が無く、柱穴である可能性もある。

＜柱穴＞検出時に13基、掘り方検査時に1基検出された（P3～P17）。ほとんどが不規則な配置だが、床面中央の4基（P6、7、10、16）は方形を描いて並んでいる。また、P3は、やや変わった形をしているが、埋土から特に掘り過ぎではない。

＜周溝＞南西隅が土坑と重複しており、はつきりしないが、ほぼ全周している。底面は平らである。

＜カマド＞なし。

＜炉跡と焼土＞床面中央に焼上が9基検出されている。本住居は焼失住居の可能性があり、これらの焼土もその際に形成された可能性もあるが、23号住居跡の場合と同様に、焼土のある付近は掘り方がないので、使用時から既に形成されていた可能性も多い。特に焼土2は、不整形ながらも、長さ112cm、幅約70cmの規模を持ち、厚さも12cmと厚いことから、がとして使用されていた可能性がある。

＜その他の付属施設＞北西隅に、半円形の張り出し部を持つ。検出時には、カマドの煙道と考えていたが、住居床面との間に段差があり、また焚き口想定部分に焼上が形成されておらず、さらに周囲全体に焼土粒や炭化物がほとんど見られず、別のものと判断した。埋土は住居とほぼ同じであり、土器片が出土している。底面の一部に焼上が見られるが、あまり発達しておらず、これは住居焼失時に形成されたものと思われる。底面は特に固く締まることもないので出入口とも思われず、性格は不明である。

（所見）本遺構は、カマドを持たず、炉の可能性のある焼土の存在、やや変わった柱穴配置、張り出し部の存在から、通常の住居とは考えにくい。工房あるいは作業場の可能性もあるのかも知れない。 （金子）

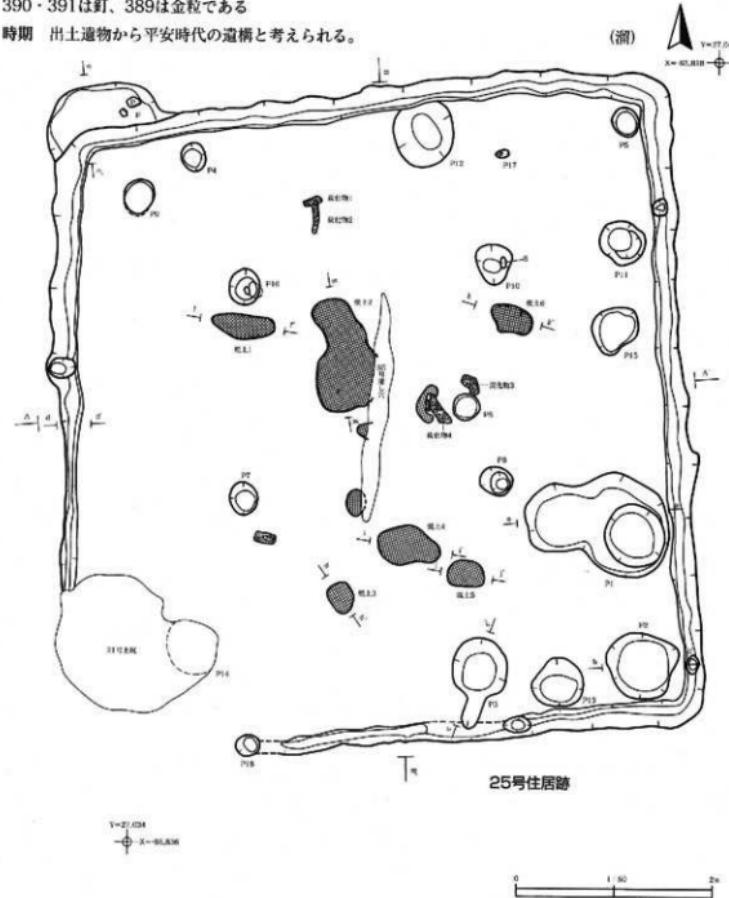
遺物（第128～131図、写真図版95～98）

南東隅のP2付近において住居埋土上層から土坑底面付近まで大量の土器が出土した。その多くは大きな須恵器大甕の破片である。その他は、土器小片が散在する程度だが、特筆すべきことは、住居中央よりやや南西寄りの埋土上層（5層。床面から30～35cm上）から、金粒が出土していることである。その出土位置から、金粒は本住居に伴うとは考えられないが、周囲の住居等に關係する可能性がある。 （金子）

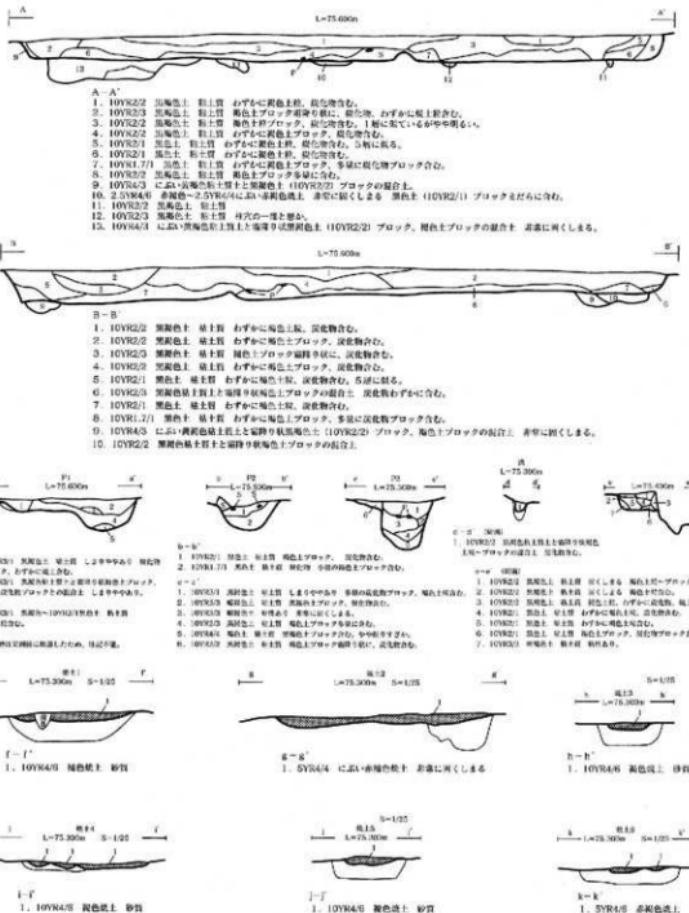
373～376はいずれも酸化炭焼成の環で373は住居貼り床土中、他は住居埋土から出土した。成形はロクロで、

器面調整は373は両面、374は内面が黒色処理されミガキ調整が施されている。375～377は両面ロクロのみによる調整で底部の切り離し技法は374～376は回転系切り、373は切り離し後、ヘラケズリによる再調整が施されている。378・379は酸化炭焼成の甕で379は住居内柱穴（P13）から378は住居埋土から出土した。器面調整は378が両面ナデ、379は外面ナデおよびケズリ、内面はナデが施される。また378の底部には網代痕が残る。380は還元炎焼成の甕で成形はロクロ、器面調整はロクロナデのみである。382～387は還元炎焼成の甕で成形は384～387は輪積み→タタキ一口縁部ロクロナデの順で成形され、382～384は輪積み→タタキ→全体ロクロナデ→器体外面下半ケズリの順に成形されている。金属遺物は388が雁又鎌、390・391は釘、389は金粒である。

時期 出土遺物から平安時代の遺構と考えられる。



第64図 25号住居跡



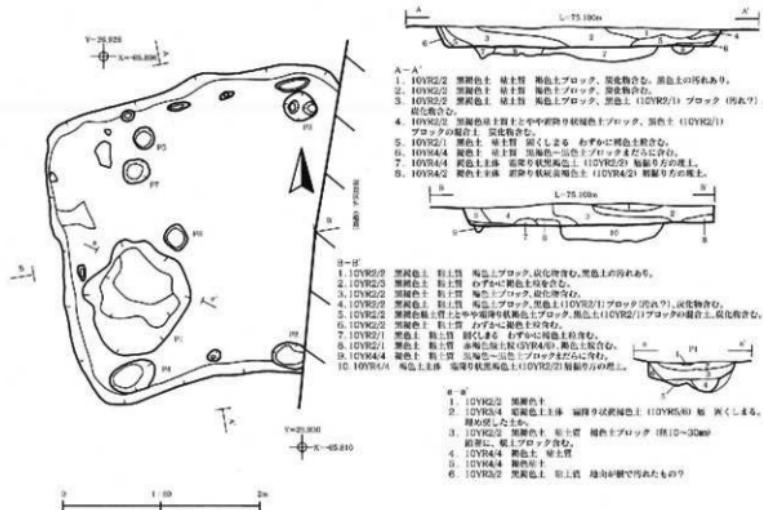
Pn	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9
高さ(cm)	72×67	59×57	55×54	31×29	33×28	35×30	29×26	39×30	
厚さ(cm)	41	25	48	31	19	41	40	31	26
P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18	
40×26 47×41	65×64 54×51	53×51	51×41	38×30	14×8	24×21			
58	25	27	23	27	15	47			

第65図 25号住居跡

26号住居跡

遺構(第66図、写真図版47)

- <位置・重複関係>13K・14Kグリッドに跨って位置する。東側が、調査範囲外の市道(舗装)に続く。
 - <規模・平面形・方向>296×(284)cm。形状は不整形な隅丸方形を呈する。
 - <埋土>壁際に黒色土、褐色土が見られるが、他は何れも黒褐色上で区別がつきにくい。
 - <壁>外反ぎみに立ち上がり、壁面残存高は北壁21cm、南壁17cm、西壁18cmである。
 - <床面>床面は砂質なためか、あまり固く綺まらない。ほぼ全城に掘り方を持ち、特に西側は土坑状に顕著に持つ。
 - <土坑>住居中央よりやや南西側に1基検出したが、不整形でそのまま南西側の掘り方につながってしまっているので(埋土は異なり、土坑の方が黒いが、土坑でない可能性もある)。
 - <柱穴>6基検出した。住居四隅に柱が立つ構造と言えるかも知れない。P7は、下層が埋め戻した土のようなので、P7→P5の作り替えが行われたのかも知れない。
 - <カマド>東側の調査範囲境のはば中央に焼土の一部が見られ、これはカマドの焚き口の可能性が高い。
 - 遺物(第131図、写真図版98)
- 非常に少ないが、北西隅の掘り方付近からは比較的多くの土器小片が出土した。(金子)
- 392は酸化炎焼成の环で成形はロクロ、器面調整は画面ロクロナデ、底部の切り離し技法は回転糸切りによる手法である。(瀬)
- 時期 出土遺物から平安時代の遺構と考えられる。



第66図 26号住居跡

27号住居跡

遺構 (第67・68図、写真図版48)

＜位置・重複関係＞11Lグリッドに位置し、多くの近世の柱穴（建物跡）に攢乱を受けている。

＜規模・平面形・方向＞ $379 \times 424\text{cm}$ 。総床面積 16.06m^2 。平面形は横に長い比較的直線的な圓角方形状を呈する。主軸方向はN-22°-Wである。

＜埋土＞中層（3層）に地山起源の黄褐色土がレンズ状堆積。上層、下層は黒褐色土。中層の赤土は、（A 1 F）住居跡と異なり、全く絡まらず、表面に凹凸もなく、特に土器が上面から並んで出土することないので、単純に住居跡の埋土と判断した。

＜壁＞垂直に近い角度。立ち上がり、壁面残存高は北壁 18cm 、南壁 17cm 、東壁 38cm 、西壁 22cm である。

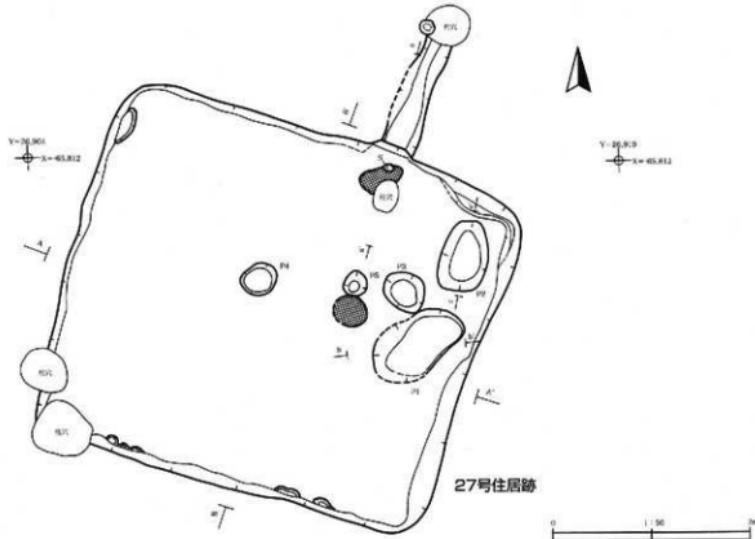
＜床面＞北半分に掘り方を持つが、他の住居ほどはつきりしない。南半分は固く締まる。

＜土坑＞北東隅に1基検出した（P 1）。P 2も規模は大きいが、2つの柱穴が重複しているのを誤って掘ってしまったためである。

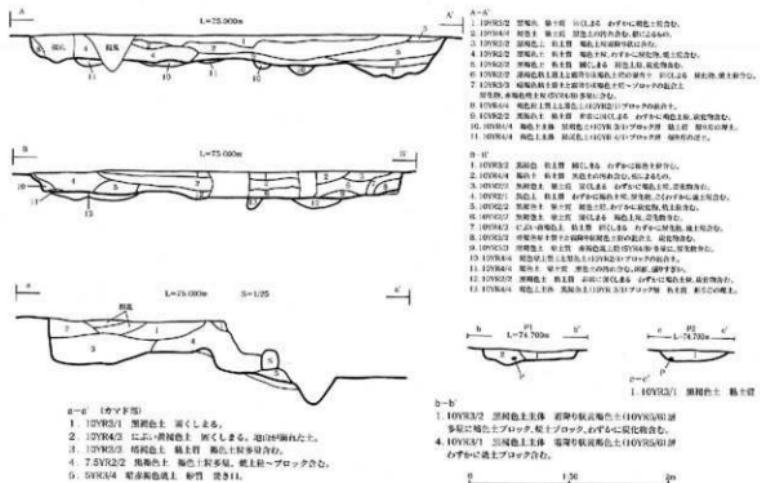
＜柱穴＞上記の2基を合わせて、5基検出したが、不自然な配置である。壁際に柱穴状の小穴も見られるところから、通常とは異なる上層を支える構造であったのかかもしれない。

＜カマド＞北壁やや東寄りに位置する。煙道は、削平を受けているのはつきりしない部分もあるが、掘り込み式のようである。カマド本体はほとんど残っていないが、支脚らしい立石が赤く焼けて残っている。焚き口は、厚さ 6cm にわたって焼上が形成されている。

（金子）



第67図 27号住居跡



第68図 27号住居跡

遺物（第131図・写真図版98）

出土遺物はほとんどないが、カマド煙出付近から完形に近い壺が出土している（265）。ただし周囲は近世の柱穴に搅乱を受けており、現位置を保っているとは思えない。

（金子）

395は酸化炎焼成の壺で成形はロクロで、器面調整は両面ロクロナデ、底部の切り離し技法は回転糸切りによる手法である。396は酸化炎焼成の甕の胴部下～底部の破片で器面調整は両面ハケメ（外面はナデに近い）、底部には木葉痕が残る。

（潤）

時期 出土遺物から平安時代の遺構と考えられる。

28号住居跡

遺構（第69図・写真図版49）

〈位置・重複関係〉 15L、15Mグリッドに跨って位置し、表土下第Ⅲ層で検出された。遺構の過半は調査区外（道路下）にある。37号陥入穴状遺構と重複し、これを切る。

〈規模・平面形・方向〉 規模南北830cm、東西の長さは調査区外へ延びるため不明である。調査区内の総床面積は約19.71m²で平面形は方形形状を呈すると思われる。

〈埋土〉 自然堆積で、上位は黒褐色土、中位は褐色土、下位はに黒色土が堆積している。

〈壁〉 壁はいずれも外傾して立ち上がる。壁面残存高は北壁36cm、南壁42cm、東壁38cmである。

〈床面〉 床面は継い凸があり、やや堅さがある。全体に掘り方をもち、色の微妙に異なる暗褐色混合土が最大30cmの厚さで貼られている。

〈土坑〉 1基検出された。規模は径102×92cm、深さ19cmである。

〈カマド〉 カマドは無く、また床面には炉跡の痕跡もない。

〈その他〉 柱穴状の小土坑が2基検出された。また北側の道路際に土坑状の落ち込みがあり、埋土中から焼土粒や多くの土器片が出土していることから付近にカマドが存在する可能性が高い。

遺物（第132図・写真図版99）

398～400は酸化炎焼成の环で壇上中～下位から出土した。いずれもロクロ成形で、398・399は内面が黒色処理され、ミガキ調整が施されている。底部の切り離し技法は398は切り離し後、回転窓削りによる円調整のため不明、399・400は回転糸切りによる。401は埋土下部より出土した還元炎焼成の环で成形はロクロ、器面調整はロクロナデのみで、底部の切り離し技法は回転糸切りである。402～405はいずれも酸化炎焼成の盤で403～405はP2から出土した。成形は402～404は非ロクロ、405はロクロによる。器面の調整は402は外面はナデ、内面はハケメ、403は口縁部ヨコナデ、外面脚部は縦方向、内面は横方向にハケメ調整が施されている。404は口縁部ヨコナデ、脚部内面ヘラナデ、脚部外面上位はナデ、中～下位はケズリによる調整が施され、底部には木葉痕が残る。405は内面はナデ、外面の脚部上位はタタキ後、ロクロ成形、中～下位はケズリ調整が施されている。

時期 出土遺物から平安時代の遺構と考えられる。

(酒)

29号住居跡（住居状）

遺構（第70図・写真図版50）

〈位置・重複関係〉 24J・25Jグリッドに跨って位置し、表土下第Ⅲ層で検出された。遺構の過半は調査区外にある。16号陥し穴状遺構と重複し、これを切る。

〈規模・平面形・方向〉 規模は東西は削平の影響で計測が不能であるが壁や床の残存高は920cm以上ある。南北は調査区外へ延びるため不明である。調査区内の残存床面積は約51.98m²で平面形は方形状を呈すると推測される。

〈壇上〉 自然堆積で、上～中位は黒褐色土、下位は暗褐色土が堆積している。

〈壁〉 壁はいずれも外傾して立ち上かる。計測可能な壁面の残存高は、南壁18cm、西壁18cmである。

〈床面〉 床面は緩い凹があり、堅さがある。全体的に掘り方をもち、黄褐色土・黒褐色土の混合土が最大18cmの厚さで貼られている。

〈土坑〉 4基検出された。いずれも検出状況や形状が明瞭でなく、住居との関連や用途は不明である。

〈カマド〉 カマドは無く、また床面には炭化物粒が多く散在するが、炉跡の痕跡はない。

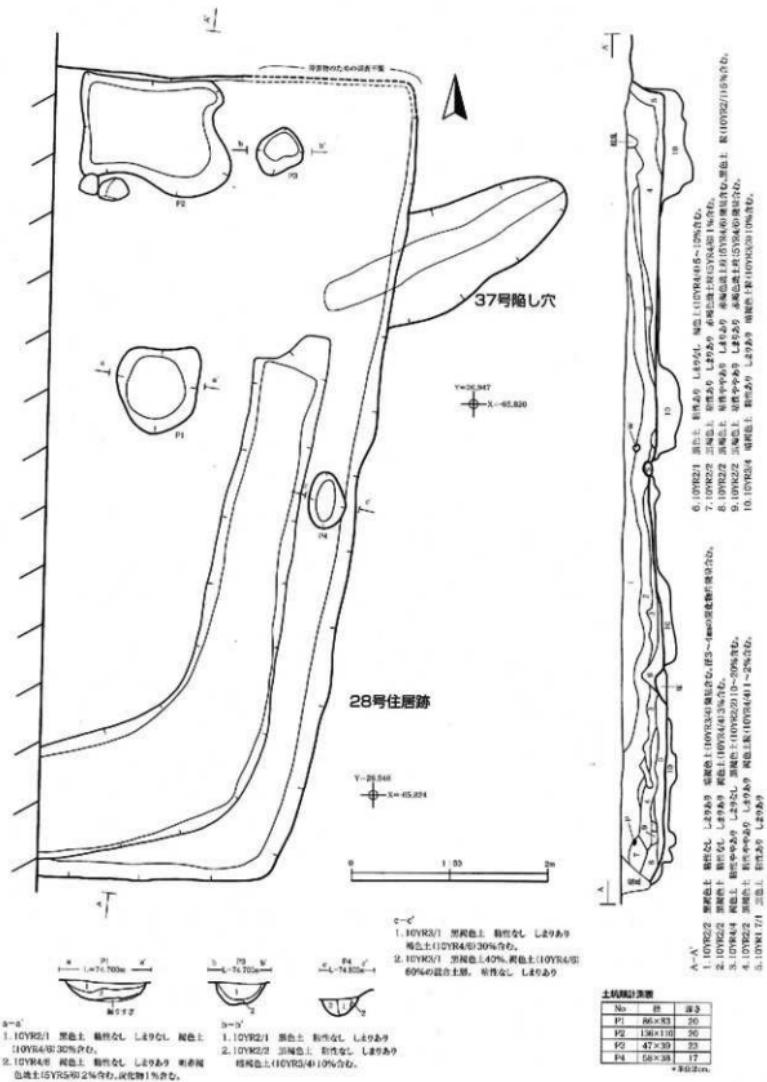
〈その他〉 柱穴状の小土坑が58基検出された。遺構の全体が判らないため配列等、詳細は不明である。また後世の建物跡に因連する柱痕が多く、また柱穴ではなく遺構建設時の掘り込み痕の可能性のものもある。

遺物（第133図・写真図版100）

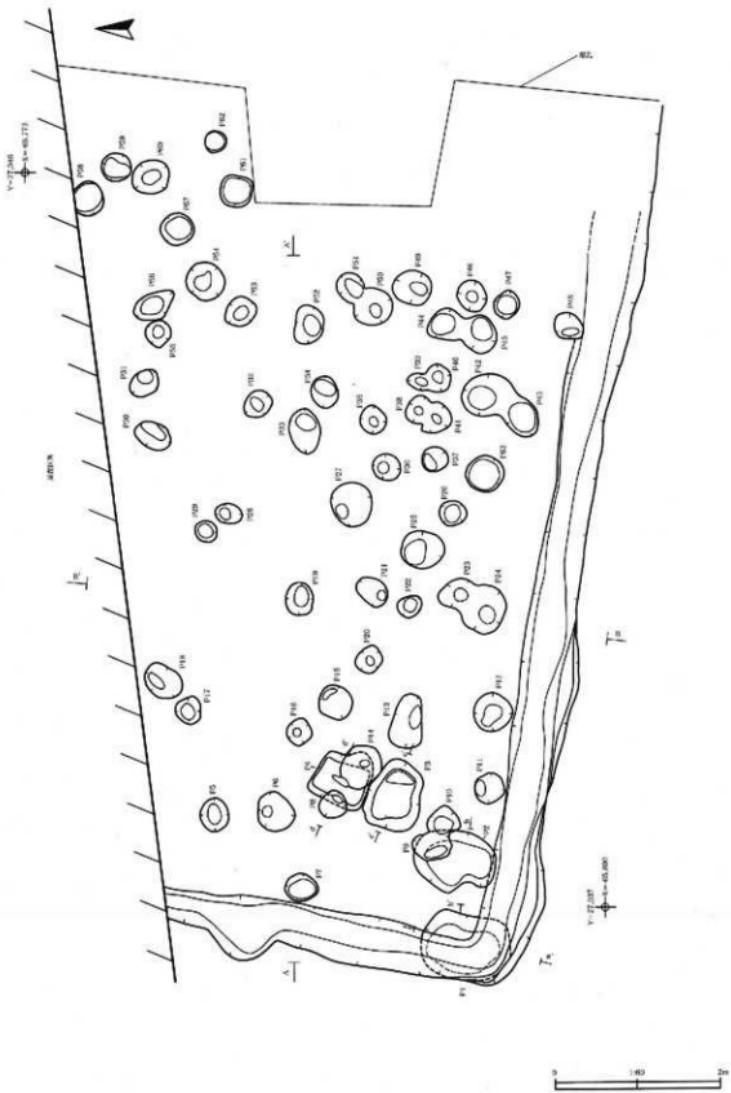
406は貼床土中から出土した酸化炎焼成の环で内面に黒色処理、底部にはケズリが施されている。407は埋土より出土した還元炎焼成の环で成形はロクロ、器面調整はロクロナデのみで、底部の切り離し技法は回転糸切りによる。408・409は埋土より出土した酸化炎焼成の盤で409は口縁～脚部上位部分で器面調整は口縁部ヨコナデ、脚部外縁は縦方向、内面は横方向にナデが施されている。410は還元炎焼成の盤で器面調整は脚部上位はロクロナデ、下半に弱いケズリが施されている。

時期 出土遺物から平安時代の遺構と考えられる。

(酒)

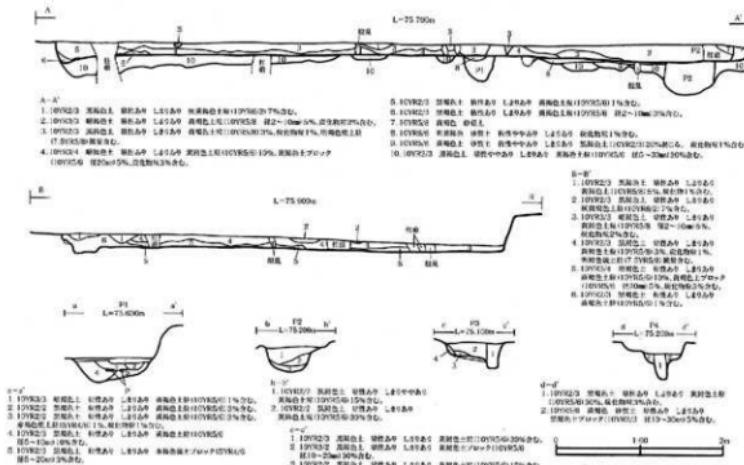


第69図 28号住居跡



第70図 29号住居跡

主数据表														衍生数据		
P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14	P15		
B	158.00	180.77	180.77	185.66	187.04	4.19	49.43	4.16	36.96	24.53	x	x	21.96	47.49	68.34	x
B	30	30	30	32	32	21	31	31	27	26	47	48	48	48	48	48
B	P1	P17	P18	P19	P20	P21	P22	P23	P24	P25	P26	P27	P28	P29	P30	P31
30+29	33+32	33+32	49+37	40+33	26+20	0.01+31	30+25	x	50+40	52+31	54+31	53+25	28+27	44+32	33+29	33+29
70	44	34	24	26	51	57	36	32	34	33	50	39	20	33	38	38
P2	P23	P24	P25	P26	P27	P28	P29	P30	P40	P41	P42	P43	P44	P45	P46	P47
30+31	34+34	34+34	34+34	34+34	34+34	34+34	34+34	34+34	34+34	34+34	34+34	34+34	34+34	34+34	34+34	34+34
22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
2448	P48	P50	P51	P52	P53	P54	P55	P56	P57	P58	P59	P60	P61	P62	P63	P64
30+33	47+47	47	x	46+40	38+33	45+45	30+36	53+33	52+40	42+40	30+34	47+42	40+59	26+39	47+43	47+43
47	12	58	40	27	46	25	23	21	23	28	14	14	13	13	13	13



第71図 29号住居跡

30号住居跡

遺構（第72図、写真図版51）

く位置・重複関係>10L・11Lグリッドに位置し、検出時には、全体の規模、平面形は竪穴住居なのに、埴土が古代というより近世に近かったが、精査の結果中世の竪穴と判った。多くの近世の柱穴（建物跡）に攢乱を受けている。

＜規模・平面形・方向＞335×325cm。総床面積11.01m²。ほぼ方形であるが、南側に張り出し部を持つ。

〈埋土〉古代の穴住居より黒い土に霜降り状に黄褐色土を含む。単層に近く、その性状から埋め戻した土と思われる。近世の柱穴によく似ている。

<壁>垂直に近い角度で立ち上がり、壁面残存高は北壁23cm、南壁18cm、東壁29cm、西壁15cmである。

〈床面〉圓く繋まり、平坦である。

<上記>なし。

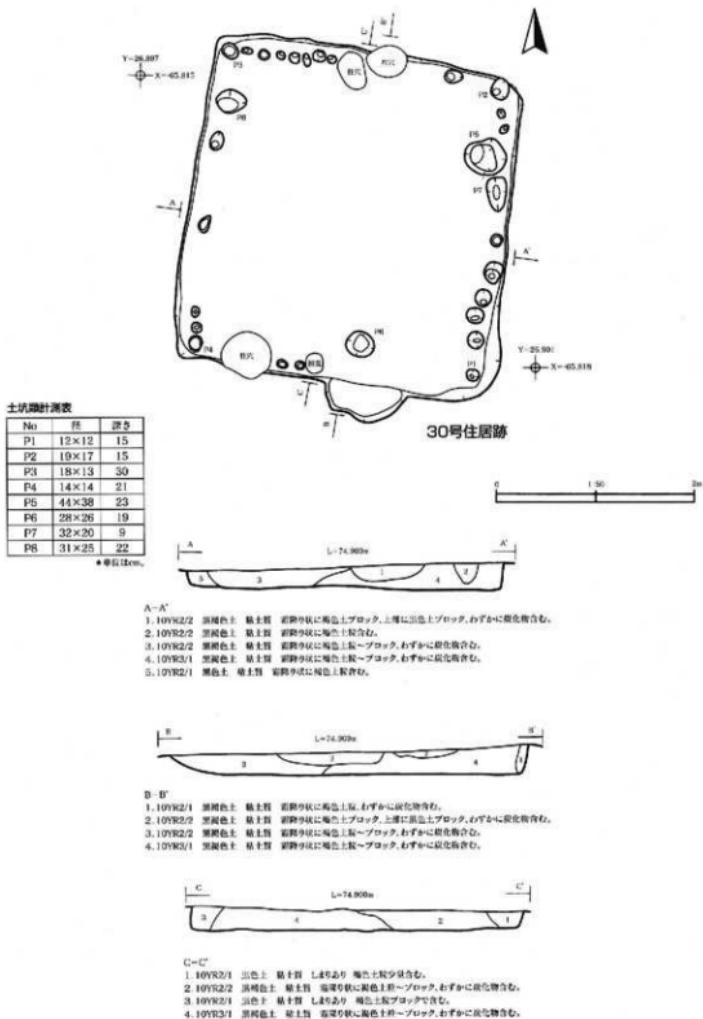
「柱穴」埋土が近世の柱穴と非常によく似ており、擾乱かどうかの区別が難しいが、壁際に小穴が並ぶようである。

〈カマド・炉跡〉など

＜その他の施設＞南壁に半円形の貼り出し部を持つ。住居床面からは階段状ではなくスロープ状に立ち上がる。底面特に困る縦きるといふことない。

時期 出土遺物はないが、類例から中世の堅穴と想われる。

(金面)



第72図 30号住居跡

31号住居跡

遺構 (第73図、写真図版52)

＜位置・重複関係＞15L・15Mグリッドに跨って位置し、検出時には、全体の規模、平面形は竪穴住居だが、埋土は古代というより近世に近いが、精査の結果中世の竪穴と判った。全体的に削平されており、西壁は特に擾乱を受けているようである。また近世の柱穴（建物跡）に擾乱を受けている。

＜規模・平面形・方向＞規模は362×296cm。総床面積は約10.64m²。形状はややひしゃげた隅丸方形であるが、北西隅に張り出し部を持つ。

＜埋土＞古代の竪穴住居より黒色土に霜降り状に黄褐色土を含むが、30号住居跡より明るく、古代の土により近い。埋土の深さは7~9cmと浅く単層で、その性状から埋め戻した土と思われる。近世の柱穴に似る。

＜壁＞削平されているため不明である。

＜床面＞やや凹凸が見られる。地山が砂質であるためか、特に固く締まるということもない。

＜土坑＞土坑と言えるかどうかわからないが、南東部に浅い窪みを検出した。

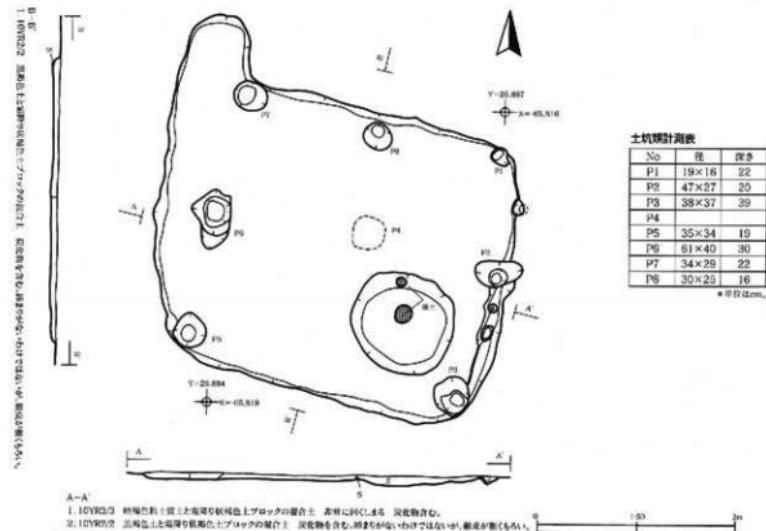
＜柱穴＞埋土が近世の柱穴と非常によく似ており、擾乱かどうかの区別が難しいが、壁際に7基、中央に1基検出した。

＜カマド・炉跡＞前述の土坑の底に焼土を検出。残りが悪いせいか、底が砂質であるためか、あまり発達しておらず、厚さ1cm程度である。

＜その他の施設＞北西隅に半円形の貼り出し部を持つ。住居床面からそのまま続く。底面は特に固く締まるということもない。

時期 出土遺物はないが、類例から中世の竪穴と思われる。

(金子)



第73図 31号住居跡

4. 須恵器埋設遺構

遺構（第74図、写真図版67）・遺物（第133図、写真図版100）

＜位置・検出状況＞24Nグリッドで重機で表土を削いでいる最中に須恵器をひっかけて検出した。

＜重複＞24号住居跡と25号住居跡を切る。

＜マウンド等の所蔵施設・埋土上記のような検出状況のため不明だが、周囲に須恵器大甕の破片が顯著に出土しており、これらで覆っていた可能性もある。（単に周囲の遺構出土のものが混じっているだけかも知れないが。）

＜須恵器の出土状況・掘り方＞検出状況参照。一応掘り方の存在を想定したが、周囲の土とほとんど変わらず、実際には須恵器とほぼ同じ大きさの穴が掘られているだけかも知れない。なお、半裁時に別のものと考えていた1層と2層は、その後同じものであることが判明した。なお、炭化物等は出土していない。

＜須恵器＞検出時に焼されたため口縁部がほとんど残っていないが、頭部が短く肩の張りが弱い、蓋との中间的な形態の壺である。紫波郡紫波町北田字星川にある早川窯跡（相原康二・高橋信雄ほか、1987年「星川窯跡－発掘調査概報－」紫波町教育委員会）産の9世紀後半のものとの指摘を受けた。

＜須恵器内部の状況＞褐色土にロームブロック、ローム粒が混じるボソボソの土が入っていた。

＜付属施設＞ないようである。

＜出土遺物＞周囲から須恵器大甕の破片が出土している他は、特にない。

＜時期・所見＞須恵器の年代および重複している住居の時期から、9世紀後半以降のものと思われる。用途としては、まず骨蔵器などが考えられる。しかし、秋田県を中心として確認されている該期の類例を見ると（庄内昭男 1984「秋田県における古代・中世の火葬墓」『秋田県立博物館研究報告』9、船木義勝 1995「秋田県の奈良・平安時代の墓制について」『第5回 東日本埋蔵文化財研究会 東日本における奈良・平安時代の墓制』栃木県考古学会ほか、八木光則 1997「7～9世紀の墓制－東北北部の様相－」『蝦夷・律令国家・日本海』日本考古学協会1997年度秋田大会実行委員会など）、あまりにその様相は異なっている（掘り方は、はっきりとした土坑の形態をとるものが多い。通常木炭が伴うようだが、本例には見られない。使われる容器の種類や形態において、本例と同じものは少ない、など）。岩手県においても、同様の例が北上市などに見られるが（高橋千晶 1995「岩手県の奈良・平安時代の墓制について」『第5回 東日本埋蔵文化財研究会 東日本における奈良・平安時代の墓制』栃木県考古学会ほか、など）、これらは土師器の要を使っており、違いの方が際だつ。今後の類例の増加を待つことにしたい。

（金子）

1号須恵器埋設遺構



第74図 須恵器埋設遺構

5. 焼土遺構

調査区西側のE区で14基の焼土遺構を検出した。平面形の形状は円、梢円、瓢箪状を呈し、外郭の一部に焼土が確認された。出土遺物はなく、時期は不明である。

(説)

1号焼土 (第75図、写真図版63)

〈検出状況〉 13Mグリッドに位置し、第II層で検出された。

〈規模・平面形〉 平面形は糸瓜状を呈し、規模は171×80cm、焼成の厚さは最大で11cmである。

〈堆積状況〉 黒褐色土が表面に薄く堆積し、炭化物層、焼土層と続く。断面形はレンズ状の構造をしている。

遺物 なし。

2号焼土 (第75図、写真図版63)

〈検出状況〉 12Mグリッドに位置し、第II層で検出された。

〈規模・平面形〉 平面形は円形を呈し、規模は86×84cm、焼成の厚さは最大で10cmである。

〈堆積状況〉 土坑状の掘り込みになっており、堆積土の断面形はレンズ状を呈する。黒褐色土が表面中央に薄く堆積し、その両端に橙色焼土が堆積する。下部には炭化物が多く含まれる。

遺物 なし。

3号焼土 (第75図、写真図版64)

〈検出状況〉 12Mグリッドに位置し、第II層で検出された。

〈規模・平面形〉 平面形は円形を呈し、規模は106×82cm、焼成の厚さは最大で14cmである。

〈堆積状況〉 土坑状の掘り込みになっており、焼土粒はその上～中位に多く堆積する。炭化物は全体に比較的小量含まれる。

遺物 なし。

4号焼土 (第76図、写真図版64)

〈検出状況〉 11Nグリッドに位置し、第II層で検出された。

〈規模・平面形〉 平面形は梢円形を呈し、長軸の長さは206cm、焼成の厚さは最大で7cmである。

〈堆積状況〉 土坑状の掘り込みになっており、堆積土の断面形はレンズ状を呈する。黒褐色土が表面を覆い、中位に暗褐色焼土層が薄く堆積する。炭化物は全体に少量含まれる。

遺物 なし。

5号焼土 (第76図、写真図版64)

〈検出状況〉 11Mグリッドに位置し、第II層で検出された。

〈規模・平面形〉 平面形は不整な梢円形を呈し、長軸の長さは180cm、焼成の厚さは最大で9cmである。

〈堆積状況〉 土坑状の掘り込みになっており、黒褐色土が表面を覆い、中位に赤褐色焼土層、下位に炭化物層が堆積する。

遺物 なし。

6号焼土（第76図、写真図版64）

〈検出状況〉 11Mグリッドに位置し、第II層で検出された。

〈規模・平面形〉 平面形は瓢箪状を呈し、長軸の長さは136cm、焼成の厚さは最大で13cmである。

〈堆積状況〉 上坑状の掘り込みになっており、堆積土の断面形はレンズ状を呈する。黒褐色土が表面を覆い、中位に暗褐色焼土層、炭化物層の順に堆積し、下位に黒色土が堆積する。

遺物 なし。

7号焼土（第76図、写真図版65）

〈検出状況〉 11Mグリッドに位置し、第II層で検出された。

〈規模・平面形〉 平面形は縦長の不正な形状で、長軸の長さは144cm、焼成の厚さは最大で8cmである。

〈堆積状況〉 全体に明褐色、橙色焼上粒を含み、焼土層はレンズ状に堆積する。

遺物 なし。

8号焼土（第76図、写真図版65）

〈検出状況〉 11Mグリッドに位置し、第II層で検出された。

〈規模・平面形〉 平面形は瓢箪状を呈し、長軸の長さは180cm、焼成の厚さは最大で11cmである。

〈堆積状況〉 上坑状の掘り込みになっており、堆積土の断面形はレンズ状を呈する。堆積土の構造は黒褐色土が表面を覆い、中位は橙色焼上層、下位は黒褐色、暗褐色土となっている。

遺物 なし。

9号焼土（第76図、写真図版64）

〈検出状況〉 11Mグリッドに位置し、第II層で検出された。

〈規模・平面形〉 平面形は不整な円形状を呈し、規模は113×87cm、焼成の厚さは最大で11cmである。

〈堆積状況〉 上坑状の掘り込みになっており、堆積土の断面形はレンズ状を呈し、構造は黒褐色土が表面を覆い、中位は褐色焼土層、下位は黒色土となっている。

遺物 なし。

10号焼土（第76図、写真図版64）

〈検出状況〉 11Mグリッドに位置し、第II層で検出された。

〈規模・平面形〉 平面形は不整な形状を呈し、規模は104×90cm、焼成の厚さは最大で7cmである。

〈堆積状況〉 上坑状の掘り込みになっており、表面中央は黒褐色土で焼土層はレンズ状に堆積する。

遺物 なし。

11号焼土（第76図、写真図版65）

〈検出状況〉 11Mグリッドに位置し、第II層で検出された。

〈規模・平面形〉 平面形は不整な形状を呈し、規模は86×64cm、焼成の厚さは最大で2cmである。

〈堆積状況〉 上坑状の掘り込みになっており、表面には炭化物が堆積し、焼土層の範囲は狭い。

遺物 なし。

12号焼土（第77図、写真図版65）

〈検出状況〉 10Mグリッドに位置し、第II層で検出された。

〈規模・平面形〉 平面形は不整な梢円形状を呈し、規模は90×51cm、焼成の厚さは最大で12cmである。

〈堆積状況〉 土坑状の掘り込みになっており、表面は黒色土、褐色焼土が塗がり、焼土層は南側にレンズ状に延びる。

遺物 なし。

13号焼土（第77図、写真図版65）

〈検出状況〉 10Nグリッドに位置し、第II層で検出された。

〈規模・平面形〉 平面形は瓢箪状を呈し、長軸の長さは153cm、焼成の厚さは最大で4cmである。

〈堆積状況〉 土坑状の掘り込みになっており、上位と下位に焼土が堆積する。全体に炭化物が多く含まれる。

遺物 なし。

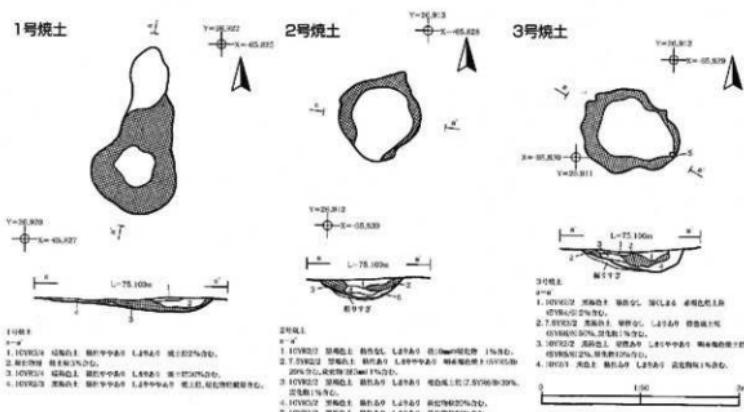
14号焼土（焼土群）（第77図、写真図版65）

〈検出状況〉 13M・13Nグリッドに跨って位置し、第II層で検出された。

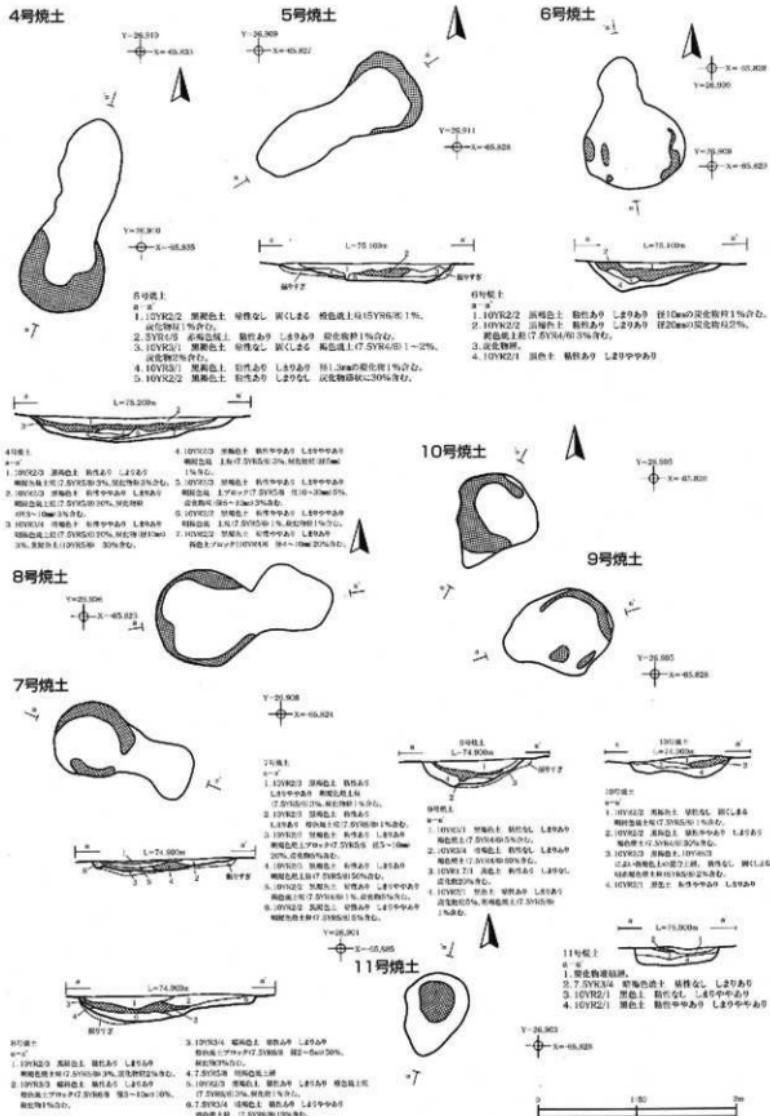
〈規模・平面形〉 焼土状遺構が密集しており、少なくとも3基が確認された。堆積状況から異なる時期の遺構と思われる。いずれも不整な長梢円形状を呈し、長軸の長さは210～230cm、焼成の厚さは最大で15～19cmである。

〈堆積状況〉 土坑状の掘り込みになっており、表面に検出された焼土はU字状に堆積する。

遺物 なし。

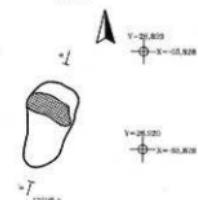


第75図 1～3号焼土

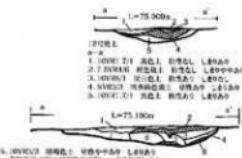


第76図 4~11号焼土

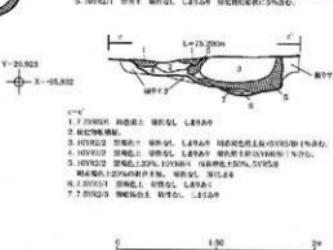
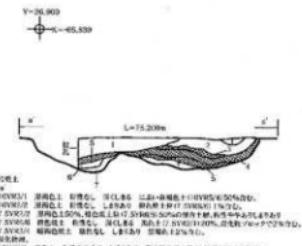
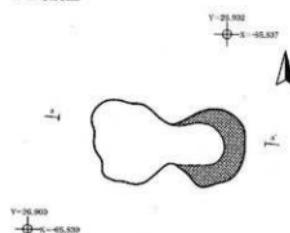
12号焼土



1. H0102/3 灰褐色土、有機質や砂利、L6cmあり。表面に瓦片の跡がある。
2. H0102/2 灰褐色土、有機質、L6cmあり。表面に瓦片の跡がある。
3. H0102/1 灰褐色土、有機質、L6cmあり。表面に瓦片の跡がある。
4. H0102/0 灰褐色土、有機質や砂利、L6cmあり。表面に瓦片の跡がある。



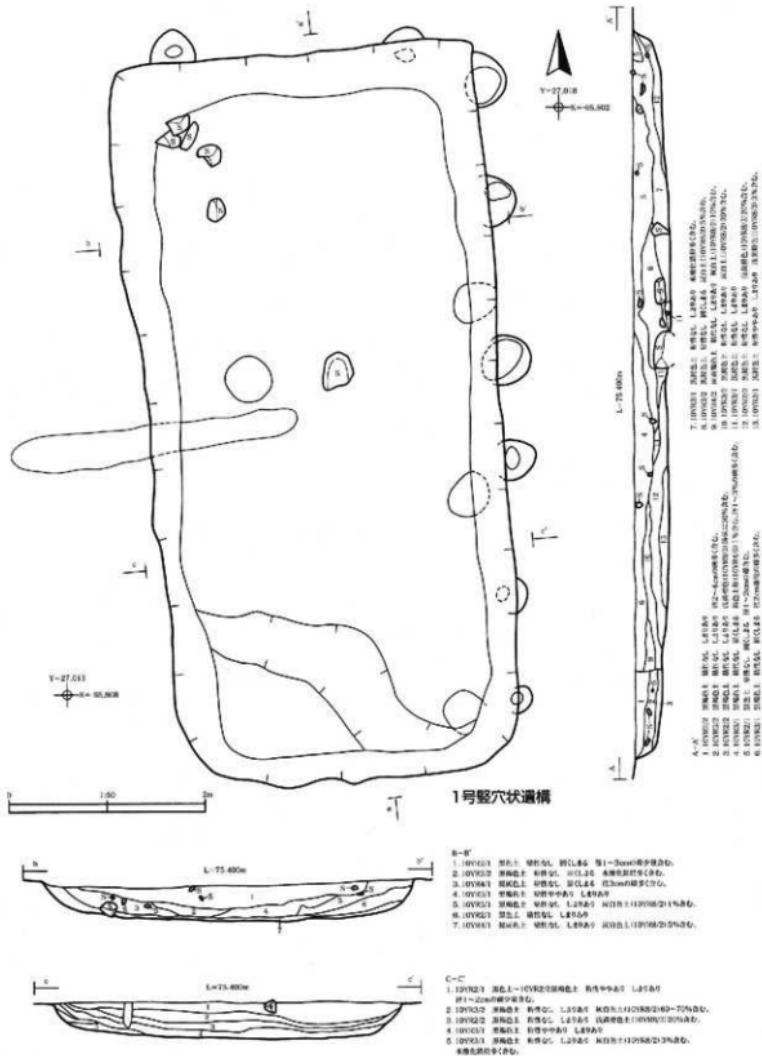
13号焼土



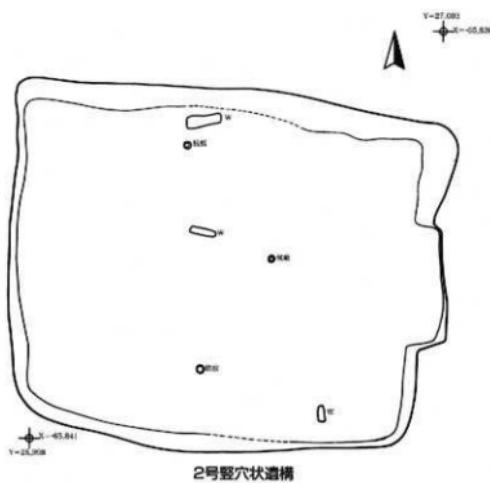
第77図 12~14号焼土

6. 壺穴状遺構

3基が検出された。いずれも検出状況や重複関係などから近世以降の遺構と考えられるが、その用途など詳細は不明である。



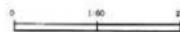
第78図 1号竖穴状遺構



2号竪穴状遺構



3号竪穴状遺構



第79図 2号・3号竪穴状遺構

7. 墓塚

22Kグリッドから2基検出された。いずれも同じくらいの規模で遺構上面は削平を受けている。伝承によると、江戸時代～昭和初期にこの地を所有していた小野崎氏ゆかりの墓ではないかと云われている。

1号墓塚

遺構（第80図、写真図版69）

＜位置・重複関係＞22Kグリッドに位置する。重複する遺構はない。

＜平面形＞形状は不整な長方～椭円形を呈し、規模は172×112cmである。

＜埋土＞中央部は黒褐色、暗褐色上、南側の壁際には暗褐色土、黄褐色土の混合土が堆積している。深さは20cmである。

＜壁・底面＞壁面は緩い角度で立ち上がり、床面は平坦でやや傾斜する。

時期 出土遺物はないが、埋土の状態などから近世～近代に属すると考えられる。

2号墓塚

遺構（第80図、写真図版69）

＜位置・重複関係＞22Kグリッドに位置する。重複する遺構はない。

＜平面形＞形状は長方形を呈し、規模は151×102cmである。

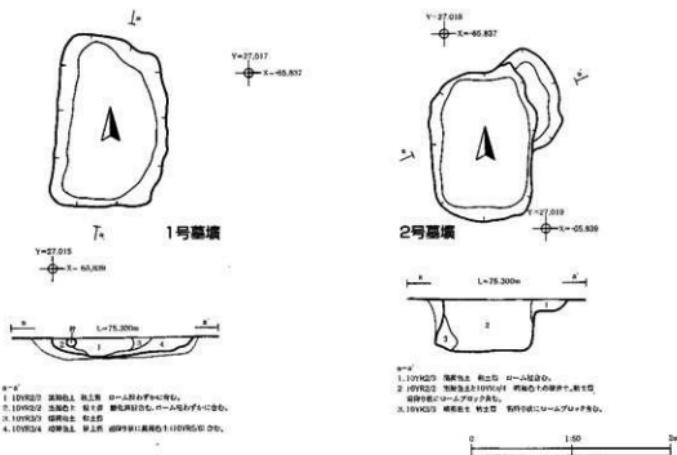
＜埋土＞黒褐色土に霜降り状に暗褐色土が混合した層で、深さは約54cmである。

＜壁・底面＞壁面は垂直に立ち上がり、床面は平坦である。

遺物（第138図、写真図版102）

底から古錢が11点出土した。銅錢9点、鉄錢2点で、いずれも寛永通宝である。

時期 出土遺物や、検出状況、埋土の状態などから近世～近代に属すると考えられる。



第80図 1号・2号墓塚

B. 溝状遺構（第81～84図、写真図版67～69）

13条検出された。道路西側調査区に10条、道路を跨ぐもの1条、道路東側調査区に2条で7割7分が道路西側調査区で検出されている。3号溝を除いた11条の溝は削平を受けるか、調査区外へ続くため全容は明らかではない。調査区内で上端幅の最小は24cm、最大は206cm、下端幅の最小は6cm、最大が180cm、深さの最小は8cm、最大が72cmである。時期は出土遺物などから1号・2号溝は古代の溝と考えられる。他の11条の溝の時期は不明だが埋土等から近世の可能性が考えられる。

それぞれの溝の位置・規模等については観察表に記載した。表の補足としていくつかの溝について取り上げる。

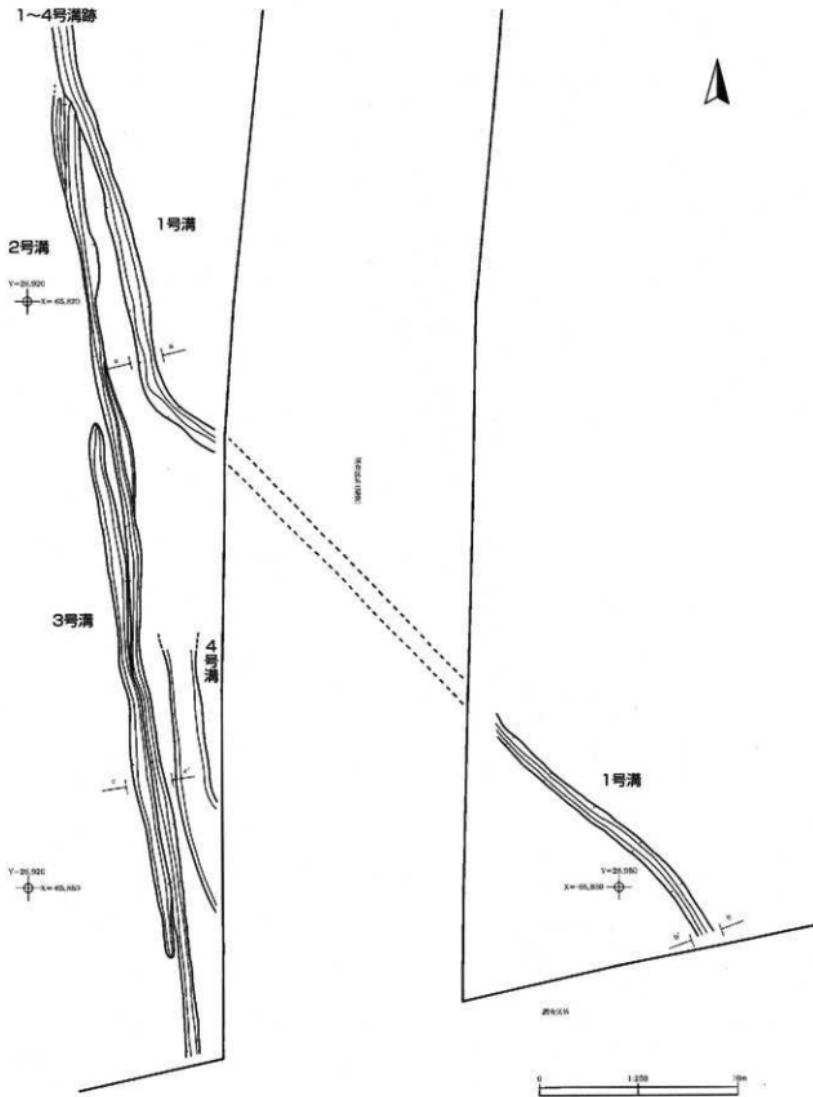
1号溝は道路東側調査区と道路西側調査区に検出されたものを埋土や断面等から同一のものと考え1条とした。南東→北西方向に走行し、13Mグリッドで緩やかに湾曲して南南東→北北西方向に走行している。180グリッドでは18号上坑と重複関係を持ち、溝の方が新しい。

7・8号溝は西北西→東南東方向に走行し13Pグリッドで屈曲して北北西→南南東方向に走行する。7号溝は8号溝より新しい。12Pグリッドでは7号溝は27号土坑と、8号溝は28号土坑と重複関係を持つが、いずれも土坑の方が新しい。
(熊谷)

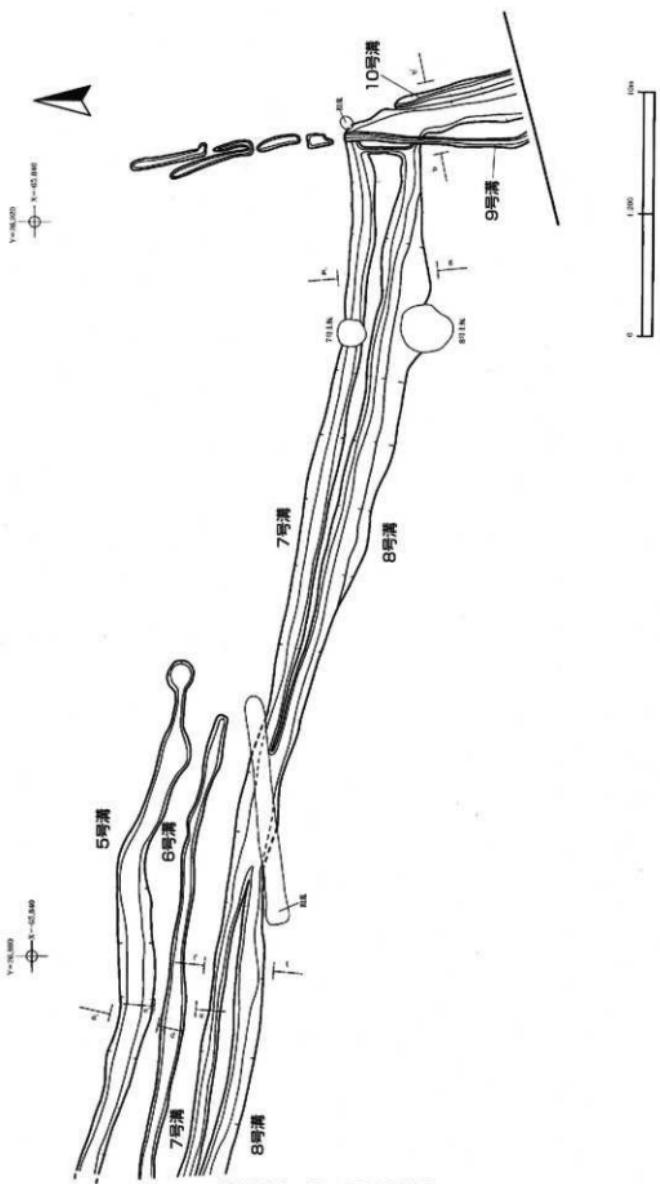
溝状遺構観察表

溝名	位 置	方 向	全長	上端幅	下端幅	深さ	断面形	埋 土	出土遺物	備 考
1号溝 14M	13K・L・M 14M	南東→北東 南南東→北北東	(58.3)	70~120	14~47	72	上部が開く U字状	全体が黒褐色土	445~455	2号溝より古く18号土坑より新しい。 調査区外へ続く。
2号溝 13K~13P	南南東→北北東	48.1	42~77	14~36	24	U字状	全体が黒褐色土	456~457	1号溝より新しく3号溝より古い。 調査区外へ続く。	
3号溝 13M~13P	南南東→北北東	27.6	43~102	18~55	23	上部が開く U字状	上位は黒褐色土 下位は黒褐色土	458~459	2号溝より新しい。	
4号溝 13N~13O	北北西→南南東	12.2	133~206	103~180	24	不明	不明			調査区外へ続く。
5号溝 90~110	西北西→東南東	21.4	33~145	20~78	25	浅皿状	上位は暗褐色土 下位は黒褐色土			調査区外へ続く。
6号溝 90~100	西北西→東南東	19.3	32~93	11~67	10	上部が開く U字状	全体が黒褐色土			調査区外へ続く。
7号溝 9~100, 11~12~13P	西北西→東南東 北北西→南南東	50.3	42~108	18~48	28	上部が開く U字状	全体がほほ黒褐色土			9~10号溝・17号上坑より古く8号溝より新しい。
8号溝 9~100, 11~12~13P	西北西→東南東 北北西→南南東	47.8	66~113	14~80	26	浅皿状	全体がほほ黒褐色土	460	7~9~10号溝・28号土坑より古い。 調査区外へ続く。	
9号溝 13P	北→南	7.6	24~36	10~23	8	上部が開く U字状	全体が黒褐色土	461	7~8号溝より新しい。 調査区外へ続く。	
10号溝 13P	北北西→南南東	4.9	43~46	6~13	15	上部が開く U字状	全体が黒褐色土			7~8号溝より新しい。 調査区外へ続く。
11号溝 7~8M~ 7~8N	南南西→北北東	14.6	48~94	26~75	29	U字状	全体が黒褐色土			36号溝にびより新しい。 北部削平を受ける。
12号溝 23K~23L	南南西→北北東	16.9	44~73	32~51	17	不明	不明			9~10号溝にびより新しい。 調査区外へ続く。
13号溝 23N~27N	西→東	38.1	40~98	14~30	72	不明	不明			東部削平を受ける。

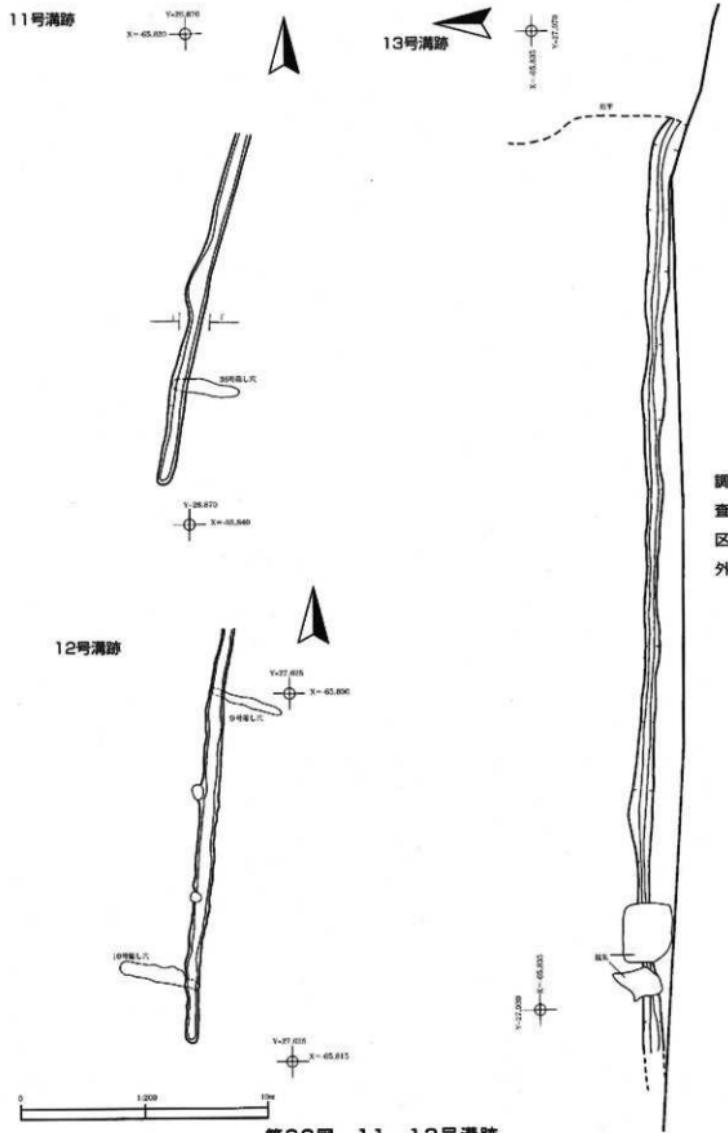
* 単位は全長はm、他はcm。



第81図 1~4号溝跡

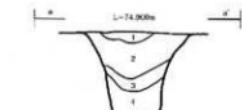


第82図 5~10号溝跡



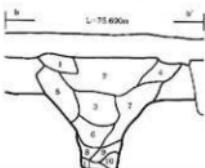
第83図 11～13号溝跡

1号港(西侧)



1. 可憐
2. 一
3. 1.0V9503 青色西上 電性あり しまりやう 青黄色西上(10V9501)1%赤
2. 0.9V8512 青色西上 電性あり しまりやう 青黄色西上(0.9V8502)1%赤
電性青土黒(1.0V9503) 0.9V9502 1%赤
3. 0.9V9512 青色西上 電性あり しまりやう 青色西上(0.9V9512)2%赤
青色黒(0.9V9512) 0.9V9512 2%赤
4. 0.9V9212 黑色西上 電性あり しまりやうやあれ 黑色西上(0.9V9212)4%赤
黒色(0.9V9212) 0.9V9212 4%赤

1号洞(左侧)



1. 10V323 電線被覆上等電線 鋼絲に包塑電線。ブロッカ多孔化。
 2. 10V324 電線被覆上等電線 オブンに包塑電線仕様。
 3. 10V325 電線被覆上等電線 鋼絲上、耐熱130℃。ブロッカ仕様。
 4. 10V327 電線被覆上等電線
 5. 10V328 電線被覆上等電線
 6. 10V329 高熱電線。高熱に耐える電線。耐熱150℃。
 7. 10V330 電線被覆上等電線 CCA-CB-SG。耐熱に耐水性に優れた電線。

8. 10V331 電線被覆上等電線 鋼絲に包塑電線仕様。
 9. 10V332 電線被覆上等電線 鋼絲に包塑電線仕様。
 10. 10V333 電線被覆上等電線 鋼絲に包塑電線仕様。
 11. 10V334 電線被覆上等電線 鋼絲に包塑電線仕様。

2·3号洞



- 3号店
c'c'
1. 199302 道場上、女性や中学生 10:30AM 美容室上院の約90%が2%ある。
2. 199303 道場上、女性や中学生 10:30AM 美容室上院の約90%が2%ある。
3. 199303 道場上、女性や中学生 10:30AM 美容室上院の約90%が2%ある。
4. 199303 道場上、女性や中学生 10:30AM 美容室上院の約90%が2%ある。

304

5. HV203(3) 頭部色々上部の青色を上プロトタイプHV203型 85~100mm幅 実性や人
事あり

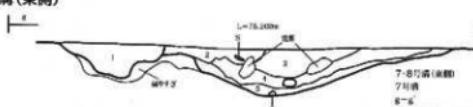
6. HV204(4) 頭部色々 類似や少しより しまりかみ 頭部色々はHV203の10%位む。
7. HV204(1) 頭部色々 類似や少しより しまりかみ 頭部色々はHV203の10%位む。
8. HV205(3) 頭部色々 類似や少しより しまりかみ 頭部色々はHV203の10%位む。

6



- 1.1GYR3/2 黒褐色土、無性子やあり
1.2GYR3/2 黒褐色土、無性子やあり

7層樓(南側)



- $$L = 75.1039$$

7·8号湖(西侧)



- YR3/4 茄褐色土 細かなし しまりあり 黄褐色土粒(10YR5/6)を含む。
YR3/3 削褐色土 細かなし しまりあり 黄褐色土粒(10YR5/6)を含む。
ND5/4 鹿鳴かす 細かなし しまりなし 黄褐色土粒(10YR5/6)を含む。

7-10号期



- | | | |
|-------|-------------------------|---|
| 7-10月 | 7月後
8月
9月
10月 | 1. 10Y93/1 黒葉包帯 動性なし しまりあり 桜色土包帯(10YR
6/1) 2. 10Y93/2 黒葉包帯 動性なし しまりあり
3. 10Y93/3 黒葉包帯 動性なし しまりあり
4. 10Y93/4 黒葉包帯 動性なし しまりあり |
| 11月 | 11月後
12月
1月
2月 | 1. 10Y93/1 黒葉包帯 動性あり しまりあり 桜色土包帯(10YR
6/1) 2. 10Y93/2 黒葉包帯 動性なし しまりあり
3. 10Y93/3 黒葉包帯 動性あり しまりあり 桜色土包帯(10YR
6/1) 4. 10Y93/4 黒葉包帯 動性なし しまりあり
5. 10Y94/1 黒葉包帯 動性あり しまりあり 桜色土包帯(10YR
6/1) |
| 3-4月 | 3月後
4月
5月
6月 | 1. 10Y94/1 黒葉包帯 動性あり しまりあり 桜色土包帯(10YR
6/1) 2. 10Y94/2 黒葉包帯 動性なし しまりあり
3. 10Y94/3 黒葉包帯 動性あり しまりあり 桜色土包帯(10YR
6/1) 4. 10Y94/4 黒葉包帯 動性なし しまりあり
5. 10Y94/5 黒葉包帯 動性あり しまりあり 桜色土包帯(10YR
6/1) |
| 5-6月 | 5月後
6月
7月
8月 | 1. 10Y94/1 黒葉包帯 動性あり しまりあり 桜色土包帯(10YR
6/1) 2. 10Y94/2 黒葉包帯 動性なし しまりあり
3. 10Y94/3 黒葉包帯 動性あり しまりあり 桜色土包帯(10YR
6/1) 4. 10Y94/4 黒葉包帯 動性なし しまりあり
5. 10Y94/5 黒葉包帯 動性あり しまりあり 桜色土包帯(10YR
6/1) |
| 7-8月 | 7月後
8月
9月
10月 | 1. 10Y94/1 黒葉包帯 動性あり しまりあり 桜色土包帯(10YR
6/1) 2. 10Y94/2 黒葉包帯 動性なし しまりあり
3. 10Y94/3 黑葉包帯 動性あり しまりあり 桜色土包帯(10YR
6/1) 4. 10Y94/4 黑葉包帯 動性なし しまりあり
5. 10Y94/5 黑葉包帯 動性あり しまりあり 桜色土包帯(10YR
6/1) |

11分濃
1-10
1. 10YR5/4
赤土と土色土色(10YR4/4)の混合土
触感あり。少し硬さ有り。
2. 10YR5/2
風化土。触感あり。少し硬さ有り。
黄褐色土と黒褐色(10YR5/2と30M)50%合せ
混ぜる。
3. 10YR4/6
2層地。触感あり。少し硬さ有り。
褐色土と黒褐色(10YR4/4-5-20M)50%合せ
黒褐色土(10YR5/2)50%合せ。

第84図 溝跡（断面）

9. 挖立柱建物跡・柱穴列

今回の調査では、柱穴状土坑は基検出された。主にC区東端とD区西端から検出されている。C区西端、D区東端、及びH区は削平され、ほとんど検出されなかった。これらの柱穴状土坑群から、計17棟の掘立柱建物跡と8基の柱穴列を推定し、検出された順に付番した。

検出された柱穴からの出土遺物は少なく、さらに時期を決定づける様なものも無かつたため、ほとんどの掘立柱建物跡の年代を特定できなかった。構造的に見て、ある程度年代を絞り込むことが出来ると思われるものもあったが、推測の域を出ることはできなかった。なお、〔1尺=30.3cm、1坪=3.3m²〕として換算した。

またこれ以外に建物が建てられたと推定できる場所もあるが、建物跡を構成する柱穴の並びや計測値などに不確定な要素があるため建物跡として登録は行わず、柱穴群とした。
(松川)

1号掘立柱建物跡 (第85図)

＜位置＞グリッド [150～15P～16O～16P] (D区) に位置する。

＜規模＞桁行5間 (全長12.34m=40.7尺-北列)、梁行3間 (全長5.89m=19.4尺-東列) の東西棟建物で、延べ床面積は72.68m² (22.0坪) である。平均柱間寸法は、桁行2.47m (8.1尺)、梁行1.96m (6.5尺) である。

＜平面形式＞擾乱のために特に南側部分のプランがはっきりしないが、3間×4間の直屋と思われる。東側に仕切のための柱穴があることから、上手は東である。

＜主軸方向＞梁の主軸方向は [N-1.5°-E] である。

＜柱穴＞各柱穴の規模は、観察表に記してある。柱痕跡、底のグライ化は1基づつ見られるが、木根による擾乱を受けているために詳細不明。埋土はすべて霜降り状。

＜重複関係＞21号住居跡・17号掘立柱建物跡・1号溝跡と重複するが、新旧関係を示すものはなく不明。

＜建物の性格＞調査区域外にかかっているため詳細は不明だが、規模や形状から住居と思われる。

時期 形状および柱間寸法から推測すると、17世紀後半以降のものと考えられる。

(松川)

2号掘立柱建物跡 (第85図)

＜位置＞グリッド [17O～18O] (D区) に位置する。

＜規模＞桁行3間 (全長6.04m=19.9尺-北列)、梁行1間 (全長5.41m=17.9尺-西列) の東西棟建物で、延べ床面積は32.68m² (9.9坪) である。平均柱間寸法は、桁行2.03m (6.7尺)、梁行5.39m (17.8尺) である。

＜平面形式＞1間×3間の直屋である。

＜主軸方向＞梁の主軸方向は [N-3°-E] である。

＜柱穴＞各柱穴の規模は、観察表に記してある。6基に柱痕跡が見られる。北列のP1085～P1088は柱穴の規模が大きく (平均52×44cm 39cm深)、南列のP1089～P1092は小さい (平均30×23cm 14cm深)。

北列4基には柱痕跡があり、底には柱の重みでグライ化した部分 (※) が円形に残っている。南列のP1092の柱痕跡は、検出面で直径17cm。P1091底のグライ化した部分は直径18cmである。

＜重複関係＞なし。

＜建物の性格＞規模と形状から見て、倉庫的建物と思われる。

時期 不明。

(松川)

3号掘立柱建物跡（第85図）

＜位置＞グリッド【18N～18O】(D区)に位置する。

＜規模＞桁行4間（全長5.04m=16.6尺-北列・下屋柱）、梁行1間（全長1.40m=4.6尺-西列）。建物北側部分と見られる。検出された延べ床面積は7.06m² (2.1坪)である。平均柱間寸法は、下屋柱の桁行1.26m (4.2尺)、上屋柱の桁行2.43m (8.0尺)、梁行1.39m (4.6尺)である。

＜主軸方向＞梁の主軸方向は【N-6.5°-W】である。

＜柱穴＞各柱穴の規模は、観察表に記してある。北列のP1～P5は規模が小さく（平均24×17cm 13cm深）、南列のP1005～P1007は規模が大きい（平均40×33cm 22cm深）。北列は下屋柱、南列は上屋柱と考えられる。上屋柱は、下屋柱に対して1間おきに配されている。埋土は一様に黒色土（10YR 1.7/1）で、わずかに褐色土（10YR 4/6）を含む。

＜重複関係＞17号土坑と重複する。当遺構が17号土坑を切っているので、当遺構が新しい。

＜建物の性格＞住居の北部分と推測される。

時期 上屋柱を1間おきに配する建築法は、19世紀初頭以降。また、掘立柱の住居は近代以降には姿を消すことから、19世紀前半のものと考えられる。

(松川)

4号掘立柱建物跡（第85図）

＜位置＞グリッド【11K～11L～12K～12L】(C区)に位置する。

＜規模＞桁行3間（全長4.75m=15.7尺-北列）、梁行2間（全長3.87m=12.8尺-西列）の東西棟建物で、延べ床面積は18.38m² (5.6坪)である。平均柱間寸法は、桁行1.59m (5.2尺)、梁行1.94m (6.4尺)である。

＜平面形式＞2間×3間の直屋である。

＜主軸方向＞梁の主軸方向は【N-1°-W】である。

＜柱穴＞各柱穴の規模は、観察表に記してある。P596・P597・P599・P600・P602の各柱穴で柱痕跡が確認されている。検出面での直径は15～19cm（平均16.6cm）で、形は円形である。

柱痕跡はシルト質の黒褐色土（10YR 2/2）。その周りの埋土は、黒褐色土（10YR 2/3）に褐色土（10YR 4/4）が霜降り状に混入したものである。

＜重複関係＞5号掘立柱建物跡と重複する。新旧関係は不明。

＜建物の性格＞規模や形状から見て、倉庫の建物と思われる。

時期 不明。

(松川)

5号掘立柱建物跡（第86図）

＜位置＞グリッド【10L～11K～11L】(C区)に位置する。

＜規模＞桁行6間（全長11.22m=37.0尺-南列）、梁行2間（全長5.03m=16.6尺-東列）の東西棟建物で、延べ床面積は55.44m² (17.1坪)である。平均柱間寸法は、桁行1.91m (6.3尺)、梁行2.40m (7.9尺)である。

＜平面形式＞西側が調査区域外であるため詳細は不明だが、検出されている柱穴から見ると2間×6間の直屋である。

P441・P438が北列と南列の間に位置することから、仕切が2箇所に入る建物と思われる。

＜主軸方向＞梁の主軸方向は【N-1.5°-W】である。

＜柱穴＞各柱穴の規模は、観察表に記してある。3基の柱痕跡を測ると、検出面で直径19~21cm（平均20.3cm）の円形である。

＜重複関係＞27号住居跡、4号・6号・8号掘立柱建物跡と重複する。27号住居跡を切っていることから、当遺構のほうが新しいことがわかるが、各掘立柱建物跡との関係は不明。

＜建物の性格＞仕切りは【P440-P441-P432】と【P437-P438】の2箇所あり、上間と座敷に分かれた住居であったと思われる。しかし上手の方向や住居型式までは不明。

時期 仕切のある形状から、少なくとも17世紀以降である。

(松川)

6号掘立柱建物跡（第86図）

＜位置＞グリッド【10L~11L】（C区）に位置する。

＜規模＞桁行2間（全長4.67m=15.4尺-東列）、梁行2間（全長3.88m=12.8尺-南列）の南北棟建物で、延べ床面積は18.12 m²（5.5坪）である。平均柱間寸法は、桁行2.36m（7.8尺）、梁行1.94m（6.4尺）である。

＜平面形式＞2間×2間の直屋である。

＜主軸方向＞梁の主軸方向は、ほぼ真北を向いている。

＜柱穴＞各柱穴の規模は、観察表に記してある。柱痕跡は2基にあり、検出面での直径はP447が14cm、P445が20cm（円形）である。また、P443は抜取痕と見られ、検出面の柱跡の直径は20cmを測る。掘り方はP446・P445の2基のみが隅丸（長）方形を呈している。

中央に位置するP449は他の柱穴と比べて規模が小さいことから、補助的な柱が据えられていたと思われる。

＜重複関係＞30号住居跡、5号・9号掘立柱建物跡と重複する。30号住居跡を切っていることから、当遺構が新しいことがわかるが、各掘立柱建物跡との新旧関係は不明。

＜建物の性格＞規模や柱位置から見て、蔵と思われる。

時期 不明。

(松川)

7号掘立柱建物跡（第86図）

＜位置＞グリッド【9L~9M】（C区）に位置する。

＜規模＞桁行2間（全長3.66m=12.1尺-西列）、梁行2間（全長3.58m=11.8尺-北列）の南北棟建物で、延べ床面積は13.10m²（4.0坪）である。平均柱間寸法は、桁行1.80m（5.9尺）、梁行1.79m（5.9尺）である。

＜平面形式＞2間×2間の建物であるが、南側は調査区城外であるため、さらに南方向に伸びる可能性がある。詳細は不明。

＜主軸方向＞梁の主軸方向は【N-10°-E】である。

＜柱穴＞各柱穴の規模は、観察表に記してある。9基中7基の埋土中に川原石様の円礫石を含んでいる。この辺りは30cm前後掘り下げるとき、砂礫層に突き当たるため埋土に礫が混入したものと思われる。

中央に位置するP335は他の柱穴と比べて規模が小さいことから、6号掘立柱建物跡と同様に、補助的な柱が据えられていたと思われる。

<重複関係>31号住居跡・10号掘立柱建物跡と重複する。31号住居跡を切っていることから、当遺構が新しいことがわかるが、10号掘立柱建物跡との新旧関係は不明。

<建物の性格>規模や柱位置から見て、倉と思われる。

時期 不明。

(松川)

8号掘立柱建物跡（第86図）

<位置>グリッド【10L】(C区)に位置する。

<規模>桁行3間（全長5.88m=19.4尺-北列）、梁行1間（全長2.44m=8.1尺-西列）の東西棟建物で、延べ床面積は14.35m²(4.3坪)である。平均柱間寸法は、桁行1.99m(6.6尺)、梁行2.43m(8.0尺)である。

<平面形式>1間×3間の直屋である。

<主軸方向>梁の主軸方向は【N-4.5°-E】である。

<柱穴>各柱穴の規模は、観察表に記してある。全ての柱穴が单層で、黒褐色土(10YR 2/2)に褐色土(10YR 4/6)が20~30%霜降り状に混入している埋土。6基の柱穴(P415以外)の底が平ら、あるいはナベ底状である。対をなすP417とP414の掘り方が隅丸方形である。

<重複関係>30号住居跡、5号・9号・16号掘立柱建物跡と重複する。30号住居跡を切っていることから、当遺構が新しいことがわかるが、各掘立柱建物跡との新旧関係は不明。

<建物の性格>規模や形状から見て、小屋と思われる。

時期 不明。

(松川)

9号掘立柱建物跡（第87図）

<位置>グリッド【10L】(C区)に位置する。

<規模>桁行3間（全長7.53m=24.9尺-南列）、梁行1間（全長1.73m=5.7尺-西列）の東西棟建物で、延べ床面積は13.03m²(3.9坪)である。平均柱間寸法は、桁行2.46m(8.1尺)、梁行1.77m(5.8尺)である。

<平面形式>1間×3間の直屋である。

<主軸方向>梁の主軸方向は【N-2.5°-E】である。

<柱穴>各柱穴の規模は、観察表に記してある。

<重複関係>30号住居跡、6号・8号・16号掘立柱建物跡と重複する。30号住居跡を切っていることから、当遺構が新しいことがわかるが、各掘立柱建物跡との新旧関係は不明。

<建物の性格>規模や形状から、倉庫の建物と思われる。

時期 不明。

(松川)

10号掘立柱建物跡（第87図）

<位置>グリッド【9L～10L】(C区)に位置する。

<規模>桁行2間（全長3.12m=10.3尺-北）、梁行1間（全長2.17m=7.2尺-西）の東西棟建物で、延べ床面積は6.77m²(2.1坪)である。平均柱間寸法は、桁行1.58m(5.2尺)、梁行2.08m(6.9尺)である。

<平面形式>1間×2間の直屋である。

<主軸方向>梁の主軸方向は【N-12°-E】である。

<柱穴>各柱穴の規模は、観察表に記してある。P360のみに柱痕跡が残り、検出面で直径14cmを測る。P3

の底はグライ化しており、直径17cmを測る。

＜重複関係＞7号掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は不明。

＜建物の性格＞規模や形状から、倉庫的建物と思われる。

時期 不明。

(松川)

11号掘立柱建物跡（第87図）

＜位置＞グリッド【10L】(C区)に位置する。

＜規模＞桁行2間（全長4.62m=15.2尺-北列）、梁行1間（全長1.87m=6.2尺-西列）の東西棟建物で、延べ床面積は8.64m²(2.6坪)である。平均柱間寸法は、桁行2.39m(7.9尺)、梁行1.83m(6.0尺)である。

＜平面形式＞1間×2間の建物であるが、南側は調査区域外であるため、さらに南方向に伸びる可能性がある。詳細は不明。

＜主軸方向＞梁の主軸方向は【N-24.5°-E】である。

＜柱穴＞各柱穴の規模は、観察表に記してある。柱痕跡はP374・P377に残っている。検出面で、それぞれ直径14cm・18cmを測る。

＜重複関係＞16号掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は不明。

＜建物の性格＞規模や形態から見て小屋と思われるが、当遺構の南側が調査区域外であるため詳細は不明。

時期 不明。

(松川)

12号掘立柱建物跡（第87図）

＜位置＞グリッド【19N～19O～20N～20O】(D区)に位置する。

＜規模＞桁行2間（全長5.30m=17.5尺-北列）、梁行3間（全長5.14m=17.0尺-西列）の東西棟建物で、延べ床面積は27.24m²(8.3坪)である。平均柱間寸法は、桁行2.67m(8.8尺)、梁行1.60m(5.3尺)である。

＜平面形式＞北側および西側が調査区域外であるため詳細は不明だが、検出されている柱穴から見ると2間×3間の直屋である。

＜主軸方向＞梁の主軸方向は【N-0.5°-E】である。

＜柱穴＞各柱穴の規模は、観察表に記してある。P976の底面がグライ化しており、直径22cmの円形を呈している。

埋土は黒褐色土(10YR 2/1)～黒褐色土(10YR 2/2)であるが、土質は粘土質のものと、細砂質のものがある。粘土質の埋土の中には水酸化鉄粒が点在している。当遺構の位置する場所周辺は、櫻乱や客土(粘土質)があり、その中に水酸化鉄粒が多く点在していることから、客土由来のものと思われる。

＜出土遺物＞P971から土師器片が1片出土(不掲載)。埋土に混入したもので、時期を示すものではないと思われる。

＜重複関係＞22号住居跡と重複する。当遺構が22号住居跡を切っていることから、当遺構が新しいことがわかる。

＜建物の性格＞規模や形態から、倉庫的建物と思われる。

時期 不明。

(松川)

13号掘立柱建物跡（第88図）

＜位置＞グリッド [21N~22N] (D区) に位置する。

＜規模＞桁行3間（全長8.40m=27.7尺-南列）、梁行2間（全長3.44m=11.4尺-東列）の東西棟建物で、延床面積は28.90m² (8.8坪) である。平均柱間寸法は、桁行3.36m (11.1尺-土間・居間部分) と1.69m (5.6尺-上手の座敷部分) がある。梁行は1.86m (6.1尺) である。

＜平面形式＞2間×3間の建物であるが、北側は調査区域外であるため、さらに北方向に伸びる可能性がある。詳細は不明。

＜主軸方向＞梁の主軸方向は [N-7°-W] である。

＜柱穴＞各柱穴の規模は、観察表に記してある。P960・P959の底面がグライ化しており、半径はそれぞれ18cm・21cmの円形を呈している。

＜重複関係＞位置的に見て4号住居跡、40号隣し穴と重複する。新旧関係は不明。

＜建物の性格＞プランが明確ではないため詳細は不明だが、規模や形状から住居と思われる。

時期 形状および柱間寸法から見て、18世紀以降と思われる。

(松川)

14号掘立柱建物跡（第88図）

＜位置＞グリッド [20O] (D区) に位置する。

＜規模＞桁行2間（全長5.20m=17.2尺-北列）、梁行1間（全長3.65m=12.0尺-西列）。平均柱間寸法は桁行2.60m (8.6尺)、梁行3.65m (12.0尺) である。建物の北西コーナーである。

＜主軸方向＞梁の主軸方向は [N-8°-E] である。

＜柱穴＞各柱穴の規模は、観察表に記してある。P994の底はグライ化しており、直径14cmの円形である。また、P993には柱痕跡が残っており、検出面で直径16cmを測る。

各柱穴は新しい搅乱を施り込んだもの。各柱穴ごとに土の埋まり具合は違うが、埋土は全て粘土質で、周囲の搅乱に由来するものと思われる。

P995の埋土は単層で、黒色土 (10YR 2/1) の中に褐色土 (10YR 4/4) が霜降り状に混入しているのだが、この褐色土の所々が熱をうけて暗赤褐色 (2.5YR 2/2~4/2) になっている。また、柱穴内も一緒に熱をうけて暗赤褐色になっている。

＜重複関係＞15号掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は不明。

＜建物の性格＞南側が調査区域外であり、東側には大きく搅乱が入り込んでいるためコーナーのみの検出となり、詳細は不明である。

時期 埋土の様子や搅乱との切り合いから、近代以降のものと思われる。

(松川)

15号掘立柱建物跡（第88図）

＜位置＞グリッド [20O] (D区) に属する。

＜規模＞桁行2間（全長3.77m=12.4尺-北列）、梁行1間（全長2.95m=9.7尺-西列）。平均柱間寸法は桁行1.89m (6.2尺)、梁行2.95m (9.7尺) である。建物北西のコーナーである。

＜主軸方向＞梁の主軸方向は [N-1°-W] である。

＜柱穴＞各柱穴の規模は、観察表に記してある。P997・P998・P996に柱痕跡があり、検出面でいずれも17cmの直径を測る。

この3基の断面からは、底にぶい黄褐色の粘土～シルト質土が薄く入り、その上の中央に柱痕跡があり、

両脇に霜降り状の黒褐色土(褐色土が混入)が入っていること観察される。柱の高さ調整のために底に上を入れたものであろう。

＜重複関係＞14号掘立柱建物跡と重なるが、新旧関係は不明。

＜建物の性格＞14号掘立柱建物跡同様、コーナーしか検出されていないため、詳細は不明。

時期 柱間寸法と埋土の様子や攪乱との切り合いから、近世末期以降のものと思われる。 (松川)

16号掘立柱建物跡 (第88図)

＜位置＞グリッド [10L] (C区) に位置する。

＜規模＞桁行2間(全長6.30m=20.8尺-南列)、梁行2間(全長4.50m=14.9尺-西列)の東西棟建物で、延べ床面積は28.35m²(8.6坪)である。平均柱間寸法は、桁行3.09m(10.2尺)、梁行2.25m(7.4尺)である。

＜平面形式＞2間×2間の直屋である。

＜主軸方向＞梁の主軸方向は[N-1.5°-W]である。

＜柱穴＞各柱穴の規模は、観察表に記してある。すべての柱穴に柱痕跡が見られる。検出面での直径は、P389=20cm・P394=28cm・P391=23cm・P392=18cm・P390=15cm・P393=18cmである。(ただし、P2の開口部は少し崩落しているので、実際にはもう少し狭かったと思われる)

P389、P394の割り方は隅丸長方形で、同規模である。

＜重複関係＞30号住居跡、8号・9号・11号の各掘立柱建物跡と重なる。新旧関係は不明。

＜建物の性格＞規模や形状から、倉庫的建物と思われる。

時期 不明。 (松川)

17号掘立柱建物跡 (第89図)

＜位置＞桁行2間(全長4.10m=13.5尺-北列)、梁行2間(全長4.00m=13.2尺-西列)。平均柱間寸法は桁行2.05m(6.8尺)、梁行2.00m(6.6尺)である。建物の北西コーナーである。

＜主軸方向＞梁の主軸方向は[N-1°-W]である。

＜柱穴＞各柱穴の規模は、観察表に記してある。P1114・P1117に柱痕跡が見られる。直径はそれぞれ、20cm(検出面)、18cm(底面)を測る。また、P1114・P1116~P1118の底に円形のグライ化した部分があり、直径は順に20cm・19cm・18cm・21cmを測る。

P1116・P1114・P1117は隅丸長方形を呈しており、底は平らである。P1116の底中央には30cm弱大の石(角が丸みを帯びている。川原石?)が入っていた。P1115には壊れた磁石と15cm前後の石が入っていた。埋土中位から出土しており、混入したものと思われる。

＜出土遺物＞磁石片がP1115の中位から出土。(462)

＜重複関係＞21号住居跡、1号掘立柱建物跡と重なる。新旧関係は不明。

＜建物の性格＞コーナーのみの検出であるため詳細は不明。

＜年代＞不明。 (松川)

*:ほとんどの柱穴のグライ化した部分には、[10YR 4/2~5/2]灰黄褐色の細砂質~砂質土が円形に残り、[7.5YR 5/6~5/8]明褐色のシルト質土がその同心円状に残る。

18号掘立柱建物跡（第89図）

＜位置＞ 10M～11Mグリッドに位置する。

＜規模＞ 柱行は2間で全長4.0m (13.2尺)、梁行は1間で全長2.94m (9.7尺)で、延べ床面積は11.76 m² (3.6坪) である。平均柱間寸法は柱行2.0m (6.6尺)、梁行2.94m (9.7尺) である。

＜平面形式＞ 2間×1間の直屋である。

＜主軸方向＞ 柱の主軸方向はN-70° - Eである。

＜柱穴＞ 平面形は円形・不整形を呈する。6基全てに柱痕跡が確認できた。埋土は黒褐色土主体で褐色土粒が少量含まれている。

＜出土遺物＞ なし

＜重複関係＞ 2号掘立柱建物跡・1号柱穴列と重複関係にあるが新旧は不明である。

＜性格＞ 規模から付属小屋的な用途が推測される。

＜年代＞ 不明

(熊谷)

19号掘立柱建物跡（第89図）

＜位置＞ 10M～11Mグリッドに位置する。

＜規模＞ 柱行は3間で全長5.88m (19.4尺)、梁行は1間で全長2.86m (9.4尺)で、延べ床面積は16.82 m² (5.1坪) である。平均柱間寸法は柱行1.96m (6.5尺)、梁行2.86m (9.4尺) である。

＜平面形式＞ 3間×1間の直屋である。

＜主軸方向＞ 柱の主軸方向はN-82° - Wである。

＜柱穴＞ 平面形は円形～楕円形・不整形を呈する。5基で柱痕跡が確認できた。四つ角にあたる柱穴と比べて中の2基は規模が比較的小さなものになっている。埋土は黒褐色土で褐色土ブロックが少量含まれる。

＜出土遺物＞ なし

＜重複関係＞ 1号掘立柱建物跡・1号柱穴列と重複関係にあるが新旧は不明である。

＜性格＞ 規模から付属小屋的な用途が推測される。

＜年代＞ 不明

(熊谷)

20号掘立柱建物跡（第89図）

＜位置＞ 11N～11Oグリッドに位置する。

＜規模＞ 柱行は2間で全長4.0m (13.2尺)、梁行は1間で全長1.9m (6.3尺)で、延べ床面積は7.6 m² (2.3坪) である。平均柱間寸法は柱行2.0m (6.6尺)、梁行1.9m (6.3尺) である。

＜平面形式＞ 2間×1間の直屋である。

＜主軸方向＞ 柱の主軸方向はN-82° - Wである。

＜柱穴＞ 平面形は円形～楕円形を呈する。5基全てで柱痕跡が確認できた。

＜出土遺物＞ なし

＜重複関係＞ なし

＜性格＞ 規模から付属小屋的な用途が推測される。

＜年代＞ 不明

(熊谷)

21号掘立柱建物跡（第90図）

＜位置＞ 22L～22Mグリッドに位置する。

＜規模＞ 柱行き2間で全長4.2m (13.9尺)、梁行は2間で全長3.92m (12.9尺)で、延べ床面積は16.5m² (5坪)である。平均柱間寸法は柱行2.1m (6.9尺)、梁行1.96m (6.5尺)である。

＜平面形式＞ 2間×2間の直屋である。

＜主軸方向＞ 栄の主軸方向はN-89°-Wである。

＜柱穴＞ 平面形は円形・不整形を呈する。5基で柱痕跡が確認できた。

＜出土遺物＞ なし

＜重複関係＞ 5号陥入穴と重複関係にあり、本遺構の方が新しい。

＜性格＞ 規模から付属小屋的な用途が推測される。

＜年代＞ 不明

(熊谷)

柱穴列

1号柱穴列

＜位置＞ グリッド [17O] (D区) に位置する。

＜規模＞ 全長は4間(?) (8.01m=26.4尺)、平均柱間寸法 (P1058-P1057間に柱穴を1基補った柱間寸法) は2.00m (6.6尺) である。

[P1058←4.33m(14.3尺)→P1057←1.83m(6.0尺)→P1056←1.85m(6.1尺)→P1055]

＜主軸方向＞ 主軸方向は [N-65°-E] である。

＜柱穴＞ 各柱穴の規模は、観察表に記してある。P2埋土中に炭化物が混入。1～2%の混入比だが、最大径5mm大のものも見られた。埋土中位からは、土師器片が出土している。平安期の壺の破片であるが、埋土に混入したものと思われる。

P1056には柱の抜き取り痕が見られる。柱の跡には、褐色土 (10YR 4/4～5/4) の中に黒褐色土 (10YR 2/2～2/3) が霜降り状に混合した土が入っている。柱を抜き去った後に、人为的に埋めたのがわかる。

＜出土遺物＞ P1056から土師器片が1片出土している。

＜重複関係＞ 2号掘立柱建物跡、2号柱穴列、3号柱穴列と重なる。新旧関係は不明。

＜年代＞ 不明。

(松川)

2号柱穴列

＜位置＞ グリッド [17O～18O] (D区) に位置する。

＜規模＞ 全長は4間 (10.18m=33.6尺)、平均柱間寸法は2.55m (8.4尺) である。

[P1059←2.81m(9.3尺)→P1060←2.51m(8.3尺)→P1061←2.51m(8.3尺)→P1062←2.35m(7.8尺)→P1063]

＜主軸方向＞ 主軸方向は [N-81.5°-W] である。

＜柱穴＞ 各柱穴の規模は、観察表に記してある。P1059・P1060・P1062の3基に柱の抜取痕、P1061には柱痕跡が見られる。埋土は一様に、黒褐色土に褐色土が霜降り状に混入している。P1060の抜取痕は、底に近い部分で直径7cmを測る。

P1059から須恵器片が1片出土。埋土中位ということで、混ざり込んだものと思われる。

＜出土遺物＞ P1059から須恵器片が1片。(不掲載)
＜重複関係＞ 2号掘立柱建物跡、1号柱穴列と重なるが、新旧関係は不明。
＜年代＞ 不明。

(松川)

3号柱穴列

＜位置＞ グリッド [170～180] (D区) に位置する。
＜規模＞ 全長は3間 (6.75m=22.3尺)、平均柱間寸法は2.25m (7.4尺) である。
[P1054←2.33m(7.7尺)→P1053←2.07m(6.8尺)→P1052←2.35m(7.8尺)→P1051]
＜主軸方向＞ 主軸方向は [N-89°-W] である。
＜柱穴＞ 各柱穴の規模は、観察表に記載している。規模はおおよそ似通っているが、埋土の様子はそれぞれ異なっている。埋土は全て、黒褐色土 (10YR 2/2) の中に褐色土 (10YR 4/4) が霜降り状に入っている。P1054・P1053の埋土中の褐色土は、底に近づくに従って減少し、底は黒色土 (10YR 1.7/1) になる。P1・P1052の黒褐色土中には橙色土粒が点在しているが、P1054の方は水酸化鉄で、P1053は焼上由来のものである。
P1051は17号土坑の精査とともに、掘り上げてしまったために不明。
＜出土遺物＞ なし。
＜重複関係＞ 17号土坑、1号柱穴列、4号柱穴列と重なる。17号土坑を当遺構が切っていることから、当遺構が新しい。1号柱穴列・4号柱穴列との新旧関係は不明。
＜年代＞ 柱間寸法から14～16世紀前半の可能性あり。

(松川)

4号柱穴列

＜位置＞ グリッド [180] (D区) に位置する。
＜規模＞ 全長は3間 (6.76m=22.3尺) だが、南北両調査区域外に延びている可能性がある。平均柱間寸法は2.25m (7.4尺) である。
[P1050←2.34m(7.7尺)→P1049←2.27m(7.5尺)→P1048←2.15m(7.1尺)→P1047]
＜主軸方向＞ 主軸方向は [N-18°-W] である。
＜柱穴＞ 各柱穴の規模は、観察表に記載している。P1052に柱の抜取痕が見られ、底はグライ化はしていないが直徑18cmの円形の凹みがある。P1050の底にも、直徑13cmの凹みが確認できた。15cm前後の柱を使用していたものと思われる。
＜出土遺物＞ なし。
＜重複関係＞ 3号掘立柱建物跡と重なるが、新旧関係は不明。
＜年代＞ 14～16世紀前半の可能性あり。

(松川)

5号柱穴列

＜位置＞ グリッド [12L] (C区) に位置する。
＜規模＞ 全長は4間 (8.15m=26.9尺)、平均柱間寸法は2.04m (6.7尺) である。
[P557←2.05m(6.8尺)→P556←1.77m(5.8尺)→P555←2.28m(7.6尺)→P554←2.05m(6.8尺)→P553]
＜主軸方向＞ 主軸方向は [N-82°-W] である。

＜柱穴＞ 各柱穴の規模は、観察表に記載してある。P3に柱痕跡が残り、検出面で直径19cmを測る。20cm前後の柱を用いていた可能性がある。柱の先端は尖っており、先端の丸い他の柱痕跡とは異なっている（打ち込み柱）。

P554、P553は61号陥し穴の精査にともなって、掘り上げてしまったために不明。

＜重複関係＞ 61号陥し穴と重なる。当遺構が61号陥し穴を切っているため、当遺構が新しいことがわかる。

＜年代＞ 建物の一部であるとすれば、柱間寸法から見て16世紀前半か。

（松川）

6号柱穴列

＜位置＞ グリッド〔9 L～10 L〕（C区）に位置する。

＜規模＞ 全長は3間（9.65m=31.8尺）、平均柱間寸法は3.22m（10.6尺）である。

〔P369←3.22m(10.6尺)→P370→3.21m(10.6尺)→P371←3.22m(10.6尺)→P372〕

＜主軸方向＞ 主軸方向は〔N-68.5°-W〕である

＜柱穴＞ 各柱穴の規模は、観察表に記載してある。全ての柱穴に柱痕跡が見られる。直径はP369が12cm、P370が13cm、P371が18cmである。P372は精査前に掘り上げてしまったために不明。15cm前後の柱を用いていたと思われる。P369には柱によるグライ化も見られる（※）。

＜重複関係＞ 9号柱穴列・10号柱穴列・11号柱穴列・16号柱穴列柱穴列と重なるが、新旧関係は不明。

＜年代＞ 不明。

（松川）

7号柱穴列

＜位置＞ グリッド〔11 L〕（C区）に位置する。

＜規模＞ 全長は3間（6.31m=20.8尺）、平均柱間寸法は2.10m（6.9尺）である。

〔P528←220(7.3)→P529→2.02(6.7)→P530←2.09(6.9)→P531〕

＜主軸方向＞ 主軸方向は〔N-66.5°-W〕である。

＜柱穴＞ 各柱穴の規模は、観察表に記載してある。P528に柱痕跡があり、検出面の直径は12cmである。

P528の断面を見ると、柱痕跡の（底を含めた）周囲に霜降り状の土が入っている。黒褐色土（10YR 2/2～3/2）と褐色土（10YR 4/4～4/6）の混合土。柱穴は東西方向で裁ち削っているが、柱痕跡の東側部分では褐色土ブロックの混合比率が50%と高く、底の部分では40%、西側では30～40%と低くなっている。この堆上の状況から見ると、柱穴を掘り、次に底に土（混合比率50%）を入れ、柱を据えた後に根固めの土を入れたものと推測できる。底に土を入れたのは、柱の高さを調整するためである。

＜重複関係＞ 6号掘立柱建物跡と重なるが、新旧関係は不明。

＜年代＞ 建物の一部とすれば、柱間寸法から見て16世紀前半か。

（松川）

8号柱穴列

＜位置＞ グリッド〔13 L～14 L〕（C区）に位置する。

＜規模＞ 全長は3間（4.72m=15.6尺）、平均柱間寸法は1.57m（5.2尺）である。東側と、南側は調査区域外であるため、詳細は不明。

〔P657→1.63m(5.4尺)→P656←1.50m(5.0尺)→P655←1.59m(5.2尺)→P654〕

＜主軸方向＞ 主軸方向は〔N-85.5°-E〕である。

＜柱穴＞ 各柱穴の規模は、観察表に記載してある。

＜重複関係＞ なし。

＜年代＞ 不明。

(松川)

※：グライ化した部分は、[10YR 4/2～5/2] 灰黄褐色の細砂質～砂質土が円形に残り、[7.5YR 5/6～5/8] 明褐色のシルト質土がその同心円状に見られる。

9号柱穴列（第90回）

＜位置＞ 10Mグリッドに位置する。

＜規模＞ 5基の柱穴からなる。全長は7.6m (25.1尺) で、平均柱間寸法は1.9m (6.3尺) である。

＜軸方向＞ N-82° -W

＜柱穴＞ 平面形は円形～梢円形、不整形を呈する。5基全てで柱痕跡が確認できた。

＜出土遺物＞ なし。

＜重複関係＞ 1号掘立柱建物跡、2号掘立柱建物跡と重複関係にあるが新旧は不明である。

＜性格＞ 不明である。数基の柱穴が対応するため掘立柱建物跡になる可能性も考えられるが、数が少なく決め手に欠ける。

＜年代＞ 不明である。

(熊谷)

10号柱穴列（第90回）

＜位置＞ 10N～11Nグリッドに位置する。

＜規模＞ 3基の柱穴からなる。全長は4.0m (13.2尺) で、平均柱間寸法は2.0m (6.6尺) である。

＜軸方向＞ N-81° -W

＜柱穴＞ 平面形は円形～梢円形を呈する。2基で柱痕跡が確認できた。

＜出土遺物＞ なし。

＜重複関係＞ なし。

＜性格＞ 不明である。P194が本遺構に対応するため掘立柱建物跡になる可能性も考えられるが、他に対応するものがなく決め手に欠ける。

＜年代＞ 不明である。

(熊谷)

11号柱穴列（第90回）

＜位置＞ 12P～12Qグリッドに位置する。

＜規模＞ 3基の柱穴からなる。全長は4.2m (13.9尺) で、平均柱間寸法は2.1m (6.9尺) である。

＜軸方向＞ N-7° -E

＜柱穴＞ 平面形は円形～梢円形を呈する。3基全てで柱痕跡が確認できた。

＜出土遺物＞ なし。

＜重複関係＞ P38が25号土坑と重複関係にあり本遺構の方が新しい。

＜性格＞ 不明である。本遺構の北側は7号溝、8号溝が検出され、また南側は調査区外になるため両方行に延びる可能性がある。

<年代> 不明である。

(熊谷)

12号柱穴列（第90図）

<位置> 11P～11Qグリッドに位置する。

<規模> 4基の柱穴からなる。全長は4.35m (14.4尺) で、平均柱間寸法は1.45m (4.8尺) である。

<軸方向> N-1°-E

<柱穴> 平面形は円形を呈する。3基で柱痕跡が確認できた。

<出土遺物> なし。

<重複関係> なし。

<年代> 不明である。

(熊谷)

13号柱穴列（第91図）

<位置> 11O～12Oグリッドに位置する。

<規模> 6基の柱穴からなる。全長は5.8m (19.1尺) で、平均柱間寸法は1.16m (3.8尺) である。

<軸方向> N-89°-W

<柱穴> 平面形は円形～横円形を呈する。5基で柱痕跡が確認できた。

<出土遺物> なし。

<重複関係> なし。

<年代> 不明である。

(熊谷)

14号柱穴列（第91図）

<位置> 17N～19Nグリッドに位置する。

<規模> 7基の柱穴からなる。全長は13.5m (44.6尺) で、平均柱間寸法は2.25m (7.4尺) である。

<軸方向> N-80°-E

<柱穴> 平面形は円形～横円形・不整形を呈する。4基で柱痕跡が確認できた。

<出土遺物> なし。

<重複関係> 16号住居と重複関係にあり、本遺構の方が新しい。

<性格> 不明である。P691・P693が本遺構に対応するため掘立柱建物跡になる可能性も考えられるが他に対応するものがなく決め手に欠ける。

<年代> 不明である。

(熊谷)

15号柱穴列（第91図）

<位置> 18Nグリッドに位置する。

<規模> 4基の柱穴からなる。全長は7.6m (25.1尺) で、平均柱間寸法は2.5m (8.3尺) である。

<軸方向> N-86°-E

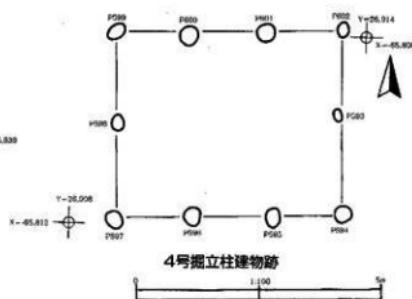
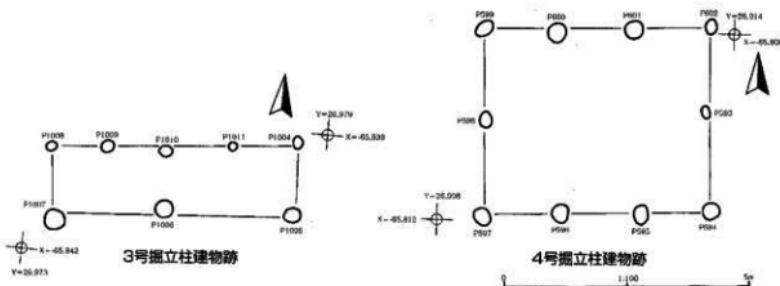
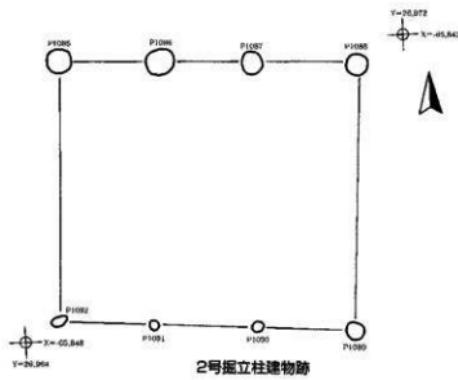
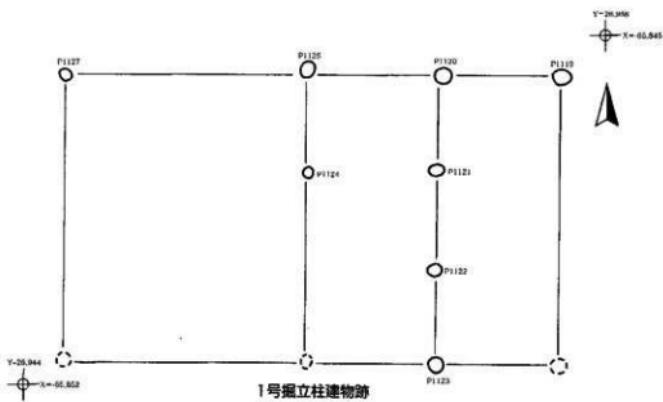
<柱穴> 平面形は円形～横円形を呈する。1基のみ柱痕跡が確認できた。

<出土遺物> なし。

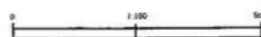
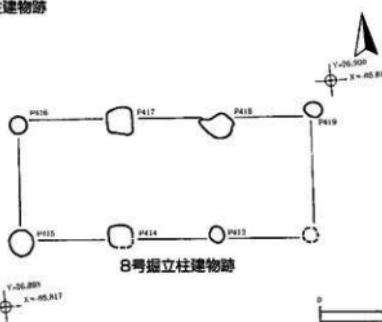
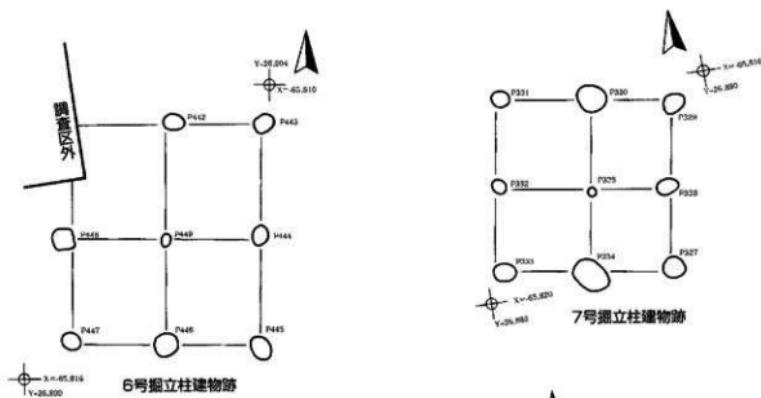
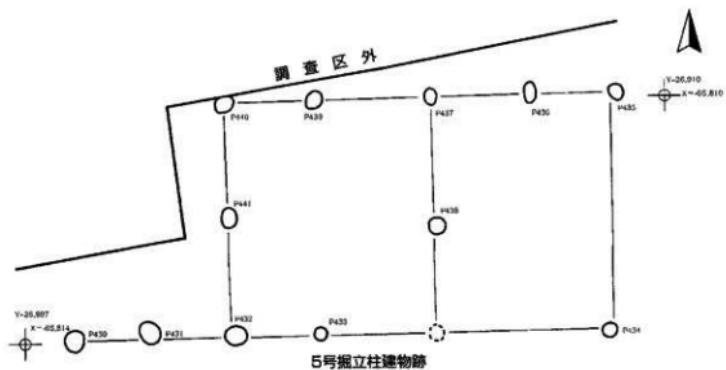
<重複関係> なし。

<年代> 不明である。

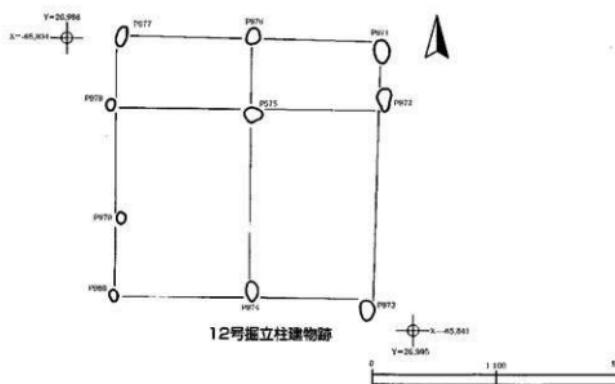
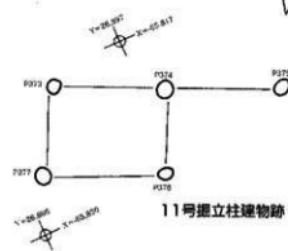
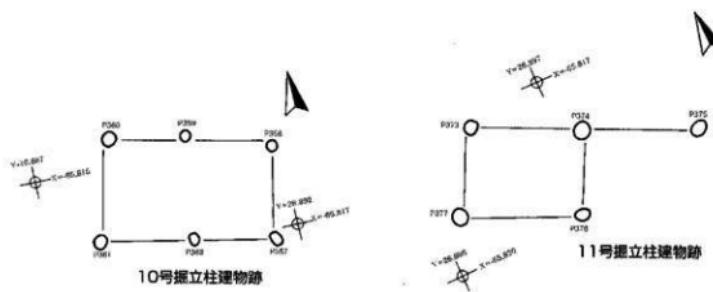
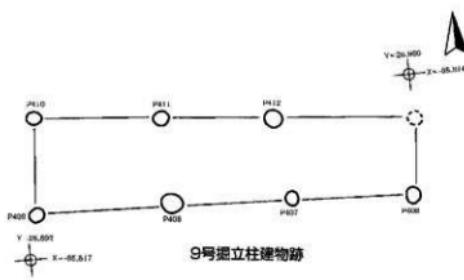
(熊谷)



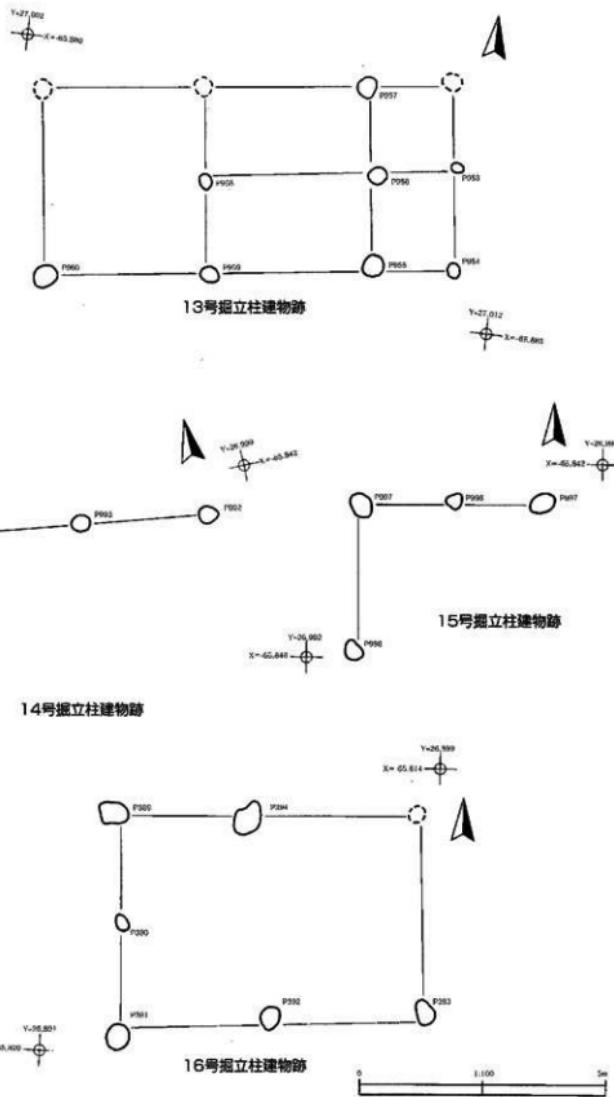
第85図 1~4号掘立柱建物跡



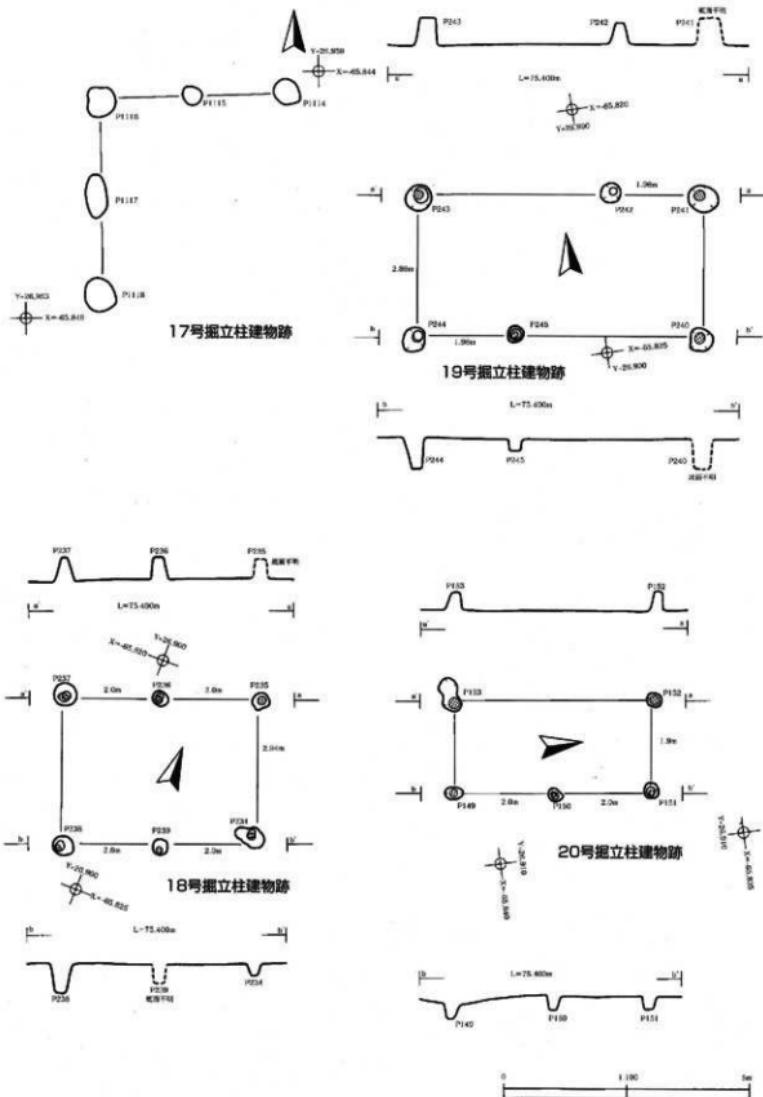
第86図 5~8号据立柱建物跡



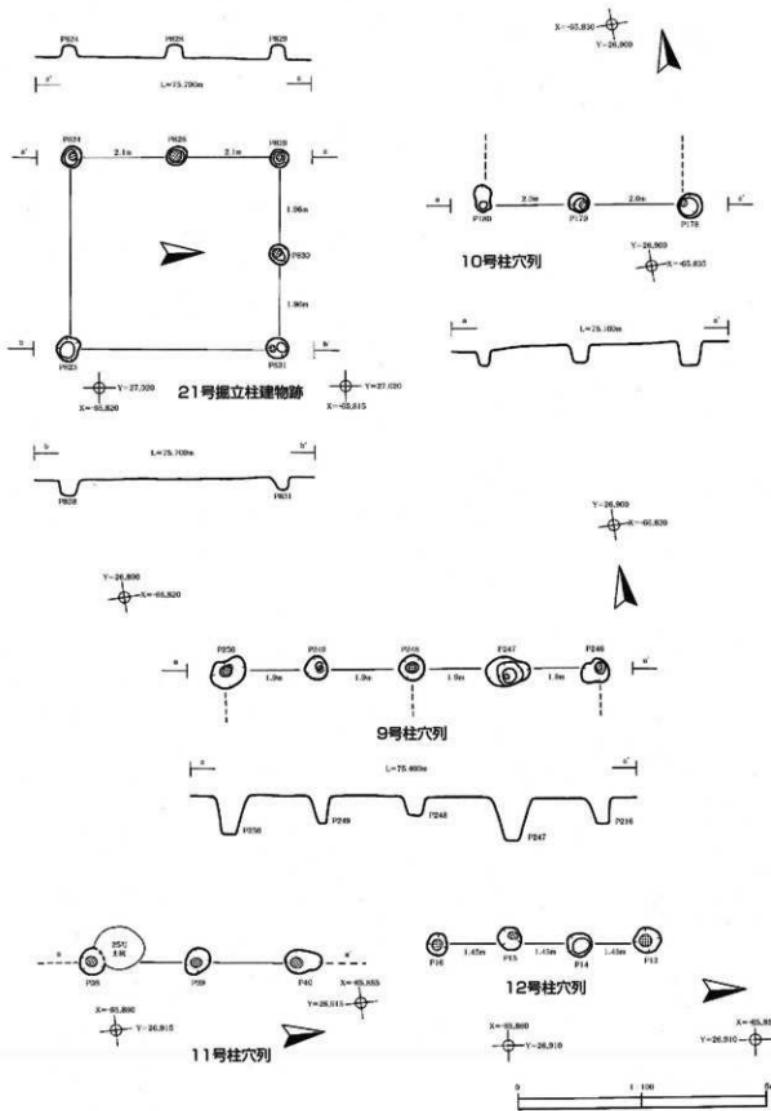
第87図 9~12号掘立柱建物跡



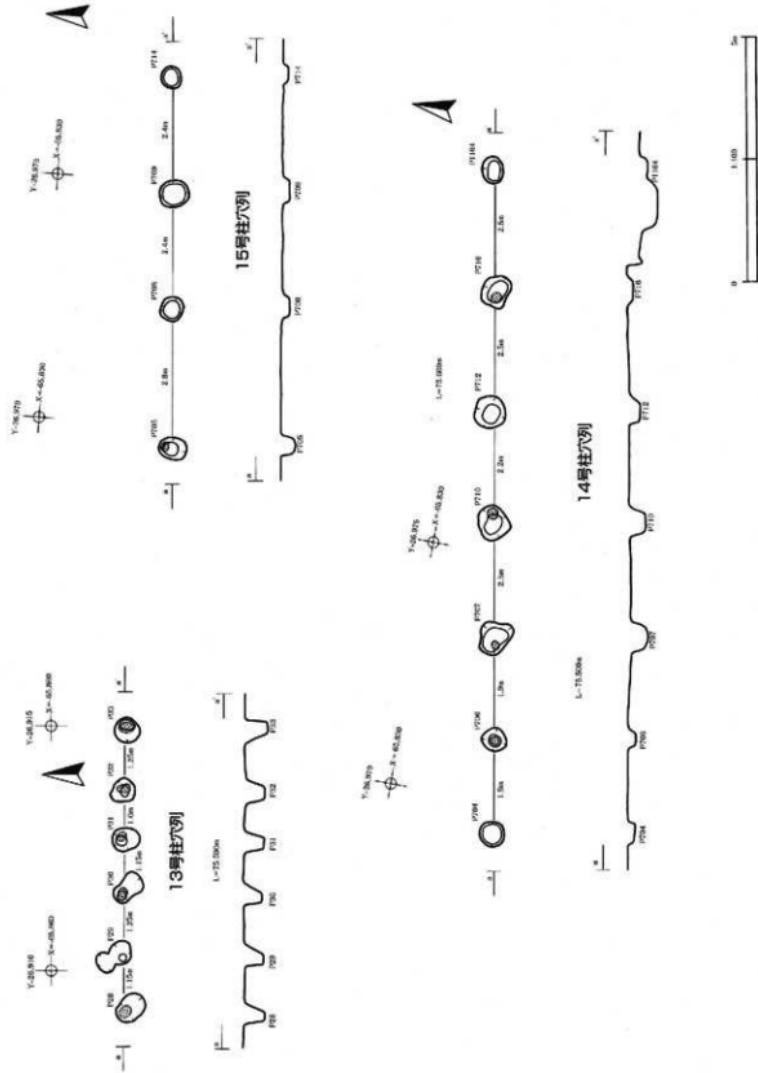
第88図 13~16号掘立柱建物跡



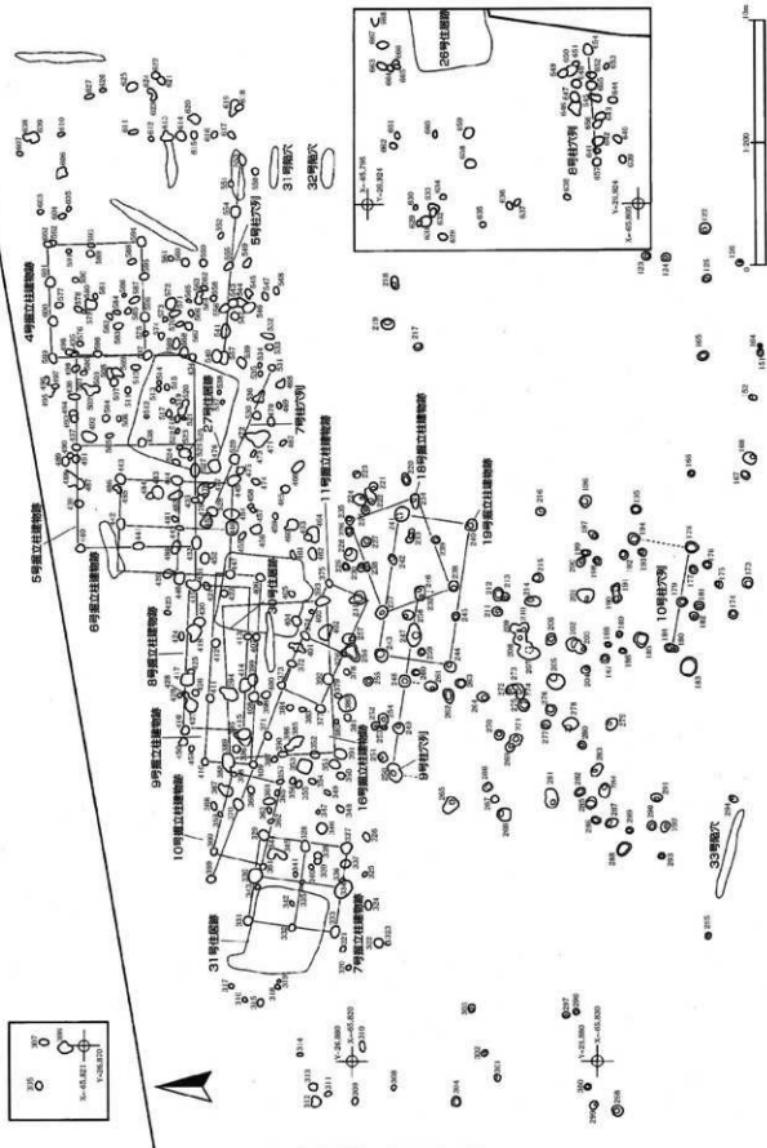
第89図 17~20号掘立柱建物跡



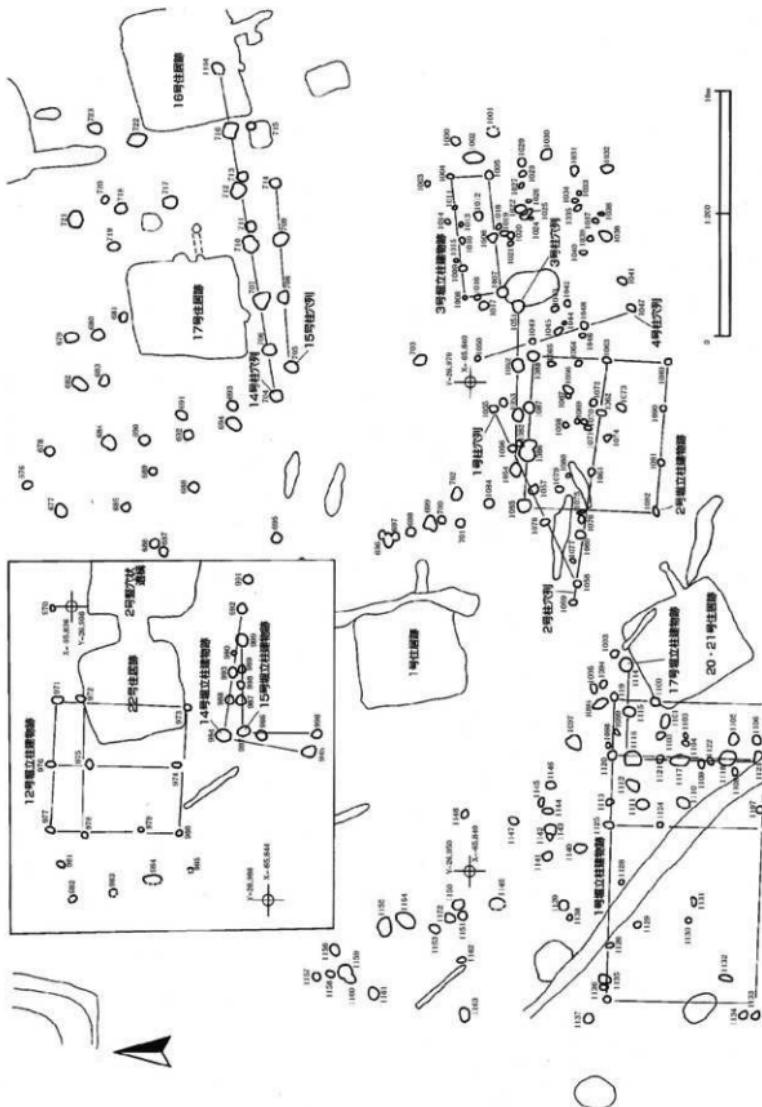
第90図 21号掘立柱建物跡、9~12号柱穴列



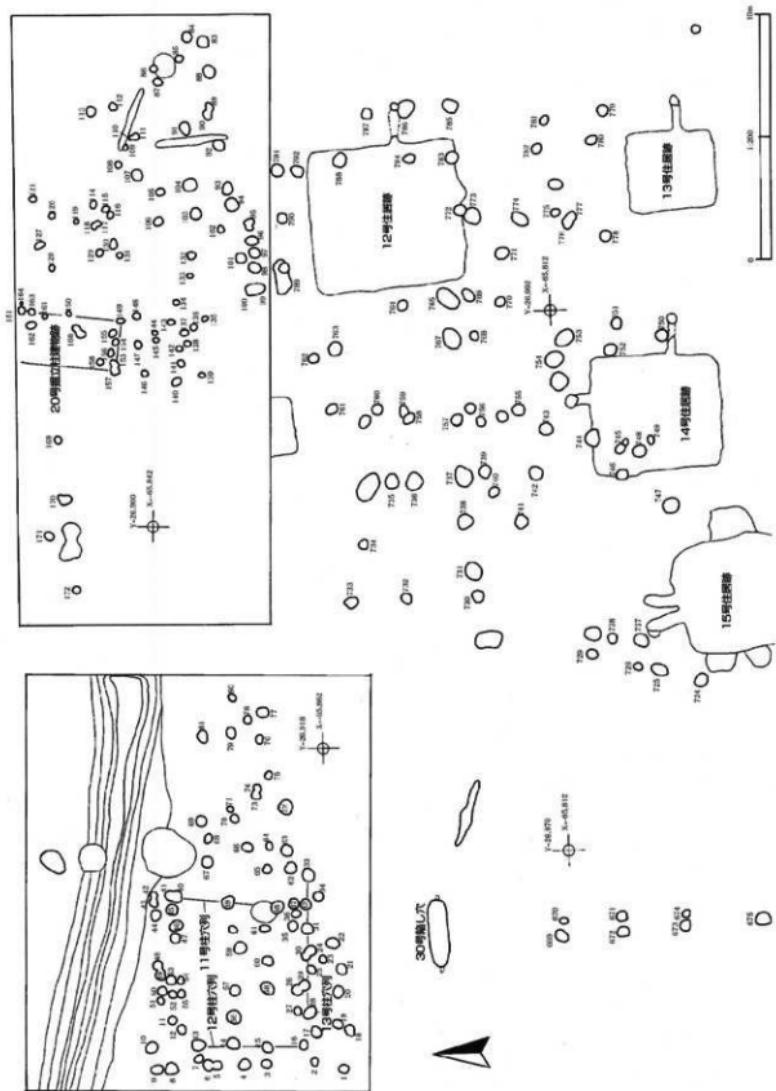
第91図 13~15号柱穴列



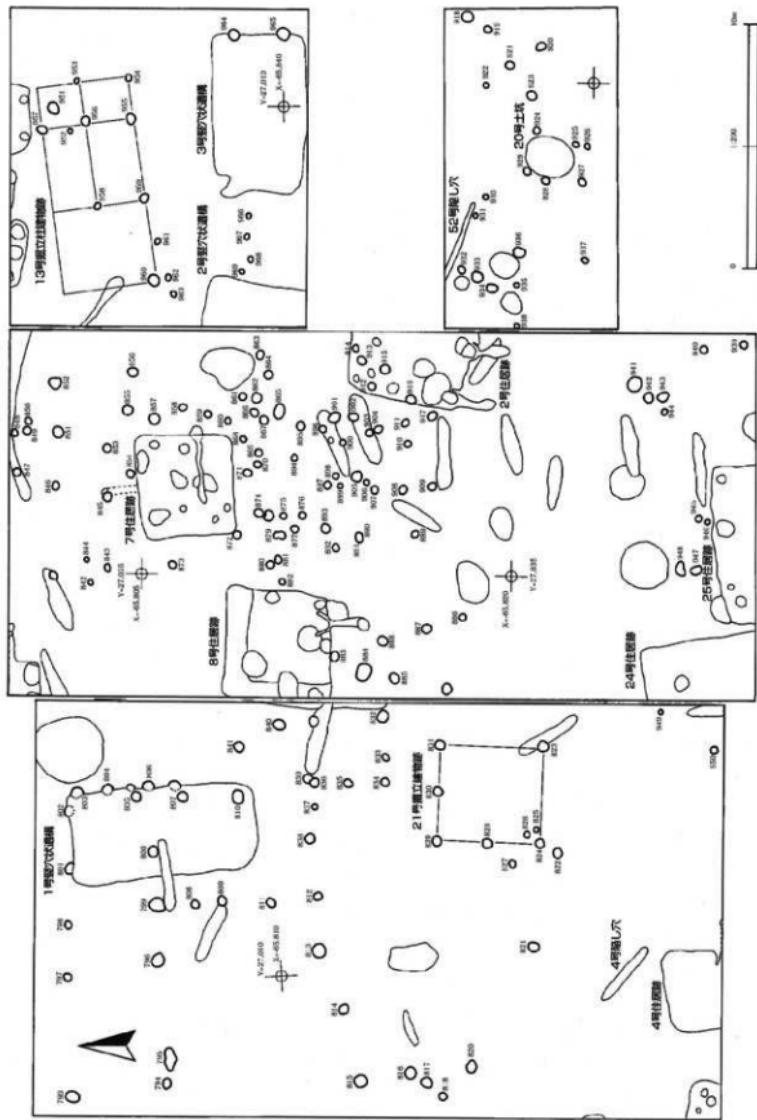
第92図 柱穴列(1)



第93図 柱穴列(2)



第94図 柱穴列(3)



第95図 柱穴列 (4)

掘立柱建物跡・柱穴列観察表

1号掘立柱建物跡

P No.	開口径	深さ	形状	備考
1119	40×28	14	楕円形	
1120	34×32	20	円形	柱痕跡
1121	35×24	29	楕円形	
1122	28×20	15	円形	
1123	32×26	15	椭円形	
1124	20×20	37	円形	グライ化
1125	35×28	23	"	
1126	28×17	23	"	
1127	28×23	30	楕円形	

2号掘立柱建物跡

P No.	開口径	深さ	形状	備考
1085	52×50	34	円形	グライ化・柱痕跡
1086	64×46	40	楕円形	"
1087	48×41	33	"	"
1088	42×40	49	円形	"
1089	36×31	16	"	柱痕跡あり
1090	27×18	10	"	
1091	25×21	12	"	グライ化
1092	32×17	14	楕円形	柱痕跡あり

3号掘立柱建物跡

P No.	開口径	深さ	形状	備考
1004	23×19	10	"	グライ化・柱痕跡
1005	35×26	22	"	グライ化
1006	41×33	20	楕円形	
1007	43×40	25	円形	
1008	18×8	14	楕円形	柱痕跡あり
1009	27×25	12	円形	
1010	30×18	16	楕円形	
1011	20×13	15	"	

4号掘立柱建物跡

P No.	開口径	深さ	形状	備考
593	34×23	21	"	
594	39×30	34	"	
595	39×32	37	楕円形	
596	36×35	36	円形	柱痕跡あり
597	45×35	45	"	グライ化・柱痕跡
598	34×23	24	"	
599	34×23	36	楕円形	グライ化・柱痕跡
600	36×31	37	"	柱痕跡あり
601	39×35	39	"	
602	42×24	43	"	柱痕跡あり

5号掘立柱建物跡

P No.	開口径	深さ	形状	備考
430	47×42	31	楕円形	
431	42×40	38	円形	
432	44×42	33	円形	
433	31×26	43	楕円形	
434	29×28	33	円形	
435	52×28	34	"	
436	43×27	39	"	柱痕跡
437	31×27	56	"	柱痕跡
438	37×33	24	楕円形	
439	35×31	33	"	
440	35×25	29	楕円形	柱痕跡
441	39×30	33	"	

6号掘立柱建物跡

P No.	開口径	深さ	形状	備考
442	28×28	38	円形	
443	32×32	32	"	抜取側(?)
444	42×36	27	楕円形	
445	53×42	54	楕円形	柱痕跡
446	57×44	58	楕丸長方形	
447	36×36	38	円形	柱痕跡
448	42×37	56	楕丸方形	
449	19×18	13	円形	

7号掘立柱建物跡

P No.	開口径	深さ	形状	備考
327	47×40	33	"	
328	47×31	23	楕円形	
329	43×39	31	円形	
330	61×52	38	楕円形	柱痕跡
331	33×33	29	円形	
332	27×25	31	"	
333	38×35	23	円形	
334	79×55	44	楕円形	
335	20×18	12	円形	

8号掘立柱建物跡

P No.	開口径	深さ	形状	備考
413	31×24	13	楕円形	
414	39×36	29	楕丸方形	
415	46×39	45	"	
416	36×28	39	楕円形	
417	50×50	43	楕丸方形	
418	54×38	40	楕円形	
419	45×31	58	"	

9号掘立柱建物跡

P No.	開口径	深さ	形状	備考
406	32×27	26	楕円形	
407	27×27	28	"	
408	34×34	39	"	
409	33×21	20	円形	
410	31×22	17	楕円形	
411	34×27	26	"	
412	38×27	13	"	

10号掘立柱建物跡

P No.	開口径	深さ	形状	備考
357	23×23	16	円形	
358	23×22	11	円形	グライ化
359	23×20	16	楕円形	
360	27×27	38	円形	柱痕跡あり
361	20×17	12	楕円形	
362	22×18	18	"	

11号掘立柱建物跡

P No.	開口径	深さ	形状	備考
373	33×31	17	円形	
374	31×28	20	"	柱痕跡あり
375	29×25	25	楕円形	
376	31×15	23	(円形?)	一部分調査範囲外
377	39×34	20	"	柱痕跡あり

12号擬立柱建物跡

P No.	開口径	深さ	形状	備考
971	46×25	41	楕円形	土師器片出土
972	43×22	4	"	
973	28×22	16	"	
974	41×25	31	"	
975	40×27	11	"	
976	34×30	9	"	グライ化
977	48×27	4	"	
978	25×18	6	"	
979	23×20	12	"	
980	26×18	22	"	

13号擬立柱建物跡

P No.	開口径	深さ	形状	備考
953	22×18	15	楕円形	
954	26×23	18	楕円形	
955	40×37	12	円形	
956	37×36	19	円形	
957	37×33	20	楕円形	
958	19×12	11	"	
959	36×30	12	楕円形	グライ化
960	38×36	32	円形	"

14号擬立柱建物跡

P No.	開口径	深さ	形状	備考
992	41×33	28	楕円形	
993	38×38	16	円形	柱痕跡あり
994	54×45	10	楕円形	グライ化
995	58×48	43	"	

15号擬立柱建物跡

P No.	開口径	深さ	形状	備考
996	41×36	17	楕円形	グライ化・柱痕跡
997	50×37	18	"	柱痕跡あり
998	32×30	8	円形	グライ化・柱痕跡
999	43×41	29	楕円形	グライ化

16号擬立柱建物跡

P No.	開口径	深さ	形状	備考
389	77×42	50	楕丸長方形	柱痕跡あり
390	32×23	41	楕円形	"
391	48×40	48	"	"
392	50×44	48	"	"
393	53×38	42	"	"
394	71×41	65	"	"

17号擬立柱建物跡

P No.	開口径	深さ	形状	備考
1114	57×46	35	楕丸長方形	グライ化・柱痕跡
1115	43×39	38	円形	礫石(462)あり
1116	77×32	32	楕丸長方形	グライ化
1117	80×42	47	楕円形	グライ化・柱痕跡
1118	68×59	32	楕丸長方形	グライ化

18号擬立柱建物跡

P No.	開口径	深さ	形状	備考
234	62×46	23	不整形	柱痕跡あり
235	36×35	7	円形	"
236	33×28	46	"	"
237	48×44	50	"	"
238	43×41	60	"	"
239	33×30		"	"

19号擬立柱建物跡

P No.	開口径	深さ	形状	備考
240	50×44		不整形	柱痕跡あり
241	61×53		楕円形	"
242	41×35	44	"	"
243	53×52	57	円形	柱痕跡あり
244	46×43	67	"	"
245	31×29	27	"	"

20号擬立柱建物跡

P No.	開口径	深さ	形状	備考
149	36×26	28	楕円形	柱痕跡あり
150	26×24	28	円形	"
151	31×27	24	"	"
152	28×25	38	"	"
153	39×32	36	"	"

21号擬立柱建物跡

P No.	開口径	深さ	形状	備考
823	48×46	27	楕円形	柱痕跡あり
824	40×39	20	円形	"
828	38×33	21	"	"
829	36×36	26	"	"
830	41×38	24	"	"
831	43×36	28	"	"

1号柱穴列

P No.	開口径	深さ	形状	備考
1055	36×30	27	楕円形	柱痕跡あり
1056	32×24	27	"	
1057	41×32	38	"	土師器片出土
1058	27×33	23	"	

2号柱穴列

P No.	開口径	深さ	形状	備考
1059	38×24	26	椭円形	上漆器片出土
1060	34×30	26	"	柱痕跡あり
1061	38×32	21	"	"
1062	41×28	24	"	"
1063	36×25	41	"	

3号柱穴列

P No.	開口径	深さ	形状	備考
1051	55×38	22	椭円形	
1052	50×24	21	"	
1053	53×50	65	円形	
1054	54×46	32	椭円形円形	

4号柱穴列

P No.	開口径	深さ	形状	備考
1047	32×30	44	円形	
1048	36×30	21	椭円形	柱痕跡あり
1049	31×21	23	"	
1050	24×24	13	円形	

5号柱穴列

P No.	開口径	深さ	形状	備考
553	40×27		椭円形	
554	47×31		"	
555	44×21	26	"	柱痕跡あり
556	42×28	7	"	
557	55×33	12	"	

6号柱穴列

P No.	開口径	深さ	形状	備考
369	34×29	22	椭円形	グラウジング柱痕跡
370	44×38	24	"	柱痕跡あり
371	33×26	20	"	"
372	36×34	22	円形	"

7号柱穴列

P No.	開口径	深さ	形状	備考
528	42×39	39	円形	柱痕跡あり
529	35×33	33	"	
530	37×23	27	椭円形	
531	25×25	15	円形	

8号柱穴列

P No.	開口径	深さ	形状	備考
654	47×33	18	椭円形	
655	40×37	13	"	
656	40×31	15	"	
657	38×34	21	"	

9号柱穴列

P No.	開口径	深さ	形状	備考
246	57×42	49	椭円形	柱痕跡あり
247	91×60	90	不整形	"
248	49×38	38	円形	"
249	46×56	56	"	"
250	28×28	28	不整形	"

10号柱穴列

P No.	開口径	深さ	形状	備考
178	48×48	51	円形	柱痕跡あり
179	39×38	36	"	"
180	52×27	30	"	

11号柱穴列

P No.	開口径	深さ	形状	備考
38	52×48	27	円形	柱痕跡あり
39	58×45	27	椭円形	"
40	52×52	24	円形	"

12号柱穴列

P No.	開口径	深さ	形状	備考
13	50×48	27	円形	柱痕跡あり
14	49×46	35	"	
15	47×44	31	"	柱痕跡あり
16	43×37	36	椭円形	"

13号柱穴列

P No.	開口径	深さ	形状	備考
28	61×47	44	椭円形	柱痕跡あり
29	45×43	40	円形	
30	68×36	36	椭円形	柱痕跡あり
31	55×47	41	"	"
32	52×48	37	不整形	"
33	49×47	45	円形	"

14号柱穴列

P No.	開口径	深さ	形状	備考
704	51×48	10	円形	
706	50×46	12	"	柱痕跡あり
707	78×60	35	不整形	"
710	71×64	30	椭円形	"
712	65×61	20	円形	
716	68×52	8	不整形	柱痕跡あり
714	53×44	18	椭円形	"

15号柱穴列

P No.	開口径	深さ	形状	備考
705	54×46	25	椭円形	柱痕跡あり
708	49×46	10	円形	
709	57×54	7	"	
714	46×38	8	"	

井下通风表

P No.	断口处	通风量	风速	风压	P No.	断口处	通风量	风速	风压	P No.	断口处	通风量	风速	风压
1	39×38	24			51	32×28	11			101	45×42	31		
2	37×37	30			52	35×34	10			102	31×29	15		
3	43×39	17			53	47×44	13			103	52×45	30		
4	48×40	18			54	34×28	10			104	57×56			
5	47×44	21			55	38×34	22			105	38×33	19		
6	48×45	17			56	57×55	36			106	50×35	24		
7	41×34	8			57	41×40	16			107	47×43	29		
8	55×50	16			58	33×32	11			108	31×30	26		
9	50×41	13			59	50×44	26			109	28×25	17		
10	57×43	29			60	46×40	47			110	28×22	11		
11	40×38	30			61	41×37	11			111	31×28	16		
12	43×33	17			62	46×46	45			112	35×31	13		
13	45×48	27			63	43×48	41			113	48×47	28		
14	49×46	35			64	34×32	11			114	32×27	27		
15	47×44	31			65	33×32	10			115	33×31	27		
16	43×37	36			66	42×40	10			116	31×26	31		
17	48×41	14			67	45×47	31			117	29×27	22		
18	47×44	15			68	34×31				118	29×27	20		
19	50×43	23			69	39×38				119	25×23	35		
20	47×44	26			70	44×36	17			120	27×24	28		
21	46×45	51			71	31×30	5			121	37×26	25		
22	58×42	15			72	61×55	45			122	44×44	37		
23	32×29	11			73	12×37				123	34×30	29		
24	68×36	48			74	32×28				124	35×31	36		
25	66×34	31			75	36×31	39			125	34×31	33		
26	40×36	47			76	37×34				126	28×24	24		
27	32×28	11			77	50×42				127	38×26	22		
28	61×47	44			78	39×33				128	25×23	37		
29	45×43	40			79	40×37				129	29×29	21		
30	— ×	36			80	29×28				130	40×28	26		
31	58×47	41			81	43×42				131	26×25	43		
32	52×48	37			82	55×39	31			132	36×34	28		
33	49×47	45			83	49×44	16			133	23×30	16		
34	42×41	38			84	47×36	33			134	30×29	25		
35	49×38	46			85	29×23	25			135	31×27	41		
36	40×38	22			86	35×32	26			136	36×29	17		
37	46×39	39			87	41×27	21			137	31×28	27		
38	52×48	26			88	54×52	33			138	28×26	10		
39	58×45	27			89	35×34	11			139	25×24	15		
40	50×52	24			90	38×35	9			140	4×29	25		
41	38×35	27			91	59×43	28			141	30×29	26		
42	35×32	25			92	44×43	34			142	30×27	25		
43	40×35	20			93	58×44	34			143	27×27	31		
44	48×39	26			94	58×53	38			144	27×26	11		
45	48×45	30			95	53×33	32			145	24×24	9		
46	53×46	46			96	53×36	32			146	32×26	42		
47	40×40	23			97	54×49	36			147	40×34	41		
48	58×37	13			98	45×72	33			148	30×30	15		
49	47×38	11			99	82×50	31			149	36×28	28		
50	41×38	12			100	82×50	33			150	26×24	28		

P No	圖11種 原名	圖考	備考	備考	備考	P No	圖11種 原名	圖考	備考	備考	備考
201	65×57	52				251	40×36	43			
202	57×54	64				252	45×31	60			
203	45×43	59				253	36×25	25			
204	33×30	46				254	41×31	31			
205	68×59	87				255	40×35	29			
206	47×40	82				256	76×52	29			
207						257	54×40	50			
208	54×52	96				258	44×40	55			
209	44×40	86				259	33×27	23			
210	37×35	60				260	39×30	15			
211	41×38	58				261	53×40	66			
212	54×42	44				262	59×42	35			
213	37×35	50				263	42×41	21			
214	61×41	40				264	46×40	50			
215	42×39	74				265	71×46	45			
216	38×33	42				266	38×37	15			
217	34×34	54				267	31×31				
218	56×32	45				268	59×46	52			
219	52×45	43				269	50×49	64			
220	47×33	31				270	36×35	63			
221	40×36	43				271	47×41	48			
222	72×38	37				272	39×40	45			
223	28×28	24				273	39×42	52			
224	51×48	51				274	42×35	72			
225	35×29	40				275	49×49	53			
226	58×24	35				276	43×41	59			
227	34×32	60				277	41×37	49			
228	41×36	41				278	54×51	79			
229	48×46	52				279	51×51	43			
230	33×30	46				280	34×33	36			
231	39×36	49				281	73×51	63			
232	29×27	49				282	43×34	48			
233	68					283	59×37	52			
234	62×46	23	187連物類			284	55×32	69			
235	38×35	7				285	50×42	44			
236	33×28	46				286	33×30	32			
237	48×44	50				287	47×37	35			
238	43×41	60				288	59×40	15			
239	33×30					289	28×24	52			
240	50×44					290	35×34	56			
241	61×53					291	59×37	52			
242	41×35	44				292	43×36	39			
243	58×52	57				293	28×25	38			
244	45×43	67				294	32×24	42			
245	31×29	27				295	26×23	30			
246	57×42	49	95連物類			296	25×25	36			
247	91×90					297	27×27	44			
248	49×49	38				298	45×44	58			
249	49×44	56				299	37×30	41			
250	73×52	78				300	28×28	13			

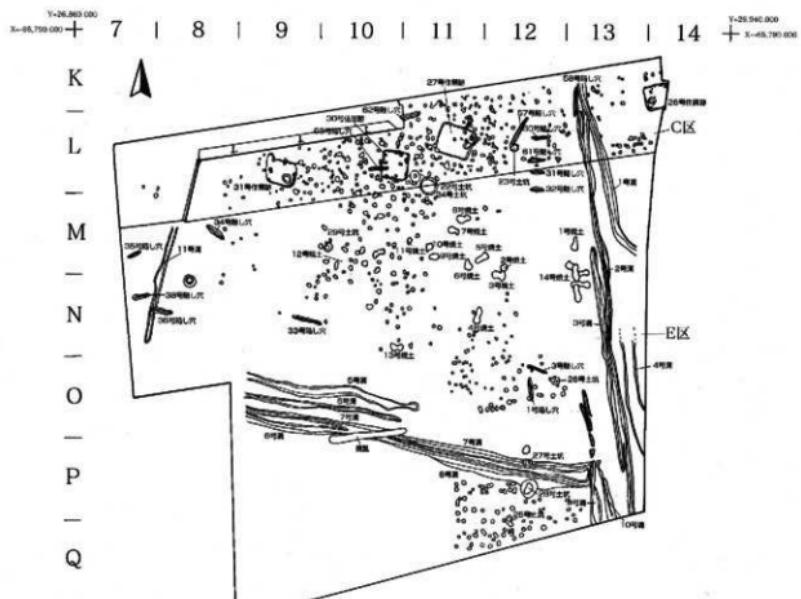
P No.	開口直	開口横	深さ	幅	高さ	P No.	開口直	開口横	深さ	幅	高さ	
401	0×15	—	—	—	—	501	28×21	—	31	—	—	
402	5×41	44×40	—	—	—	502	28×27	—	31	45×34	—	
403	2×18	—	—	453	60×48	—	503	33×32	30	—	52	40×33
404	0×35	—	—	454	58×40	—	504	49×39	—	—	53	53×52
405	3×20	—	—	455	37×21	—	505	40×32	19	—	54	27×24
406	32×27	26	9号鉄物筋	456	52×37	—	506	60×52	24	26	155	33×24
407	27×27	28	—	457	20×19	—	507	40×27	29	—	56	26×23
408	34×34	39	—	458	23×18	—	508	26×20	25	—	57	23×23
409	33×21	—	—	459	27×33	—	509	30×24	17	—	58	23×22
410	31×22	17	—	460	46×45	—	510	60×24	17	—	59	23×20
411	34×27	26	—	461	38×27	—	511	34×20	18	—	60	27×27
412	38×27	13	—	462	55×24	—	512	46×32	17	—	61	20×17
413	31×24	12	—	463	33×30	—	513	48×32	17	—	62	22×18
414	39×36	29	8号鉄物筋	464	63×30	—	514	24×14	27	—	63	30×28
415	46×39	45	—	465	32×32	—	515	30×28	27	—	64	50×23
416	36×28	39	—	466	55×33	—	516	22×18	31	—	65	26×17
417	50×50	43	—	467	30×18	—	517	22×18	22	—	66	30×25
418	54×38	40	—	468	43×30	—	518	26×18	20	—	67	65×47
419	45×31	58	—	469	31×21	—	519	17×16	35	—	68	35×33
420	41×34	—	—	470	37×28	—	520	21×18	23	—	69	24×29
421	33×22	—	—	471	78×53	—	521	35×22	32	—	70	44×38
422	28×28	—	—	472	32×39	—	522	37×36	31	—	71	33×26
423	27×20	—	—	473	32×16	—	523	23×16	29	—	72	36×34
424	37×18	—	—	474	30×22	—	524	40×32	36	—	73	33×31
425	30×24	—	—	475	40×26	—	525	25×20	33	—	74	31×28
426	32×28	—	—	476	50×50	—	526	42×29	24	—	75	29×25
427	52×48	—	—	477	28×22	—	527	47×40	22	—	76	31×15
428	32×27	—	—	478	50×50	—	528	47×31	37	—	77	39×34
429	23×17	—	—	479	30×25	—	529	43×39	21	—	78	30×25
430	47×42	31	5号鉄物筋	480	60×30	—	530	61×52	26	—	79	23×23
431	42×40	38	—	481	29×18	—	531	33×33	43	—	80	70×26
432	44×42	33	—	482	58×33	—	532	27×25	26	—	81	31×29
433	31×26	43	—	483	50×46	—	533	38×35	16	—	82	21×18
434	29×28	33	—	484	30×26	—	534	79×55	25	—	83	28×18
435	52×28	34	—	485	23×15	—	535	20×18	41	—	84	31×28
436	43×27	39	—	486	22×14	—	536	38×20	17	—	85	55×40
437	31×17	55	—	487	40×31	—	537	40×30	27	—	86	38×24
438	32×35	21	—	488	64×48	—	538	30×26	10	—	87	28×20
439	35×31	39	—	489	40×32	—	539	38×22	15	—	88	29×17
440	35×25	29	—	490	25×25	—	540	24×17	25	—	89	77×42
441	39×30	33	—	491	37×30	—	541	20×15	26	—	90	32×23
442	28×28	38	—	492	60×49	—	542	24×16	25	—	91	48×40
443	32×32	32	—	493	30×23	—	543	23×17	31	—	92	50×44
444	42×36	27	—	494	38×23	—	544	46×34	11	—	93	33×38
445	53×32	54	—	495	43×23	—	545	53×36	9	—	94	71×41
446	57×44	58	—	496	28×17	—	546	46×34	12	—	95	30×34
447	36×36	38	—	497	28×15	—	547	22×12	41	—	96	30×30
448	42×37	56	—	498	28×23	—	548	33×22	15	—	97	50×26
449	19×18	13	—	499	31×23	—	549	50×37	28	20号鋼筋	98	18×16
450	38×32	—	—	500	30×20	—	550	35×30	28	—	99	37×36

P No.	關口番	深さ	幅	P No.	關口番	深さ	幅	P No.	關口番	深さ	幅
601	39×5	39	4番物語	651	37×24	36	—	751	45×42	22	—
602	42×24	43	—	652	38×28	15	—	752	54×54	14	—
603	23×20	—	—	653	21×18	—	—	753	79×62	13	—
604	33×24	—	—	654	47×33	18	8番六角	754	91×62	13	—
605	26×15	—	—	655	49×37	13	—	755	50×43	8	—
606	55×22	—	—	656	49×31	15	—	756	38×36	8	—
607	23×15	—	—	657	38×34	21	—	757	52×46	5	—
608	35×23	—	—	658	41×32	—	—	758	50×46	6	—
609	40×17	—	—	659	46×37	7	—	759	42×	—	p755上部側
610	28×15	—	—	660	30×20	—	—	760	48×44	11	—
611	26×13	—	—	661	28×25	—	—	761	53×43	10	—
612	26×20	—	—	662	30×23	—	—	762	42×49	8	—
613	26×47	—	—	663	46×28	46	—	763	60×56	20	—
614	48×38	—	—	664	30×25	—	—	764	43×38	12	—
615	21×21	—	—	665	30×19	—	—	765	98×81	58	p761上部側 p765上部側
616	32×22	—	—	666	23×26	—	—	766	98×81	44	—
617	38×26	—	—	667	46×28	—	—	767	91×61	39	—
618	30×30	—	—	668	34×30	—	—	768	42×35	24	—
619	76×32	—	—	669	53×44	20	—	769	46×38	32	—
620	52×31	—	—	670	33×31	11	—	770	44×39	10	—
621	39×30	—	—	671	43×42	39	—	771	55×47	20	—
622	55×23	—	—	672	50×40	74	—	772	47×45	35	—
623	40×20	—	—	673	46×46	43	—	773	74×62	25	—
624	27×25	—	—	674	40×38	24	—	774	75×50	16	—
625	48×37	—	—	675	59×52	30	—	775	43×42	30	—
626	23×17	—	—	676	44×39	20	—	776	44×	10	p777上部側
627	67×51	49	32	677	60×53	10	—	777	34×13	7	p776切合
628	38×30	—	—	678	39×37	18	—	778	48×14	21	—
629	20×23	—	—	679	54×33	24	—	779	48×14	22	—
630	22×18	—	—	680	58×34	19	—	780	48×12	6	—
631	46×42	—	—	681	42×33	37	—	781	41×37	—	—
632	38×30	—	—	682	72×45	30	—	782	42×40	20	—
633	50×32	—	—	683	45×39	16	—	783	52×44	—	—
634	20×20	—	—	684	66×39	32	—	784	52×45	27	—
635	23×23	—	—	685	40×38	16	—	785	64×53	37	—
636	30×26	—	—	686	40×38	49	—	786	73×60	24	—
637	33×20	—	—	687	40×40	22	—	787	40×40	46	—
638	26×20	—	—	688	41×36	26	—	788	70×53	24	—
639	35×28	—	—	689	36×33	25	—	789	45×40	33	—
640	36×27	—	—	690	39×38	19	—	790	43×41	22	—
641	30×24	—	—	691	49×37	14	—	791	52×50	46	—
642	48×40	—	—	692	41×40	17	—	792	58×51	25	—
643	42×33	—	—	693	41×41	9	—	793	52×41	41	—
644	42×26	—	—	694	62×46	12	—	794	39×24	28	—
645	55×30	—	—	695	41×41	8	—	795	95×51	38	—
646	55×43	—	—	696	49×40	38	—	796	69×56	60	—
647	48×40	—	—	697	25×32	29	—	797	37×37	24	—
648	30×34	—	—	698	36×35	42	—	798	23×32	35	—
649	40×32	—	—	699	65×55	39	—	799	65×58	46	—
650	48×38	—	—	700	44×36	39	—	800	51×48	29	—

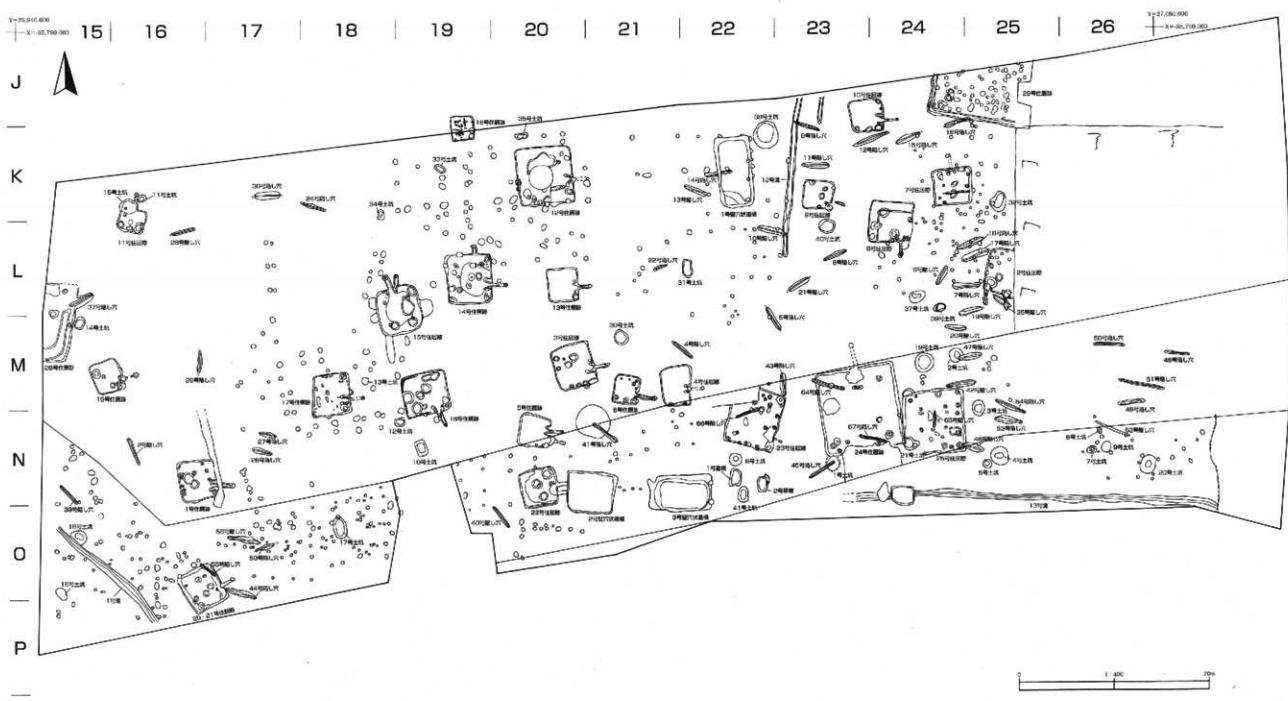
D No.	圖號	圖名	圖示	圖面尺寸	圖紙尺寸	圖面尺寸	圖紙尺寸	P No.	圖面尺寸	圖紙尺寸	圖面尺寸	圖紙尺寸
801	44×	31	1号底六块土墙	851 45×36 40	901 53×49 40	901 60×148	951 24×20	951 24×20	952 24×20	952 24×20	15 13号地脚筋	
802	40×	26	"	852 51×43	902 48×39	902 32	902	902	902	902	"	
803	56×	48	"	853 36×33 66	903 35×32	903 34	903	903	903	903	"	
804	51×	22	"	854 40×36	904 35×33	904 47	904	904	904	904	"	
805	48×38	30	"	855 39×38 43	905 42×42	905 24	905	905	905	905	40×37	
806	50×	31	1号底六块土墙	856 38×38 42	906 23×24	906 40	906	906	906	906	37×36	19
807	44×38	18	"	857 49×16 70	907 32×30	907 57	907	907	907	907	37×33	20
808	33×29	22	"	858 30×37 36	908 31×31	908 35	908	908	908	908	19×12	11
809	40×36	14	"	859 32×31 42	909 30×37	909 39	909	909	909	909	36×30	12
810	59×45	27	"	860 26×33 35	910 30×29	910 31	910	910	910	910	38×36	32
811	38×34	27	"	861 37×32 38	911 31×32	911 32	911	911	911	911	"	
812	34×32	15	"	862 42×10 47	912 33×33	912 33	912	912	912	912	24×23	
813	64×56	22	"	863 42×39	913 27×28	913 28	913	913	913	913	28×13	
814	40×37	14	"	864 37×34 47	914 27×23	914 19	914	914	914	914	56×53	
815	51×46	27	"	865 63×31 45	915 38×38	915 38	915	915	915	915	50×41	
816	50×49	14	"	866 38×34 45	916 41×32	916 38	916	916	916	916	28×18	
817	40×40	14	"	867 37×35 42	917 42×41	917 42	917	917	917	917	20×14	
818	37×31	12	"	868 30×38 54	918 47×44	918 8	918	918	918	918	38×12	
819	41×38	3	"	869 38×34 57	919 27×24	919 33	919	919	919	919	18×12	
820	44×44	5	"	870 35×24 33	920 40×32	920 44	920	920	920	920	26×20	
821	39×38	25	"	871 31×29 60	921 33×39	921 15	921	921	921	921	41 12号地脚筋	
822	34×34	24	"	872 38×32 33	922 23×22	922 13	922	922	922	922	46×25	22
823	48×46	26	21号地脚筋	873 32×28 48	923 41×37	923 42	923	923	923	923	28×22	16
824	40×39	20	"	874 36×37 50	924 29×27	924 22	924	924	924	924	41×25	8
825	27×36	19	"	875 31×30 38	925 25×26	925 5	925	925	925	925	40×27	11
826	32×30	22	"	876 26×23 37	926 26×25	926 17	926	926	926	926	34×30	9
827	28×29	19	"	877 26×24 35	927 31×30	927 19	927	927	927	927	43×22	4
828	38×33	21	21号地脚筋	878 35×34 26	928 36×36	928 26	928	928	928	928	25×18	6
829	36×36	26	"	879 35×30 50	929 41×33	929 34	929	929	929	929	23×30	12
830	41×38	24	"	880 28×26 37	930 19×19	930 9	930	930	930	930	40×18	4
831	43×36	28	"	881 38×32 18	931 23×15	931 10	931	931	931	931	38×25	
832	58×43	35	"	882 25×21	932 29×24	932 5	932	932	932	932	26×25	
833	35×31	24	"	883 39×36 10	933 41×41	933 24	933	933	933	933	"	
834	37×35	30	"	884 36×31 30	934 35×35	934 10	934	934	934	934	72×31	
835	37×36	42	"	885 35×34 15	935 20×17	935 21	935	935	935	935	20×11	
836	39×38	48	"	886 32×31 22	936 41×41	936 29	936	936	936	936	42×38	
837	31×39	14	"	887 43×38 47	937 22×21	937 18	937	937	937	937	43×36	
838	43×41	22	"	888 40×36 20	938 32×28	938 44	938	938	938	938	40×30	
839	43×42	22	"	889 25×25 37	939 35×30	939 44	939	939	939	939	45×28	
840	50×46	30	"	890 22×	940 28×26	940	940	940	940	940	20×20	
841	46×42	33	"	891 27×17	941 62×56	941	941	941	941	941	40×38	
842	23×21	35	"	892 34×25	942 42×40	942	942	942	942	942	41×33	
843	32×30	17	"	893 40×35	943 50×40	943	943	943	943	943	38×38	
844	21×21	24	"	894 28×26	944 28×20	944	944	944	944	944	40×38	
845	34×32	35	"	895 36×34 26	945 33×27	945	945	945	945	945	41×36	
846	33×31	58	"	896 33×31 49	946 22×17	946	946	946	946	946	43×36	
847	42×39	59	"	897 31×23 38	947 48×33	947	947	947	947	947	50×37	18
848	42×39	59	"	898 29×27	948 50×40	948	948	948	948	948	32×30	8
849	66×58	52	"	899 24×30	949 21×18	949	949	949	949	949	43×41	29
850	38×36	7	"	900 32×30	950 32×27	950	950	950	950	950	33×24	"

P No.	開口寸	幅	高
1001	51×23		
1002	41×33		
1003	43×40		
1004	23×19	10	34 直角形
1005	35×26	22	
1006	32×26	22	
1007	41×33	20	
1008	43×40	25	
1009	27×25	12	
1010	30×18	16	
1011	29×13	15	
1012	38×24		
1013	20×12		
1014	26×14		
1015	18×18		
1016	32×23		
1017	36×35		
1018	30×18		
1019	32×24		
1020	32×21		
1021	20×15		
1022	40×33		
1023	42×23		
1024	22×18		
1025	26×20		
1026	24×15		
1027	23×20		
1028	21×22		
1029	47×40		
1030	43×40		
1031	54×42		
1032	24×20		
1033	30×25		
1034	36×22		
1035	28×10		
1036	34×16		
1037	50×42		
1038	50×42		
1039	28×24		
1040	28×25		
1041	36×28		
1042	39×25		
1043	28×23		
1044	17×14		
1045	40×22		
1046	27×15		
1047	32×30	44	4.4直角形
1048	36×30	21	
1049	31×21	23	
1050	24×24	13	

P No.	開口寸	幅	高
1051	55×38	22	3.7直角形
1052	50×24	21	
1053	53×30	65	
1054	54×46	39	
1055	36×30	27	1.9直角形
1056	32×24	27	"
1057	41×32	38	"
1058	27×23	23	
1059	37×24	26	2.9直角形
1060	34×30	26	"
1061	38×32	21	"
1062	41×28	24	"
1063	36×25	41	"
1064	35×18		
1065	30×18		
1066	43×24		
1067	34×20		
1068	23×20		
1069	22×18		
1070	22×20		
1071	30×22		
1072	25×21		
1073	42×30		
1074	33×30		
1075	40×19		
1076	36×23		
1077	23×14		
1078	35×23		
1079	30×27		
1080	23×18		
1081	43×10		
1082	26×23		
1083	33×29		
1084	36×19		
1085	52×30	34	2.4直角形
1086	64×46	40	"
1087	48×41	33	"
1088	42×40	49	"
1089	36×31	16	
1090	27×18	10	"
1091	25×14	12	"
1092	32×17	14	"
1093	32×22		
1094	35×26		
1095	40×21		
1096	63×33		
1097	63×53		
1098	23×22		
1099	32×13		
1100	43×28		



第96図 造構配置図〈調査区西側〉



第97図 遺構配置図〈調査区東側〉

V. 遺構外出土遺物

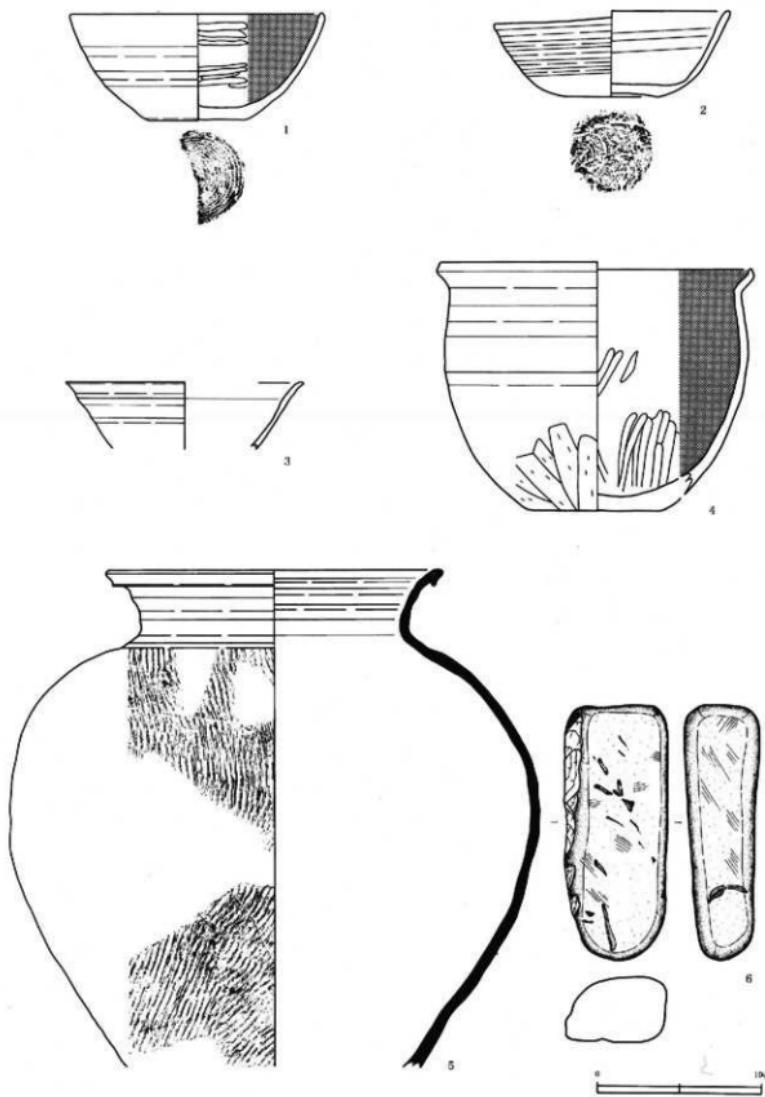
遺構外から出土遺物は土師器、須恵器、鉄製品、石器などである。このうち上器類の出土量は大コンテナで1箱と遺跡全体から見た出土量としては少ない。これらはいずれも遺構検出時や遺構周辺からの出土で本来は遺構の覆土に伴うものであったと考えられる。また1個体となるものはなく、いずれも破片であったため不掲載遺物として扱かった。

・石器

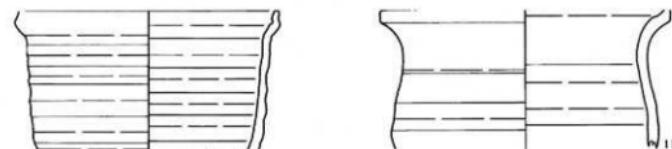
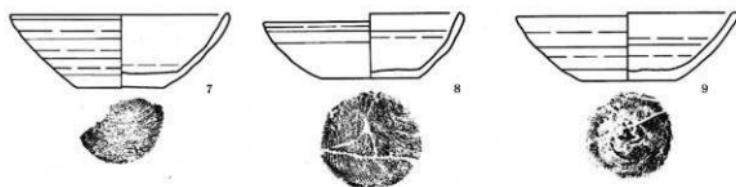
460、461は砥石で460は17号掘立柱建物跡付近、461はH区の第II層から出土した。462は円石で10M区の第I層から出土した。463は石錐で20Lの第III層から出土した。

・鉄製品

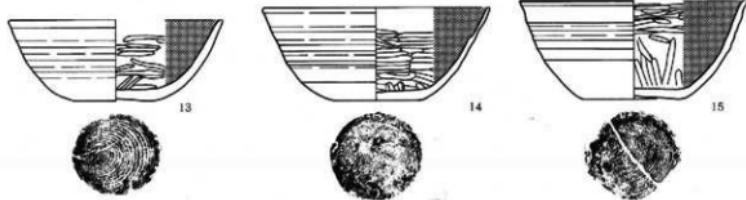
477～482は出土地点不明の鉄製品である。477は古錢で寛永通宝、480は雁又懸の先端部と思われる。481は釘である。



第98図 住居内出土遺物（1）



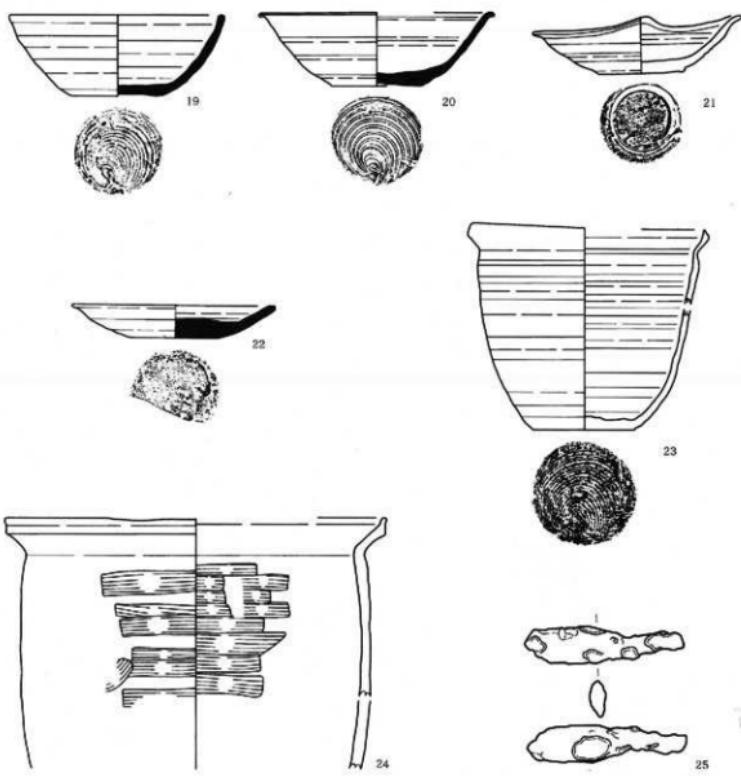
2号住居跡



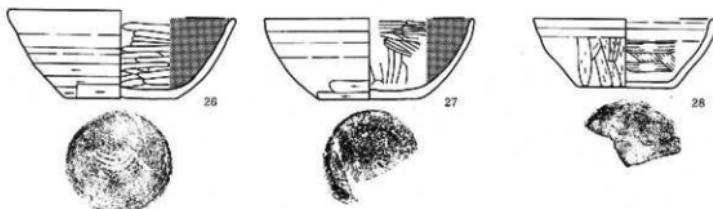
3号住居跡

第99図 住居内出土遺物 (2)

0 10cm



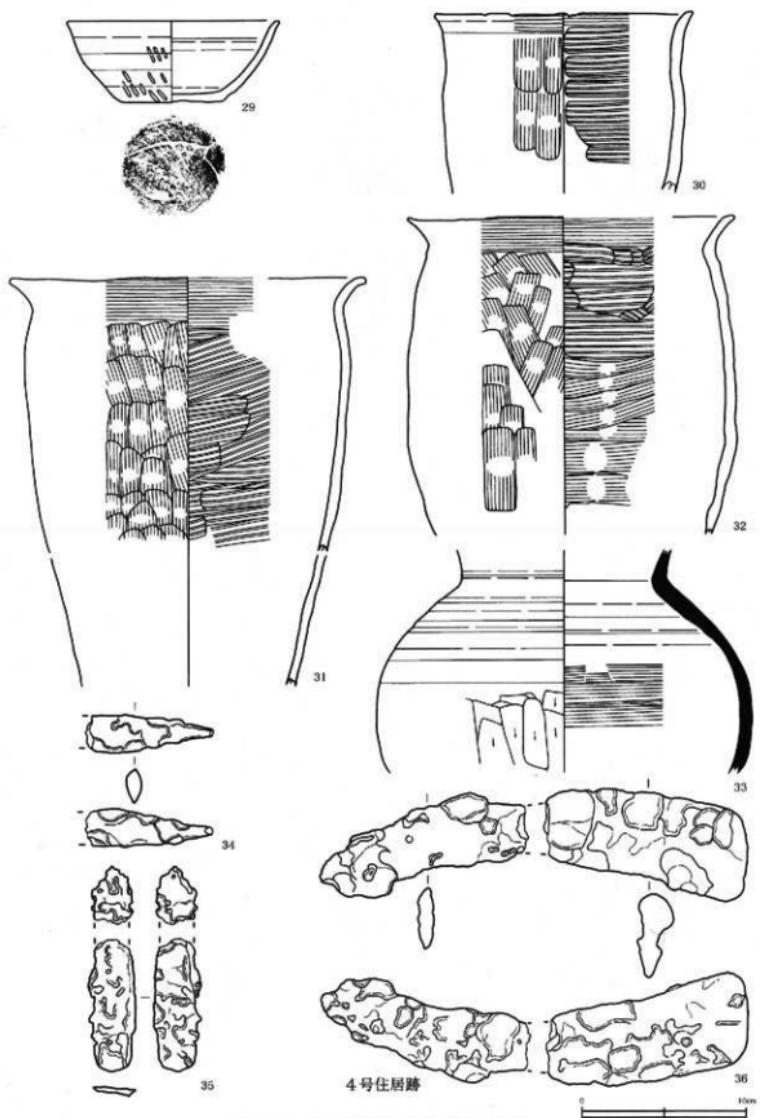
3号住居跡



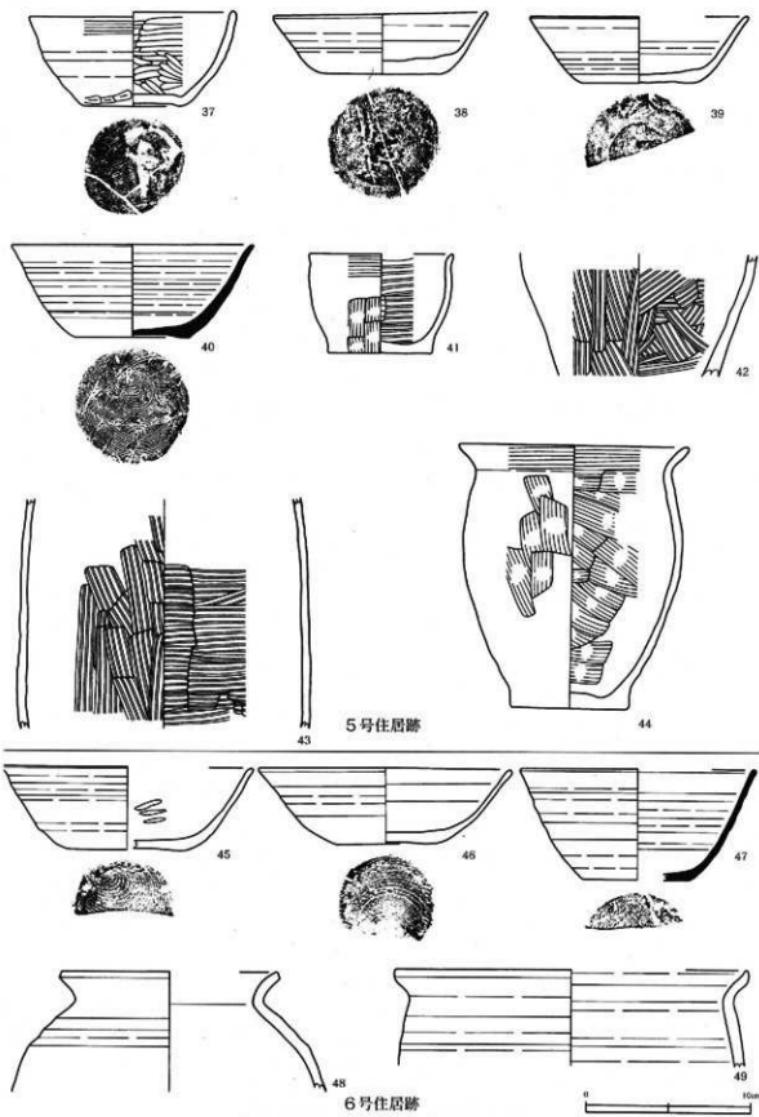
4号住居跡

第100図 住居内出土遺物 (3)

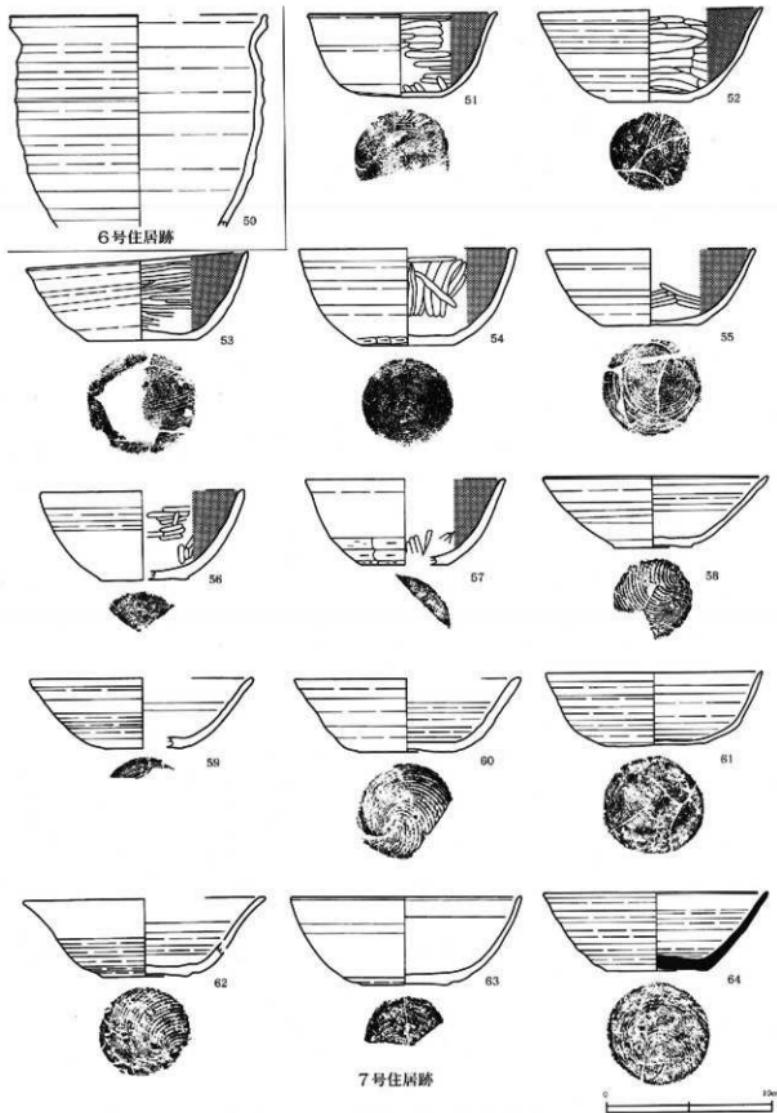




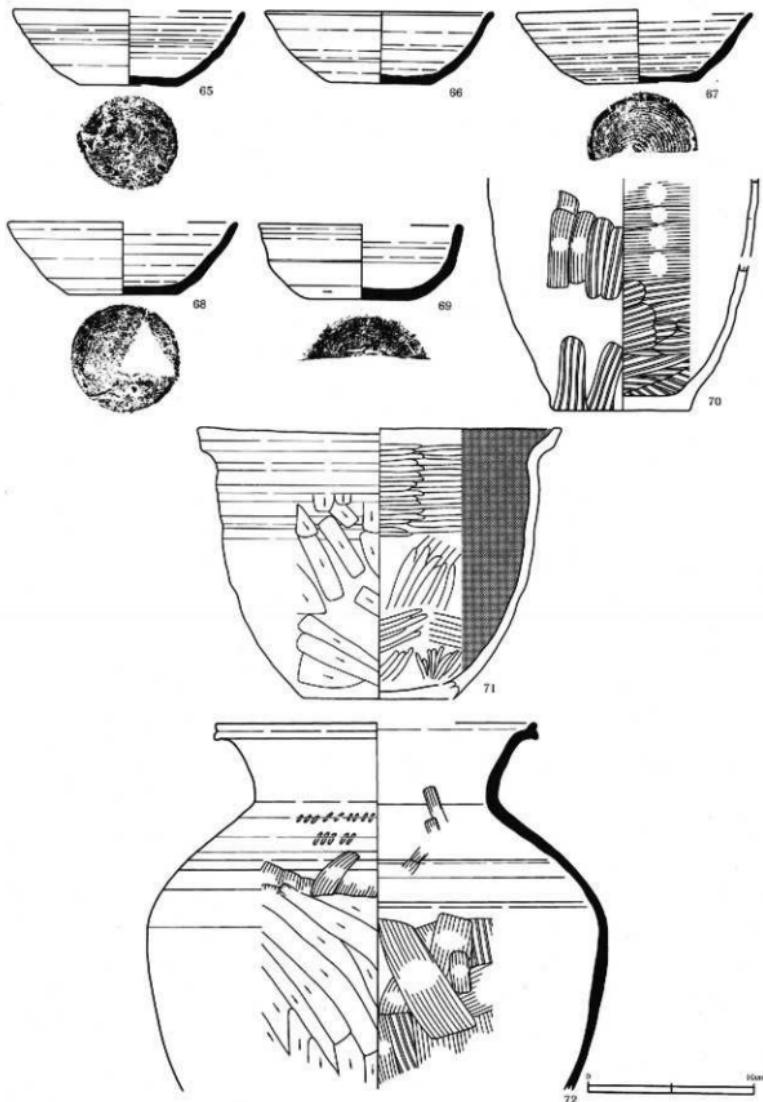
第101図 住居内出土遺物 (4)



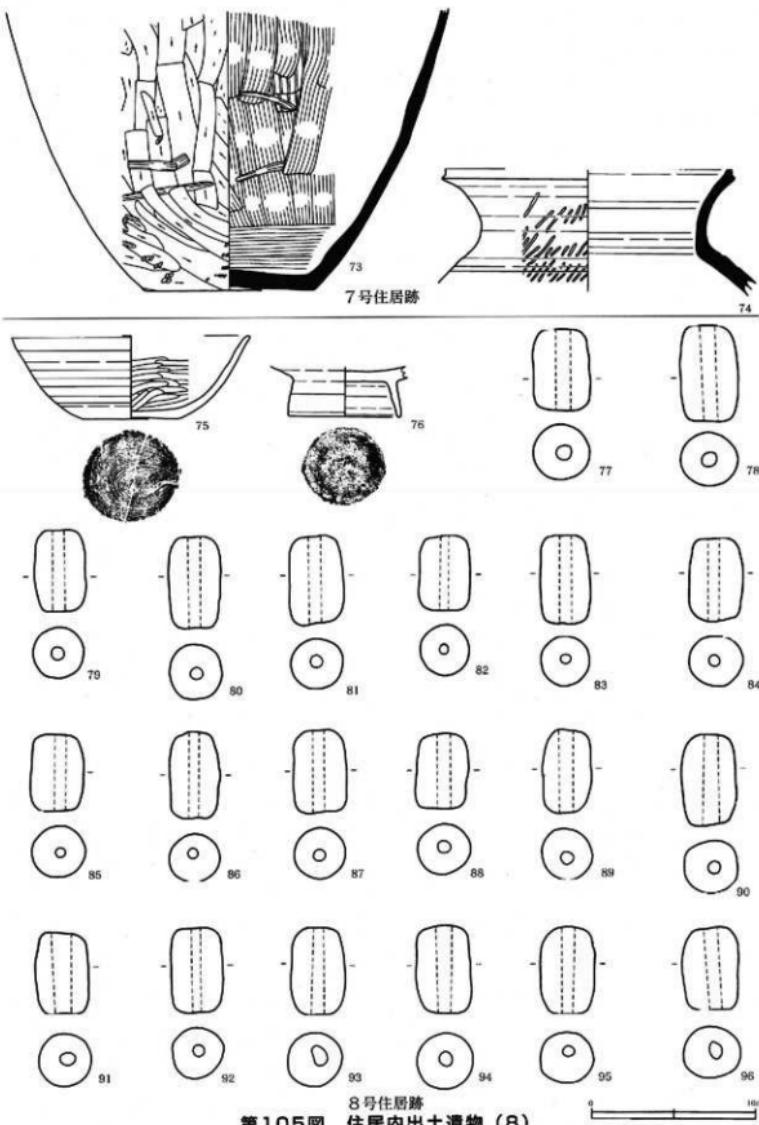
第102図 住居内出土遺物（5）



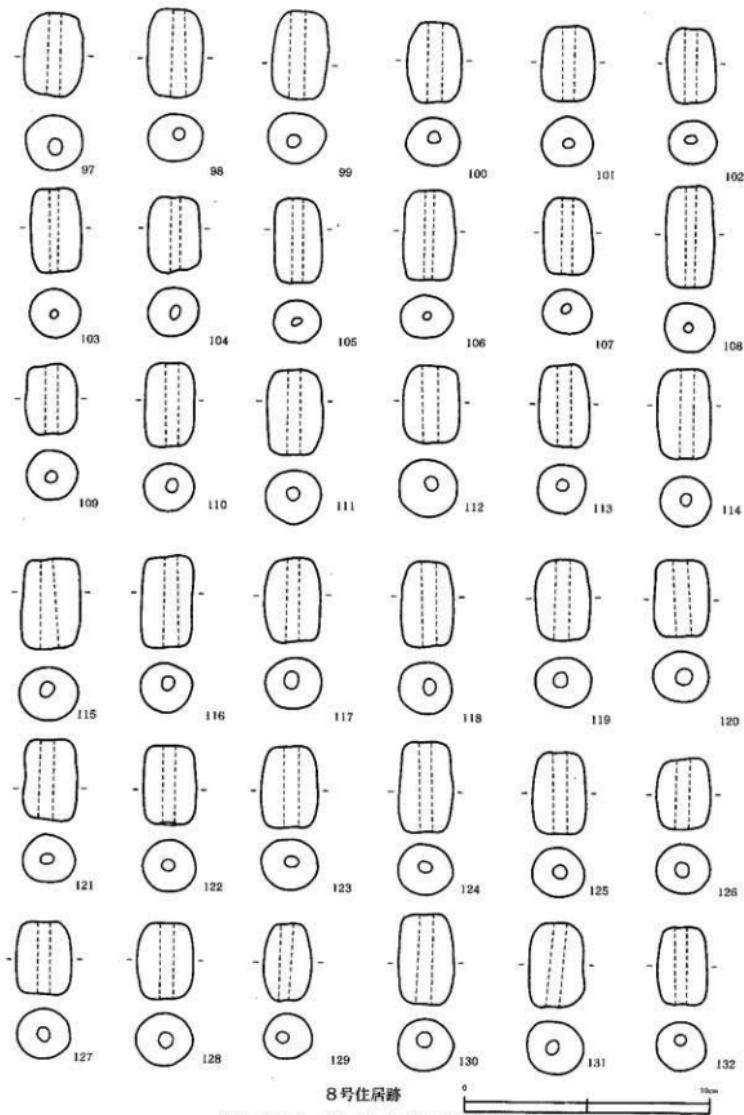
第103図 住居内出土遺物 (6)



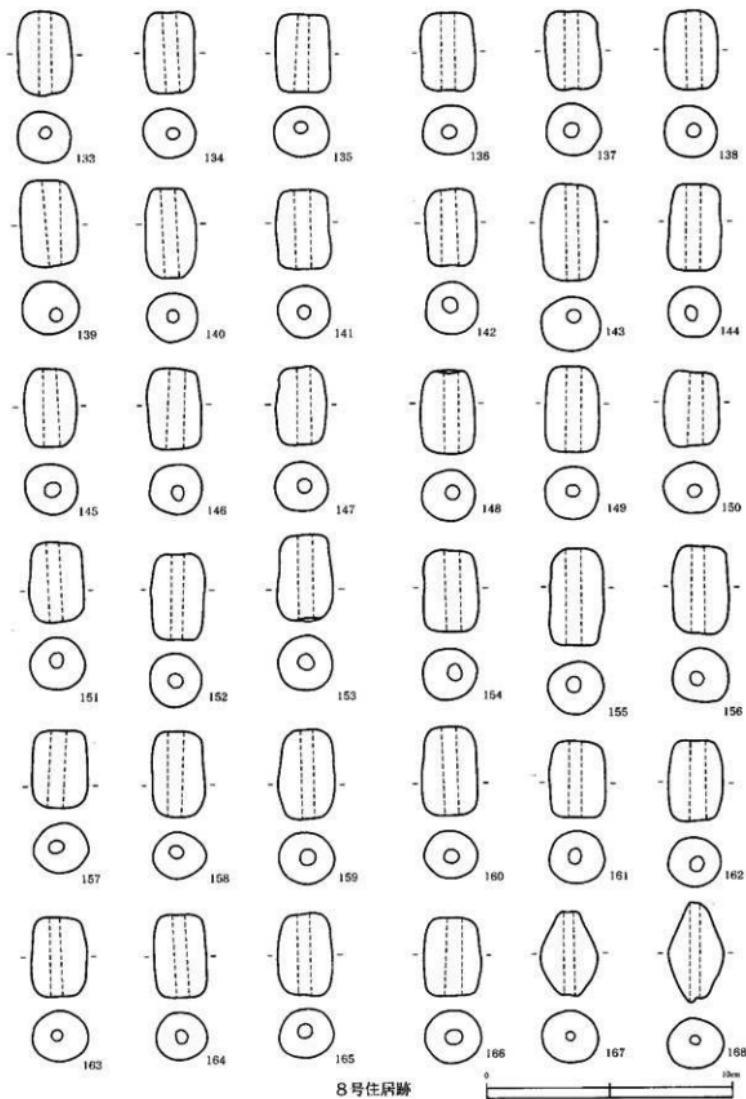
第104図 住居内出土遺物 (7)



第105図 住居内出土遺物 (8)



第106図 住居内出土遺物 (9)



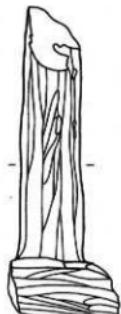
第107図 住居内出土遺物 (10)



169



170



171



172



173



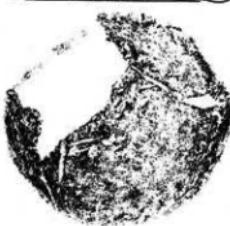
8号住居跡



175



174



9号住居跡



176



177

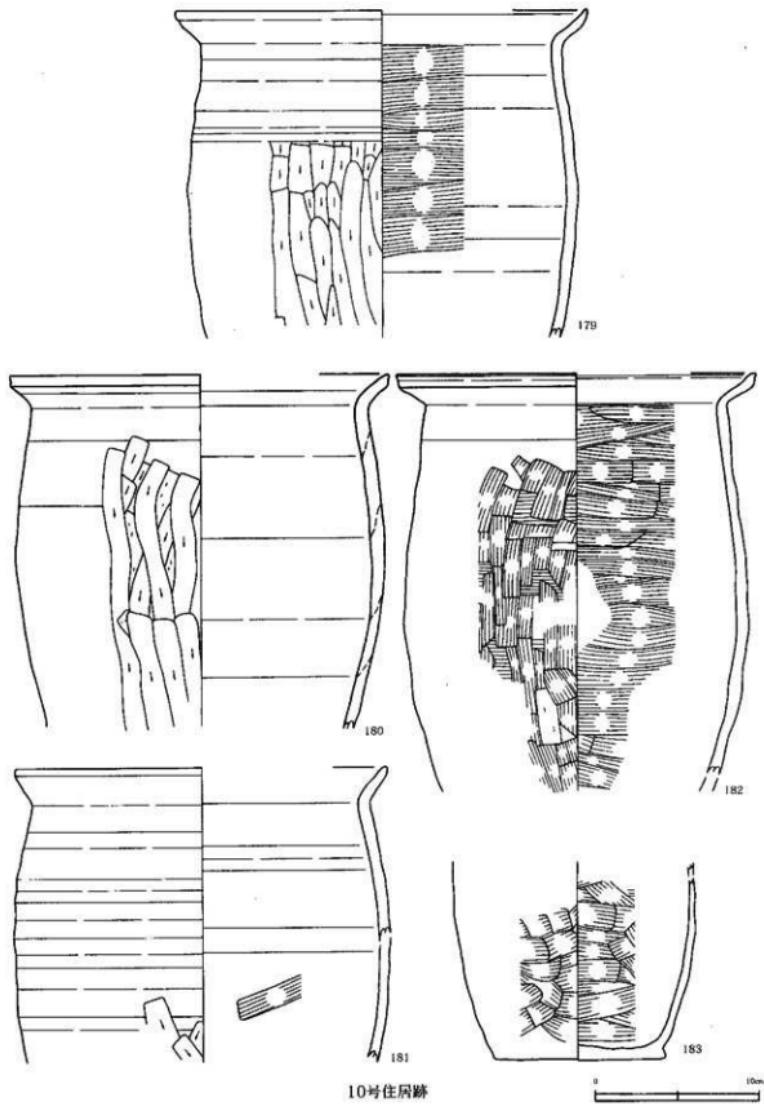


178

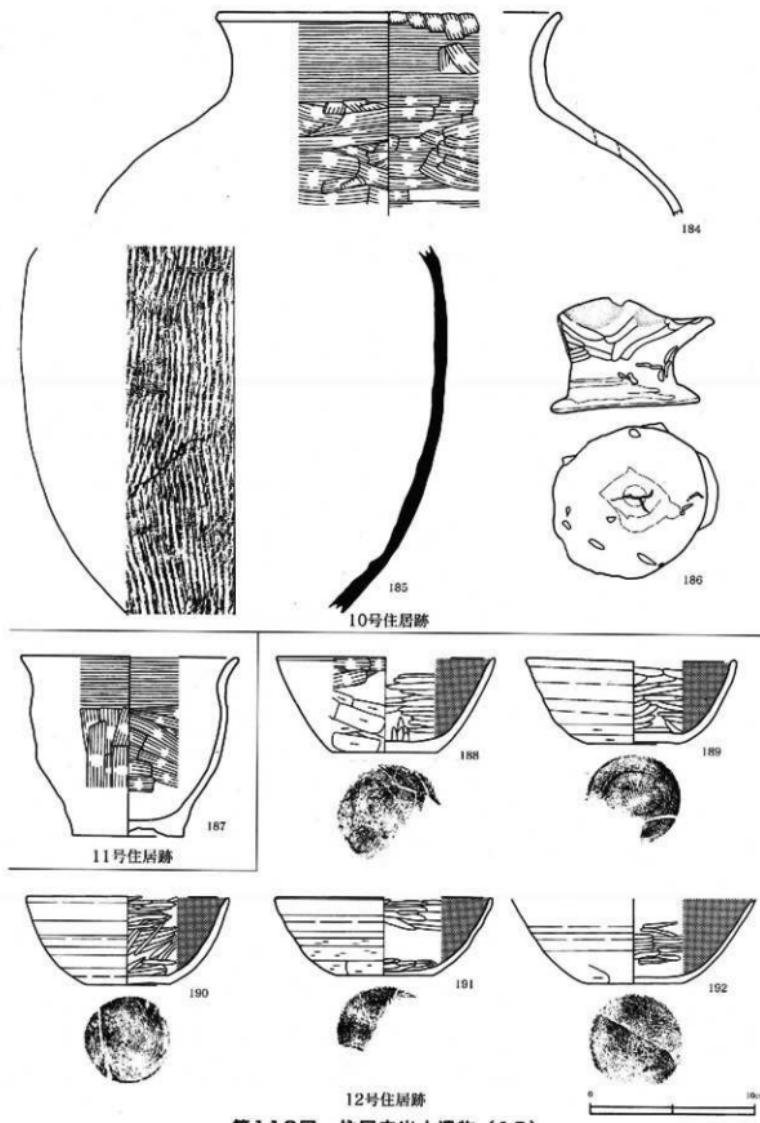
10号住居跡



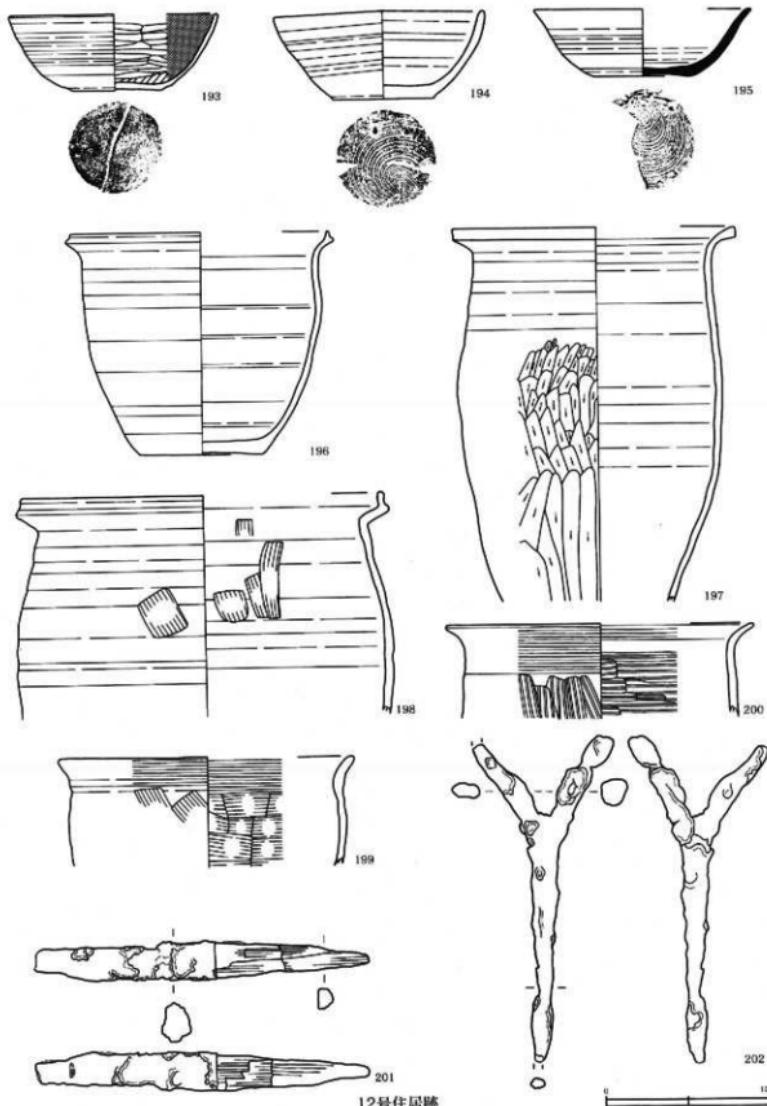
第108図 住居内出土遺物 (11)



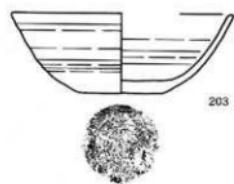
第109図 住居内出土遺物 (12)



第110図 住居内出土遺物 (13)



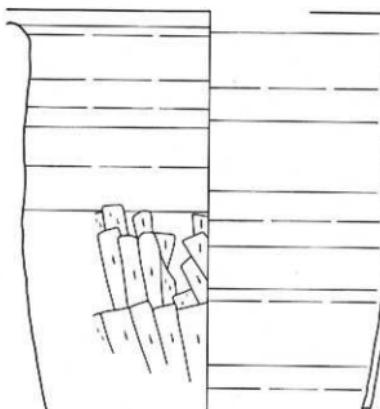
第111図 住居内出土遺物 (14)



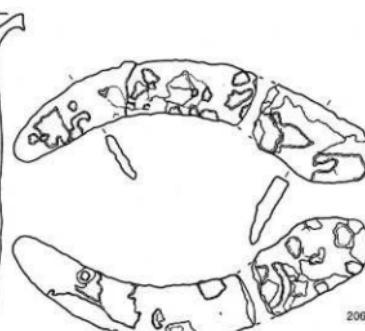
203



204



205

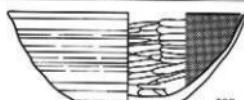


206

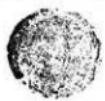
13号住居跡



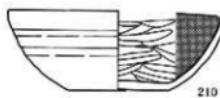
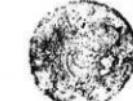
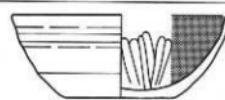
207



208



209



210



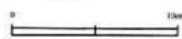
211

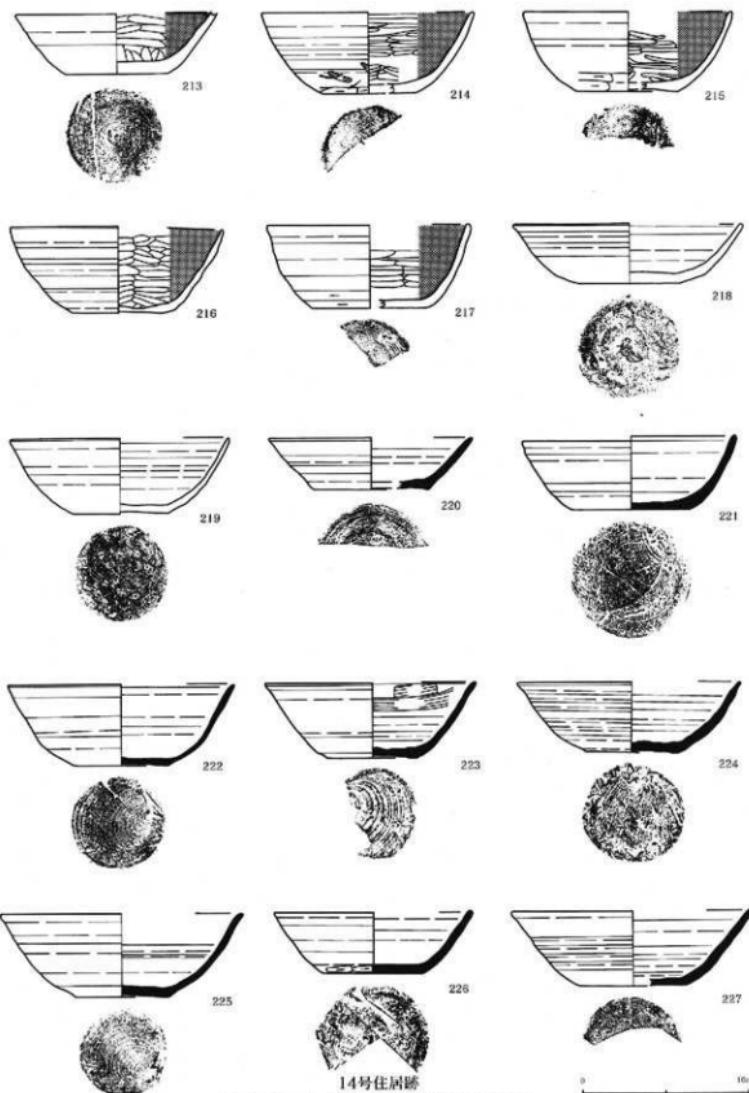


212

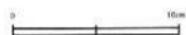


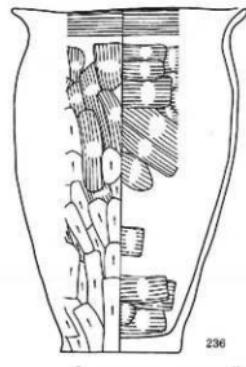
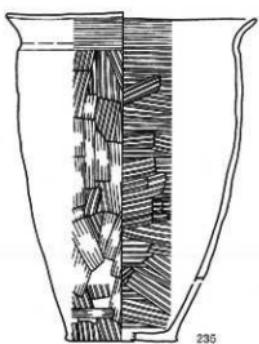
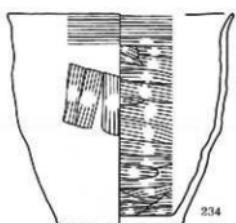
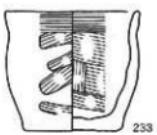
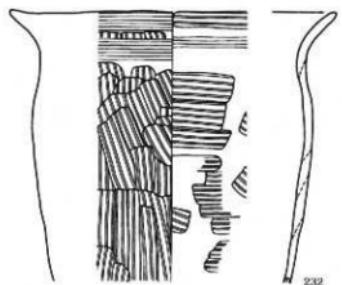
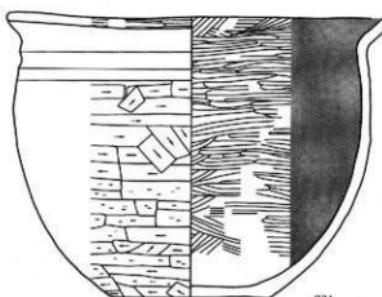
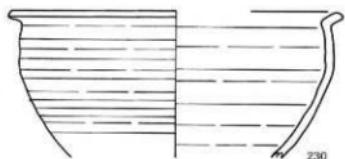
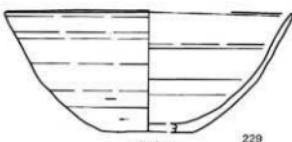
第112図 住居内出土遺物 (15)





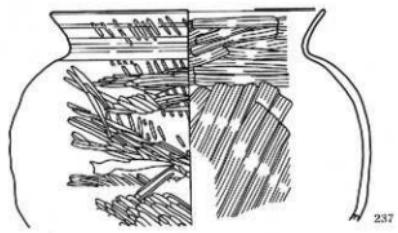
第113図 住居内出土遺物 (16)



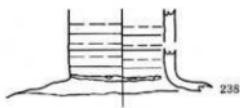


0 10mm

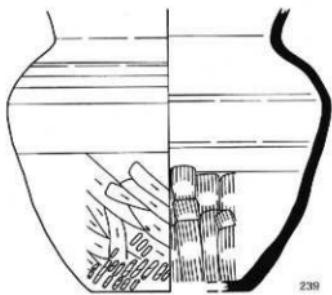
第114図 住居内出土遺物 (17)



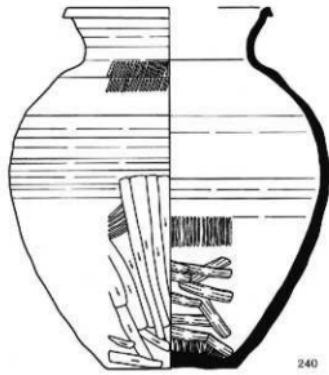
237



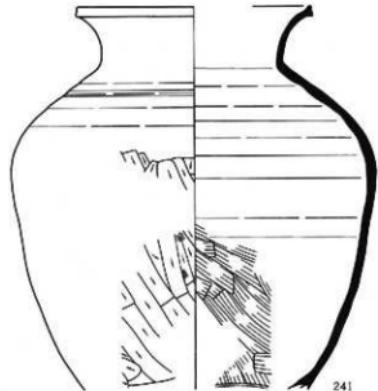
238



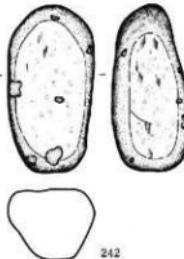
239



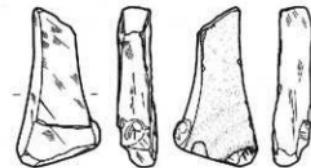
240



241



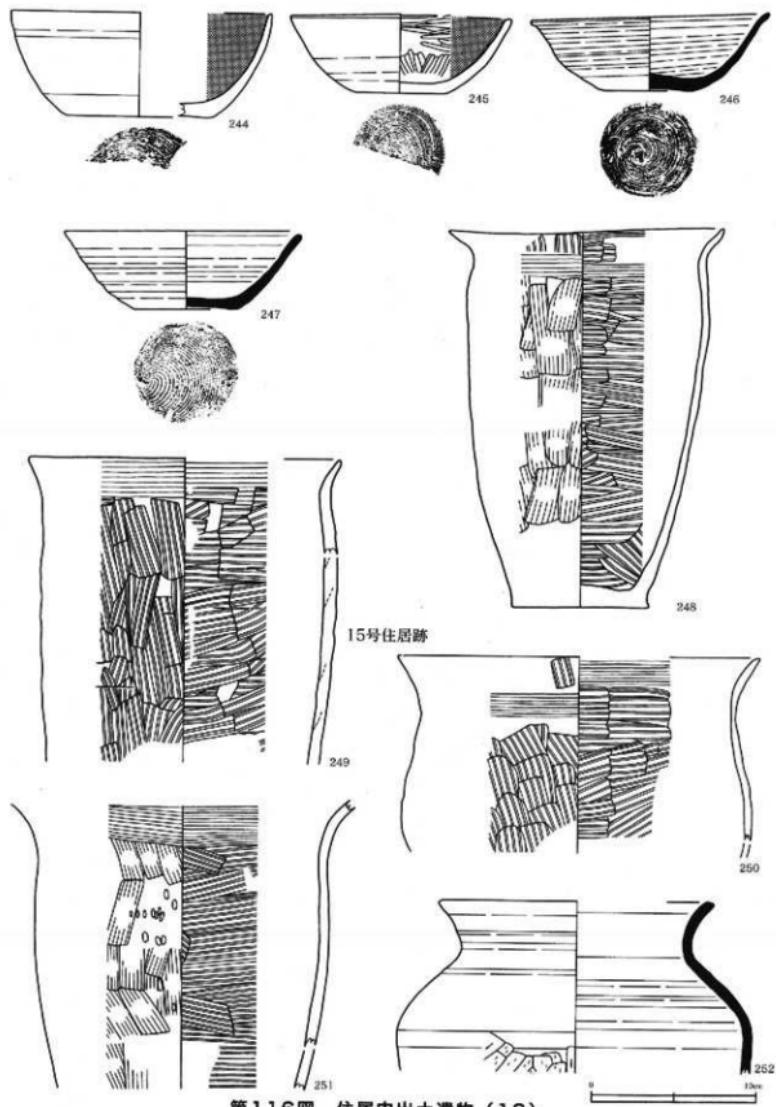
242



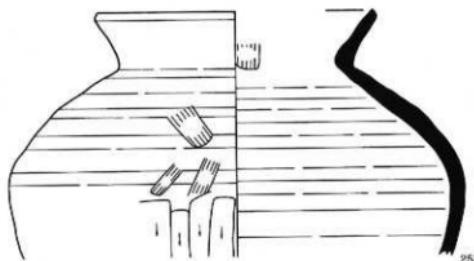
243

第115図 住居内出土遺物 (18)





第116図 住居内出土遺物 (19)



253



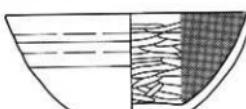
254



15号住居跡



255



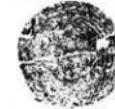
256



257



258



259



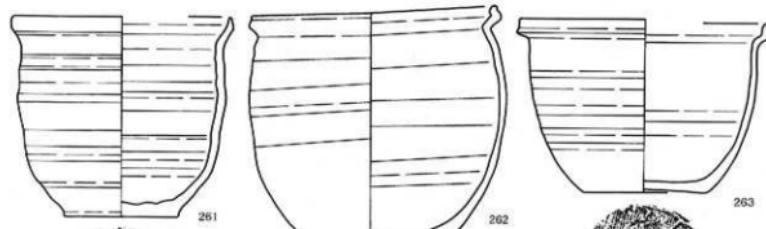
16号住居跡



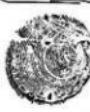
260



第117図 住居内出土遺物 (20)

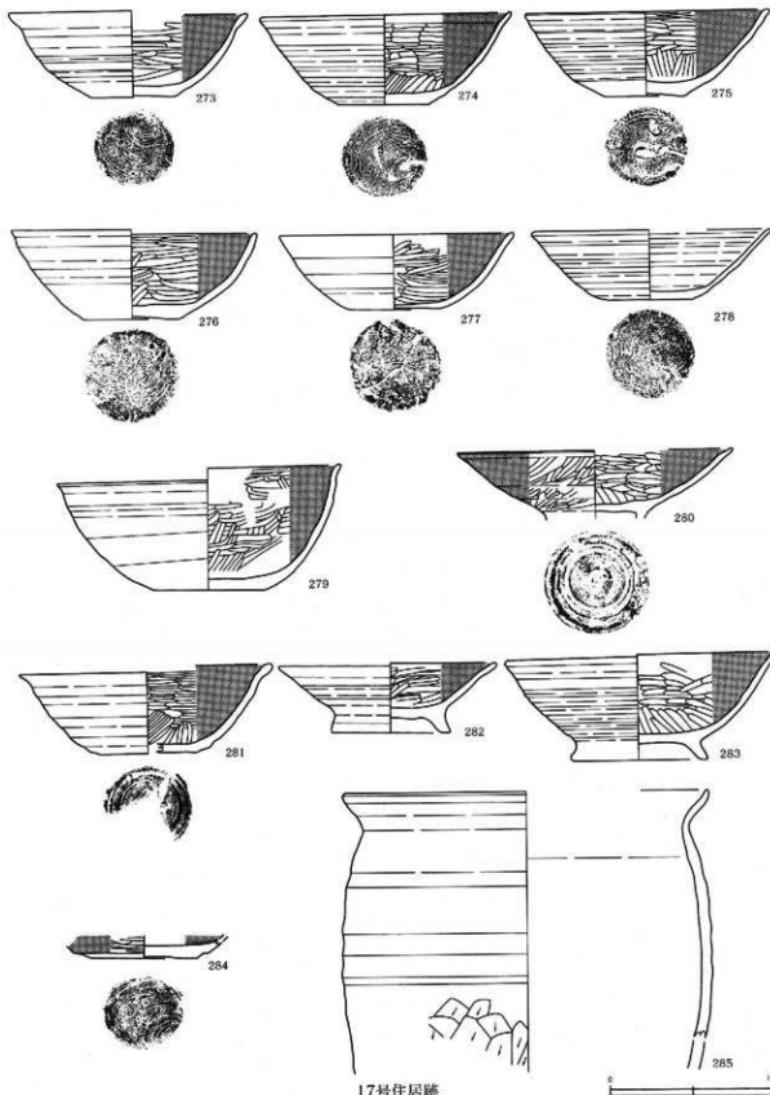


16号住居跡

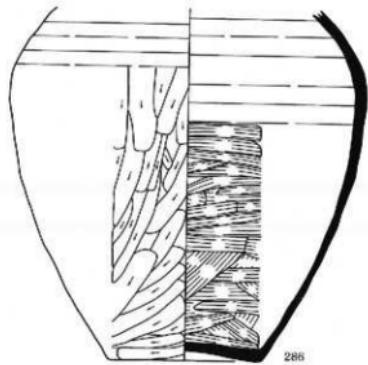


17号住居跡

第118図 住居内出土遺物 (21)



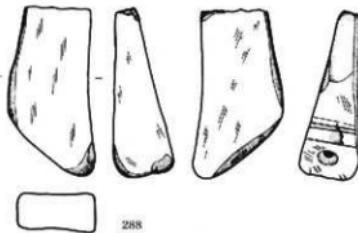
第119図 住居内出土遺物 (22)



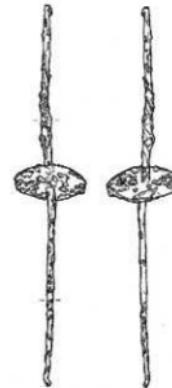
286



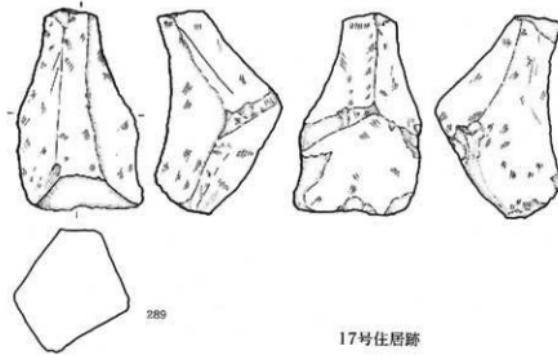
287



288



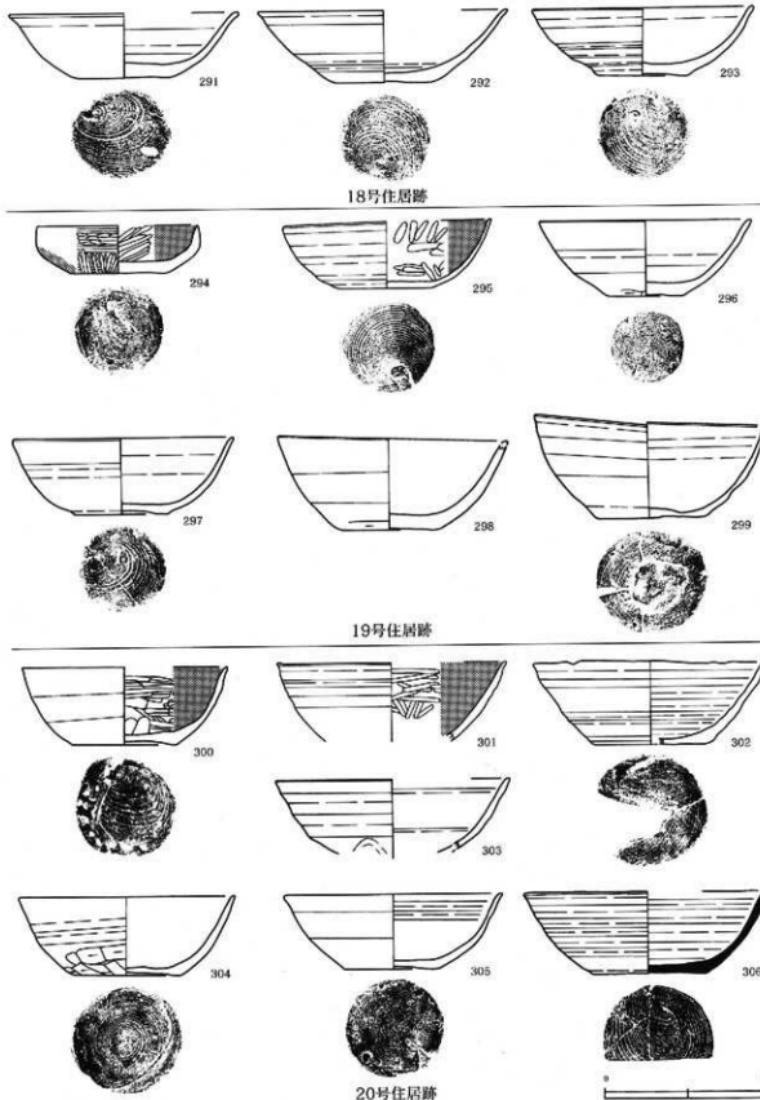
289



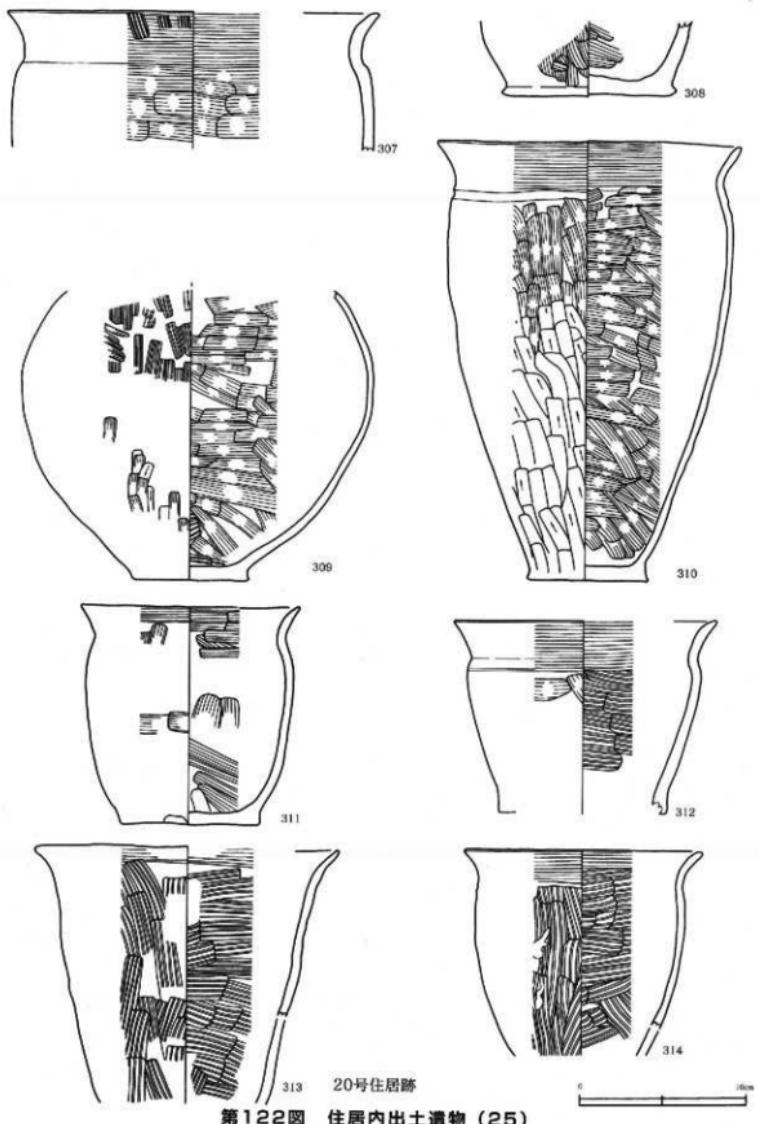
290

第120図 住居内出土遺物 (23)

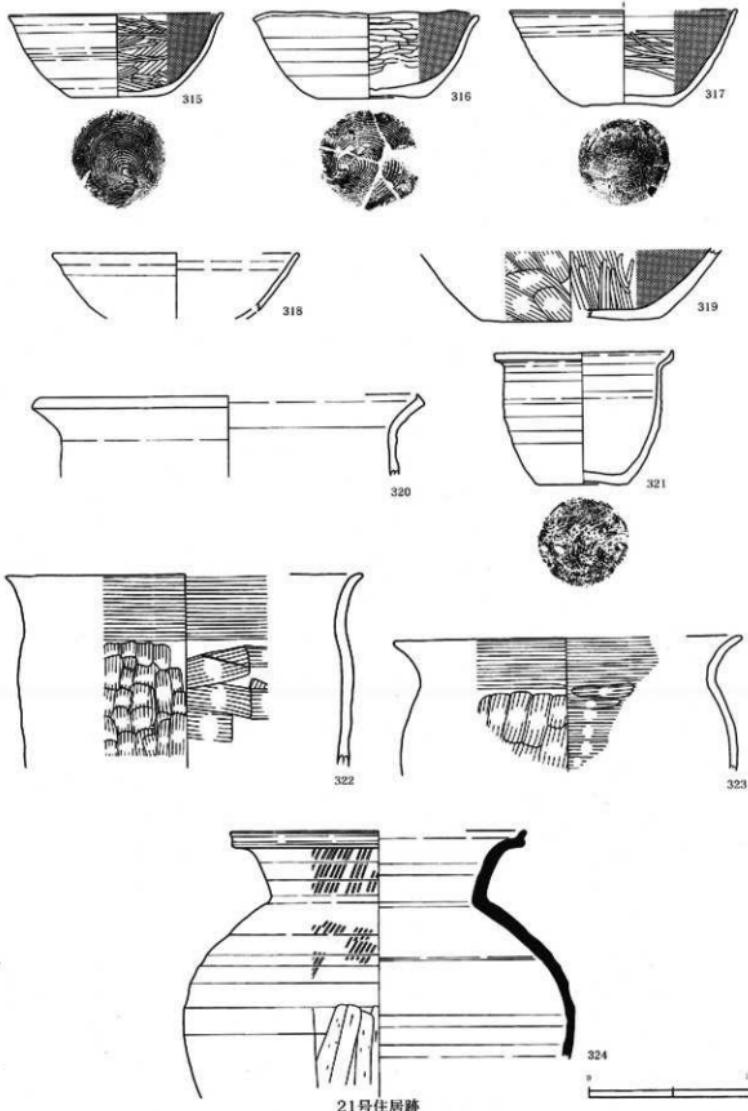




第121図 住居内出土遺物 (24)



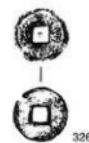
第122図 住居内出土遺物 (25)



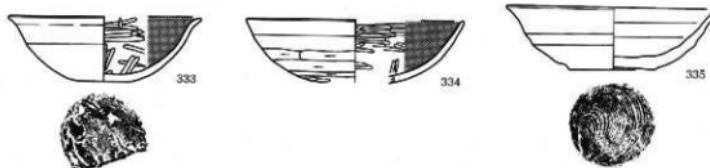
第123図 住居内出土遺物 (25)



21号住居跡



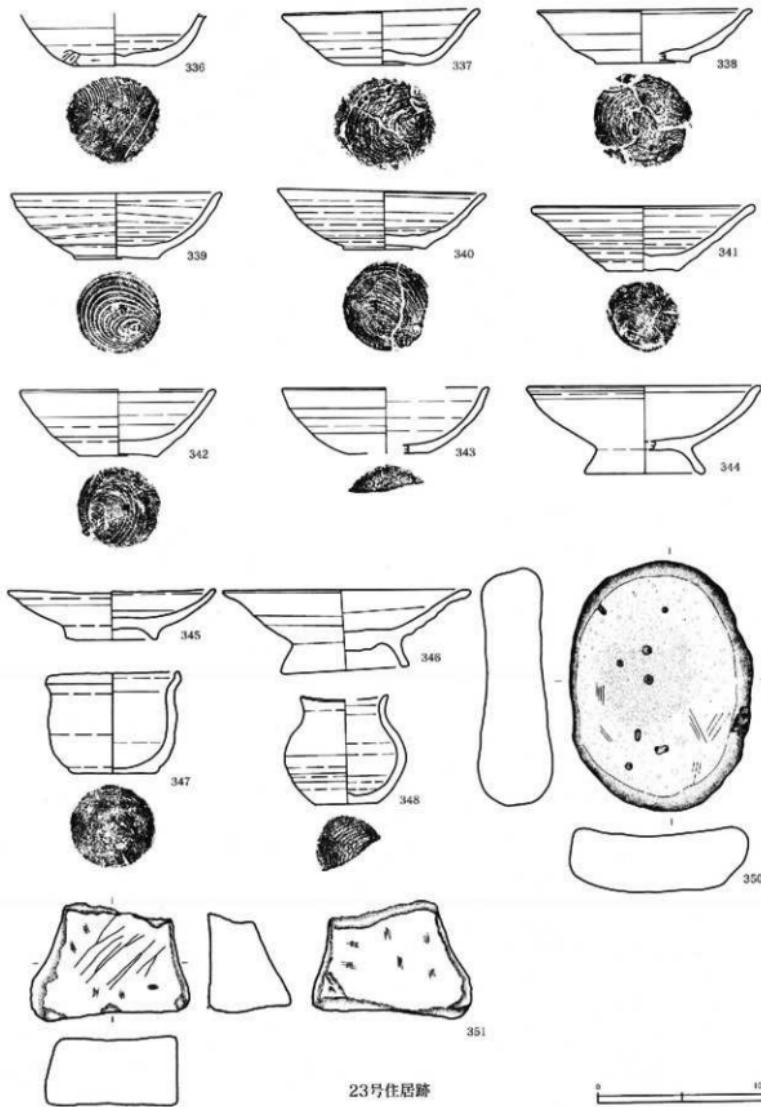
22号住居跡



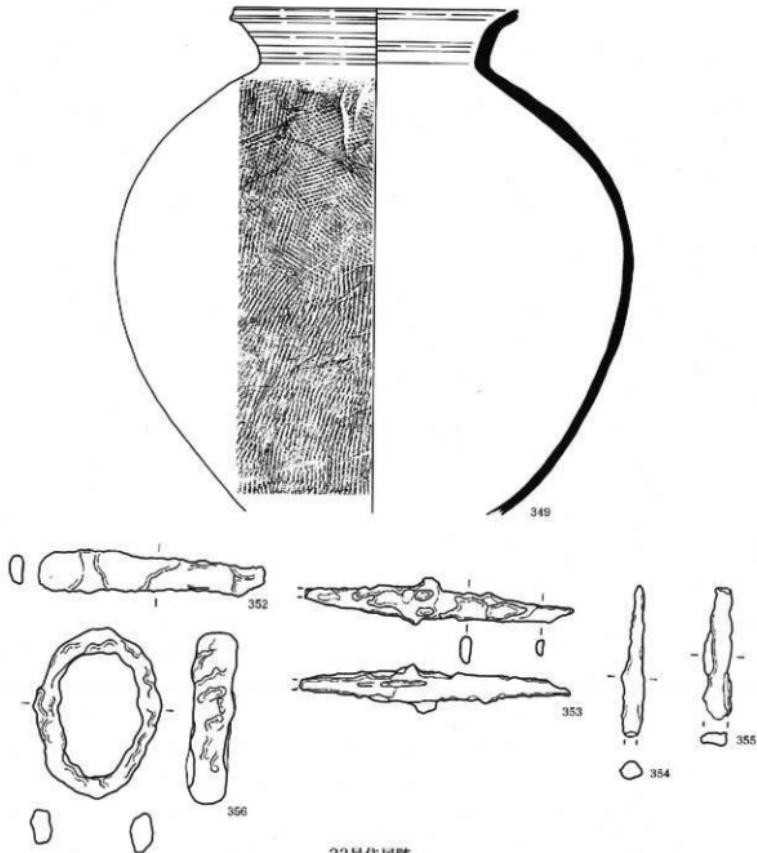
23号住居跡

第124図 住居内出土遺物 (27)

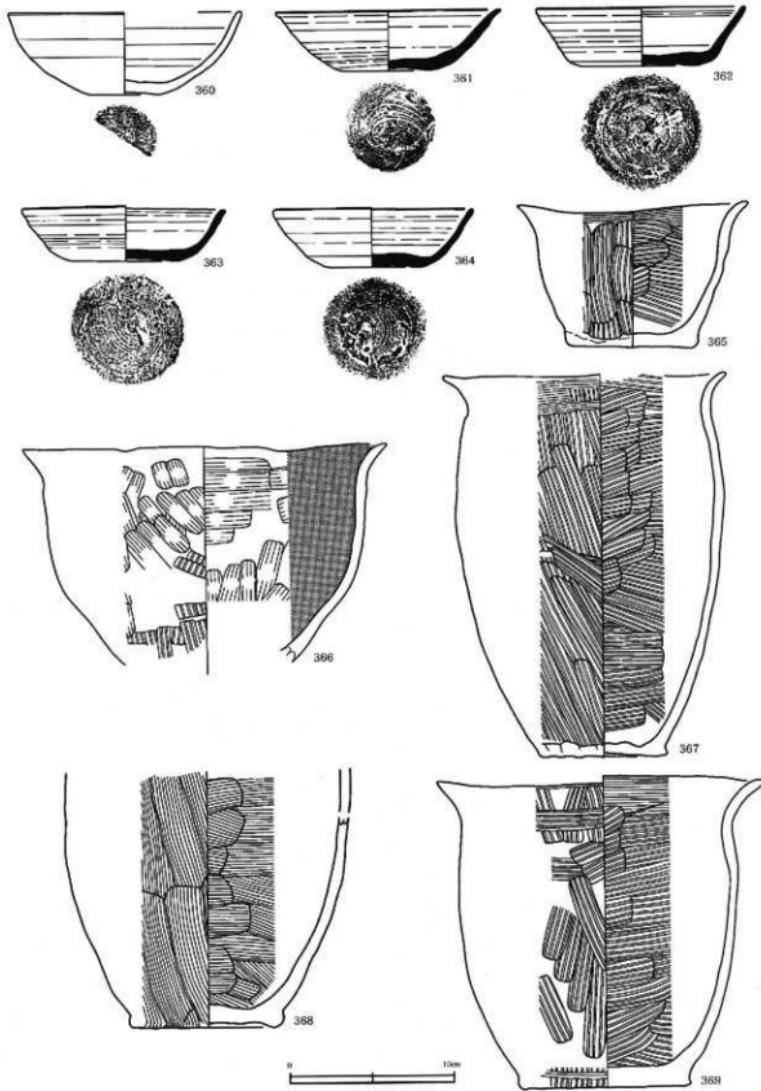
5 10cm



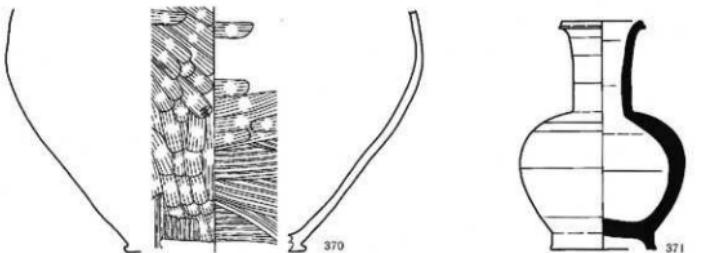
第125図 住居内出土遺物 (28)



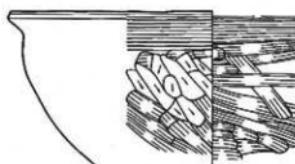
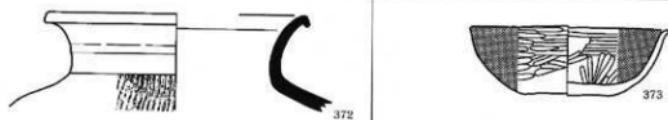
第126図 住居内出土遺物 (29)



第127図 住居内出土遺物 (30)



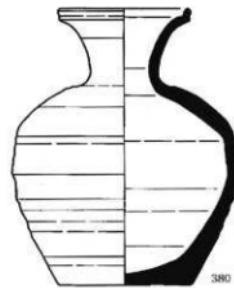
24号住居跡



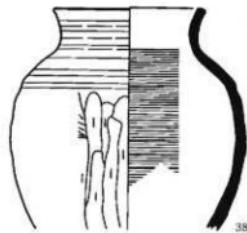
25号住居跡

第128図 住居内出土遺物 (31)

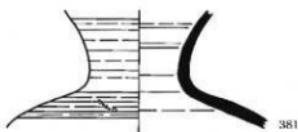




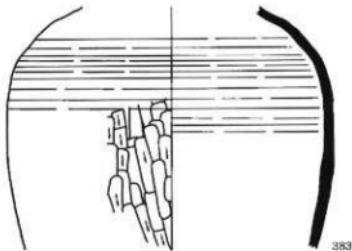
380



382



381



383



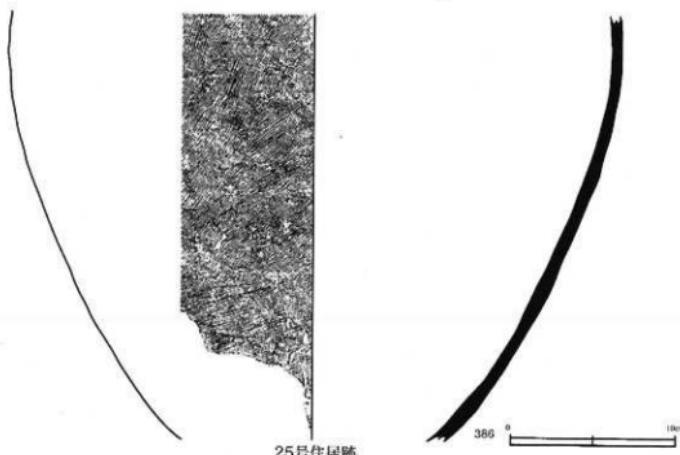
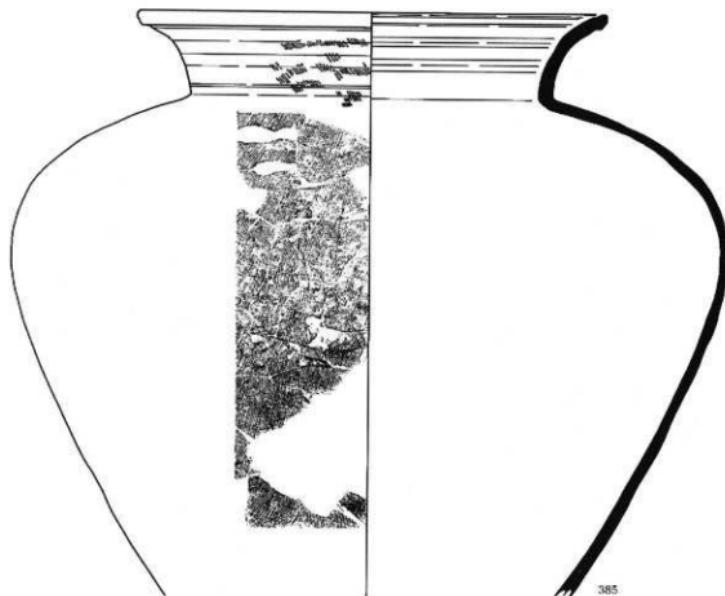
25号住居跡



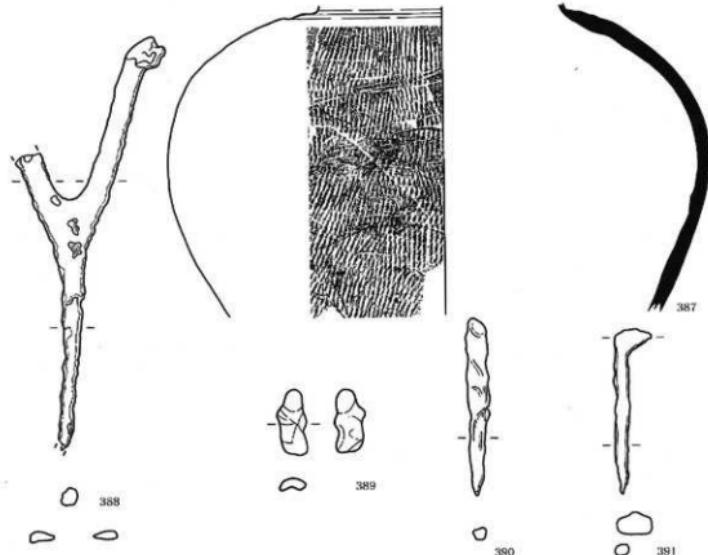
384

1cm

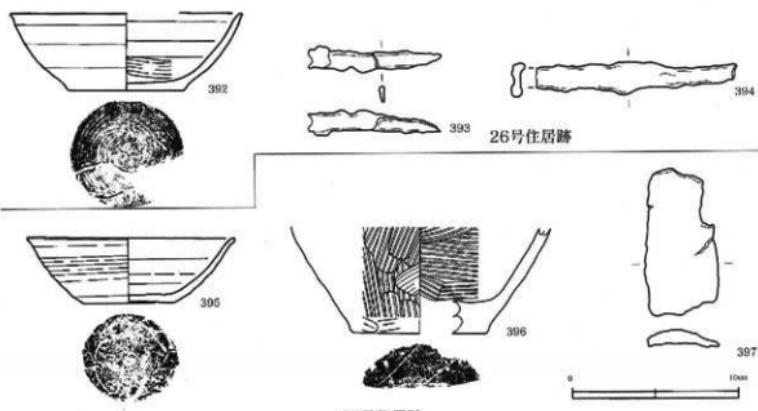
第129図 住居内出土遺物 (32)



第130図 住居内出土遺物 (33)



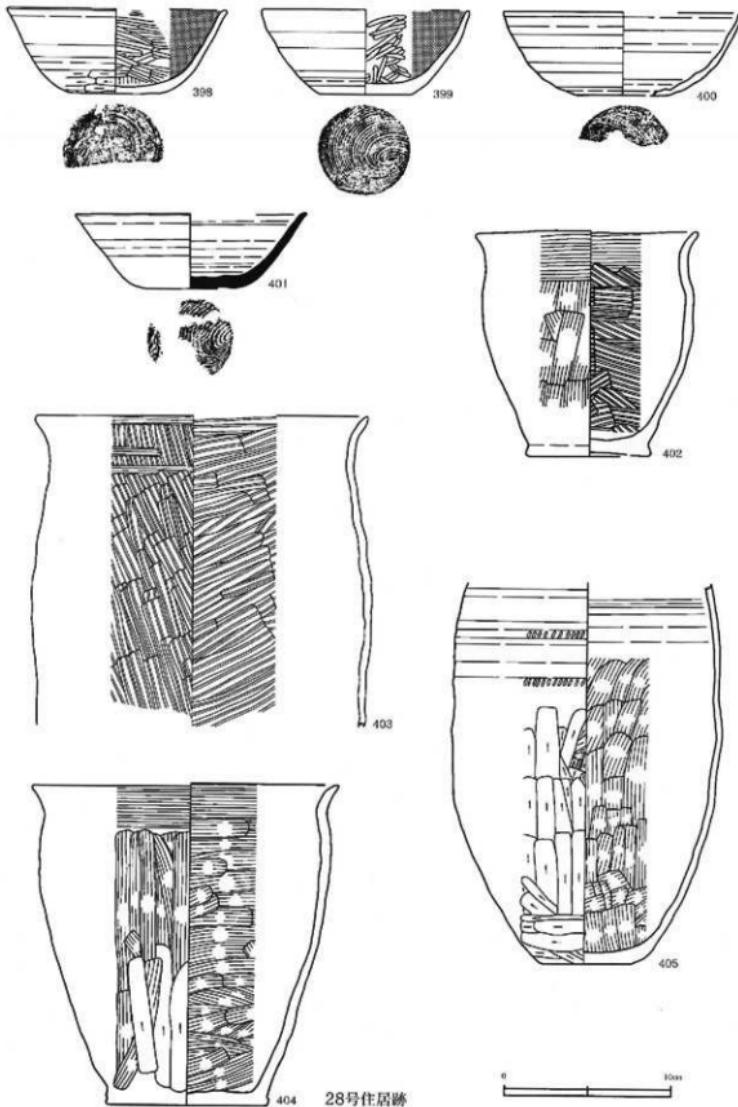
25号住居跡



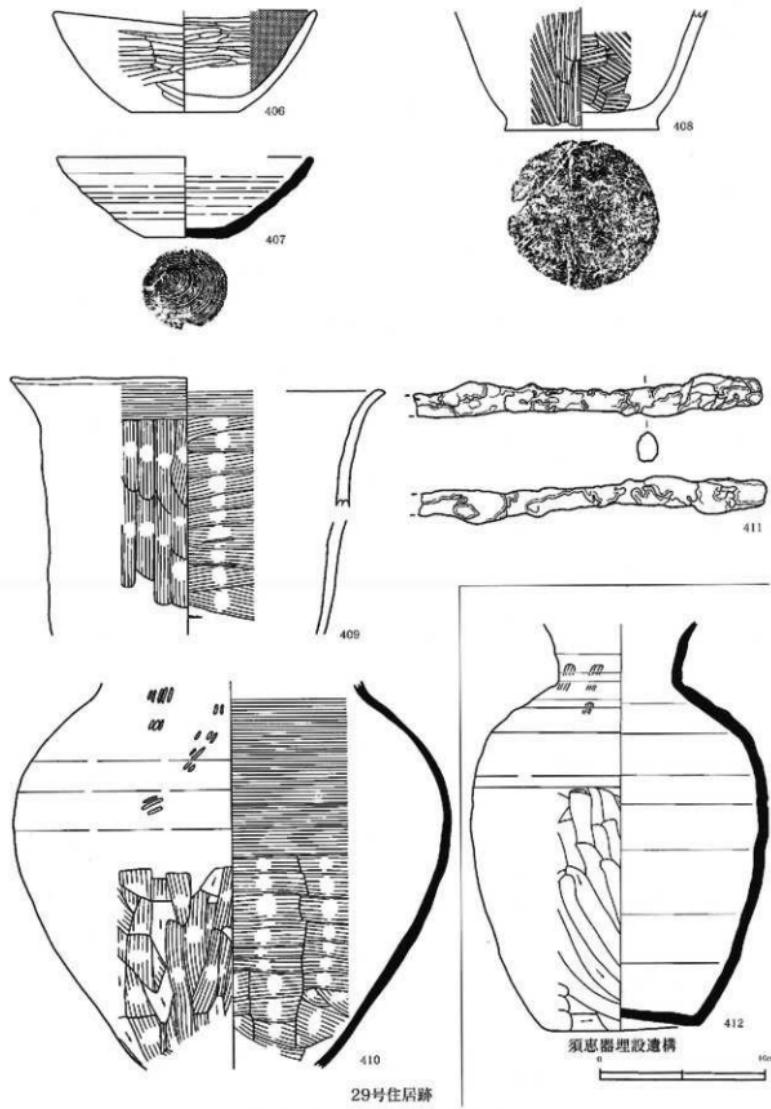
26号住居跡

27号住居跡

第131図 住居内出土遺物 (34)



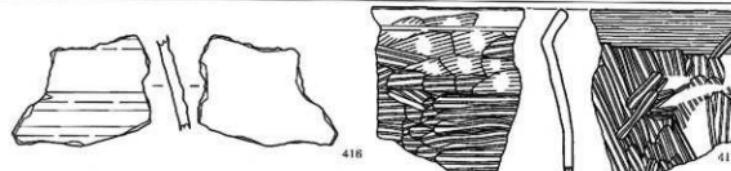
第132図 住居内出土遺物 (35)



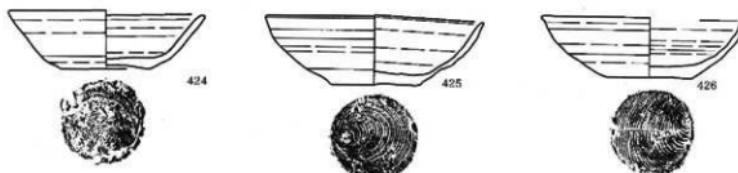
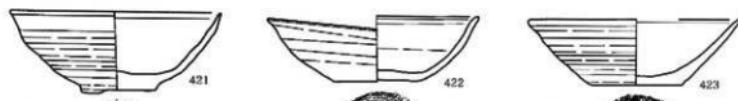
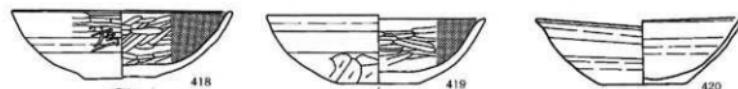
第133圖 住居内出土遺物 (36)



7号土坑

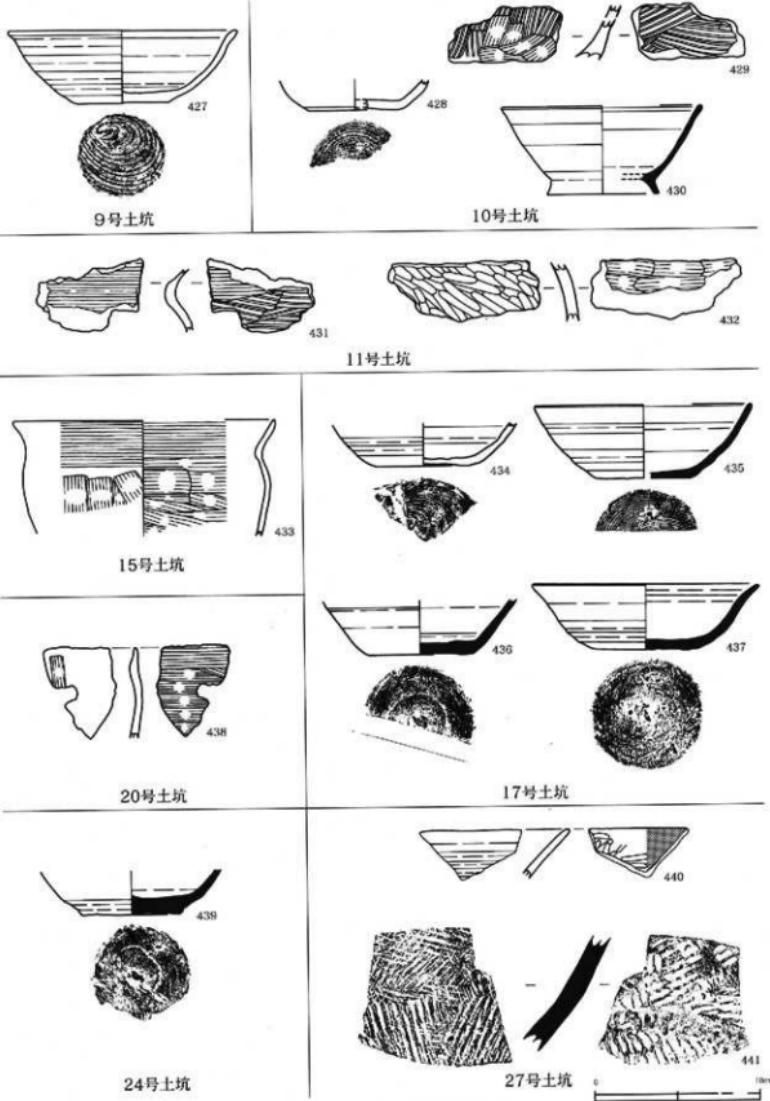


8号土坑

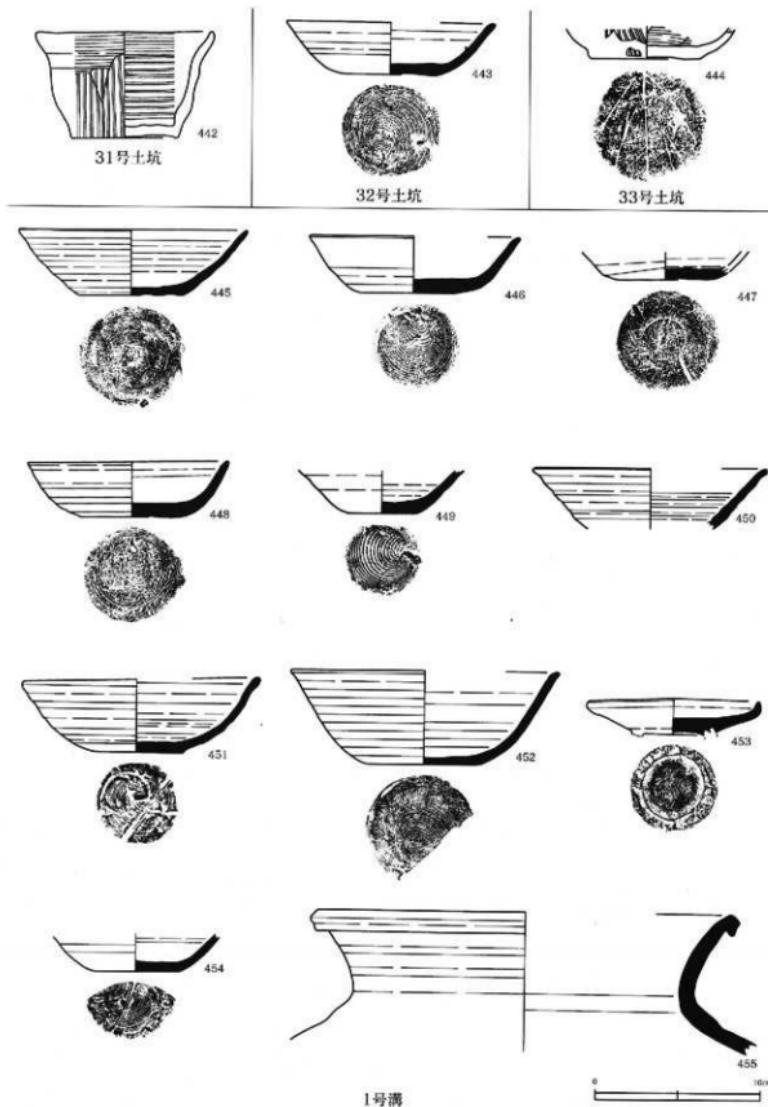


9号土坑

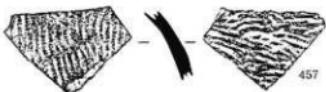
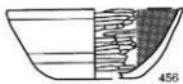
第134図 土坑内出土遺物（1）



第135圖 土坑內出土遺物（2）



第136図 土坑内（3）、溝跡（1）出土遺物



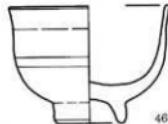
2号溝



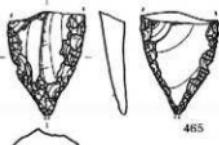
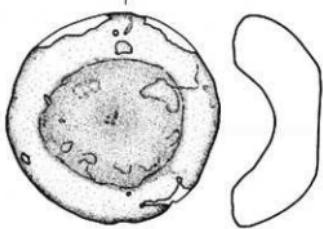
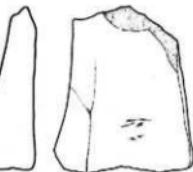
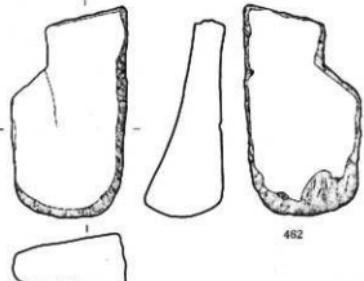
3号溝



8号溝

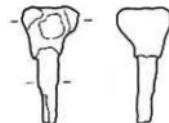
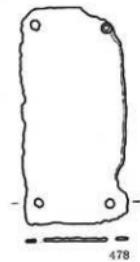
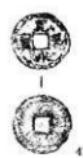
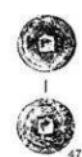
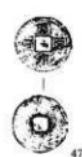
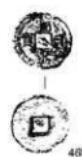
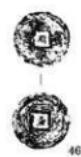
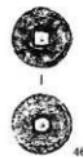


9号溝



遺構外出土遺物

第137図 溝跡(2)、遺構外出土遺物(1)



第138図 遺構外出土遺物（2）

遺物観察表

No.	出土地点	器種	口縁部(内/外)	腹部(内/外)	底部(内/外)	口径	底径	高さ	分類	備考	回数	写真
1	1号住溝土中位	环	ミキ/クロナ	ミキ/クロナ	ミキ/クロナ	(15.6)	5.8	6.5	A1a		98	70
2	1号住-P2埋土	环	クロナ/ミキナ	クロナ/ミキナ	クロナ/ミキナ	14.5	5.3	5.3	A1b		98	70
3	1号住-P2埋土	环	クロナ/ミキナ	クロナ/ミキナ	クロナ/ミキナ	(14.5)			All	墨書き文字痕	98	70
4	1号住カマド支脚	甕	ミキ/クロナ	ミキ/ト半タス	ミキ/不明→アリ	19.0	8.0	15.3	A1		98	70
5	1号住壁上~床	甕	クロナ/ミキナ	ミキ/ミキナ	ミキ/ミキナ	28.1			B1		98	70
7	2号住溝土埋土	环	クロナ/ミキナ	クロナ/ミキナ	クロナ/ミキナ	13.6	5.2	4.5	Allb		99	71
8	2号住-1号カマド	环	クロナ/ミキナ	クロナ/ミキナ	クロナ/ミキナ	12.4	6.0	4.1	A1a		99	71
9	2号住-カマド附近	环	クロナ/ミキナ	クロナ/ミキナ	クロナ/ミキナ	13.7	5.8	4.2	B1		99	71
10	2号住溝土-P5墓上	甕	クロナ/ミキナ	クロナ/ミキナ	クロナ/ミキナ	(17.0)	7.8	14.9	Alla		99	71
11	2号住-P3埋土	甕	クロナ/ミキナ	クロナ/ミキナ	クロナ/ミキナ	(17.6)			A1B		99	71
13	3号住埋土	环	ミキ/クロナ	ミキ/クロナ	ミキ/ミキナ	13.1	5.0	5.0	A1a		99	71
14	3号化粧土	环	ミキ/クロナ	ミキ/クロナ	ミキ/ミキナ	(14.0)	5.4	5.7	A1a		99	71
15	3号住埋土	环	ミキ/クロナ	ミキ/クロナ	ミキ/ミキナ	(14.0)	6.2	6.1	A1a		99	71
16	3号住-P5墓上位	环	ミキ/クロナ	ミキ/クロナ	ミキ/不明→アリ	(14.2)	6.0	5.2	A1z	~アズは手持ち	99	71
17	3号住-P5埋土	环	ミキ/クロナ	ミキ/クロナ	ミキ/ミキナ	(15.0)			A1	墨書き	99	71
18	3号住埋土	环	クロナ/ミキナ	クロナ/ミキナ	クロナ/ミキナ	14.3	6.4	5.1	A1a		99	71
19	3号住カマド附近壁上	环	クロナ/ミキナ	クロナ/ミキナ	クロナ/ミキナ	13.2	5.5	5.0	B1		100	71
20	3号住カマド附近埋土	环	クロナ/ミキナ	クロナ/ミキナ	クロナ/ミキナ	(14.4)	5.6	4.5	B1		100	71
21	3号住カマド附近床	台付皿	クロナ/ミキナ	クロナ/ミキナ	クロナ/ミキナ	12.8	5.0	3.5	Alla		100	71
22	3号住カマド附近床	皿	ミキ/クロナ	ミキ/クロナ	ミキ/クロナ	(12.4)	5.5	2.0	B1		100	72
23	3号住埋土	小形甕	ミキナ/クロナ	ミキナ/クロナ	ミキナ/ミキナ	(14.9)	6.2	12.3	Allb		100	72
24	3号住埋土	長財袋	ミキナ/クロナ	ミキナ/クロナ	ミキナ/ミキナ	(23.2)			A1a		100	72
26	4号住埋土	环	ミキ/クロナ	ミキ/クロナ	ミキ/ミキナ	14.0	6.8	5.4	A1b		100	72
27	4号住カマド附近床	环	ミキ/クロナ	ミキ/クロナ	ミキ/不明→アリ	(12.7)	6.0	5.0	A1z		100	72
28	4号住貼り床	环	クロナ/ミキナ	クロナ/ミキナ	クロナ/ミキナ	(11.2)	6.0	4.2	Allz	切り離しは不明	100	72
29	4号住	环	クロナ/ミキナ	クロナ/ミキナ	クロナ/ミキナ	(16.0)			Allz	"	101	72
30	4号住貼り床	甕	ミキ/ミキナ	ミキ/ミキナ	ミキ/ミキナ	(22.0)			A1		101	72
31	4号住埋土上~中位	長財袋	ミキナ/ミキナ	ミキナ/ミキナ	ミキナ/ミキナ	(13.3)			A1		101	72
32	4号住床面	甕	ミキナ/ミキナ	ミキナ/ミキナ	ミキナ/ミキナ	(19.7)			A1		101	72
33	4号住カマド附近壁上	附颈甕	クロナ/ミキナ	ミキナ/ミキナ	ミキナ/ミキナ				B1		101	73
35	5号住	环	ミキ/クロナ	ミキ/クロナ	ミキ/ミキナ	12.6	6.0	5.8	A1z		102	73
36	5号住床面	环	ミキナ/クロナ	ミキナ/クロナ	ミキナ/ミキナ	13.1	7.0	3.9	B1		102	73
39	5号住貼り床	环	ミキナ/クロナ	ミキナ/クロナ	ミキナ/ミキナ	(13.3)	7.0	4.1	B1		102	73
40	5号住	环	クロナ/ミキナ	クロナ/ミキナ	クロナ/ミキナ	14.8	7.0	5.7	B1		102	73
41	5号住-1号カマド	小形甕	ミキナ/ミキナ	ミキナ/ミキナ	ミキナ/ミキナ	8.8	6.3	6.1	A1		102	73
42	5号住貼り床	甕	ミキナ/ミキナ	ミキナ/ミキナ	ミキナ/ミキナ				A1		102	73
43	5号住埋土	甕	ミキナ/ミキナ	ミキナ/ミキナ	ミキナ/ミキナ				A1		102	73
44	5号住	長財袋	ミキナ/ミキナ	ミキナ/ミキナ	ミキナ/ミキナ	14.0	7.0	16.1	A1		102	73
45	6号住-P1	环	ミキ/クロナ	ミキ/クロナ	ミキ/ミキナ	(15.5)			A1a	内黒剥がれ?	102	74
46	6号住貼り床	环	ミキナ/クロナ	ミキナ/クロナ	ミキナ/ミキナ	15.5	6.0	4.7	Alla		102	74
47	6号住埋土上位	环	ミキナ/クロナ	ミキナ/クロナ	ミキナ/ミキナ	(14.4)	(6.6)	6.8	B1		102	74
48	6号住埋土中位	甕	ミキナ/クロナ	ミキナ/クロナ	ミキナ/ミキナ	(13.4)			A1		102	74
49	6号住貼り床	甕	ミキナ/クロナ	ミキナ/クロナ	ミキナ/ミキナ	(21.4)			A1		102	74
50	6号住貼り床	甕	ミキナ/クロナ	ミキナ/クロナ	ミキナ/ミキナ	15.6			A1		103	74
51	7号住埋土上~中位	环	ミキ/クロナ	ミキ/クロナ	ミキ/不明→アリ	11.4	5.5	5.2	A1z		103	74
52	7号住床面	环	ミキ/クロナ	ミキ/クロナ	ミキ/ミキナ	13.6	5.0	5.8	A1z		103	74
53	7号住埋土	环	ミキ/クロナ	ミキ/クロナ	ミキ/ミキナ	13.4	6.6	5.4	A1z		103	74
54	7号住埋土中位	环	ミキ/クロナ	ミキ/クロナ	ミキ/ミキナ	(13.2)	5.6	5.9	A1z		103	74
55	7号住埋土	环	ミキ/クロナ	ミキ/クロナ	ミキ/ミキナ	(12.4)	6.0	4.7	A1z		103	74
56	7号住埋土	环	ミキ/クロナ	ミキ/クロナ	ミキ/ミキナ	(12.4)	(5.4)	5.5	A1z		103	74
57	7号住カマド附近	环	ミキ/クロナ	ミキ/クロナ	ミキ/ミキナ	(11.2)	(5.2)	5.3	A1z	切り離しは不明	103	74
58	7号住土坑	环	クロナ/ミキナ	クロナ/ミキナ	クロナ/ミキナ	13.7	4.8	4.4	Alla		103	74

No.	出土地点	器種	IJ縁部(内／外)	割部(内／外)	底部(内／外)	口径	底径	高さ	分類	備考	回数	写真
59	7号住埋土	环	口ロナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／口ロナリ	13.6	(4.8)	4.3	Alla		103	75
60	7号住埋土下位	环	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／K付付	(13.8)	6.0	4.5	Alla		103	75
61	7号住埋土中位	环	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／K付付	(13.3)	6.0	4.5	Alla		103	75
62	7号住埋土	环	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／K付付	(14.7)	5.4	4.8	Alla		103	75
63	7号住埋土上～中位	环	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／K付付?	(14.6)	(5.2)	5.4	Alla		103	75
64	7号住埋土	环	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／K付付	(13.6)	6.2	4.8	Ba		103	75
65	7号住埋土上～中位	环	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／K付付	(13.6)	6.0	4.6	Ba		104	75
66	7号住埋土	环	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／K付付	(13.9)	6.0	4.5	Ba		104	75
67	7号住埋土中位	环	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／K付付	(14.3)	6.0	4.5	Ba		104	75
68	7号住埋土上～中位	环	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／K付付?	(14.0)	6.6	4.5	Bb		104	75
69	7号住埋土	环	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／K付付?	(13.8)	6.0	4.5	B		104	75
70	7号住埋土上～中位	要	ナ／ナ／ナ／ナ	ナ／ナ／ナ／ナ	ナ／ナ／ナ／ナ	8.4			AJ		104	75
71	7号住埋土下位	要	ナ／ナ／ロコナリ	ナ／ナ／ロコナリ	ナ／ナ／ロコナリ	21.6	9.0	16.8	All		104	75
72	7号住埋土	要	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	19.8			BII		104	75
73	7号住埋土	要	ナ／グスリ	ナ／グスリ	ナ／グスリ	10.0			BII	72と同一個体?	105	75
74	7号住埋土中位	要	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	(17.4)			BII?		105	75
75	8号住埋土	环	ミカキ／ロコナリ	ミカキ／ロコナリ	ミカキ／K付付?	(14.6)	5.6	5.1	Alla		105	76
76	8号住埋土	高台环	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／K付付?				Alla		105	76
172	9号住一カマド	环	ミカキ／ロコナリ	ミカキ／ロコナリ	ミカキ／K付付?	(15.0)	5.6	5.0	Alla		108	79
173	9号住埋土下位	环	ミカキ／ロコナリ	ミカキ／ロコナリ	ミカキ／K付付?	(15.0)	5.8	4.7	Alla		108	79
174	9号住埋土下位	要	ナ／グスリ	ナ／グスリ	ナ／グスリ?	12.4			All?		108	79
175	9号住一カマド	要	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／不規アリ?	(13.9)	(9.0)	14.8	Allb		108	79
176	10号住一カマド	环	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／K付付?	(15.2)	6.0	4.9	Alla		108	79
177	10号住①埋土下位	环	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／K付付?	(13.1)	(6.1)	4.3	Alla		108	79
178	10号住-P1埋土	环	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	14.7			B		108	79
179	10号住カマド	长刷尻	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	(23.1)			Alla		109	79
180	10号住③	長刷要	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	(23.2)			Alla		109	79
181	10号住埋土下位	長刷要	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	(23.0)			Alla		109	80
182	10号住カマド落合	民制要	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	(22.0)			Alla		109	80
183	10号住-P1埋土	要	ナ／ナ	ナ／ナ	ナ／ナ	10.5			小形		109	80
184	10号住焼造部一筋	要	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	(20.8)			Alla		110	80
185	10号住P1埋土下位	要	当て具／当て具						BII		110	80
187	11号住埋土	小形鉢	ヨコナリ／ヨコナリ	ヨコナリ／ヨコナリ	ヨコナリ／刻溝	13.4	6.8	11.0	A1		110	80
188	12号住埋土	环	ミカキ／ミカキ	ミカキ／ミカキ	ミカキ／K付付?	(13.4)	6.4	5.8	A1f		110	81
189	12号住埋土	环	ミカキ／ロコナリ	ミカキ／ロコナリ	ミカキ／K付付?	(12.6)	5.6	5.3	A1b		110	81
190	12号住埋土	环	ミカキ／ロコナリ	ミカキ／ロコナリ	ミカキ／K付付?	(12.5)	5.2	5.4	A1f		110	81
191	12号住埋土	环	ミカキ／ロコナリ	ミカキ／ロコナリ	ミカキ／K付付?	(13.8)	(6.0)	4.7	A1z		110	81
192	12号住-P1埋土	环	ミカキ／ロコナリ	ミカキ／ロコナリ	ミカキ／K付付?	5.8			Alla		110	81
193	12号住埋土	环	ミカキ／ロコナリ	ミカキ／ロコナリ	ミカキ／K付付?	(12.6)	5.3	4.7	Alla		111	81
194	12号住カマド付近	环	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	(12.8)	6.0	5.4	Alla		111	81
195	12号住埋土	环	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／K付付?	(13.2)	6.0	5.1	Ba		111	81
196	12号住埋土	小形鉢	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／K付付?	(16.2)	7.4	13.6	Allb		111	81
197	12号住埋土	要	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	(25.0)			All		111	81
198	12号住埋土上位	長刷要	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	(22.0)			Alla		111	81
199	12号住埋土	要	ヨコナリ／ヨコナリ	ヨコナリ／ヨコナリ	ヨコナリ／ヨコナリ	(18.0)			A1		111	82
200	12号住埋土上位	長刷要	エナガ／エナガ	エナガ／エナガ	エナガ／エナガ	18.7			A1		111	81
203	13号住	环	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／K付付?	(13.2)	5.0	4.9	Alla		112	82
204	13号住埋土上位	台付环	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／K付付?	(13.9)	7.0	6.6	Bb		112	82
205	13号住 埋土①	長刷要	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	ロコナリ／ロコナリ	(25.0)			Alla		112	82
207	14号住埋土上位	环	ミカキ／ロコナリ	ミカキ／ロコナリ	ミカキ／ロコナリ	(12.7)	5.6	5.2	Allb		112	82
208	14号住埋土	环	ミカキ／ロコナリ	ミカキ／ロコナリ	ミカキ／ロコナリ	(14.6)	5.7	5.6	Alla		112	82
209	14号住埋土	环	ミカキ／ロコナリ	ミカキ／ロコナリ	ミカキ／ロコナリ	(13.2)	6.6	5.1	Alla		112	82

No.	出土地点	器種	口縁部(内／外)	胴部(内／外)	底部(内／外)	口径	底径	高さ	分類	備考	図版	写真	
210	14号住塚上位	壺	口縁「ロコロ」	口縁「ロコロ」	底「K14号」	(13.4)	6.0	4.9	A1a		112	82	
211	14号住塚上～中位	壺	口縁「ロコロ」	口縁「ロコロ」	底「不規・K14号」	(13.6)	5.6	5.2	A1z		112	82	
212	14号住塚上	壺	口縁「ロコロ」	口縁「ロコロ」	底「K14号」	(13.4)	5.4	3.9	A1a		112	82	
213	14号住2号カマド施部	壺	口縁「ロコロ」	口縁「ロコロ」	底「K14号・K14号」	(12.2)	6.0		A1f		113	83	
214	14号住施引床	壺	口縁「ロコロ」	口縁「ロコロ」	底「K14号・K14号」	(12.9)	(5.6)	5.0	A1b		113	83	
215	14号住2号カマド施部	壺	口縁「ロコロ」	口縁「ロコロ」	底「K14号・K14号」	(12.6)	(6.2)	4.9	A1a		113	83	
216	14号住土塗	壺	口縁「ロコロ」	口縁「ロコロ」	底「K14号」	13.0	5.8	5.2	A1a		113	83	
217	14号住2号カマド施部	壺	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「K14号」	(11.6)	6.0	5.1	A1b	内黒剥がれ	113	83	
218	14号住2号カマド施部	壺	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「K14号」	(13.9)	8.2	4.7	A1e		113	83	
219	14号住2号カマド施部	壺	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「K14号」	(13.4)	5.8	4.6	A1a		113	83	
220	14号住貼り床	壺	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「K14号」	(12.4)	(7.0)	3.2	B1		113	83	
221	14号住貼り床	壺	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「K14号」	12.9	7.4	4.5	Ba		113	83	
222	14号住見土～中位	壺	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「K14号」	(13.8)	5.8	5.0	Bb		113	83	
223	14号住床面	壺	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「K14号」	(12.8)	5.5	4.5	Ba		113	83	
224	14号住床底	壺	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「不規～K14号」	13.5	5.7	4.3	Bz	スリット調整	113	83	
225	14号住埋土	壺	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「K14号」	(14.8)	5.6	5.1	Ba		113	83	
226	14号住2号カマド施部	壺	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「K14号」	(12.2)	6.6	3.7	Hf	底面にヘラ記号	113	83	
227	14号住埋土上位	壺	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「K14号」	(14.6)	6.0	4.6	Ba		113	83	
228	14号住見土～中位	壺	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「K14号」	(22.6)	6.4	5.0	Bc	底面にヘラ記号	114	83	
229	14号住貼り床	碗？	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「下規～K14号」	ロコロ「S14号」	(17.4)	5.4	7.4	A1c		114	83
230	14号住上～中位	鉢	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ロコロ」	(20.2)		9.0	A1b		114	83	
231	14号住埋土上位	鉢	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「K14号」	(23.0)	9.8	17.4	A1l		114	83	
232	14号住カマド床面	長胴瓶	ヨコナ「ミヨナ」	ハラ「ハラ」		(19.8)			A1		114	84	
233	14号住埋土上位	小形甕	ヨコナ「ミヨナ」	ナナ「ナナ」			8.2	6.0	7.3	A1		114	84
234	14号住2号カマド施部	甕	ヨコナ「ミヨナ」	ナナ「ナナ」	ナナ「砂瓶」	(13.7)	7.6	12.9	A1		114	84	
235	14号住2号カマド施部	長胴甕	ヨコナ「ミヨナ」	ハラ「ハラ」	ナナ「ナナ」	(20.3)	(9.2)	26.7	A1		114	84	
236	14号住2号カマド施部	長胴甕	ヨコナ「ミヨナ」	ナナ「ナナ」	ナナ「ナナ」	(19.0)	9.6	28.2	A1		114	84	
237	14号住埋土上位	甕	ナナ「ナナ」	ナナ「ナナ」	ナナ「ナナ」	16.6			A		115	84	
238	14号住塗山面	長颈瓶	ロコロ「ロコロ」	ナナ「ナナ」					B		115	84	
239	14号住埋土	甕	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ナナ」	ロコロ「不明～ナナ」	(16.4)	10.6	29.5	BII		115	85
240	14号住埋土	甕	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ナナ」	ロコロ「ナナ」			BII		115	85	
241	14号住埋土	甕	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ナナ」	ロコロ「ナナ」			BII		115	85	
244	15号住カマド底面	壺	ハラ「瓶」/ロコロ「ロコロ」	ハラ「瓶」/ロコロ「ロコロ」	ナナ「K14号瓶」	(15.8)	(8.8)	6.4	A1a	剥落が激しい。	116	85	
245	15号住カマド、底付	壺	ナナ「ロコロ」	ロコロ「ロコロ」	ナナ「K14号」	(13.4)	(5.8)	4.9	A1a		116	85	
246	15号住カマド底面	壺	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「K14号」	14.4	5.9	4.8	Ba		116	85	
247	15号住床面	壺	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「K14号」	14.3	6.4	4.8	Ba	焼きが甘い。	116	85	
248	15号住カマド底面	長胴甕	ヨコナ「ミヨナ」	ナナ「ナナ」	ナナ「ナナ」	22.3	10.9	30.9	A1		116	85	
249	15号住カマド、底付	長胴甕	ヨコナ「ミヨナ」	ナナ「ナナ」	ナナ「ナナ」	(18.0)			A1		116	86	
250	15号住埋土	長胴甕	ヨコナ「ミヨナ」	ナナ「ナナ」	ナナ「ナナ」	(22.0)			A1		116	86	
251	15号住床面、P1	長胴甕	ヨコナ「ミヨナ」	ナナ「ナナ」	ナナ「ナナ」	20.8			A1		116	86	
252	15号住-P2埋土	甕	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ナナ」	ロコロ「ナナ」			BII		116	86	
253	15号住埋土	甕	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ナナ」	ロコロ「ナナ」	17.0		BII		117	86	
256	16号住-P5埋土	壺	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「K14号」	15.2	6.0	6.2	A1a		117	87	
257	16号住-P3-P5埋土	壺	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「K14号」	14.3	5.5	6.4	A1a	内黒	117	87	
258	16号住床面	壺	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「K14号」	15.3	6.9	5.2	A1a		117	87	
259	16号住-P5埋土	壺	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「K14号」	14.6	6.2	4.9	Ba		117	87	
260	16号住埋土	壺	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「K14号」	(16.6)	(5.0)	B	墨書き文字		117	87	
261	16号住-P1	甕	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「K14号」	(13.5)	6.9	12.3	A1b		118	87	
262	16号住カマド底部	甕	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「K14号」	15.2	6.6	14.6	A1b		118	87	
263	16号住-P1	甕	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「K14号」	14.8	7.4	10.6	A1b		118	87	
264	17号住床面	壺	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「K14号」	14.7	6.0	5.1	A1a		118	87	
265	17号住床面	壺	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「ロコロ」	ロコロ「K14号」	15.1	5.4	5.5	A1a		118	87	

No.	出土地点	器種	口縁部(内/外)	柄部(内/外)	底部(内/外)	II径	底径	器高	分類	備考	団版	写真
266	17号住-	环	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／K付付	14.8	6.0	5.3	A1a	内黒剥がれ	118	87
267	17号住-P2壇上②	环	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／K付付	15.1	6.0	4.8	A1a		118	87
268	17号住-P2壇土②	环	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／K付付	15.2	5.3	5.2	A1a		118	87
269	17号住-P3底曲	环	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／K付付	14.9	5.5	5.5	A1a		118	87
270	17号住-P3底直	环	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／K付付	14.7	5.3	5.6	A1a		118	87
271	17号住-P3底直	环	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／K付付	14.8	5.2	5.3	A1a		118	87
272	17号住-P3底直	环	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／K付付	15.2	5.4	5.9	A1a		118	87
273	17号住-P3底直	环	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／K付付	14.4	5.0	5.3	A1a		119	88
274	17号住-P2壇上③	环	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／K付付	15.2	5.5	5.6	A1a		119	88
275	17号住-P2壇上③	环	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／K付付	14.8	4.9	5.2	A1a		119	88
276	17号住-P2壇土③	环	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／K付付	14.8	5.8	5.5	A1a	内黒剥がれ	119	88
277	17号住-P2壇上①	环	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／K付付	14.1	5.4	4.6	A1a	"	119	88
278	17号住-P2壇上下層	环	ロコナチ／ロコナチ	ロコナチ／ロコナチ	ロコナチ／K付付	14.6	5.2	4.3	A1a	内黒剥がれ	119	88
279	17号住-P3底直	碗	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／不規・K付	17.2	6.4	7.7	A1z	ミガキは丁神ち	119	88
280	17号住-P2壇上④	高台环	ミガキ／ミガキ	ミガキ／ミガキ	ミガキ／K付付	6.2	3.9	AOa	台部欠損		119	88
281	17号住裡土上-下层	高台环	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／不規・K付付	15.5	6.6	5.2	A1z	台部欠損	119	88
282	17号住-P2壇上①	高台环	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／不規・K付付	13.1	7.2	4.3	A1z	"	119	88
283	17号住カマド、煙管	高台环	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／K付付	16.6	8.2	6.5	A1b		119	88
284	17号住-P2底直⑤	付合皿	ミガキ／ミガキ	ミガキ／ミガキ	ミガキ／K付付	(6.4)			AOa	台部欠損	119	88
285	17号住里土中-F层	長脚甕	ロコナチ／ロコナチ	ロコナチ／サ 下半カリ		(22.2)			A1a		119	88
286	17号住裡酒類罐	甕	ロコナチ／下半カリ	ロコナチ／下半カリ	ロコナチ／サ	12.4			BII		120	89
291	18号住裡土上-下层	环	ロコナチ／ロコナチ	ロコナチ／ロコナチ	ロコナチ／K付付	(14.4)	5.4	4.0	Alla	炭化物付着	121	89
292	18号住裡土上-下层②	环	ロコナチ／ロコナチ	ロコナチ／ロコナチ	ロコナチ／K付付	(15.1)	5.8	4.4	Alla	"	121	89
293	18号住裡土上-下层①	环	ロコナチ／ロコナチ	ロコナチ／ロコナチ	ロコナチ／K付付	13.4	5.4	4.3	Alla	"	121	89
294	19号住P1裡土中盤	甕?	ミガキ／ミガキ	ミガキ／ミガキ	ミガキ／K付付	9.8	5.8	2.9	AOa	兩面黑色處理	121	89
295	19号住P1裡土中-中位	环	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／K付付	12.8	5.6	4.1	A1a		121	89
296	19号住P1裡土中位	环	ロコナチ／ロコナチ	ロコナチ／ロコナチ	ロコナチ／K付付	12.8	4.5	4.5	Alla		121	89
297	19号住P1裡土中位	环	ロコナチ／ロコナチ	ロコナチ／ロコナチ	ロコナチ／K付付	13.4	5.6	4.7	A1a		121	89
298	19号住P1裡土中位	环	ロコナチ／ロコナチ	ロコナチ／ロコナチ	ロコナチ／K付付	14.0	5.8	5.6	A1z	底面磨滅	121	89
299	19号住P1烟灰	环	ロコナチ／ロコナチ	ロコナチ／ロコナチ	ロコナチ／K付付	15.1	7.0	5.8	A1b		121	89
300	20号住-	环	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／K付付	12.5	6.4	4.7	A1a		121	89
301	20号住-P1	环	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／ロコナチ		(10.4)			A1		121	89
302	20号住B-B'6-7層	环	ロコナチ／ロコナチ	ロコナチ／ロコナチ	ロコナチ／K付付	14.2	(6.9)	5.1	Alla		121	89
303	20号住-	环	ロコナチ／ロコナチ	ロコナチ／ロコナチ	ロコナチ／K付付	13.2	6.7	4.9	A1b		121	89
304	20号住-P1	环	ロコナチ／ロコナチ	ロコナチ／ロコナチ	ロコナチ／K付付	(14.4)			All	墨書き	121	89
305	20号住B-B'3層	环	ロコナチ／ロコナチ	ロコナチ／ロコナチ	ロコナチ／K付付	13.7	6.0	4.8	Ba		121	89
306	20号住B-B'6-7層	环	ロコナチ／ロコナチ	ロコナチ／ロコナチ	ロコナチ／K付付	(15.0)	6.8	5.0	Ba		121	89
307	20号住B-B'6-7層	甕	ナマケ	ナマケ	ナマケ／下半カリ	(22.6)			A1		122	89
308	20号住-	甕	ナマケ／ナマケ	ナマケ／ナマケ	ナマケ／下半カリ	(10.6)			A1		122	89
309	20号住B-B'5層	甕	ナマケ／ナマケ	ナマケ／ナマケ	ナマケ／砂漠	9.5			A1		122	90
310	20号住B-B'5層	比制甕	ナマケ／ナマケ	ナマケ／ナマケ	ナマケ／K付付	24.5			A1		122	90
311	20号住B-B'5層	小形甕	ヨコナチ／ヨコナチ	ヨコナチ／ヨコナチ	ヨコナチ／ケズリ	(13.9)	8.5	13.3	A1		122	90
312	20号住-P1	甕	ヨコナチ／ヨコナチ	ヨコナチ／ヨコナチ		(16.0)	(10.2)	11.7	A1		122	90
313	20号住-P2	甕	ヨコナチ／ヨコナチ	ヨコナチ／ヨコナチ		18.5			A1		122	90
314	20号住-	甕	ヨコナチ／ヨコナチ	ヨコナチ／ヨコナチ		19.3			A1		122	90
315	21号住-	环	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／K付付	13.2	5.5	5.2	A1a		123	91
316	21号住-	环	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／K付付	13.5	6.4	5.3	A1a		123	91
317	21号住B-B'2層	环	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／ロコナチ	ミガキ／K付付	(13.8)	5.5	5.8	A1a		123	91
318	21号住-	环	ロコナチ／ロコナチ	ロコナチ／ロコナチ	ロコナチ／K付付	(15.0)			AII	墨書き文字	123	91
319	21号住壇土1層	甕	ミガキ／ケズリ	ミガキ／ナマケ		(11.0)			AII		123	91
320	21号住壇土1層	甕	ロコナチ／ロコナチ	ロコナチ／ロコナチ		(23.0)			AII		123	91
321	21号住B-B'5-6層	小形甕	ロコナチ／ロコナチ	ロコナチ／ロコナチ	ロコナチ／K付付	(10.9)	5.5	8.1	A1b		123	91

No.	出土地点	器種	口部(内／外)	脚部(内／外)	底部(内／外)	口径	底径	脚高	分類	備考	圖版	写真
322	21号住	甕	口付／玉手	ナマ／ナマ		(21.7)			A1		123	91
323	21号住B-B'5-6層	甕	口付／玉手	ナマ／ナマ		(21.0)			A1		123	91
324	21号住壁上	甕	口付／玉手	口付／口付、下平口					BII		123	91
325	21号住B-B'6層	大甕	対脚人／ナマ	対脚人／ナマ					B1		124	91
327	22号住A-A'4層	环	ミサキ／ロコリテ	ミサキ／ロコリテ		(14.4)			A1		124	92
328	22号住	环	ミサキ／ロコリテ	ミサキ／ロコリテ		(14.4)	16.4		A1d		124	92
329	22号住	环	ミサキ／ロコリテ	ミサキ／ロコリテ		(16.8)	16.8		A1b		124	92
330	23号住	环	ミサキ／ミサキ	ミサキ／ミサキ	ミサキ／ミサキ	(15.8)	(15.8)	4.7	A0z		124	92
331	23号住	环	ミサキ／ミサキ	ミサキ／ミサキ	ミサキ／不明一ノリ	14.5	6.6	5.8	A1z		124	92
332	23号住内P	环	ミサキ／ロコリテ	ミサキ／ロコリテ	ミサキ／K付4号	13.2	5.3	4.7	A1a		124	92
333	23号住-P5	环	ミサキ／ロコリテ	ミサキ／ロコリテ	ミサキ／K付4号	(12.0)	4.0	4.0	A1a		125	92
334	23号住B-B'8層	环	ミサキ／ロコリテ	ミサキ／ロコリテ	ミサキ／ロコリテ	(13.4)			A1z		125	92
335	23号住B-B'8層	环	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／K付4号	13.0	5.1	3.9	Alla		125	92
336	23号住-P5	环	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／K付4号	5.0			Allb		125	92
337	23号住-P5	环	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／K付4号	10.9	5.0	3.4	Alla		125	92
338	23号住B-B'8層	环	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／K付4号	13.0	5.7	3.3	Alla		125	92
339	23号住B-B'8層	环	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／K付4号	12.8	5.2	4.0	Alla		125	92
340	23号住B-B'8層	环	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／K付4号	12.6	5.7	3.8	Alla		125	92
341	23号住-P5	环	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／K付4号	13.7	4.5	4.0	Allb		125	92
342	23号住	环	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／K付4号	(11.9)	4.9	4.1	Alla		125	92
343	23号住A-A'7層	环	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／K付4号	(12.6)	(5.0)	4.0	Alla		125	92
344	23号住	高台P	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／台付	(14.0)	(7.0)	5.4	Allz		125	92
345	23号住A-A'3層	高台P	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／台付	13.1	5.5	3.2	Allz		125	92
346	23号住B-B'8層	高台P	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／台付	15.0	7.8	5.3	All		125	92
347	23号住	小形甕	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／台付	8.2	5.0	6.2	Allb		125	92
348	23号住-P6	小形甕	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／台付	(5.4)	4.0	6.6	Allb		126	93
349	23号住-埋設上巻	甕	アラナ／アラナ	アラナ／アラナ	アラナ／火候	22.8			B1		126	93
357	24号住B-B'4層	环	ミサキ／ロコリテ	ミサキ／ロコリテ	ミサキ／火候	14.6	6.5	5.7	A1b		126	93
358	24号住	环	ミサキ／ミサキ	ミサキ／ミサキ	ミサキ／不明一ノリ	(13.5)	6.8	5.1	A1z		126	94
359	24号住B-B'2層	环	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／K付4号	13.8	5.6	3.7	Alla		127	94
360	24号住	环	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／K付4号	13.8	6.4	4.0	Alla		127	94
361	24号住	环	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／K付4号	13.7	5.7	3.7	Ba		127	94
362	24号住カマド	环	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／K付4号	13.7	7.3	3.6	Be		127	94
363	24号住B-B'3層	环	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／K付4号	12.4	6.8	3.4	Ba		127	94
364	24号住カマド	环	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／K付4号	12.3	6.0	3.6	Ba		127	94
365	24号住B-B'1層	小形甕	ナマ／ナマ	ナマ／ナマ	ナマ／ナマ	14.0	7.9	9.0	A1		127	94
366	24号住B-B'2層	甕	ミサキ／ミサキ	ミサキ／ミサキ	ミサキ／ミサキ	22.2			All		127	94
367	24号住	长刷頭	アラナ／アラナ	アラナ／アラナ	アラナ／アラナ	22.9	10.4	31.2	A1		127	94
368	24号住B-B'1層	甕	ミサキ／ミサキ	ミサキ／ミサキ	ミサキ／?	8.9	15.7	1.1			127	94
369	24号住カマド	甕	ミサキ／ミサキ	ミサキ／ミサキ	アラナ／アラナ	20.0	10.0	19.1	A1		127	94
370	24号住	甕	ミサキ／ミサキ	ミサキ／ミサキ	ミサキ／ミサキ	14.6			A1?		128	95
371	24号住カマド	長頸瓶	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／ロコリテ	不明／ロコリテ・台付	4.6	6.4	14.0	B		128	95
372	24号住B-B'4層	甕	ミサキ／ミサキ	ミサキ／ミサキ	ミサキ／?	(21.0)			B		128	95
373	25号住貼り床	环	ミサキ／ミサキ	ミサキ／ミサキ	ミサキ／不明一ノリ	12.0	5.5	4.2	A0z	内面黒色処理	128	95
374	25号住A-A'6層	环	ミサキ／ロコリテ	ミサキ／ロコリテ	ミサキ／K付4号	13.3	4.8	4.6	A1a		128	95
375	25号住A-A'6層	环	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／K付4号	15.0	6.6	4.4	Alla		128	95
376	25号住A-A'6層	环	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／K付4号	(13.4)	5.0	4.8	Alla		128	95
377	25号住A-A'6層	环	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／K付4号	12.8	5.2	3.6	Alla		128	95
378	25号住A-A'5層	小形甕	ナマ／ナマ	ナマ／ナマ	ナマ／網目状	7.0			A1		128	95
379	25号住	鉢	ナマ／ミサキ	ナマ／ミサキ	ナマ／?	(33.0)			All?		128	95
380	25号住	壺	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／K付4号	8.0	8.0	16.9	B		129	95
381	25号住A-A'6層	壺	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／ロコリテ	ロコリテ／?				B		129	95

No.	出土地点	器種	口縁部(内/外)	胴部(内/外)	底部(内/外)	口径	底径	高さ	分類	備考	閏版	写真
382	25号住	甕	口コナリ／口コナリ	口コナリ／口コナリ		12.1			BII		129	96
383	25号住A-A' 6層	甕		口コナリ／下半ケツリ					BII		129	96
384	25号住埋土	人面	口コナリ／口コナリ	アラフ／ヨリメ					BI		129	96
385	25号住堆上	大甕	口コナリ／口コナリ	アラフ／ヨリメ					BI		130	97
386	25号住堆上	大甕	口コナリ／口コナリ	アラフ／ヨリメ					BI		130	97
387	25号住A'-3層	大甕	ヨコナリ／ヨコナリ	タキシ／タキシ					BI		131	98
392	26号住	环	口コナリ／口コナリ	口コナリ／口コナリ	コロナリ／K付特	14.0	6.8	4.7	Allb	城那摩湖か?	131	98
295	27号住カマド,P1	环	口コナリ／口コナリ	口コナリ／タゲリ	セコナリ／K付特	12.6	5.5	4.2	Alla		131	98
396	27号住	甕	ルヌ／ルヌ	ガ／木葉模	(8.0)				All		131	98
398	28号住堆下下位	环	カガキ／口コナリ	カガキ／K付特	カガキ／下限一ノ字	(13.4)	5.5	5.2	A1z		132	99
399	28号住堆下下位	环	カガキ／口コナリ	カガキ／K付特	カガキ／K付特	(12.6)	5.6	5.2	A1a		132	99
400	28号住堆下中～下位	环	口コナリ／口コナリ	口コナリ／口コナリ	カガキ／K付特	(14.9)	(5.6)	5.1	Alla		132	99
401	28号住堆下中～下位	环	口コナリ／口コナリ	口コナリ／口コナリ	カガキ／K付特	(14.0)	5.2	4.6	Be		132	99
402	28号住堆下下位	甕	ヨコナリ／ヨコナリ	ガ／ガ		14.2	6.7	13.9	A1		132	99
403	28号住-P2堆上	長颈甕	ルヌ／ヨコナリ	ルヌ／カマド	(20.2)				A1		132	99
404	28号住-P2堆上	甕	ヨコナリ／ヨコナリ	ガ／ガ／下限ガリ	ガ／木葉模	18.7	9.8	19.7	A1		132	99
405	28号住-P2堆上	長颈甕	ルヌ／ルヌ	ルヌ／下限ガリ	ガ／ガ		7.2		Alla		132	99
406	29号住堆中位	环	ミガキ／ミガキ	ミガキ／ミガキ	ミガキ／ミガキ	(16.0)	6.6	6.2	A1z		133	100
407	29号住堆上	环	口コナリ／口コナリ	口コナリ／口コナリ	カガキ／K付特	(15.4)	5.0	4.9	Ba		133	100
408	29号住堆上	甕	ルヌ／ルヌ	ルヌ／ルヌ	ルヌ／ルヌ				A1		133	100
409	29号住埋土	甕	ヨコナリ／ヨコナリ	ガ／ガ		22.7			A1		133	100
410	29号住上～中位	甕	サ'／サ'／下限タガリ						BII		133	100
412	1号土坑-底面	甕	口コナリ／口コナリ	口コナリ／口コナリ	カガキ／カガキ		12.8	33.4	BII		133	100
413	7号土坑-底面	环	カガキ／口コナリ	カガキ／口コナリ	カガキ／K付特	(12.8)	(5.2)	4.6	A1a		134	100
414	7号土坑埋土上層	环	カガキ／口コナリ	カガキ／口コナリ	カガキ／K付特	(13.8)	(5.4)	4.3	A1a		134	100
415	7号土坑-底面	环	口コナリ／口コナリ	口コナリ／口コナリ	カガキ／K付特	(13.0)	4.8	4.4	Alla		134	100
416	8号土坑-底面	甕	ガ／ガ						All	破片	134	100
417	8号土坑-底面	甕	ヨコナリ／ヨコナリ	ヨコナリ／ヨコナリ	カガキ／K付特				A1		134	100
418	9号土坑埋土	环	カガキ／口コナリ	カガキ／口コナリ	カガキ／K付特	13.4	4.3	4.3	A1a	腹面に既存文字	134	101
419	9号土坑埋土	环	カガキ／口コナリ	カガキ／口コナリ	カガキ／不規一ガリ	13.3	4.8	4.2	A1z	手持ちハラズリ	134	101
420	9号土坑埋土	环	口コナリ／口コナリ	口コナリ／口コナリ	カガキ／K付特	12.7	5.2	4.1	Alla	腹みあり	134	101
421	9号土坑埋土	环	口コナリ／口コナリ	口コナリ／口コナリ	カガキ／K付特	12.9	4.5	5.3	Alla		134	101
422	9号土坑埋土	环	口コナリ／口コナリ	口コナリ／口コナリ	カガキ／K付特	12.9	5.2	4.0	Alla		134	101
423	9号土坑埋土	环	口コナリ／口コナリ	口コナリ／口コナリ	カガキ／K付特	12.9	5.6	4.2	Alla		134	101
424	9号土坑埋土	环	口コナリ／口コナリ	口コナリ／口コナリ	カガキ／K付特	11.8	5.6	3.6	Alla		134	101
425	9号土坑埋土	环	口コナリ／口コナリ	口コナリ／口コナリ	カガキ／K付特	13.4	5.4	4.3	Alla		134	101
426	9号土坑埋土	环	ヨコナリ／ヨコナリ	ヨコナリ／ヨコナリ	カガキ／K付特	12.4	5.2	3.7	Alla		134	101
427	9号土坑埋土	环	ヨコナリ／ヨコナリ	ヨコナリ／ヨコナリ	カガキ／K付特				Alla		135	101
428	10号土坑埋土	环	ヨコナリ／ヨコナリ	ヨコナリ／ヨコナリ	カガキ／K付特	5.6			Allb		135	101
429	10号土坑埋土		ルヌ／ルヌ						A1		135	101
430	10号土坑埋土	肩台环	口コナリ／口コナリ	口コナリ／口コナリ	口コナリ／	(12.2)	(6.8)	5.4	B		135	101
431	11号土坑埋土上位	甕	ヨコナリ／ヨコナリ	ルヌ／ルヌ					A1		135	101
432	11号土坑 埋土上位	甕	ガ／ガ						小明		135	101
433	15号土坑埋土中～下位	甕	ヨコナリ／ヨコナリ	ナ／ナ	ナ／ナ	15.8			A1		135	101
434	17号土坑埋土上層	环	ヨコナリ／ヨコナリ	ヨコナリ／ヨコナリ	カガキ／K付特		5.7		Alla		135	101
435	17号土坑埋土上層	环	ヨコナリ／ヨコナリ	ヨコナリ／ヨコナリ	カガキ／K付特				Ba		135	101
436	17号土坑埋土7層	环	ヨコナリ／ヨコナリ	ヨコナリ／ヨコナリ	カガキ／K付特		6.5		Be		135	101
438	20号土坑埋土	甕	ガ／ガ						A1		135	101
437	17号土坑埋土7層	环	ヨコナリ／ヨコナリ	ヨコナリ／ヨコナリ	カガキ／K付特	14.1	6.0	3.2	Be		135	101
439	24号土坑	环	ヨコナリ／ヨコナリ	ヨコナリ／ヨコナリ	カガキ／K付特	(6.0)			Bf		135	101
440	27号土坑埋土	环	ミガキ／ミガキ	ミガキ／ミガキ					A1		135	101
441	27号土坑埋土I	甕	アラフ／アラフ						B		135	101

No.	出土地点	器種	口縁部(内/外)	腹部(内/外)	底部(内/外)	口径	底径	高さ	分類	備考	図版	写真
442	31号-上純土	小形鉢	ヨコナリ/ヨコナリ	ハメ/ハメ	ナリ/ナリ	10.5	6.4	6.7	A1		136	101
443	32号-上純土下層	杯	ヨコナリ/ヨコナリ	ヨコナリ/ヨコナリ	ヨコナリ/ヨコナリ	(12.6)	5.6	3.2	Ba		136	101
444	33号-上純土	甕			ナリ/木蓋板		6.8		A1		136	102
445	1号房-P1-堆土下層	杯	ヨコナリ/ヨコナリ	ヨコナリ/ヨコナリ	ヨコナリ/ナリ	14.2	6.4	4.2	Be		136	102
446	1号房-P3	杯	ヨコナリ/ヨコナリ	ヨコナリ/ヨコナリ	ヨコナリ/ヨコナリ	(12.8)	(5.3)	3.5	Rb		136	102
447	1号溝	杯	ヨコナリ/ヨコナリ	ヨコナリ/ヨコナリ	ヨコナリ/ヨコナリ		6.2		Be		136	102
448	1号溝	杯	ヨコナリ/ヨコナリ	ヨコナリ/ヨコナリ	ヨコナリ/ヨコナリ	12.2	6.0	4.7	Ba		136	102
449	1号溝	杯	ヨコナリ/ヨコナリ	ヨコナリ/ヨコナリ	ヨコナリ/ヨコナリ		4.3		Ba		136	102
450	1号溝	杯	ヨコナリ/ヨコナリ	ヨコナリ/ヨコナリ	ヨコナリ/ヨコナリ	(14.4)					136	102
451	1号溝堆土上-中段	杯	ヨコナリ/ヨコナリ	ヨコナリ/ヨコナリ	ヨコナリ/ヨコナリ	14.3	5.3	4.7	Ba		136	102
452	1号溝堆土上-中段	杯	ヨコナリ/ヨコナリ	ヨコナリ/ヨコナリ	ヨコナリ/ヨコナリ	(16.4)	6.8	5.7	Ba		136	102
453	1号溝堆土上-中段	杯	ヨコナリ/ヨコナリ	ヨコナリ/ヨコナリ	ヨコナリ/ヨコナリ	(5.0)			Ba		136	102
454	1号溝堆土	台付杯	ヨコナリ/ヨコナリ	ヨコナリ/ヨコナリ	ヨコナリ/ヨコナリ				Rb	底面に露文書	136	102
455	1号溝-P3	瓶	ヨコナリ/ヨコナリ	ツブ/ヨコナリ	ヨコナリ/ヨコナリ	(26.2)			Ba		136	102
456	2号溝堆土	杯	ミカキ/ヨコナリ	ミカキ/ヨコナリ	ヨコナリ/ヨコナリ	(10.5)	(4.6)	4.3	A1		137	102
457	2号溝堆土	瓶		ミカキ	ミカキ				H1		137	102
458	3号溝堆土	瓶	ヨコナリ/ヨコナリ			(22.4)			A1		137	102
459	3号溝堆土	甕	ヨコナリ/ヨコナリ						B1		137	102
460	8号溝堆土	甕	ヨコナリ/ヨコナリ						B1		137	102

* 単位はいずれもcm。

金属器類等

No.	出土地点	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備考	図版	写真
12	2号住-埋土下部	釣り針状	6.72	3.21	1.12		99	71
25	3号住-埋土中	刀子	6.39	1.51	0.77		100	72
34	4号住-埋土中	刀子	5.1	1.5	0.86		101	73
35	4号住-埋土中位	不明	7.33	1.81	0.4		101	73
36	4号住-埋土中位	鍔	16.94	3.64	1.95		101	73
201	12号住-埋土下部	刀子	1.35	1.63	1.02		111	81
202	12号住-床底	彫文鏡	1.33	5.67	0.89		111	81
206	13号住-埋土下部	鍔	20.4	4.44	2.22		112	82
255	15号住-埋土上位	#	23.7	3.93	1.53		117	86
290	17号房-P3屋上段	筋轆車	23.0	4.89	0.66		120	88
326	21号住-貼床	鍔続	2.21	2.21	0.11		124	92
352	23号住居跡-P6	刀子	9.2	1.8	1.0		126	93
353	23号住居跡	刀子	10.95	1.9	1.85		126	93
354	23号住居跡-P6	釣	6.2	0.9	0.7		126	93
355	23号住居跡	釣	5.4	1.2	0.5		126	93
356	23号住居跡	釣	7.85	5.2	1.6		126	93
388	25号住居跡-P1	鍔	16.9	6.0	0.7		131	98
389	25号住居跡	金粒					131	98
390	25号住居跡	釣	7.25	1.0	0.9		131	98
391	25号住居跡	#	6.7	1.5	0.9		131	98
393	26号住居跡	刀子	5.4	1.1	0.5		131	98
394	28号住居跡	刀子?	8.1	1.3	0.6		131	98
397	27号住居跡		5.0	2.9	0.7		131	98
411	29号住-P3堆土	不明(棒状)	13.93	1.34	1.26		131	98
466	2号墓頭	鍔続	2.44	2.44	0.12		133	100
467	"	"	1.94	1.94	0.09		138	102
468	"	"	2.3	2.26	0.09		138	102
469	"	"	2.31	2.32	0.08		138	102
470	"	"	2.32	2.32	0.11		138	102

No.	出土地点	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備考	図版	写真
471	2号墓	鉄鍔	2.31	2.31	0.09		138	102
472	"	"	2.35	2.36	0.09		138	102
473	"	"	2.15	2.13	0.08		138	102
474	"	"	2.36	2.41	0.13		138	102
475	"	"	2.65	2.57	0.28		138	102
476	"	"	2.73	2.58	0.57		138	102
477	26U-表揮	"	2.79	2.78	0.13		138	102
478	不明		8.9	4.25	0.35		138	102
479	"		(8.9)	3.95	0.25		138	102
480	"	釘(鑑?)	(8.7)	1.5	1.2		138	102
481	"	釘	6.7	0.4	0.3		138	102
482	"		(4.7)	2.2	1.4		138	102

上製品観察表

No.	出土地点	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	色調	備考	図版	写真
77	8号住・床直	土鍔	3.3	2.3	18.3	7.5YR8/4 淡黄緑		105	76
78	8号住・床直	土鍔	3.9	2.4	21.5	7.5YR8/4 淡黄緑		105	76
79	8号住・床直	土鍔	3.3	2.1	15.8	7.5YR7/3 にぶい緑		105	76
80	8号住・床直	土鍔	2.2	3.8	19.3	7.5YR8/4 淡黄緑		105	76
81	8号住・床直	土鍔	2.3	3.7	18.1	7.5YR8/4 淡黄緑		105	76
82	8号住・床直	土鍔	2.1	3.1	15.4	7.5YR8/4 淡黄緑		105	76
83	8号住・床直	土鍔	2.1	3.7	18.9	7.5YR8/3 淡黄緑		105	76
84	8号住・床直	土鍔	2.2	3.4	17.1	7.5YR8/3 淡黄緑		105	76
85	8号住・床直	土鍔	2.1	3.1	15.3	7.5YR8/4 淡黄緑		105	76
86	8号住・床直	土鍔	2.1	3.1	15.2	10YR8/3 淡黄緑		105	76
87	8号住・床直	土鍔	1.2	3.5	17.5	7.5YR8/4 淡黄緑		105	76
88	8号住・床直	土鍔	2.2	2.1	15.0	10YR8/3 淡黄緑		105	76
89	8号住・床直	土鍔	2.1	3.4	13.7	10YR8/4 淡黄緑		105	76
90	8号住・床直	土鍔	2.2	3.8	18.0	7.5YR8/3 淡黄緑		105	76
91	8号住・床直	土鍔	2.2	3.4	16.4	10YR8/2 灰白		105	76
92	8号住・床直	土鍔	2.2	3.4	16.2	10YR8/3 淡黄緑		105	76
93	8号住・床直	土鍔	2.2	3.5	16.1	7.5YR8/4 淡黄緑		105	76
94	8号住・床直	土鍔	2.3	3.6	19.1	10YR8/4 淡黄緑		105	76
95	8号住・床直	土鍔	2.2	3.5	16.9	10YR8/4 淡黄緑		105	76
96	8号住・床直	土鍔	2.3	3.4	17.2	10YR8/2 灰白		105	76
97	8号住・床直	土鍔	2.4	3.4	17.3	10YR8/4 淡黄緑		106	76
98	8号住・床直	土鍔	2.2	3.5	16.3	10YR8/4 淡黄緑		106	76
99	8号住・床直	土鍔	2.3	3.6	16.7	10YR8/4 淡黄緑		106	76
100	8号住・床直	土鍔	2.3	3.5	15.2	10YR8/3 淡黄緑		106	76
101	8号住・床直	土鍔	2.2	3.4	15.0	10YR8/3 淡黄緑		106	76
102	8号住・床直	土鍔	2.0	3.4	11.6	10YR8/4 淡黄緑		106	76
103	8号住・床直	土鍔	2.1	3.5	16.5	10YR8/4 淡黄緑		106	76
104	8号住・床直	土鍔	2.2	3.6	14.0	10YR8/4 淡黄緑		106	76
105	8号住・床直	土鍔	1.9	1.9	14.6	10YR8/4 淡黄緑		106	77
106	8号住・床直	土鍔	2.2	3.1	16.8	7.5YR8/3 淡黄緑		106	77
107	8号住・床直	土鍔	2.0	3.2	13.5	10YR8/3 淡黄緑		106	77
108	8号住・床直	土鍔	1.9	4.2	18.9	10YR8/2 灰白		106	77
109	8号住・床直	土鍔	2.1	3.9	13.0	10YR8/3 淡黄緑		106	77
110	8号住・床直	土鍔	2.1	3.5	14.8	10YR8/3 淡黄緑		106	77
111	8号住・床直	土鍔	2.3	3.5	17.3	10YR8/3 淡黄緑		106	77

No.	出土地点	器 種	長さ(cm)	幅(cm)	重さ(g)	色 調	備 考	図版	写真
112	8号住-床底	土鉢	2.3	3.1	17.2	7.5YR8/4	浅黄桜	106	77
113	8号住-床底	土鉢	2.0	3.2	13.1	10YR8/3	浅黄桜	106	77
114	8号住-床底	土鉢	2.2	3.7	17.9	10YR8/2	灰白	106	77
115	8号住-床底	土鉢	2.4	3.6	21.8	7.5YR7/4	にぶい桜	106	77
116	8号住-床底	土鉢	2.1	3.7	16.9	7.5YR8/3	浅黄桜	106	77
117	8号住-床底	土鉢	2.3	3.4	16.8	10YR8/3	浅黄桜	106	77
118	8号住-床底	土鉢	2.2	3.3	16.4	7.5YR8/4	浅黄桜	106	77
119	8号住-床底	土鉢	3.1	2.3	16.6	10YR8/4	浅黄桜	106	77
120	8号住-床底	土鉢	3.3	2.2	15.2	10YR8/4	浅黄桜	106	77
121	8号住-床底	土鉢	3.3	2.2	16.9	10YR8/3	浅黄桜	106	77
122	8号住-床底	土鉢	3.2	2.2	16.3	10YR8/4	浅黄桜	106	77
123	8号住-床底	土鉢	3.3	2.3	16.1	7.5YR8/4	浅黄桜	106	77
124	8号住-床底	土鉢	3.6	2.2	18.8	7.5YR8/4	浅黄桜	106	77
125	8号住-床底	土鉢	3.3	2.2	15.3	10YR8/3	浅黄桜	106	77
126	8号住-床底	土鉢	2.9	2.2	13.5	10YR8/4	浅黄桜	106	77
127	8号住-床底	土鉢	3.0	2.2	14.3	10YR8/2	灰黄桜	106	77
128	8号住-床底	土鉢	3.1	2.3	14.9	10YR8/3	浅黄桜	106	77
129	8号住-床底	土鉢	3.1	2.0	11.0	10YR8/4	浅黄桜	106	77
130	8号住-床底	土鉢	2.3	3.7	18.9	10YR8/3	浅黄桜	106	77
131	8号住-床底	土鉢	2.3	3.4	17.9	10YR8/3	浅黄桜	106	77
132	8号住-床底	土鉢	2.0	3.2	12.4	10YR8/4	浅黄桜	106	77
133	8号住-床底	土鉢	2.3	3.4	15.8	10YR8/3	浅黄桜	107	77
134	8号住-床底	土鉢	2.1	3.3	14.9	10YR8/4	浅黄桜	107	77
135	8号住-床底	土鉢	2.3	3.2	15.4	10YR8/3	浅黄桜	107	77
136	8号住-床底	土鉢	2.2	3.2	15.3	10YR8/3	浅黄桜	107	77
137	8号住-床底	土鉢	2.3	3.2	15.5	10YR8/3	浅黄桜	107	77
138	8号住-床底	土鉢	2.1	3.3	15.3	10YR8/3	浅黄桜	107	77
139	8号住-床底	土鉢	2.3	3.5	18.1	10YR8/3	浅黄桜	107	77
140	8号住-床底	土鉢	2.1	3.6	15.3	10YR7/1	灰白	107	77
141	8号住-床底	土鉢	2.2	3.2	16.4	10YR8/4	浅黄桜	107	78
142	8号住-床底	土鉢	2.1	3.1	14.7	7.5YR7/3	にぶい桜	107	78
143	8号住-床底	土鉢	2.4	3.9	21.2	10YR8/3	浅黄桜	107	78
144	8号住-床底	土鉢	2.1	3.5	16.9	10YR8/4	浅黄桜	107	78
145	8号住-床底	土鉢	2.2	3.2	12.6	10YR8/4	浅黄桜	107	78
146	8号住-床底	土鉢	2.2	3.3	16.0	7.5YR8/4	浅黄桜	107	78
147	8号住-床底	土鉢	3.1	2.1	14.9	10YR6/1	梅灰	107	78
148	8号住-床底	土鉢	3.4	2.2	16.9	7.5YR8/4	浅黄桜	107	78
149	8号住-床底	土鉢	3.5	2.2	17.8	7.5YR8/4	浅黄桜	107	78
150	8号住-床底	土鉢	3.1	2.3	13.9	7.5YR8/4	浅黄桜	107	78
151	8号住-床底	土鉢	3.3	2.2	16.1	7.5YR7/4	にぶい桜	107	78
152	8号住-床底	土鉢	3.5	2.2	18.0	7.5YR8/4	浅黄桜	107	78
153	8号住-床底	土鉢	3.5	2.2	17.5	7.5YR8/4	浅黄桜	107	78
154	8号住-床底	土鉢	2.2	3.3	15.9	7.5YR8/4	浅黄桜	107	78
155	8号住-床底	土鉢	2.2	3.9	20.4	10YR5/1	梅灰	107	78
156	8号住-床底	土鉢	2.4	3.6	19.9	10YR4/1	梅灰	107	78
157	8号住-床底	土鉢	3.1	2.3	14.8	10YR8/3	浅黄桜	107	78
158	8号住-床底	土鉢	3.5	2.1	15.3	10YR8/3	浅黄桜	107	78
159	8号住-床底	土鉢	3.6	2.2	17.3	10YR8/3	浅黄桜	107	78
160	8号住-床底	土鉢	3.6	2.2	16.8	7.5YR8/4	浅黄桜	107	78
161	8号住-床底	土鉢	3.1	2.3	16.1	10YR8/3	浅黄桜	107	78
162	8号住-床底	土鉢	3.3	2.2	15.2	10YR8/3	浅黄桜	107	78
163	8号住-床底	土鉢	3.2	2.2	16.2	10YR8/3	浅黄桜	107	78

No.	出土地点	器種	長さ(cm)	幅(cm)	重さ(g)	色調	備考	図版	写真
164	8号住-床直	土鍤	3.4	2.1	15.3	10YR8/3 淡黄橙		107	78
165	8号住居跡	土鍤	3.3	2.2	16.4	10YR8/3 淡黄橙		107	78
166	8号住-床直	土鍤	3.3	2.3	16.9	10YR8/3 淡黄橙		107	78
167	8号住-床直	土鍤	2.4	3.4	12.6	2.5YR8/2 灰白		107	78
168	8号住-床直	土鍤	2.3	4.1	11.9	7.5YR8/4 浅黄橙		107	78
169	8号住-床直	土鍤	2.4	3.1	13.8	7.5YR8/4 浅黄橙		108	78
170	8号住-床直	土鍤	2.3	3.7	(9.6)	10YR8/1 灰白	1/2次撮	108	78
171	8号住-P5	折状土製品	12.5	4.6	112.1	10YR3/1 黒褐色		108	78
186	10号住居跡	耳環	6.8	4.6	82.2	10YR3/1 黒褐色		110	80
287	17号住-床直	耳環	6.1	3.9				120	88

石器測量表

No.	出土地点	器種	長さ(cm)	幅(cm)	重さ(g)	備考	図版	写真
6	1号住居跡	磨石	4.7	2.2	747.8		98	103
242	14号住居跡	磨石	8.9	4.2	344.8		115	103
243	14号住居跡	砾石			107.8		115	103
254	15号住居跡	磨石	8.8	8.4	182.9		117	103
288	17号住居跡	砾石	6.7	5.0	205.2		120	103
289	17号住居跡	砾石	12.1	6.9	503.8		120	103
350	23号住居跡	石錐	6.9	9.6	373.3		125	103
351	23号住居跡	砾石	6.7	1.5	632.8		125	103
462	17号住居跡	砾石			379.6		137	103
463	HIX-Ⅱ層	砾石	7.2	1.0	363.1		137	103
464	IOME区Ⅰ層	凹石	5.4	1.1	870.5		137	103
465	20L-Ⅲ層	石錐	22.1	7.5	6.7		137	103

陶器測量表

No.	出土地点	種別	器種	口径	底径	高さ	備考	図版	写真
461	9号溝	甌器	甌					137	102

VI. まとめ

(1) 遺構

竪穴住居跡

今回の調査で検出された住居跡（住戸状合む）は31棟で時期は古代29棟、中世2棟である。

〈占地〉 調査区内における住居の立地は古代の住居が東側、中世の住居跡が西側に位置するのが特徴である。

〈規模〉 各住居跡の床面積を図1にグラフで示した。最大で71.8m²、最小で5.9m²、平均値19.9m²であるが70%以下はこれより低い値で10~20m²の住居跡が半分を占める。

〈建て替え（拡張）〉 今回検出した住居跡で2カ所にカマドが設置されているものが2・5・12・14・15・22号住居跡の6棟ある。このうち2号住居跡はカマドの新旧関係がなく同時期に使用されていた可能性がある。5号住居跡は泥水地による条件の悪さから床面の状況はあまり明確に把握できなかったが、住居そのものではなく、カマドのみ作り替えが行われたと思われる。また12号住居跡は床面からカマドの残りと思われる焼土が検出されたが壁や床面の変化、搅乱による遺構の破損により旧遺構と重複関係にあるのか拡張のための建て替えかの判別はつかなかった。これら2棟以外で上記にあげた4棟は壁面や床面の変化から明らかに住居の拡張が行われ、それに伴ってカマドを作り替えている。14号住居跡は当初、北壁面中央付近にカマドが設けられ、住居の拡張に伴い東側方向以外の壁面を削り、床面を掘り込んで持ち込みの黒褐色土混じりの褐色土を貼って固めた跡が覗える。この際カマドを東側に移して構築している。15号住居跡は最初、カマドを北壁面中央付近に設けられ、住居の拡張に伴い全方向の壁面を削り、床面を掘り込んで持ち込みの黄褐色土混じりの黒色土を貼って固めた跡が覗える。この際カマドを移し替えているか同じ北壁面に旧カマドの袖を芯材に使用しているため、壁面中央部よりやや西側に設けられている。8号住居跡は拡張したあとが覗えるがカマドの作り替えはない。

〈軸方向〉 カマドをもつ壁に直交する線と座標軸との角度を軸方向とした。図2は住居軸方向の分布図でこれによると大きく北方向（N群）、東方向（E群）、南方向（S群）の3つのまとまりに分けることができ、N群には7・11・15・24・27号住居跡、E群には1・3・4~6・9・10・12~14・17・19・20・22号住居跡、S群は2・8・16号住居跡が属する。軸方向の反軸方向に対する比率（軸方向÷反軸方向）は図3のようなグラフにすると各群によって若干数値が異なることが判る。すなわちN群の比率は最大1.07、最小0.86、平均値0.96、E群は最大1.06、最小0.76、平均値0.923、S群は2棟のみであるが平均値0.932である。これらの値から住居の形状についてN群は主軸方向のやや長い方形～正方形、E群は正方形～幅広の形状のものが多い傾向が見られる。

〈カマド〉 カマドをもつ住居は22棟でN群住居は壁面中央、E群は壁面中央より南寄りに設けられている。

〈時期〉 住居の時期については14号住居のカマドの建て替えからN群住居→E群住居の順が存在するのは確かで、出土遺物から検討してもこの傾向は裏付けられる。S群住居は出土遺物からN群住居と時期的に重複せずE群期の後期～その後まで存在する。

陥し穴状遺構

67基が検出された。このうち約7割が東西に軸線を持っている。同じ軸線を持つものを結んでいくと北～南方向や北東～南西方向に2~9基の遺構が並んでいる事がわかる。等間隔のものや間隔が密であったり粗であったり様々である。

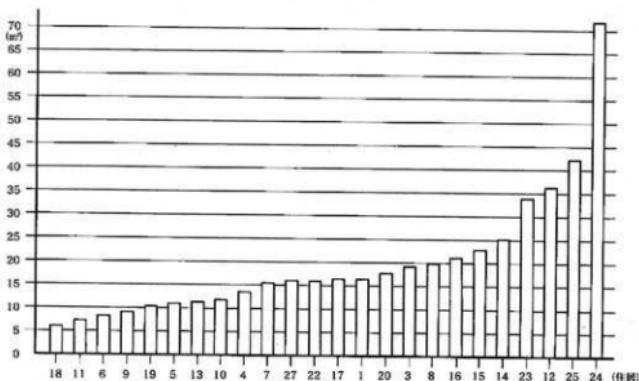


図1 住居跡床面積分布図

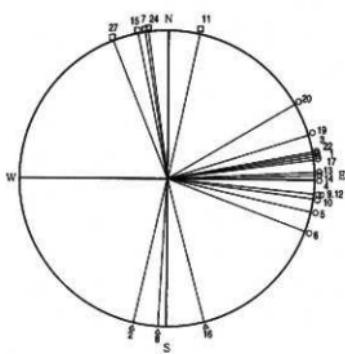


図2 住居跡主軸分布図

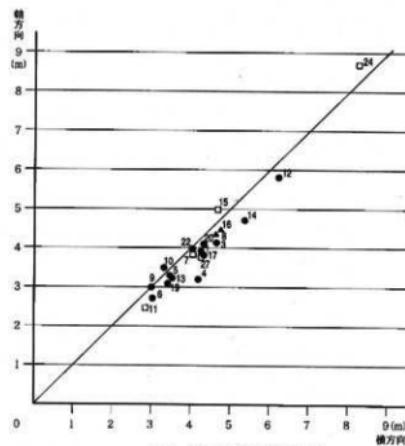


図3 住居跡軸比率分布図

遺構が検出された位置を大別すると、道路西侧調査区北部、道路東側調査区西部、道路東側調査区東部の3つに分ける事ができ、調査区の西から東、北上川方面にいくに従って、遺構の密度が濃くなっている。

数基の陥し穴状遺構は他の遺構と重複関係にある。1・2号土坑との重複関係は陥し穴状遺構の方が新しく、他の遺構との重複関係は陥し穴状遺構の方が古い。住居跡と重複関係にあるものは、住居の貼り床部分を除去した後に陥し穴状遺構が検出されている。

遺物は出土していないが、形状や検出状況からすべて縄文時代の遺構と考えられる。

また周辺の遺跡では本遺跡から北西約1.5kmにある石持1遺跡から平成10・11年度の調査で陥し穴状遺構が約310基検出されており、北上川右岸に隣接するこの地域一帯が狩猟場として利用されていたものと思われる。

土坑

41基検出された。本文中にあるように調査区のほぼ全域で検出されているが、約8割は道路東側調査区からである。

このうち出土遺物・検出状況等から時期が特定できるのは縄文時代の土坑が5基、平安時代が13基、古代～中世が2基、近世が1基で他は不明である。

縄文時代に属する1号土坑の断面形はフラスク状を呈する。また古代に属する9号土坑からは土師器の环が2・3枚ずつ重なって計9枚出土している。このうち1枚には竈で文字の書かれた土師器が含まれていたがこれだけが内面に黒色処理が施されており、他はロクロナデ無調整の环である。また口縁部の一部が欠けているものがあった。埋土の状況は、初めピーカー型に大きく掘込んだ後、黄褐色土を埋め戻したと考えられる。土師器は保管、あるいは埋納した可能性もある。他に遺構の性格は不明であるが、12号土坑、13号土坑、15号土坑は異なる平面形・規模であるが、土坑内のほぼ全面に薄い接合不能の土師器片と炭化物を多量に含むという共通性を持つ。15号土坑は11号住居跡と重複関係にあり本遺構の方が新しい。36号土坑は円形で、壁はやや外傾し、上部ほど広くなる井戸状の土坑である。検出面からおよそ1.3m付近に地下水位があつたためその付近の精査は困難であったが、そこより深くなる事はなく、出土遺物もないことから井戸と断定は出来なかった。

焼土遺構

14基検出された。いずれも形状は瓢箪状を呈し、焼土は遺構の端部からレンズ状に堆積し、その下に炭化物が堆積する状況からカマドの機能をしていたものと考えられるが出土遺物はなく、詳細は不明である。

墓壙

2基検出された。いずれも不整な長方形状を呈し、2号墓壙からは古鏡が11枚出土している。本文中の記述にあるように、この墓は、江戸時代～昭和初期にこの土地を所有していた小野崎氏ゆかりの墓ではないかと考えられ、時期は江戸時代後期～明治時代初期頃と推測される。

堅穴状遺構

3基検出された。1号堅穴状遺構は平面形の長方形を呈し、床面は非常に固く、20cm前後の礫が点在する。遺構の性格は小屋的な物で時期は近世に属すると思われるが、出土遺物がなく詳細は不明である。

溝状追査

13条検出された。このうち1号溝、2号溝が古代に属する。1号溝は道路東側調査区と道路西側調査区に検出されたものを埋土や断面等から同一のものと判断した。南東ー北西方向に走行し、13Mグリッドで緩やかに湾曲して南南東ー北北西方向に走行している。180グリッドでは18号土坑と重複関係を持ち、溝の方が新しい。

7・8号溝は西北西ー東南東方向に走行し13Pグリッドで屈曲して北北西ー南南東方向に走行する。7号溝は8号溝より新しい。12Pグリッドでは7号溝は27号土坑と、8号溝は28号土坑と重複関係を持つがいずれも上坑の方が新しい。

(2)遺物

今回の調査で大コンテナ約40箱分の遺物が出土した。ほとんどが遺構内からの出土で土師器、須恵器、陶磁器、石器、鉄器、金粒、土製品などが出土している。

(a)分類

土器の分類に当たっては、器種と焼成方法、調整技法によって細分した。

器種には坪、高台付坪、皿、甕、壺、鉢などがある。これらを坪類・甕類の2つに大きく分けた。このうち酸化炎焼成のものをA群、還元炎焼成のものをB群に大別し、さらに坪類は底部の切り離し技法、甕類は器面調整の方法の違いで細分した。

坪類（坪、高台坪、大形坪、皿、台付皿）

A群：ロクロにより成形された酸化炎焼成の土器群。

O群：ロクロにより成形され、両面にヘラミガキ調整と黒色処理が施された酸化炎焼成の土器群。

I群：ロクロにより成形され、内面ヘラミガキ調整と黒色処理が施された酸化炎焼成の土器群。

II群：ロクロにより成形され、酸化炎焼成されているものでロクロ以外の調整が施されない土器群。

B群：ロクロにより成形された還元炎焼成の土器群。

〈底部切り離し技法〉

a類：回転糸切りで、再調整が施されないもの。

b類：回転糸切りで、再調整が施されるもの。

c類：静止糸切りで、再調整が施されないもの。

d類：静止糸切りで、再調整が施されるもの。

e類：回転ヘラ切りで、再調整が施されないもの。

f類：回転ヘラ切りで、再調整が施されるもの。

z類：再調整による摩滅、欠損のため不明なもの。

〈外側調整〉

1. ロクロナデ以外の調整が施されないもの。
2. ヘラミガキ調整が施されるもの。
3. ヘラケズリ調整が施されるもの。体部下～底部にかけてヘラケズリ調整が施されるものが多い。手持ちヘラケズリ調整がほとんどだが、回転ヘラケズリ調整の認められるものもある。

〈环形土器〉

今回の調査で出土し、図化・掲載した环形土器は194点である。このうちA O群の酸化炎焼成の両面黒色坏は3点(1.5%)、A I群の酸化炎焼成の内黒坏は80点(41.2%)、A II群の酸化炎焼成の非内黒坏60点(31.0%)、B群の還元炎焼成坏51点(26.3%)で極少量のO群以外の出土量の比率は約4:3:3で1群の量がやや多い。

底部の切り離し技法の観察が可能の個体は183点でA I群78点、A II群57点、B群48点で内訳は観察表のとおりである。

土器構成表

遺構名	AO	环形土器														B群(48点)						
		AI(78点)							AII(57点)													
		a	b	c	d	e	f	z	a	b	c	d	e	f	z	a	b	c	d	e	f	z
1号住居跡		1								1												
2号住居跡										2												
3号住居跡	3								1	1												
4号住居跡		1							1													
5号住居跡									1													
6号住居跡	1									1												
7号住居跡	3								4	6												
8号住居跡		1																				
9号住居跡	2																					
10号住居跡										2												
11号住居跡																						
12号住居跡	2	1							2	1	1							1		1	2	1
13号住居跡										1												
14号住居跡	5	3							2	1	1					1		4	1			
15号住居跡	2																		2			
16号住居跡	2									1									1			
17号住居跡	15																					
18号住居跡											3											
19号住居跡	1									2	1							1				
20号住居跡	1									1	1							2				
21号住居跡	1	3																				
22号住居跡	1		1					1														
23号住居跡	1	2							2	7	2							3		1		
24号住居跡			1							2												
25号住居跡	1									3												
26号住居跡											1											
27号住居跡										1												
28号住居跡	1								1	1								1				
29号住居跡									1									1				
7号土坑	2									1												
9号土坑	1								1	8												
10号土坑											1											
17号土坑										1							1		2			
24号土坑	3																	1				
32号土坑																	1		5	1	2	
1号溝																		5	1		2	
合計		49	7		1	4	14	46	7						1	3	32	3		9	3	1

また作居跡の輪方向（カマド構築場所）の違いによる环の分類は図4のようであるが、これによると住居N群では环A I・A II・B群土器の出土量はほぼ同じである。住居E群ではA I : A II : B群の比率は2:1:1となり、内黒土器群の割合が増加する。（住居S群は出土遺物が8点と少ないため参考外とした。）底部の切り離し技法は圧倒的に回転糸切りが多く、回転範切りは少ない。底面に切り離し後再調整が施される割合はA Iは22点で28.2%、A IIは10点で17.5%、B群は7点で14.6%となっている。A Iの环における再調整の割合は住居N群、住居E群ともに約50%と変わりはない。环A IIにおける再調整の割合は住居N群は再調整が0%、住居E群が22.2%、B群の环における再調整の割合は住居N群は再調整が9%、住居E群が23.5%と違いが見られることから、内面内黒环A Iには住居形態による成形の違いはA II、B群ほど見られない。しかし、17号作居跡（焼失住居）から一括出土した14点の环A Iには再調整が全くないことから住居E群の中では時期的な成形による相違がみられる。

次に器高に対する口径・底径の分散値（半軸による推定値を除く）をグラフにした。図5ではA I环形土器の器高に対する口径、図6では底径の対比率を示した。これによると器高は4.1~6.4cm、口径は12.5~15.2cm、底径は4.8~6.8cmの範囲にあり、器高による口径、底径の長さの違いは見られない。各住居ごとでは住居S群である16号作居跡出土の环は器高が最も大きく、口径も14.3cm、15.2cmと住居E群の中で口径14.1~15.2cmと最も長い17号作居跡と同じ範囲にある。

図9では环A IIの器高に対する口径、図10では底径の対比率を示した。これによると器高は3.7~5.8cm、口径は12.4~15.5cm、底径は4.5~7.0cmの範囲にあり、大まかではあるが、器高値と口径値は比例する傾向にある。住居ごとでは住居N群出土の环の器高値が3.7~4.4cmと低いのが特徴である。

図7ではB群土器の器高に対する口径、図8では底径の対比率を示した。これによると器高は3.4~5.7cm、口径は12.3~14.8cm、底径は5.5~7.4cmの範囲にあり、器高・口径の値や器高値に対し、口径値が（B群は明確に）比例する特徴もA II土器に類似する。

結果、A Iには器高値の変化による口径・底径の値は一定の傾向なく、A II→B群になるに従い、特に器高値に対する口径値の比例は明確になる。

〈大形环〉

2点出土した。243は14号作居跡の貼り床土、294は17号作居跡のP 3底面からそれぞれ出土した。294はI群に属するが同作居跡から出土したA I群の环15点すべてが回転糸切り無調整（a類）であるのに對し、底部切り離し後、手持ちヘラケズリ調整が施されていることから环と異なる器種と判断した。

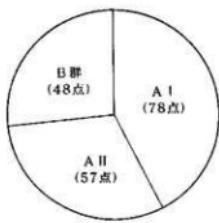
〈高台环〉

11点出土した。内訳はA群O類1点、A群I類0点、A群II類7点、B群1点である。底部の切り離し技法は回転糸切りで高台を接合後、その部分を再調整が施されている。

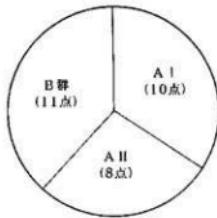
焼失住居跡である17号作居からは4点（A群O類1点、A群II類3点）が出土している。

〈皿、台付皿〉

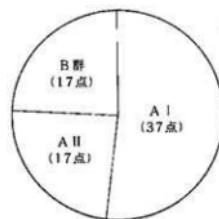
皿類は6点出土した。このうち台付は4点で底部の切り離し技法は回転糸切りで台付のものには再調整によって切り離し技法が不明なものもある。



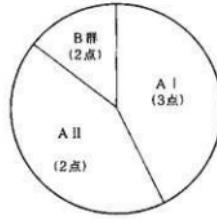
住居内出土坏



住居N群



住居E群



住居S群

図4

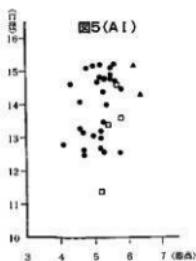
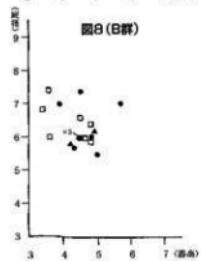


図5(A I)

図6(A I)

図7(B群)



甕類（甕、鉢、壺）

〈甕〉

A群：酸化炎焼成による土器群。

I類：非クロコ成形の土器群。器面の調整は口縁部はヨコナデ、胴部は外面はナデ、内面はハケメによる調整が主に施される。

II類：ロクロにより成形され、内面へラミガキ調整と黒色処理が施された酸化炎焼成の土器群。

III類：ロクロにより成形され、酸化炎焼成された非内墨の土器群。

a種：器面の調整にロクロナデ成形後に体部下半にナデ、ケズリによる再調整が施されるもの。

b種：器面の調整にロクロ以外の調整が施されない上器群。

B群：還元炎焼成による土器群。

I類：口縁部のみロクロ成形で胴部は非クロコの成形によるもの。

II類：全面ロクロナデ成形後に体部下半にナデ、ケズリによる再調整が施されるもの。

III類：器面の調整にロクロ以外の調整が施されない土器群。

今回の調査で出土し、図化・掲載した甕類は119点である。このうち酸化炎焼成の非クロコ成形の甕A Iは52点(43.7%)、A IIの酸化炎焼成内墨甕は5点(4.2%)、ロクロ成形で酸化炎焼成の甕類A IIIは29点(24.3%)、B群の還元炎焼成の甕類は33点(27.8%)で極少量のA II以外の出土量の比率は約4:3:3でO群の量がやや多い。

B群ではI類とII類がほぼ半々である。

出土遺構ごとの觀察表は以下のとおりである。

遺構名	器類							遺構名	甕類								
	A I	A II	A III		B I	B II	B III		A I	A II	A III		B I	B II	B III	不明	
			a	b							a	b	不明				
1号住居跡	1				1			22号住居跡									
2号住居跡		1		1				23号住居跡			2		1		1		
3号住居跡		1	1					24号住居跡	5	1					1	1	
4号住居跡	3					1		25号住居跡	1				1	4	2	1	
5号住居跡	4							26号住居跡									
6号住居跡				3				27号住居跡	1								
7号住居跡	1	1				3		28号住居跡	3	1							
8号住居跡								29号住居跡	2						1		
9号住居跡			1	1				土器埋蔵								1	
10号住居跡		5			1			8号土坑	1				1				
11号住居跡	1							11号土坑	1								
12号住居跡	2		1	1	1			15号土坑	1								
13号住居跡				1				20号土坑	1								
14号住居跡	5	1		1			1	27号土坑								1	
15号住居跡	4				2			31号土坑	1								
16号住居跡				3				33号土坑	1								
17号住居跡			1			1		1号溝									
18号住居跡								2号溝	1								
19号住居跡								3号溝	1						1		
20号住居跡	9							8号溝					1		2		
21号住居跡	3	1	1	1		4	1	合計	52	5	11	10	8	11	15	5	

この表から見た特徴を述べると、次の通りである。

1. 酸化炎焼成の非クロコ成形甕(A I)と還元炎焼成の非クロコ成形甕(B I)は共伴する。

2. 酸化炎焼成の非クロコ成形甕(A I群)と還元炎焼成のロクロ成形甕(B II)は共伴する。

3. 酸化炎焼成のロクロ成形内墨甕(A II群)と酸化炎焼成の非クロコ成形甕(A I)は共伴する。

4. 住居S群からは酸化炎焼成(A群)の甕はIII類のみ出土する。

(3) おわりに

以上の結果から今回の調査で似内遺跡で明らかになった遺構・遺物の時期的位置や特徴は以下の通りである。

1. 回転ヘラキリ無調整壺と酸化炎焼成の非クロコ成形壺が共伴する出土状況や内黒壺には底部に切り離し後再調整が施される土器と無調整の土器が共伴する特徴や14号住居跡の建て替えによる住居N群→E群の移行などから住居N群とE群の混在時期あり、その時期は9世紀前半と想定される。
2. 住居E群である17号坑穴住居一括土器の内黒壺は底部の切り離しがすべて回転糸切り後、無調整であり、口径値は1に述べた再調整土器と共伴する上器群の口径値が概ね13cm前後であるのに対し、14.1～15.1cmと大きい値をもつ。またこの住居からはA II・B群の壺は全く出土していない。住居E群の中でも明らかな時期差が存在する。
3. 住居S群出土の酸化炎焼成の甕はクロコ成形のA群Ⅲ類のみである。S群の時期的な判断の資料不足のため不明であるが、隣接する上似内遺跡から検出された住居内ではE群→S群のカマドの作り替えが確認されている。住居S群の時期については出土遺物から9世紀後葉に属すると考えられる。(ただし住居S群の時期的範囲の下限については近隣の庫理遺跡の調査結果で10世紀初頭の住居が確認されている。)
また、上記以外にも類似性のある事項も認められるが、今回の調査結果のみで判断されるべきではなく周辺遺跡を含めた総括的な検討が必要なことは明らかであり、西北西に近接する石持I遺跡や南東に隣接する上似内遺跡の調査報告がまたれる。

<引用・参考文献>

- ・花巻市教育委員会 1999 「花巻市内遺跡発掘調査報告書」(久田野II遺跡・本館II遺跡・似内遺跡)
- ・花巻市教育委員会 2000 「庫理遺跡発掘調査報告書」
- ・岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1999 「庫理遺跡発掘調査報告書」
(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第302集)
- ・岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1996 「小畠遺跡第4次発掘調査報告書」
(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第265集)
- ・八木光則 1992 「古代斯波群と爾薩体の土器様相」第18回古代城櫓官衙検討会
- ・杉本尚次 1969 「日本民家の研究」ミネルヴア書房
- ・石原憲治 1976 「日本農民建築の研究」南洋堂書店
- ・坪井洋文 1985 「日本民族文化大系 10 家と女性=暮しの文化史」
「第3章 住民の原感觉=喜怒哀楽の共有感觉」小学館
- ・大河貞躬 1986 「住まいの人類学」平凡社
- ・草野和大 1995 「近世民家の成立過程」中央公論美術出版
- ・藤井恵介／玉井哲雄 1995 「建築の歴史」中央公論社
- ・秋田県教育委員会 1973 「秋田県の民家」
- ・岩手県教育委員会 1978 「岩手の古民家」
- ・岩手県教育委員会・日本国有鉄道盛岡工事事務局 1979 「八幡遺跡」(現在は「矢沢八幡遺跡」に名称変更)「東北新幹線開通係埋蔵文化財調査報告書-II-」
(岩手県文化財調査報告書 第34集)
- ・岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1997 「白井坂」・II遺跡発掘調査報告書
(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第248集)

・高橋與右衛門 1981 「岩手県に於ける中・近世の掘立柱建物跡 -遺跡紹介を中心として-」『紀要!』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

・高橋與右衛門 1993 「掘立柱建物跡から見た南部「曲り屋」出現期の一試案」『紀要XIII』 岩手県文化振興事業
団埋蔵文化財センター

VI. 分析・鑑定

花巻市似内遺跡出土炭化材の樹種

高橋利彦（木工舎「ゆい」）

1. 試料

試料は18点（NO.1-10,11-19）であるが、NO.5・6・8・18・19の5点は種実であったためこれをく13点を同定対象とした。種実については後述する。試料は平安時代（9世紀）のものとされる焼失性居跡（4号住・17号住・18号住）と時期不明の1号焼土遺構から検出されたものである（表1参照）。

遺跡は標高76m前後の河岸段丘上に立地している。

2. 方法

同定作業には発掘担当者によって採取されていた炭化材の中から1片を任意に選んで用いた。採取した試料を室内で自然乾燥させたのち、試料の木口（横断面）・柵目（放射断面）3断面を作成し、実体顕微鏡と走査型電子顕微鏡（SEM、加速電圧 10 kV）で観察・同定した。併せて各分類群1点の電子顕微鏡写真図版を作成した（図版1・2）。SEM観察にあたっては（株）ニッセツ・ファイン・プロダクツ釜石試験分析センターのご協力をいただいた。記して感謝いたします。なお、ネガ・フィルムと残った炭化材は木工舎「ゆい」に保管されている。

3. 結果

試料は以下の4分類群（ここでは属・種の異なる階級の分類単位を総称している）に同定された。試料の主な解剖学的特徴や一般的な性質は次のようなものである。なお、科名・学名・和名およびその配列は「日本の野生植物 大本1」（佐竹ほか 1989）にしたがい、一般的な性質については「木の事典 第4巻」（平井 1980）も参考にした。

・クリ (*Castanea crenata*) ブナ科 No.1,2,3,7,10,13,15,16,17

環孔材で孔隙部は多列、孔隙外で急激に管径を減じたのち漸減しながら火炎状に配列する。大道管は単独、横断面では円形～梢円形、小道管は単独および2-3個が斜（放射）方向に複合、横断面では角張った梢円形～多角形。道管は單穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では梢状～網目状となる。放射状組織は同性、單（-2）列、1-15細胞高。柔組織は周囲状、短接線状。年輪界は明瞭。

No.15は小枝のように見えたが、大径材を丸棒状に削りだした加工材であった。

クリは北海道南西部から九州の山野に自生し、また植栽される落葉高木である。材はやや重硬で、強度は大きく、耐朽性が高い。土木・建築・器具・家具・薪炭材、櫛木などに用いられる。

・ケヤキ (*Zelkova serrata*) ニレ科 No.9

環孔材で孔隙部は1-2列、孔隙外で急激に管径を減じたのち漸減し、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。大道管は横断面では円形～梢円形、単独。小道管は横断面では

多角形で複合管孔をなす。道管は単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-10細胞幅、1-60細胞高でしばしば結晶を含む。柔組織は周囲状。年輪界は明瞭。

ケヤキは本州・四国・九州の谷沿いの肥沃地などに自生し、また原敷林や並木として植栽される落葉高木で、時に樹高50mにもなる。材はやや重硬で、強度は大きいが、加工は困難でなく、耐朽性が高く、木理が美しい。建築・造作・器具・家具・機械・彫刻・薪炭材など各種の用途に用いられ、国産広葉樹材の中で最も良のもの一つにあげられる。

・コクサギ (*Orixa japonica*) ミカン科 NO.12

紋様孔材で、道管は複合し火炎状やX字状に配列する。道管は横断面では多角形、単穿孔をもち、壁孔は交互状～対列状に配列する。放射組織は異性、半(-2)列、1-20細胞高。柔組織はターミナル状。年輪界は明瞭。

コクサギは本州・四国・九州の丘陵地に生育する落葉低木で、石灰岩地では群生する。低木であるため材の用途は特に知られていない。

・ススキ類似種 (*Miscanthus cf.sinensis*) イネ科 No.4,14

中実の桿の基本組織の中に維管束が散在する不齊中心柱をもつ。試料の桿は中空に見えるが、炭化の過程で焼失したもので本来は中穴であると判断した。河川敷などに生育する同属のオギ (*M.sacchariflorus*) の可能性もあるため類似種としておく。

以上の同定結果を検出遺構などとともに一覧表で示す(表1)。

表1 似内遺跡出土炭化材の樹種

試料番号	検出遺構・層位など	種名
1	1号焼土 埋土	クリ
2	4号住 床上	クリ
3	18号住 床上	クリ
4	17住 南東部	ススキ類似種
7	17住	クリ
9	17住 南東隅壁際	ケヤキ
10	17住 P 1	クリ
12	17住 P 1	コクサギ
13	17住 P 1	クリ
14	17住 P 1	ススキ類似種
15	17住 P 1	クリ
16	17住 サンプル1	クリ
17	17住 サンプル2	クリ

4. 考察

同定対象とした試料は、3住居跡と1焼上遺構から検出されたものであるが、いずれの

遺構からもクリが認められた。また、試料数の多い17号住居跡検出試料（10点）からはクリ（6点）・ケヤキ（1点）・コクサギ（1点）の木本と、草本のススキ類似種（2点）が認められている。

県内で試料と同時期とされる住居跡検出の炭化材の樹種が検討された例は、筆者の知る範囲ではない。筆者が検討したものでは、盛岡市台太郎遺跡の3住居跡（8点）からクリ（4）のほかマツ属・ブナ属・モクレン属・カエデ属が認められている例¹¹や、玉山村芋田II遺跡の2住居跡（13点）からコナラ節（5）・ヤナギ属（3）・クリ（2）・ケンボナシ（2）・ケヤキが認められた例¹²、宮古市島田II遺跡のS114からクリ（2）が認められている例¹³がある。

青森県では、八戸市根城跡の4住居跡（4点）からコナラ（2）・ケヤキ・ケンボナシが（鷲倉 1983）、同市和野前山遺跡の2住居跡（10点）からコナラ（7）・ヤチダモ（2）・スギが（鷲倉 1984）、三沢市小田内沼遺跡の5住居跡（10点）からコナラ（7）・クリ・カエデ・カツラが認められている例（鷲倉 1988）などがあり、クリよりコナラ節が多い傾向が窺える。

また、宮城県仙台市沼原A遺跡の1号住居跡（3点）からはクリ（2）とブナ属（2）¹⁴が認められている（光谷 1983）。

ところで、低木のコクサギが報告された例はほとんどなく、県内では、平泉町柳之御所跡（12世紀）の自然木の中に1点ある（能城 1995）だけであろう。また、宮城県仙台市宮沢遺跡第30次調査の古墳時代とされる水田用水路に伴う杭材の中にコクサギが多數認められている例がある（パリノ・サーヴェイ株式会社 1991）。住居の構築材では、本遺跡からは約370km南に位置しているが、群馬県渋川市中筋遺跡の古墳時代（6世紀前半）の名山二ツ岳から噴出した火砕流に飲み込まれた住居跡からコナラ節などとともにコクサギ・ムラサキシキブ属が検出された例（高橋 1988）がある。

5. 炭化種実

試料は5点で、いずれも17号住居跡から検出されたものである。なお、No18は木器とされていたが、同定試料としたものは種子の塊が炭化したものであった。

試料は以下の3分類群に同定された。

・オニグルミ (*Juglans mandshurica* var. *sachalinensis*) 核 クルミ科

オニグルミは北海道から九州の川沿いなどに生育する落葉高木である。

・クリ (*Castanea crenata*) 子葉 ブナ科

試料は、果皮（殻）・種皮（渋皮）のない食用となる子葉部分のみであった。これらは炭化の過程で焼失したものではなく、「皮むき」したのちに炭化したものと推定している。クリの熟した穀（イガ）の中には1-3個の堅果が入っているが、1個のみが大きく熟し他の2個は「しいな」状に小さいままであることが多い。試料の中にはこの「しいな」状のものも少なからず含まれていた。

・コムギ (*Triticum aestivum*) 種子 イネ科

現在の栽培品種と比較すると、粒形の変異が大きい。一部に（殻）の残るものもあったが大半は種子のみであった。

コムギは中国から伝えられ、その渡来年代は明らかにされていないが、奈良時代以前とされている。なお、オオムギ (*Hordeum vulgare* var.*hexastichon*) 可能性もある。

No.18はエノコログサ属 (*Setaria*) などにも似ているが互いに溶融・合着していて同定できなかった。

以上の同定結果を一覧表で示す（表2）。併せて写真図版（図3）も作成した。試料は（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターに返却された。

表2

試料番号	検出層位など	種名
5	カマド煙道部埋土中～下位	クリ 子葉
6	中央部床面	オニグルミ 核
8	床面	コムギ 種子
18	床面上	イネ科草本 種子
19	床面	コムギ 種子

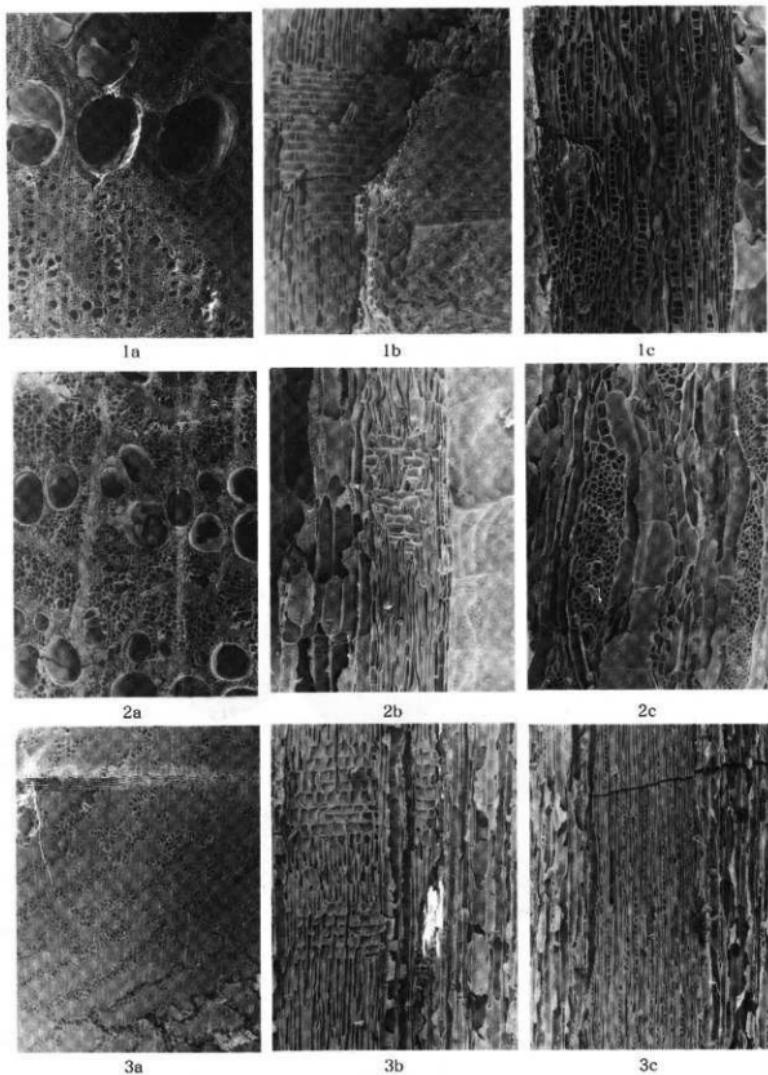
（注）

- 既報の「台太郎遺跡出土炭化材樹種同定報告」（木工舎「ゆい」1998）を参照のこと。
- 既報の「芋田II遺跡出土炭化材樹種同定報告」（木工舎「ゆい」1998）を参照のこと。
- 既報の「島田II遺跡出土炭化材樹種同定報告」（木工舎「ゆい」2000）を参照のこと。
- 1試料からクリとブナ属が認められているため合計は試料数より多くなっている。

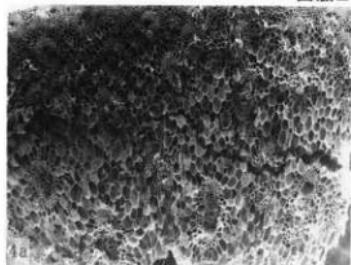
引用文献

- 平井信二 1979-1982 「木の事典 第1巻～第7巻」,かなえ書房
光谷拓実 1983 沼原A・嶺山C・梨野A各遺跡出土炭化材樹種同定結果,「仙台市文化財調査報告書第45集 茂庭・茂庭住宅団地造成工事地内遺跡発掘調査報告
梨野A遺跡・沼原A遺跡・沼原B遺跡・沼原C遺跡・嶺山A遺跡・嶺山B遺跡・嶺山C遺跡」,仙台市教育委員会・仙台市開発局,425-455.
佐竹義輔・原 寛・戸理俊次・富成忠夫（編）1989 「日本の野生植物 大木I・II」,平凡社,321,305pp
高橋俊彦 1988 中筋遺跡出土炭化材の樹種,「渋川市発掘調査報告書第18集 中筋遺跡第2次発掘調査概要報告書」,群馬県渋川市教育委員会,42-47.

図版 1



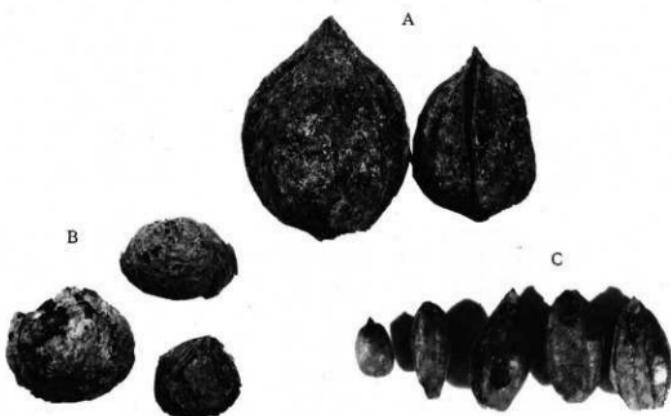
図版2



図版1 1. クリ NO.3
2. ケヤキ NO.9
3. コクサギ NO.12

図版2 4. ススキ類似種 NO.4

a : 木口 $\times 40$ b : 柄口 $\times 100$ c : 板目 $\times 100$
樹木の肥大生長方向は木口では画面下から上へ、柄口では左から右。



A : オニグルミ核 No.6 $\times 1.3$
B : クリ子葉 No.5 $\times 1.2$
C : コムギ種子 No.8 $\times 4.8$ 粒径は太・細・長・短さまざま。
現在栽培されているものに比べて変異が大きい。

写 真 図 版





遺跡遠景（上が南）



調査区西側近景（98年度分 北から）

写真図版1 空中写真①



調査区東側近景 (98年度調査分 上が南)



調査区近景 (99年度調査分 上が南)

写真図版2 空中写真②

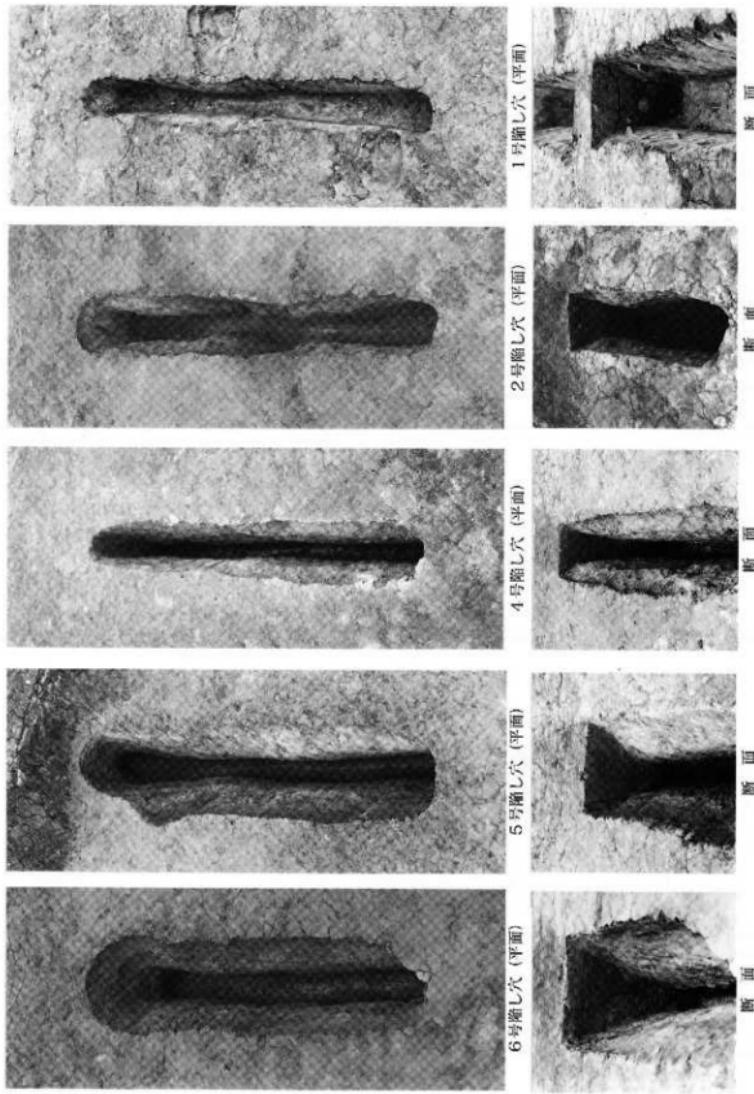


基本土層（調査区西端）

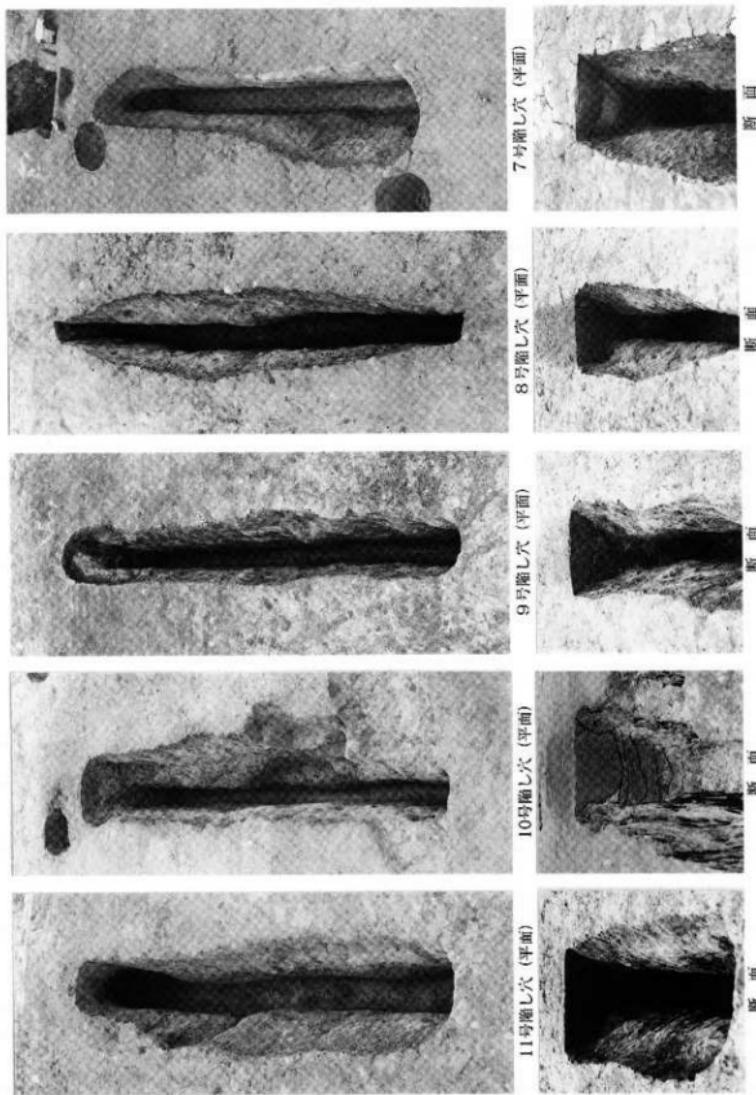


基本土層（調査区東側）

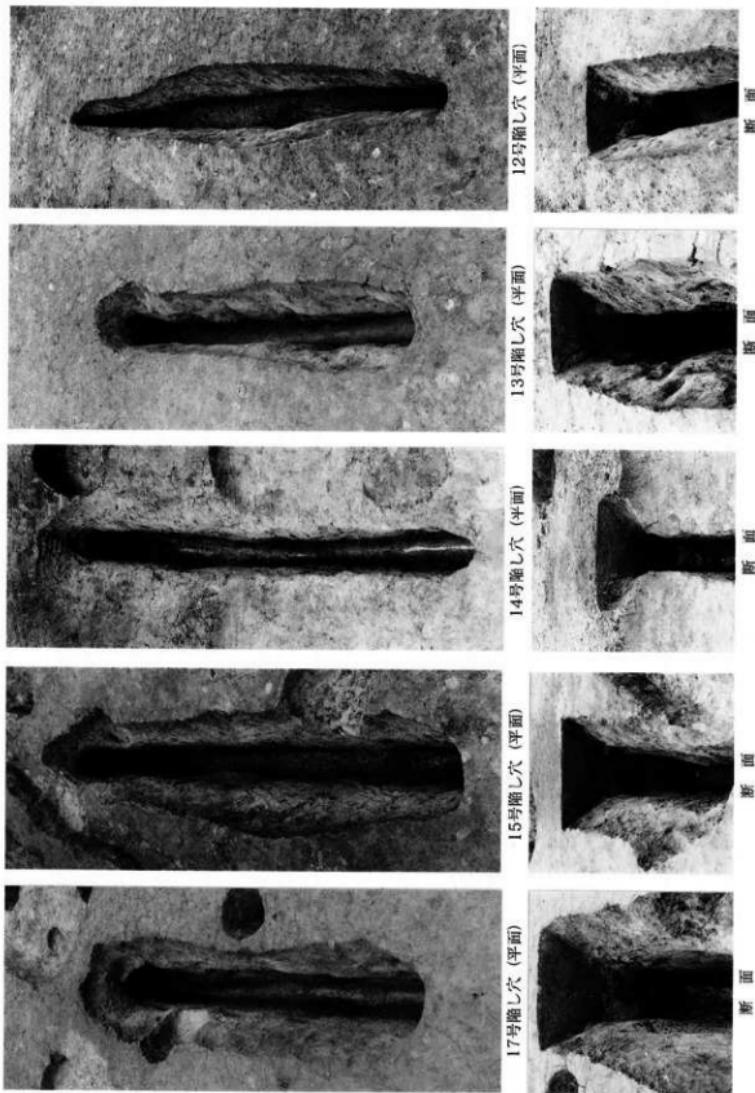
写真図版3 基本土層



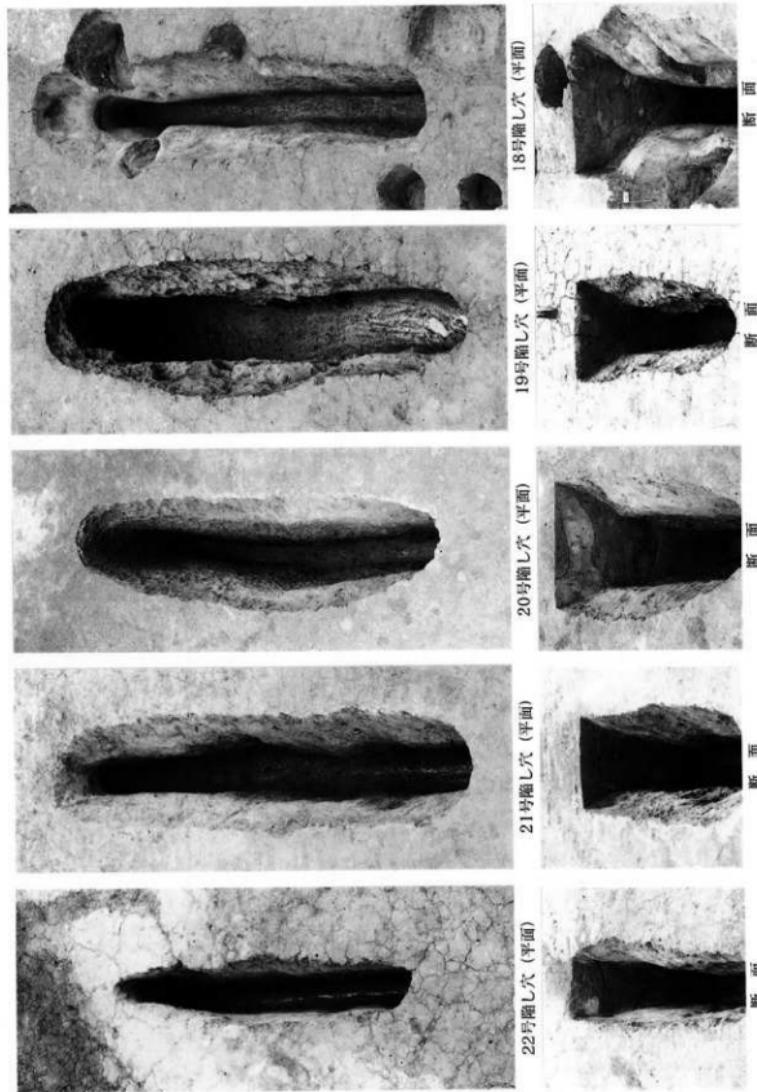
写真図版4 1・2・4~6号陥し穴



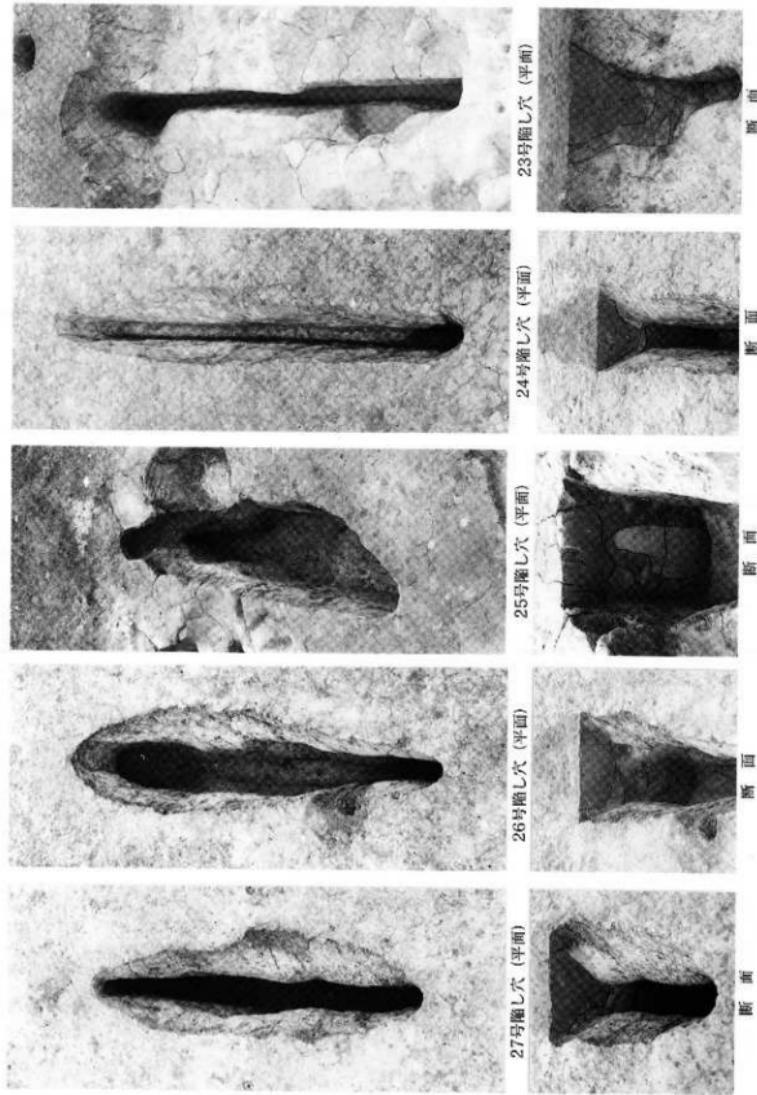
写真図版5 7~11号陥し穴



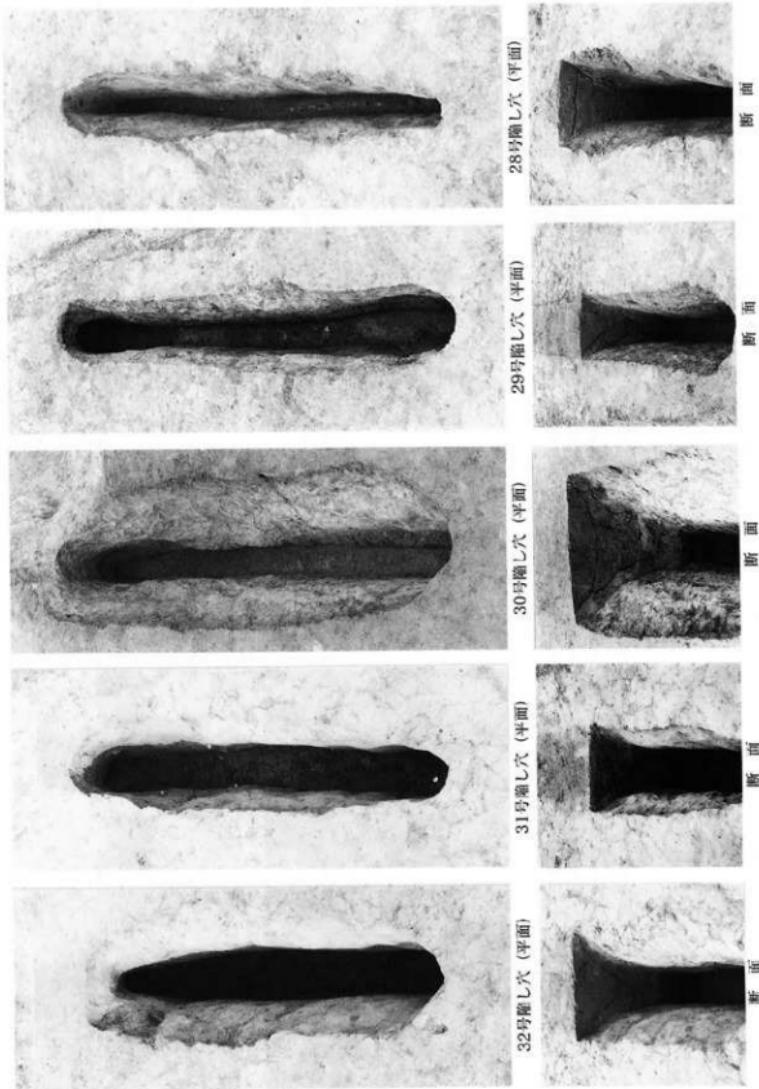
写真図版6 12~15・17号陥し穴



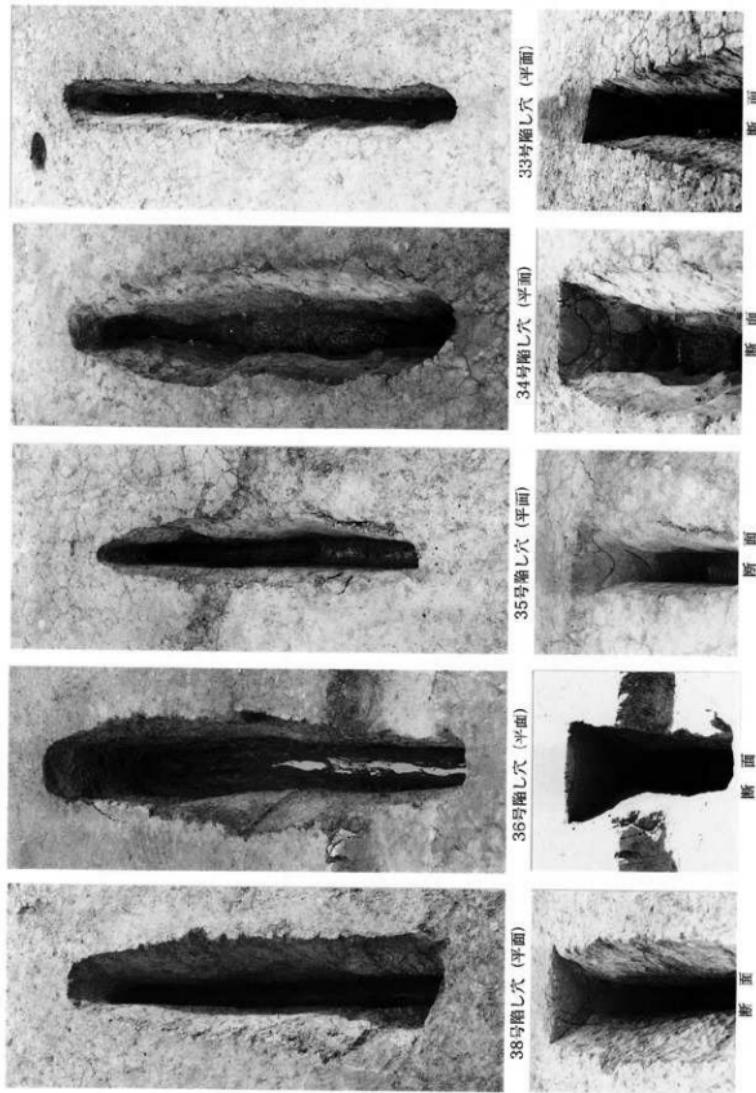
写真図版7 18~22号陥し穴



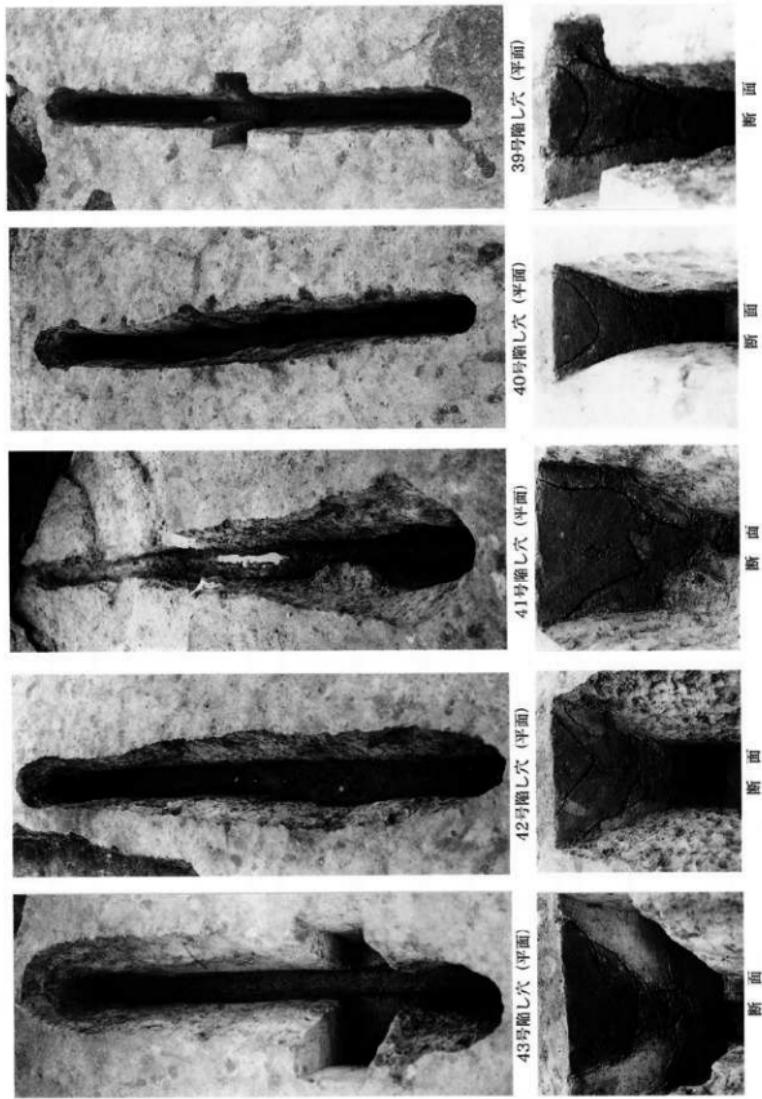
写真図版8 23~27号陷し穴



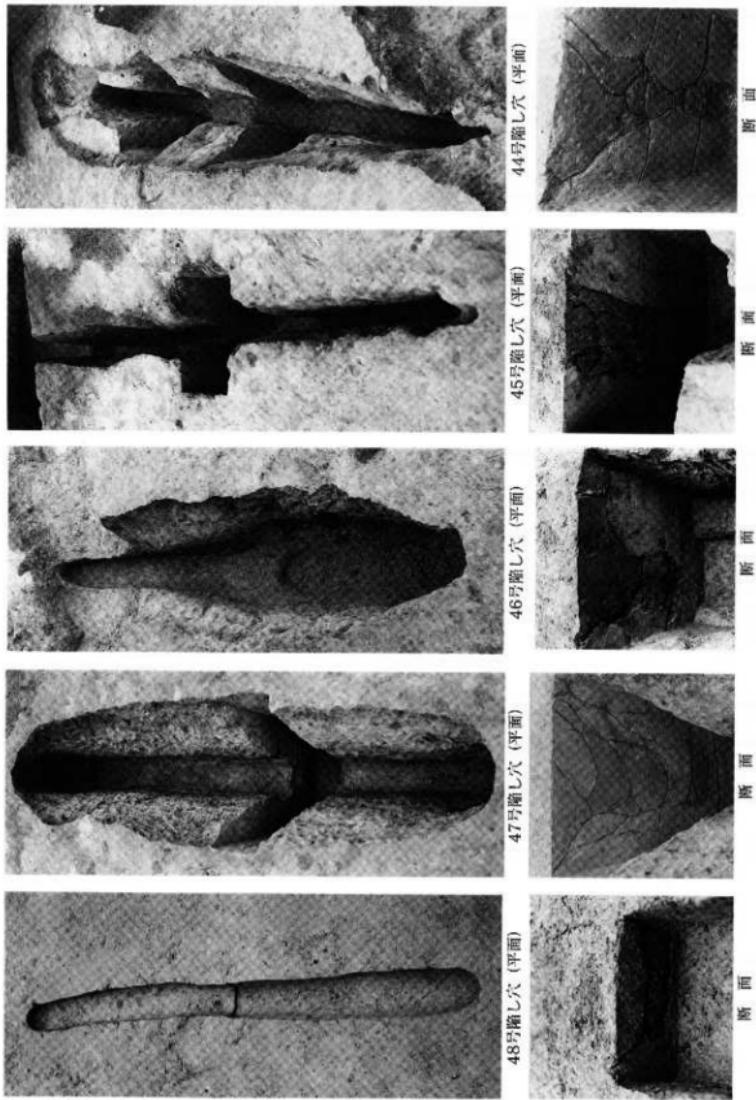
写真図版9 28~32号陥し穴



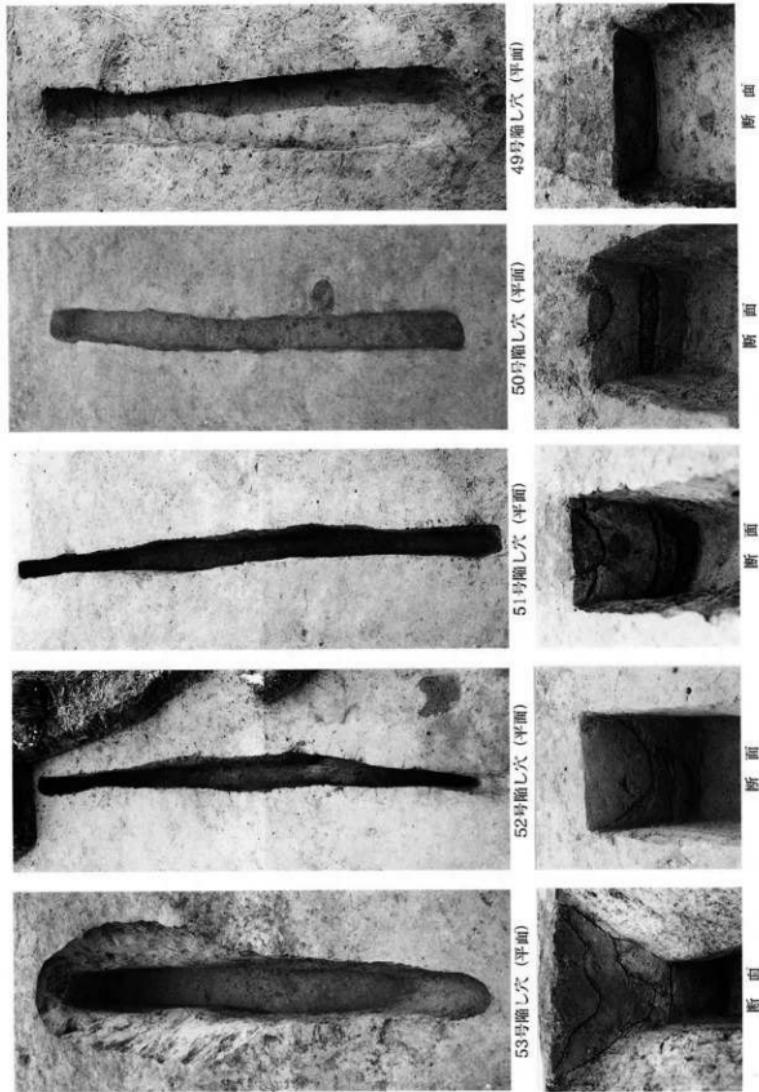
写真図版10 33~36・38号陥し穴



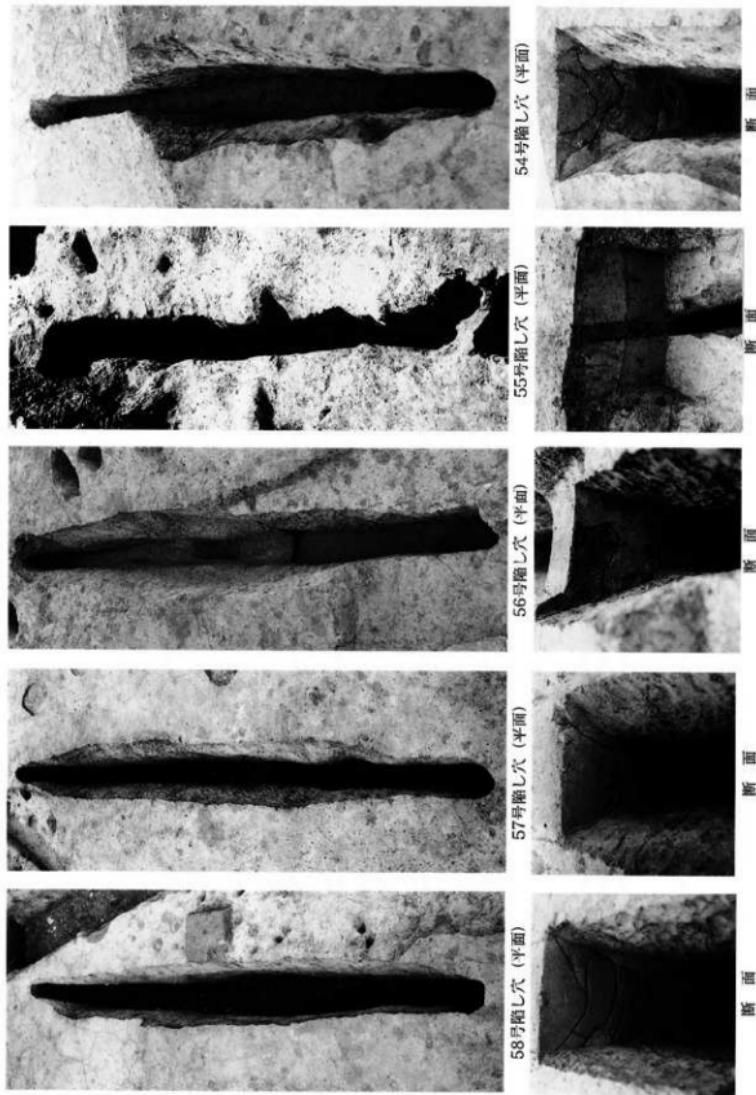
写真図版11 39~43号陥し穴



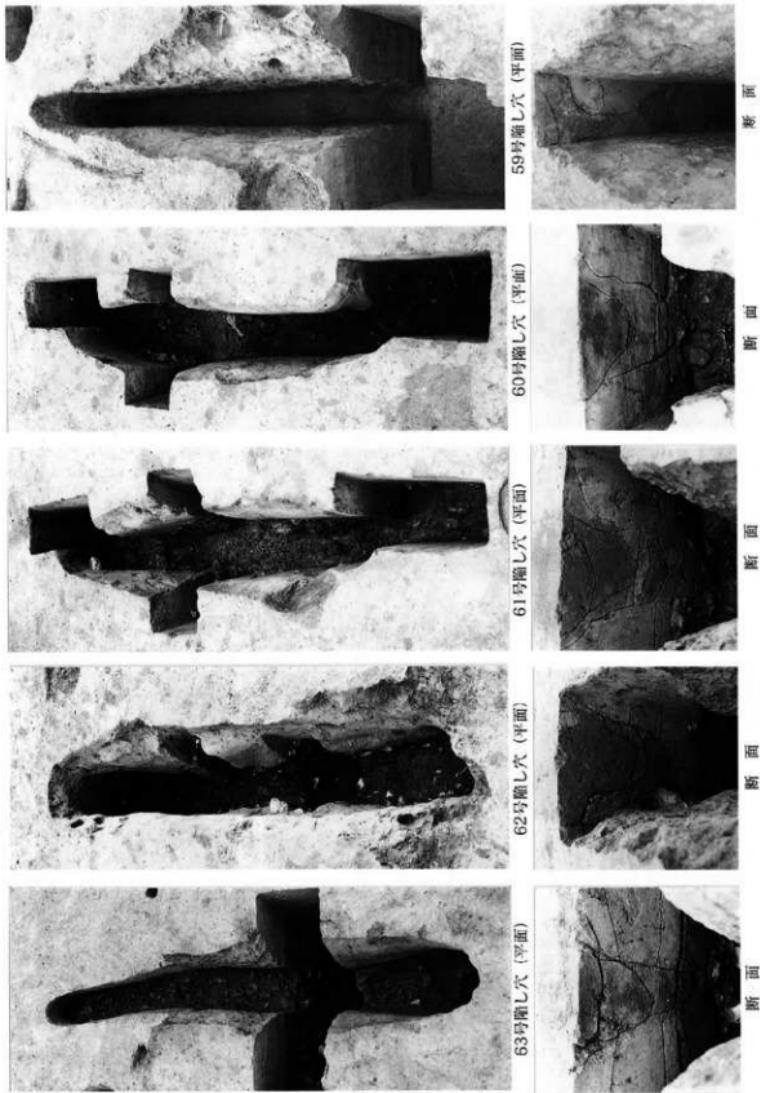
写真図版12 44~48号陥し穴



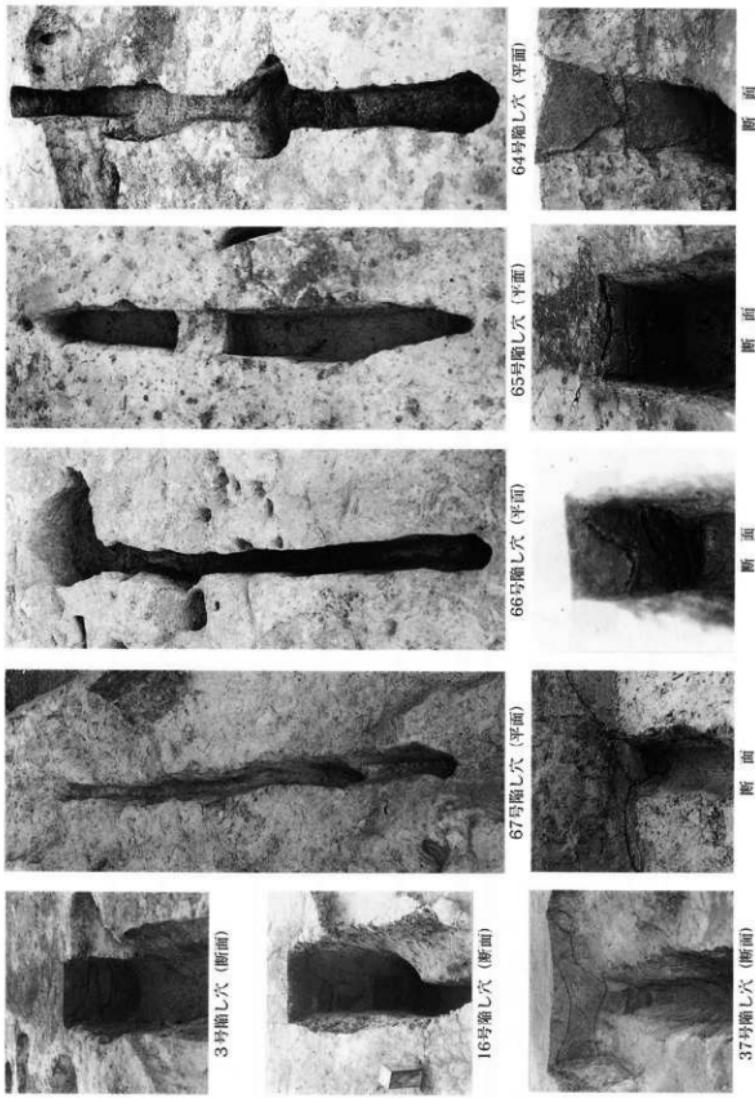
写真図版13 49~53号陥し穴



写真図版14 54~58号陥し穴



写真図版15 59~63号陷し穴



写真図版16 3・16・37・64~67号陷し穴



1号住居跡（平面）



埋土断面 (W-Eベルト)



埋土断面 (N-Sベルト)



カマド烟道部 (断面)



カマド燃焼部 (断面)



カマド袖部・燃焼部 (断面)

写真図版17 1号住居跡



2号住居跡（平面）



埋土断面（W-Eベルト）



2号カマド（平面）



1号カマド（平面）



2号カマド袖部・燃焼部（断面）

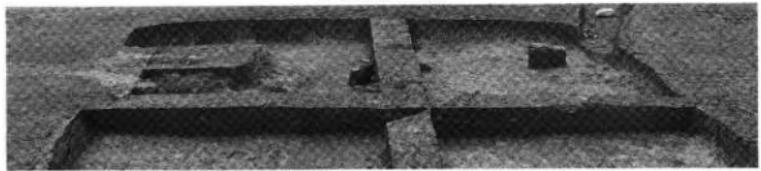


1号カマド袖部・燃焼部（断面）

写真図版18 2号住居跡



3号住居跡（平面）



埋土断面（N-Sベルト）



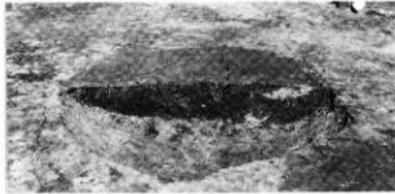
カマド（平面）



カマド袖部～燃焼部（断面）

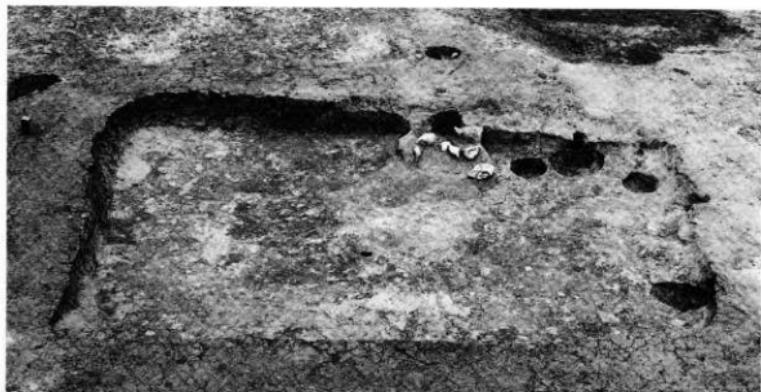


カマド煙道部（断面）

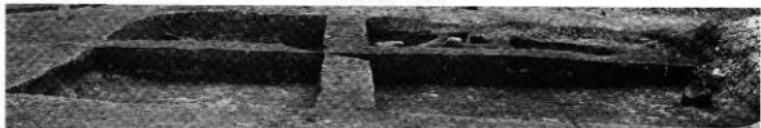


土坑（P.3）

写真図版19 3号住居跡



4号住居跡（平面）



堆上断面（N-Sベルト）



カマド平面



カマド煙道部（断面）



カマド油部・燃焼部（断面）



カマド燃焼部（断面）

写真図版20 4号住居跡



5号住居跡（99年度調査区分 西から撮影）



5号住居跡（98年度調査区分 北から撮影）

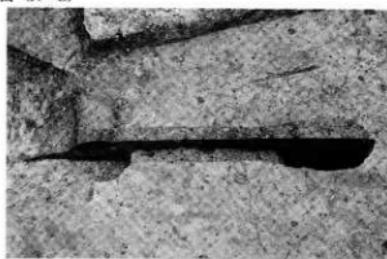
写真図版21 5号住居跡



埋土断面 (N-S)



1号カマド (平面)



1号カマド煙道部 (断面)



2号カマド袖部・燃焼部 (断面)



1号カマド (平面)



2号カマド煙道部 (断面)

写真図版22 5号住居跡



6号住居跡（平面）



埋土断面（N-Sベルト）



カマド煙道部（断面）



カマド燃焼部覆土（断面）

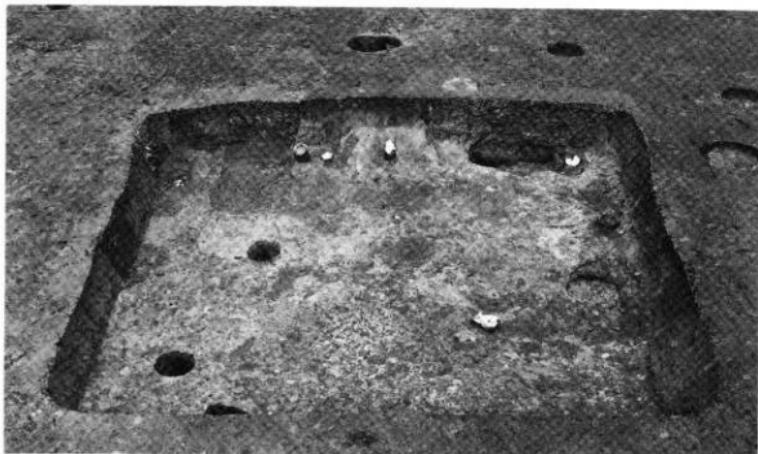


カマド油部～燃焼部（断面）



カマド燃焼部（断面）

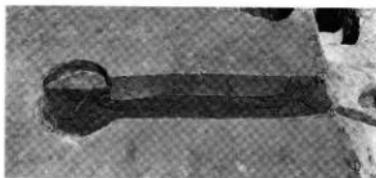
写真図版23 6号住居跡



7号住居跡（平面）



埋土断面 (N-Sベルト)



カマド煙道部 (断面)



カマド袖部・燃焼部 (断面)

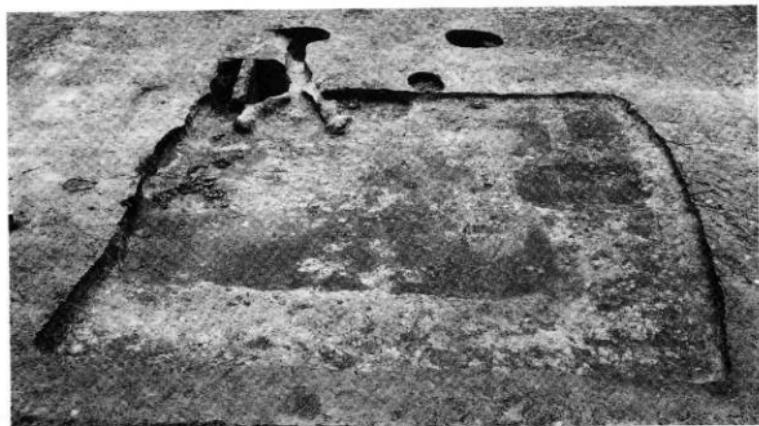


カマド燃焼部 (断面)



遺物出土状況

写真図版24 7号住居跡



8号住居跡（平面）



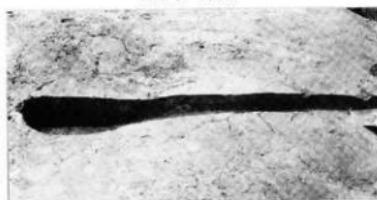
埋土断面（N-Sベルト）



カマド（平面）



土錐出土状況



カマド煙道部（断面）



カマド本体・燃焼部（断面）

写真図版25 8号住居跡



9号住居跡（平面）



埋土断面 (N-S)



カマド（平面）



カマド燃焼部（断面）

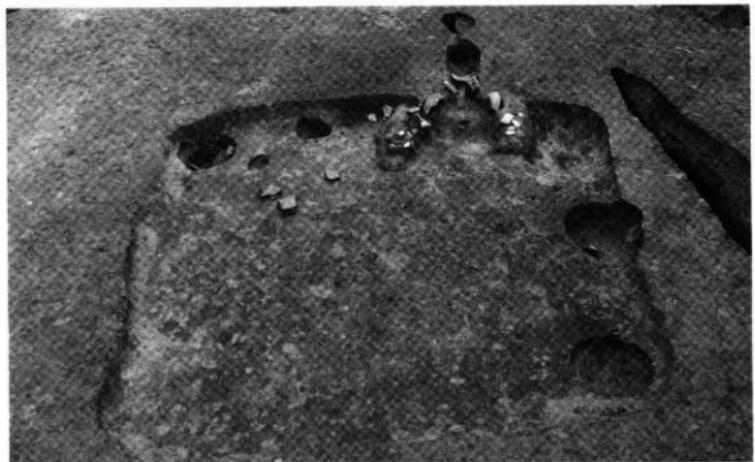


カマド烟道部（断面）

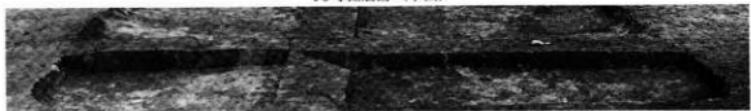


土坑（断面）

写真図版26 9号住居跡



10号住居跡（平面）



埋土断面（N-Sベルト）



カマド（平面）



カマド燃焼部（断面）



カマド抽部・燃焼部（断面）



土坑3（平面）

写真図版27 10号住居跡



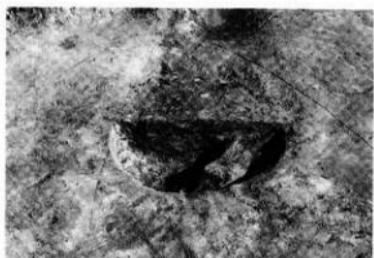
11号住居跡（平面）



埋土断面（W-E）



カマド（平面）



カマド燃焼部（断面）

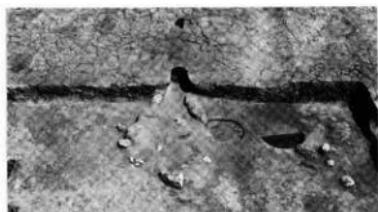
写真図版28 11号住居跡



12号住居跡（平面）



埋土断面（E-Wベルト）



カマド（平面）



カマド燃焼部（断面）



カマド袖部・燃焼部（断面）



旧住居跡—カマド燃焼部（断面）

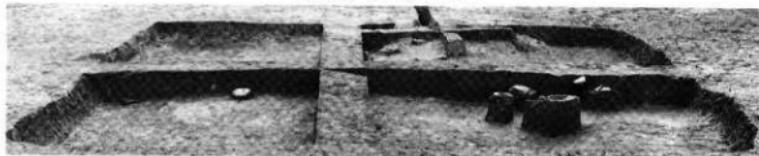
写真図版29 12号住居跡



13号住居跡（平面）



埋土断面（E-Wベルト）



埋土断面（N-Sベルト）



カマド煙道部（断面）



カマド袖部・燃焼部（断面）

写真図版30 13号住居跡



14号住居跡（平面）



埋土断面（N-S）



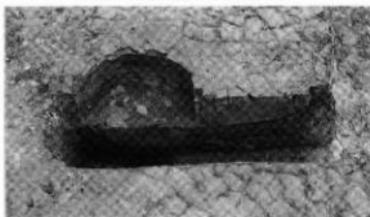
カマド（平面）



カマド袖部・燃焼部部（断面）



東側カマド（断面）

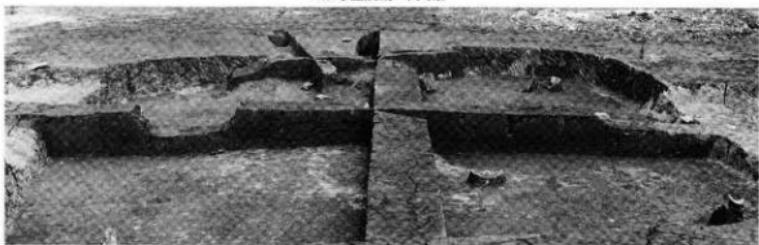


北側カマド（断面）

写真図版31 14号住居跡



15号住居跡（平面）



埋土断面（W-Eベルト）



埋土断面（N-Sベルト）

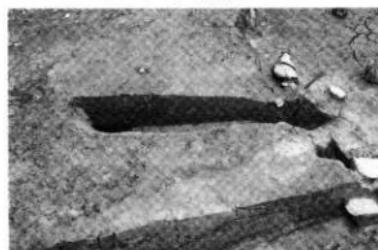
写真図版32 15号住居跡



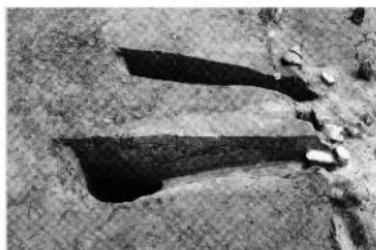
カマド（平面）



カマド燃焼部（断面）



1号カマド燃焼部（断面）



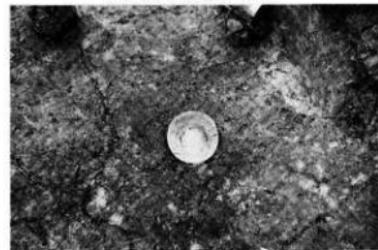
2号カマド燃焼部（断面）



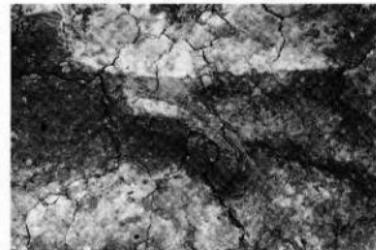
2号カマド燃焼部（断面）



2号カマド袖部・燃焼部（断面）



土器出土状況



鉄製品出土状況

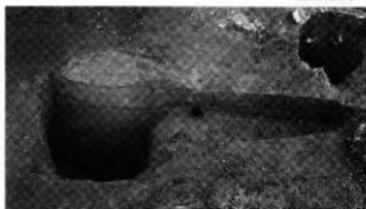
写真図版33 15号住居跡



16号住居跡 (平面)



埋土断面 (N-Sベルト)



カマド煙道部 (断面)



カマド袖部・燃焼部 (断面)



カマド燃焼部 (断面)



住居内土坑 - P 1 (断面)

写真図版34 16号住居跡



17号住居跡（平面）



埋土断面（N-Sベルト）



埋土断面（W-Eベルト）



カマド（平面）



カマド煙道部（断面）

写真図版35 17号住居跡



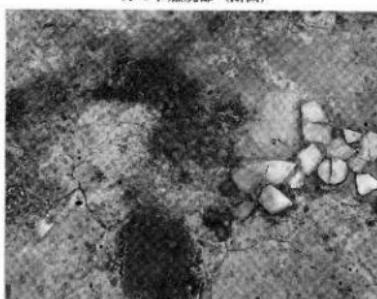
カマド袖部・燃焼部（断面）



カマド燃焼部（断面）



住居内土坑—P 2（平面）



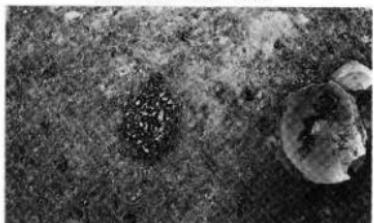
炭化物（胡桃）出土状況



須恵器甕出土状況（平面）



須恵器甕出土状況（断面）



炭化物（種子）出土状況①



炭化物（種子）出土状況②

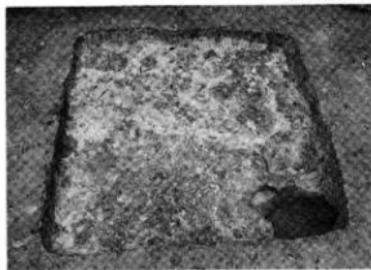
写真図版36 17号住居跡



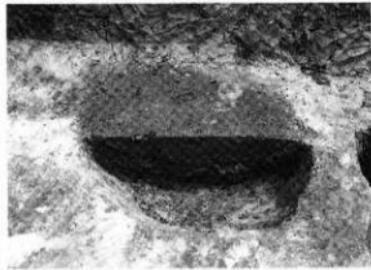
30号住居跡（平面）



埋土断面（W-Eベルト）



完掘



住居内土坑-P 1（断面）

写真図版37 18号住居跡



19号住居跡（平面）



カマド（平面）



カマド煙道部（断面）

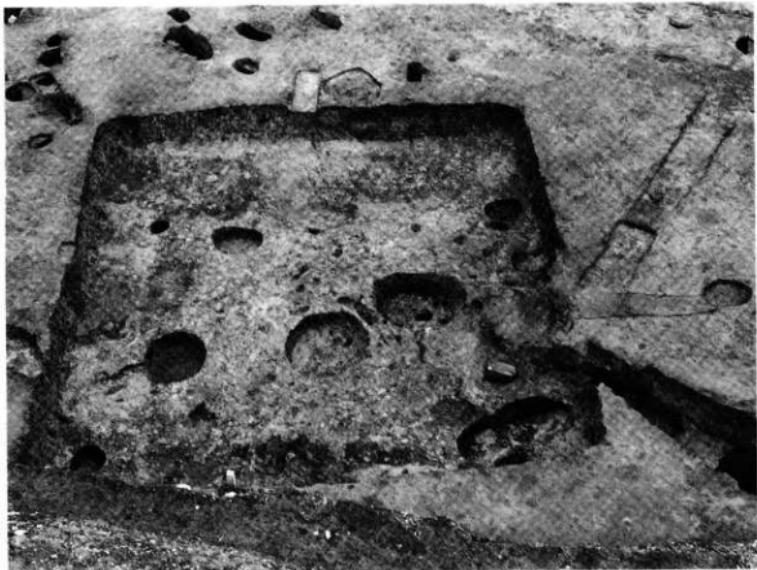


住居内土坑-P 1（断面）



カマド袖部・燃焼部（断面）

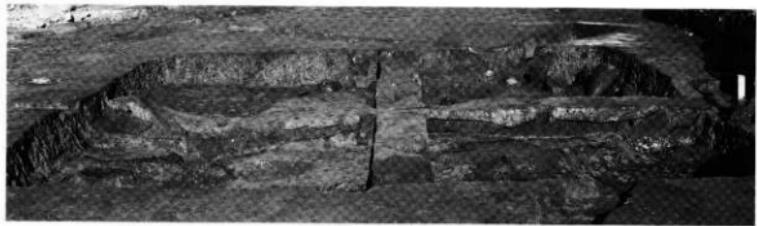
写真図版38 19号住居跡



20号住居跡（平面①）



20号住居跡（平面②）
写真図版39 20号住居跡



埋上断面 (N-Sベルト)



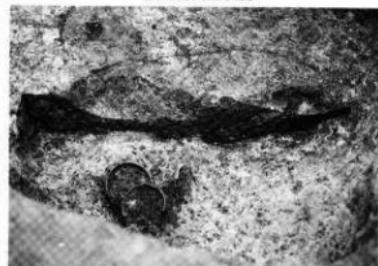
カマド (平面)



炭化物出土状況



遺物出土状況



土坑 (P 1) 断面

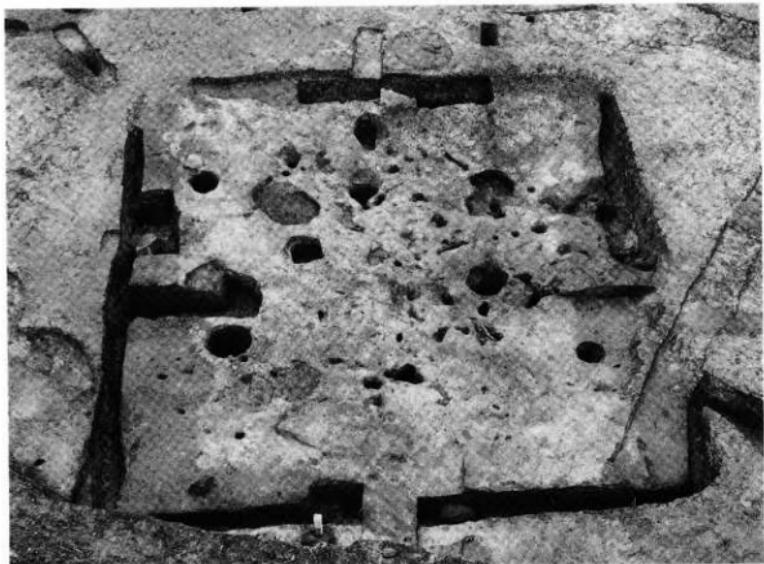


カマド燃焼部 (断面)



カマド燃焼部 (断面)

写真図版40 20号住居跡



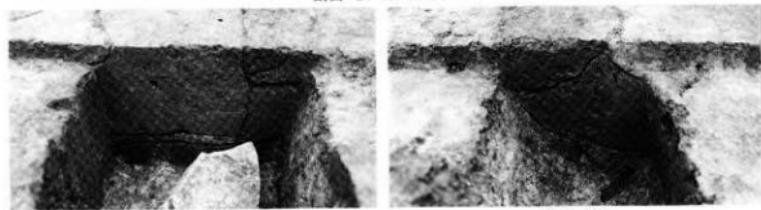
21号住居跡 (平面)



断面 (E-Wベルト)

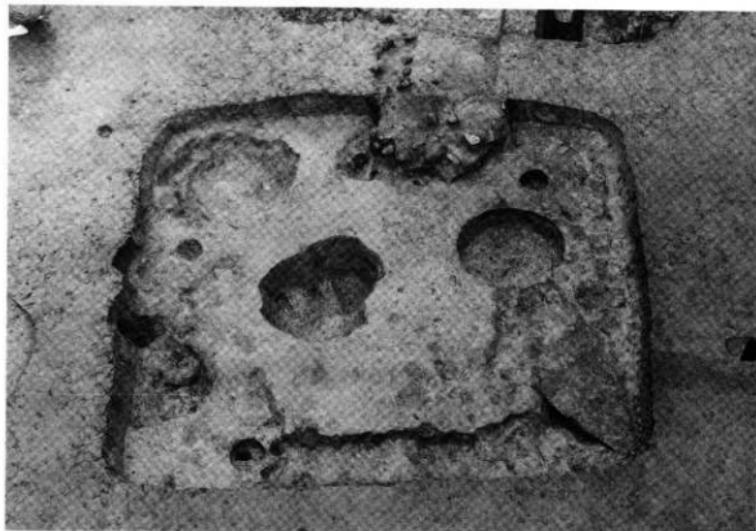


断面 (N-Sベルト)



溝跡 (2)

写真図版41 21号住居跡



22号住居跡（平面）



カマド煙道部（断面）



カマド袖部～燃焼部（断面）

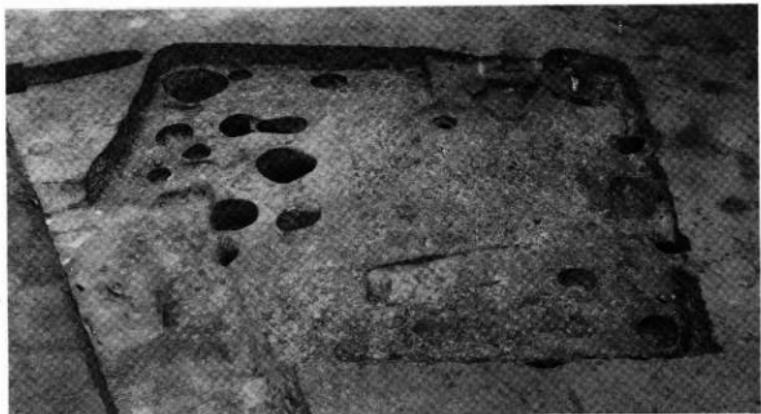


カマド（平面）



住居内土坑P 1-2（断面）

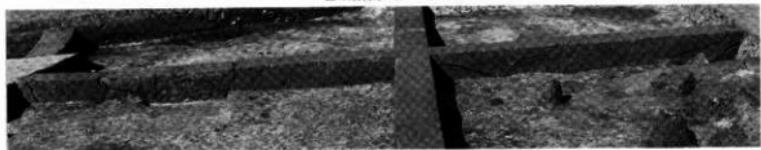
写真図版42 22号住居跡



23号住居跡 (平面)



埋土断面 (N-S)



埋土断面 (W-E)

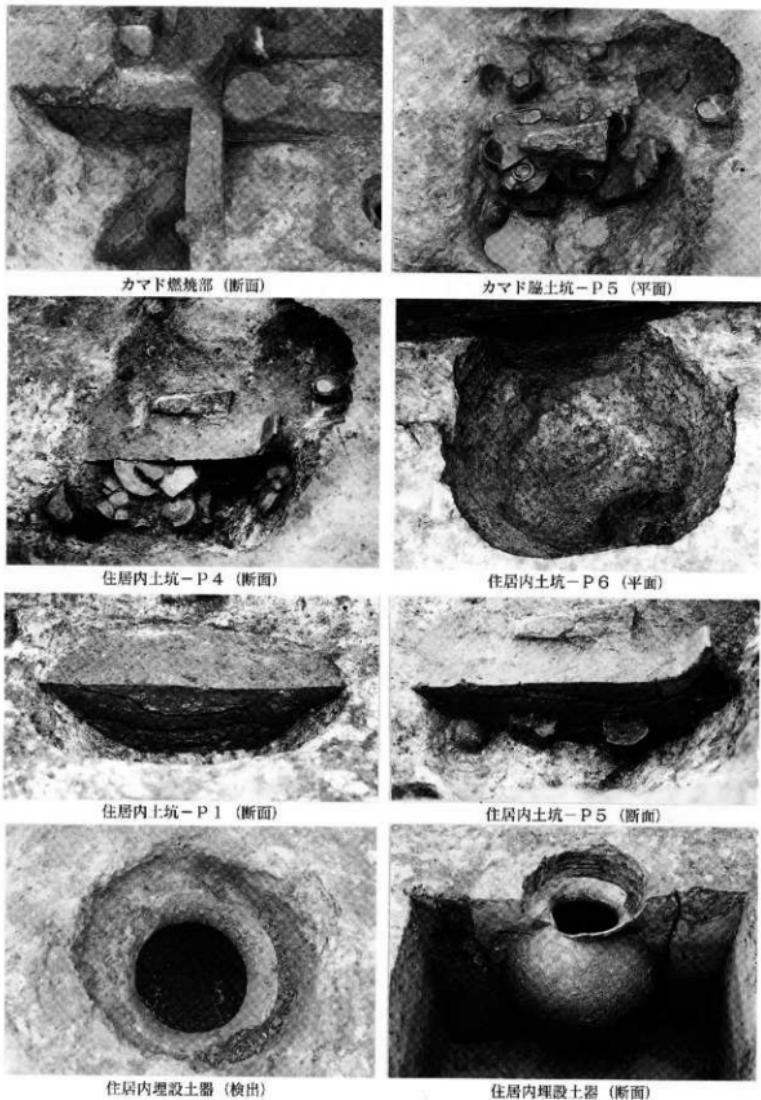


カマド



カマド燃焼部 (断面)

写真図版43 23号住居跡



写真図版44 23号住居跡



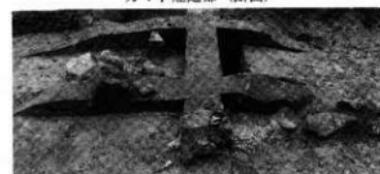
24号住居跡（平面）



埋土断面（S-Nベルト）



カマド煙道部（断面）



カマド燃焼部（断面）

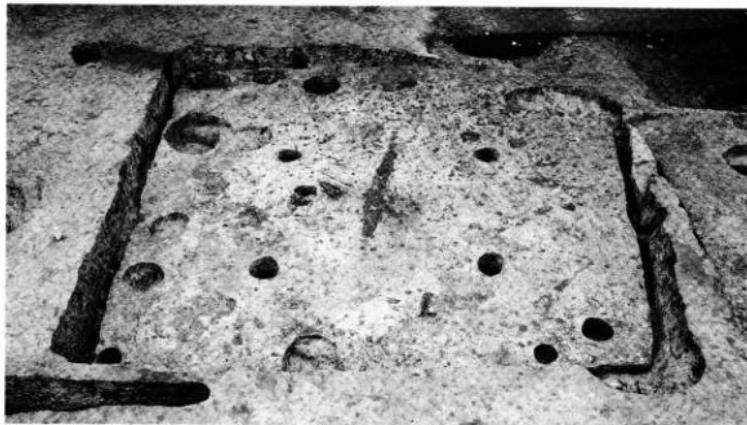


カマド煙出し部（断面）



カマド（平面）

写真図版45 24号住居跡



25号住居跡（平面）



埋土断面（N-Sベルト）



住居内土坑-P 1（断面）



住居内土坑-P 3（断面）



住居内土坑-P 6（断面）



住居内土坑-P 2（断面）

写真図版46 25号住居跡



26号住居跡（平面）



埋土断面（W-Eベルト）



埋土断面（N-Sベルト）



住居内土坑-P1（断面）



土器出現状況

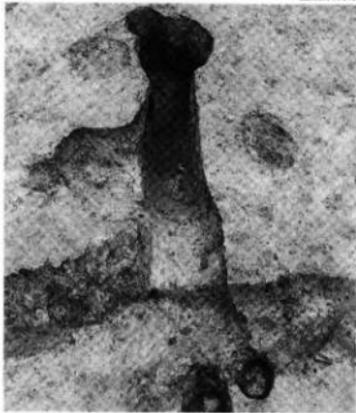
写真図版47 26号住居跡



27号住居跡



埋土断面 (W-Eベルト)



カマド (平面)



カマド煙道部 (断面)



住居内土坑-P2 (断面)

写真図版48 27号住居跡



28号住居跡（平面）



埋土断面（S-Nベルト）



住居内土坑-P3（断面）



住居内土坑-P1（断面）

写真図版49 28号住居跡



29号住居跡（平面）



埋土断面（W-Eベルト）



P 1 (断面)



P 2 (断面)



P 3 (断面)

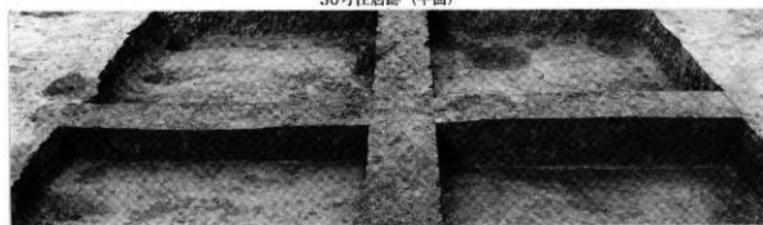


P 4 (断面)

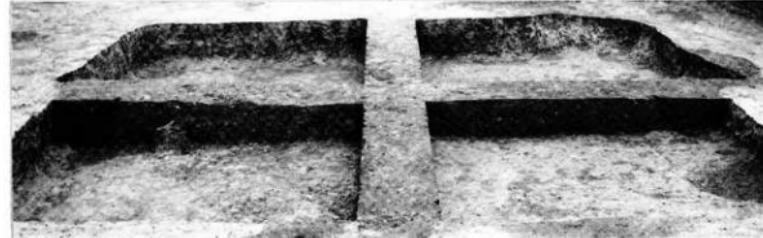
写真図版50 29号住居跡



30号住居跡（平面）



埋土断面（W-Eベルト）

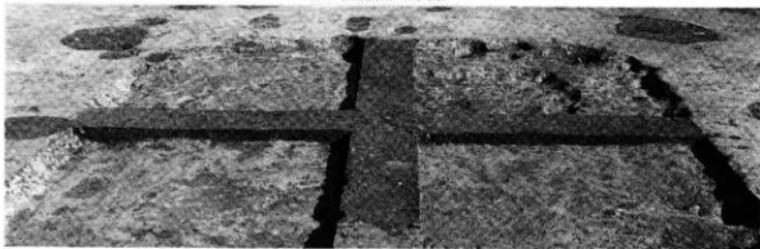


埋土断面（N-Sベルト）

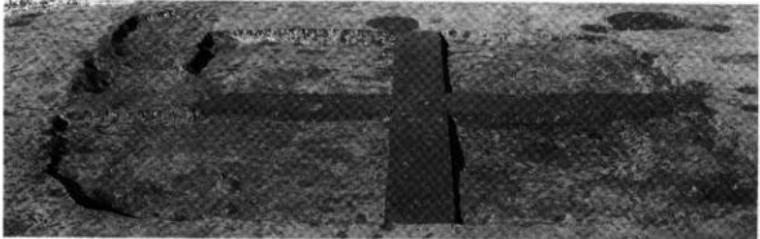
写真図版51 30号住居跡



31号住居跡（平面）

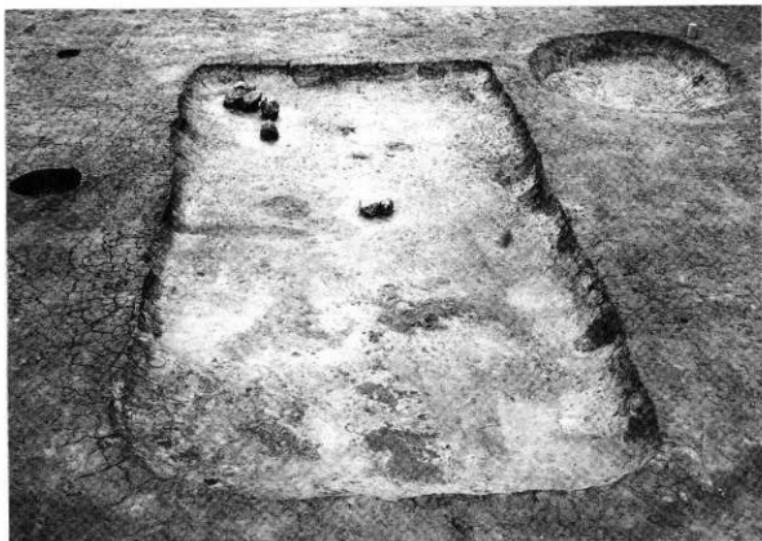


埋土断面（N-Sベルト）

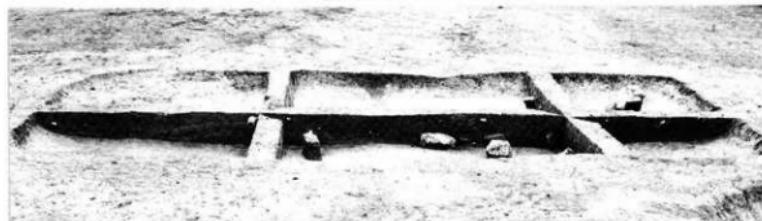


埋土断面（W-Eベルト）

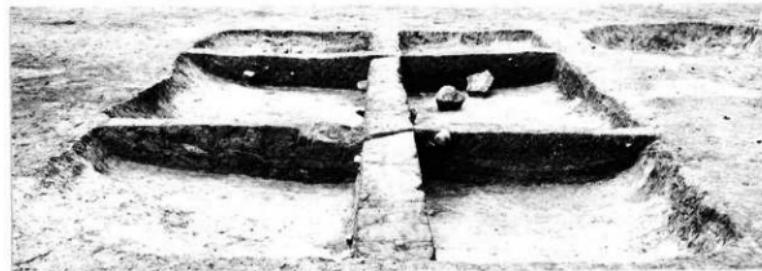
写真図版52 31号住居跡



竪穴状遺構（平面）



埋土断面（S-Nベルト）

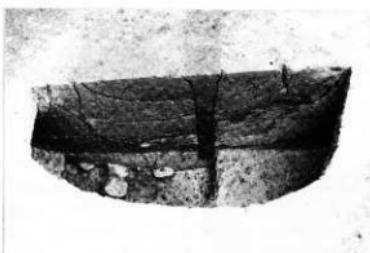


埋土断面（W-Eベルト）

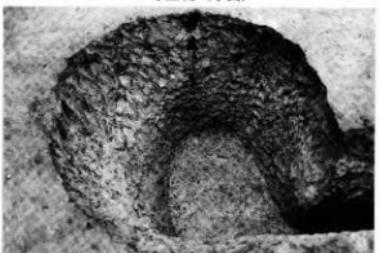
写真図版53 1号竪穴状遺構



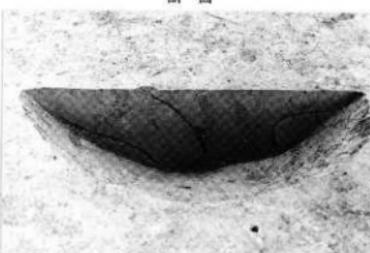
1号土坑（平面）



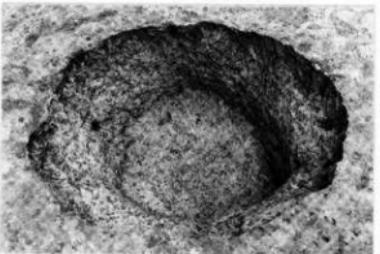
断面



2号土坑（平面）



断面



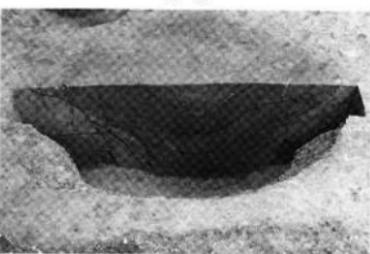
3号土坑（平面）



断面



4号土坑（平面）



断面

写真圆版54 1~4号土坑



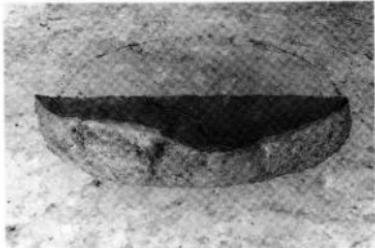
5号土坑（平面）



断面



6号土坑（平面）



断面



7号土坑（平面）



断面

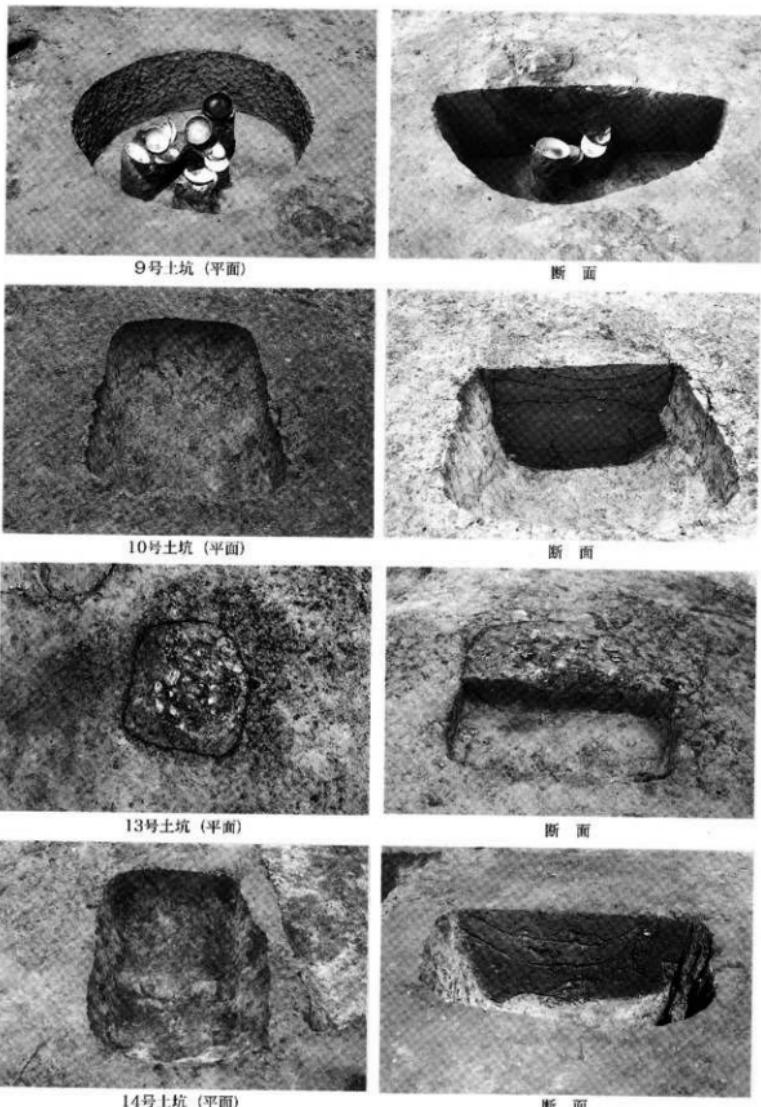


8号土坑（平面）

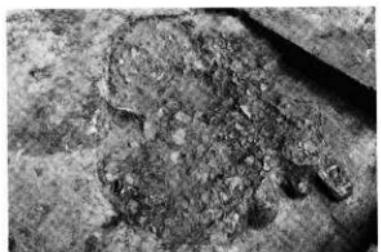


断面

写真図版55 5~8号土坑



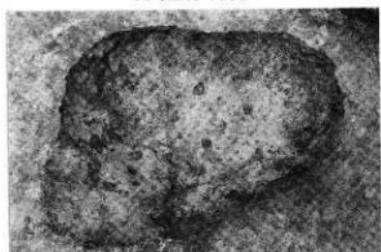
写真図版56 9・10・13・14号土坑



15号土坑（平面）



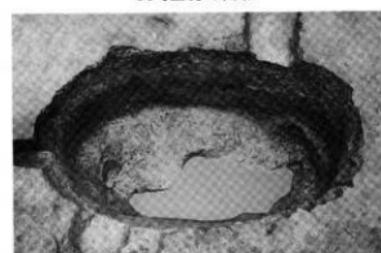
断面



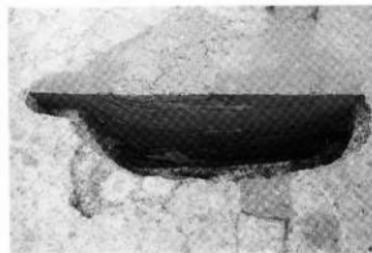
16号土坑（平面）



断面



17号土坑（平面）



断面

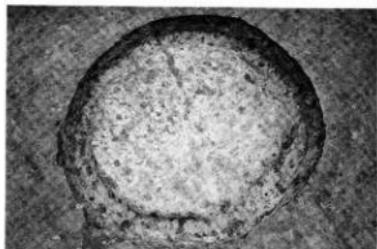


18号土坑（平面）



断面

写真図版57 15~18号土坑



19号土坑（平面）



断面



20号土坑（平面）



断面



22号土坑（平面）



断面

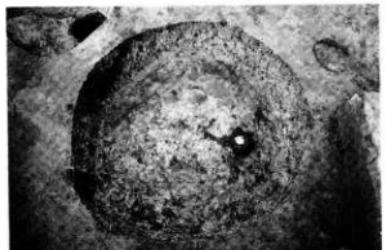


23号土坑（平面）

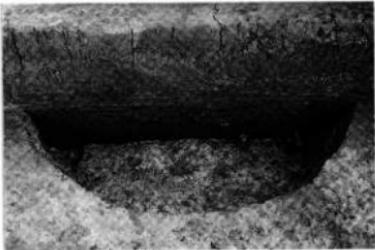


断面

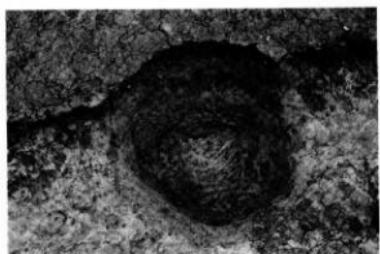
写真図版58 19・20・22・23号土坑



24号土坑（平面）



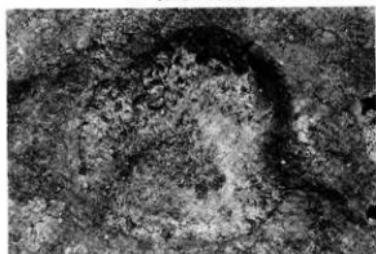
断面



27号土坑（平面）



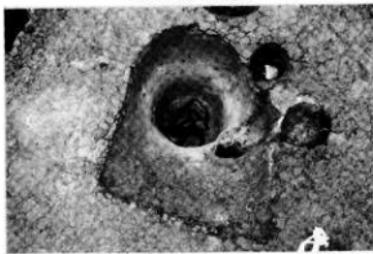
断面



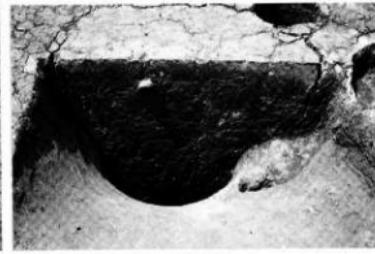
28号土坑（平面）



断面

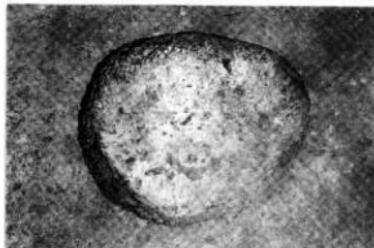


29号土坑（平面）



断面

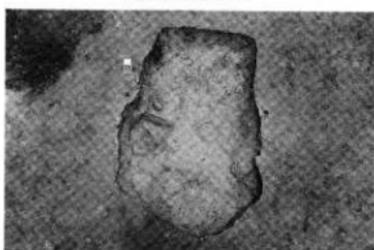
写真図版59 24・27～29号土坑



30号土坑（平面）



断面



31号土坑（平面）



断面



32号土坑（平面）



断面



33号土坑（平面）



断面

写真図版60 30~33号土坑



34号土坑（平面）



断面



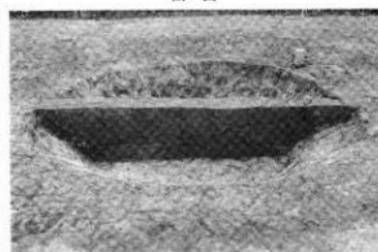
37号土坑（平面）



断面



38号土坑（平面）



断面

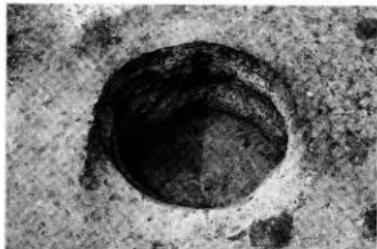


39号土坑（平面）



断面

写真图版61 34·37~39号土坑



40号土坑（平面）



断面



41号土坑（平面）



断面



36号土坑（平面）

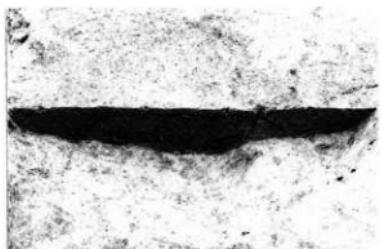


11号土坑（断面）



12号土坑（断面）

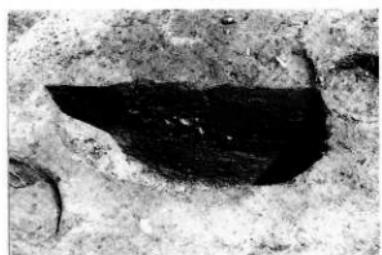
写真図版62 11・12・36・40・41号土坑



21号土坑（断面）



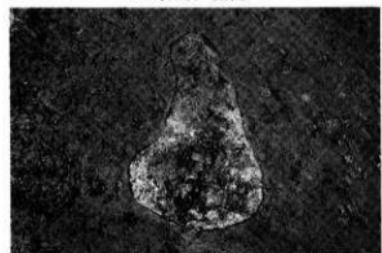
25号土坑（断面）



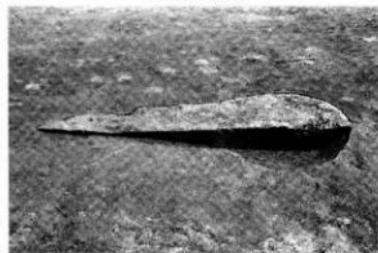
26号土坑（断面）



35号土坑（断面）



1号烧土（平面）



断面

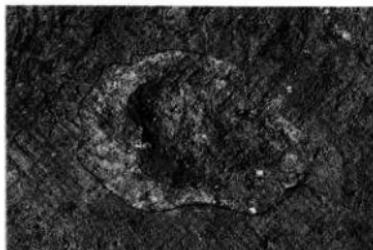


2号烧土（平面）



断面

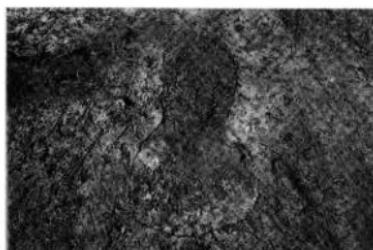
写真図版63 21・25・26・35号土坑、1・2号焼土



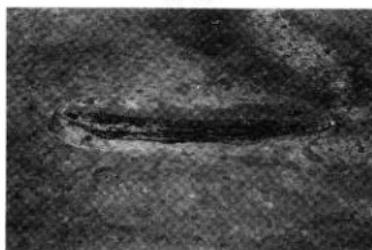
3号焼土（平面）



断面



4号焼土（平面）



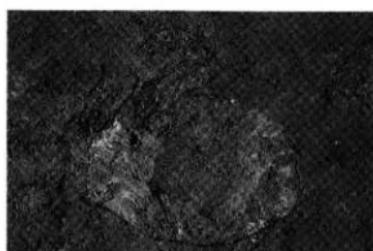
断面



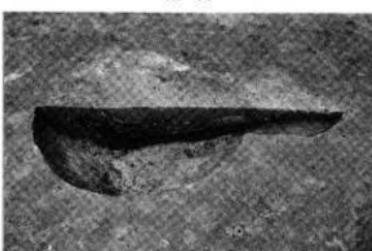
5号焼土（平面）



断面

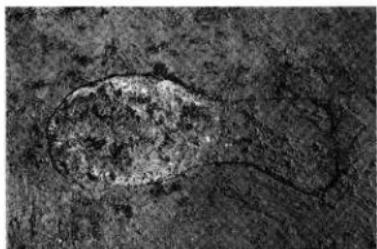


6号焼土（平面）



断面

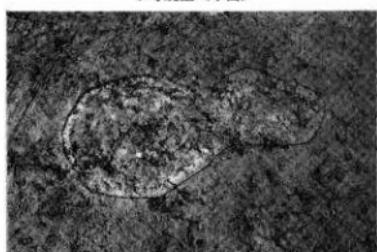
写真図版64 3~6号焼土



7号焼土（平面）



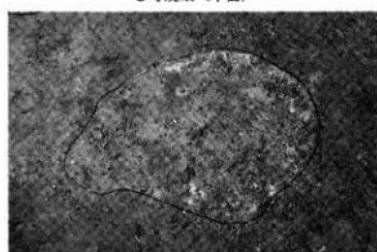
断面



8号焼土（平面）



断面



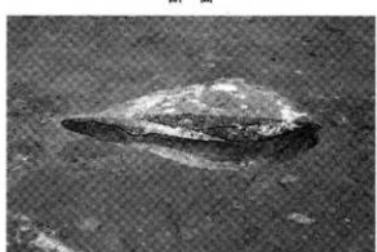
9号焼土（平面）



断面

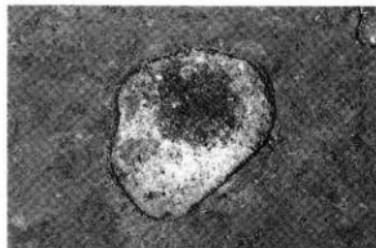


10号焼土（平面）



断面

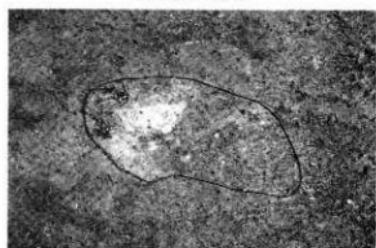
写真図版65 7~10号焼土



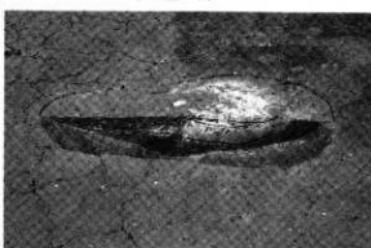
11号焼土（平面）



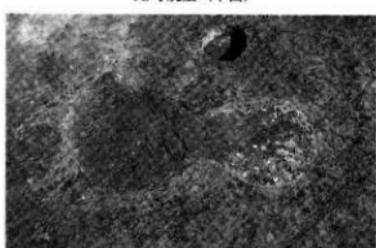
断面



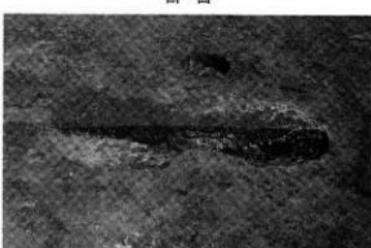
12号焼土（平面）



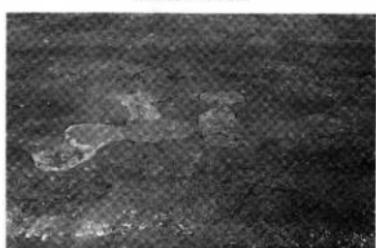
断面



13号焼土（平面）



断面

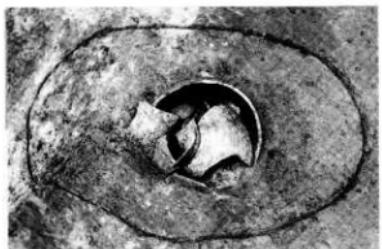


14号焼土（平面）



断面

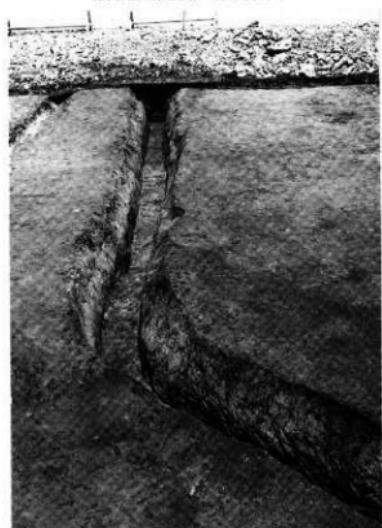
写真図版66 11~14号焼土



須恵器埋設構 (検出状況)



断面



1号溝・西侧 (平面)



1号溝・東側 (平面)



西侧断面



東側断面

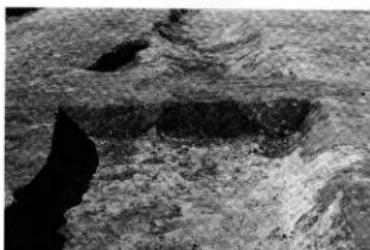
写真図版67 須恵器埋設構、1号溝



5・6号溝（平面）



5号溝（断面）



6号溝（断面）



7・8号溝（平面）



7・8号溝西侧（断面）



7・8号溝東側（断面）

写真図版66 5～8号溝



2·3号溝（平面）



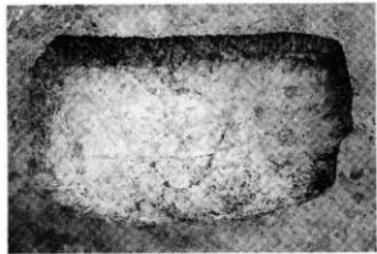
11号溝（平面）



2·3号溝（断面）



11号溝（断面）



1号墓壙（平面）



2号墓壙（平面）

写真圆版69 2·3·11号溝、1·2号墓壙



1



2



3



4



5

1号住居跡
写真図版70 遺構内出土遺物（1）



2号住居跡



3号住居跡

写真図版71 遺構内出土遺物（2）



22



23



24



25

3号住居跡



26



27



28



29



30

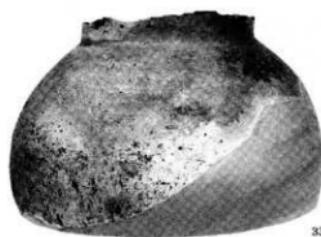


31



32

写真図版72 遺構内出土遺物（3）



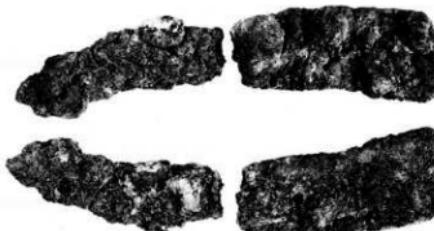
33



34



35



36

4号住居跡



37



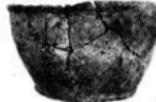
37



39



40



41



42



43

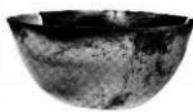


44

5号住居跡
写真図版73 遺構内出土遺物 (4)

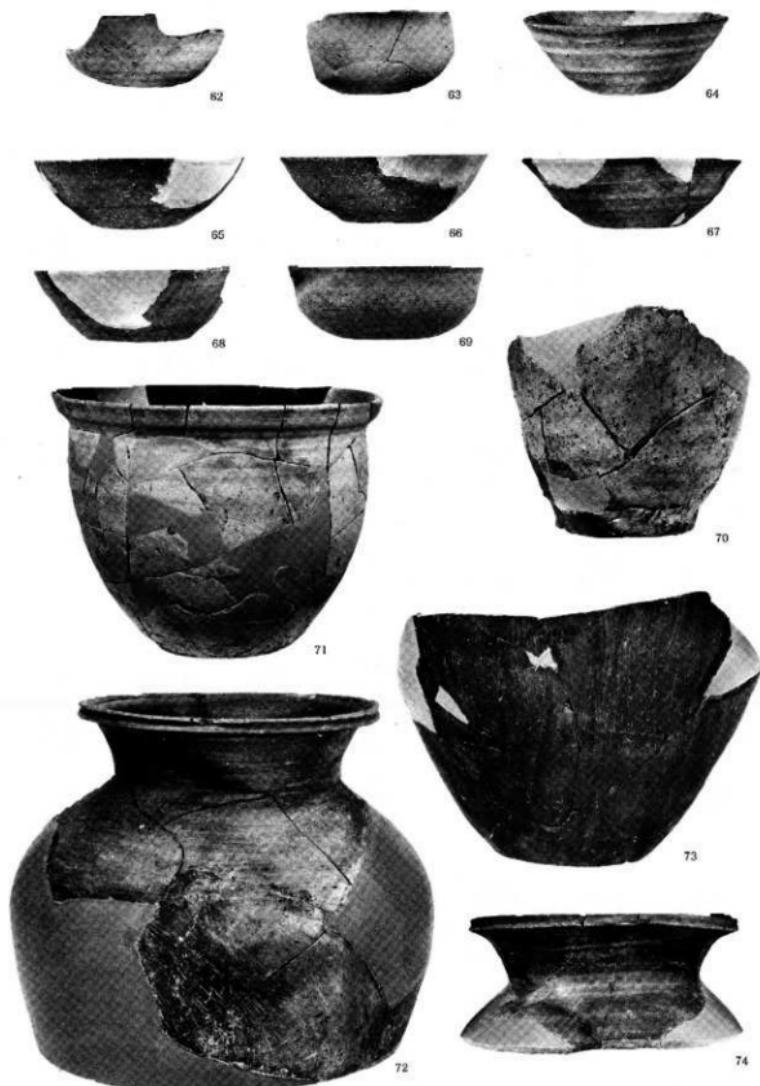


6号住居跡

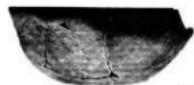


7号住居跡

写真図版74 遺構内出土遺物（5）



7号住居跡
写真図版75 遺構内出土遺物（6）



75



76



77



78



79



80



81



82



83



84



85



86



87



88



89



90



91



92



93



94



95



96



97



98



99



100



101



102



103



104

8号住居跡

写真図版76 遺構内出土遺物（7）



8号住居跡
写真図版77 遺構内出土遺物（8）



写真図版78 遺構内出土遺物（9）



172



173



174



175

9号住居跡



176



177



178



179



180

10号住居跡

写真図版79 遺構内出土遺物（10）



181



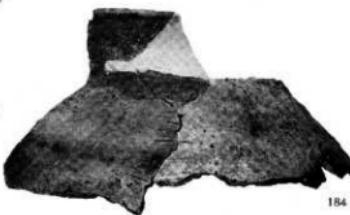
182



183



186



184



185

10号住居跡



187

11号住居跡

写真図版80 遺構内出土遺物（11）



188



189



190



191



192



193



194



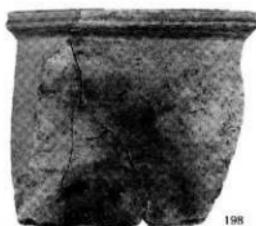
195



196



197



198



199



200



12号住居跡

201

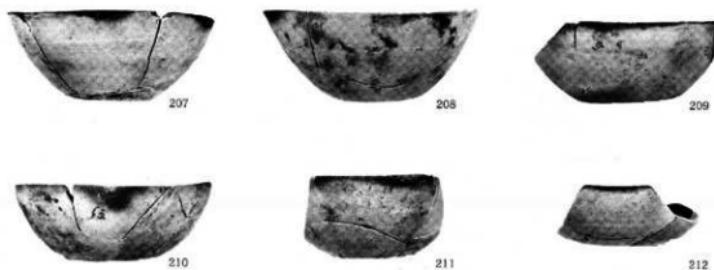


202

写真図版81 遺構内出土遺物（12）

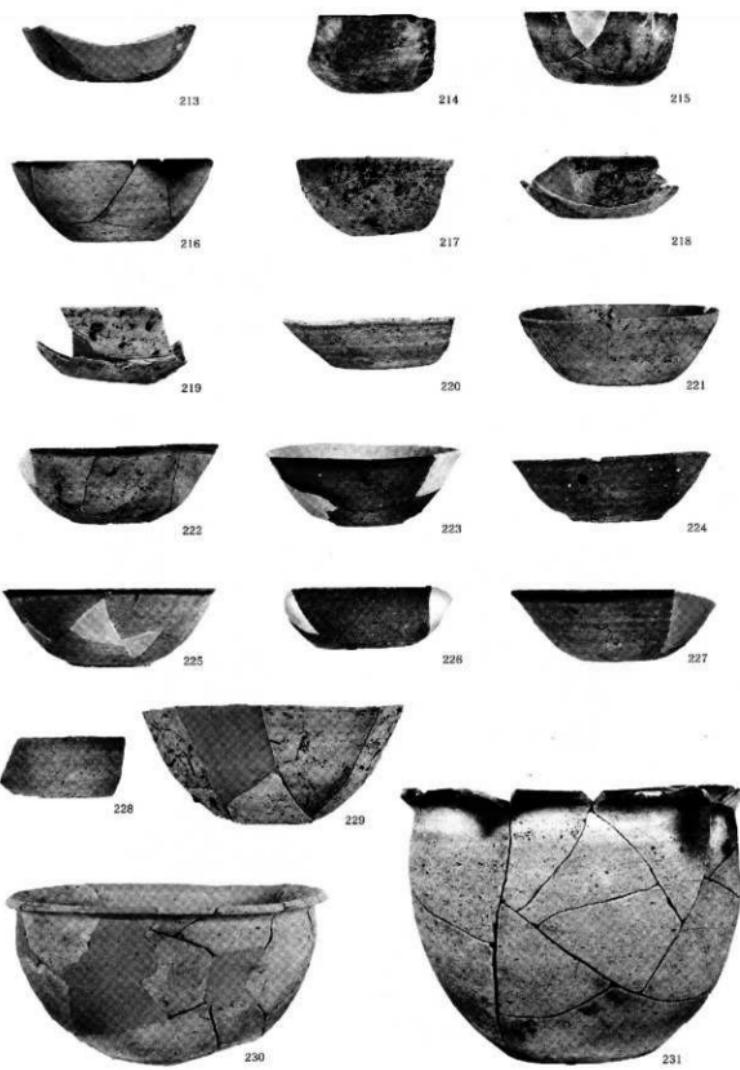


13号住居跡



14号住居跡

写真図版82 遺構内出土遺物（13）



14号住居跡

写真図版83 遺構内出土遺物 (14)



232



233



234



235



236



237



238

写真図版84 遺構内出土遺物（15）



239

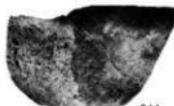


240



241

14号住居跡



244



245



246



247



248

15号住居跡
写真図版85 遺構内出土遺物（16）



249



250



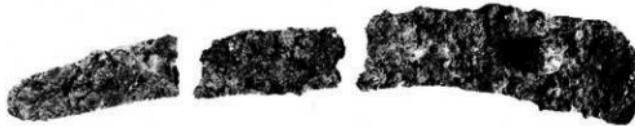
252



251



253

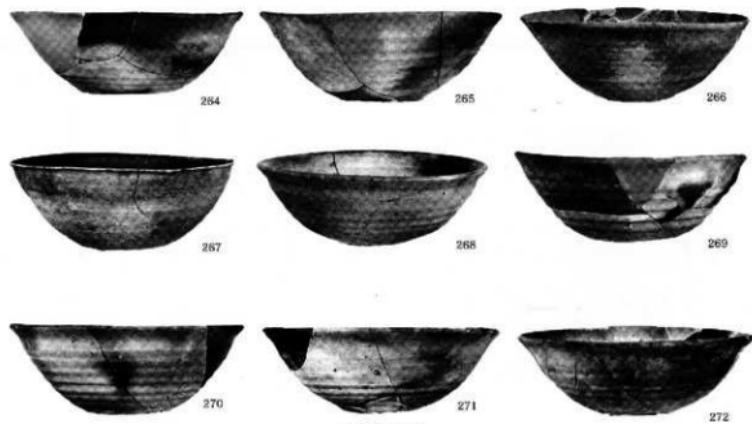
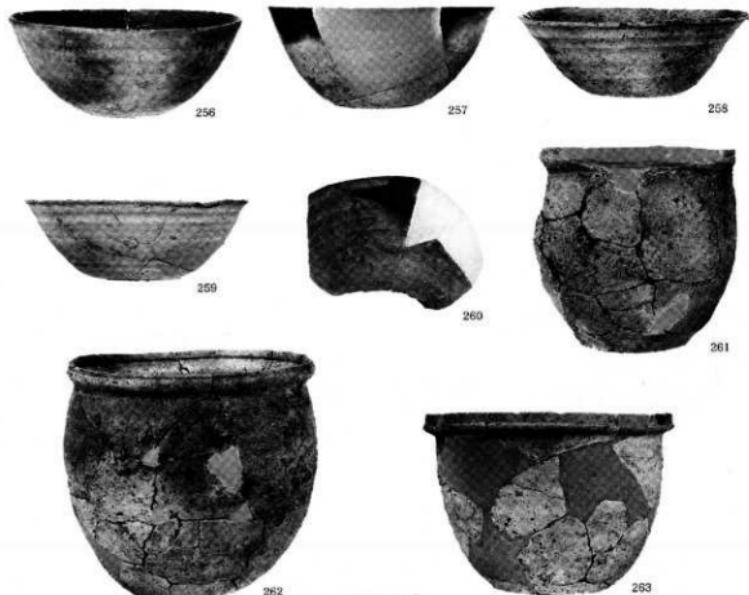


255

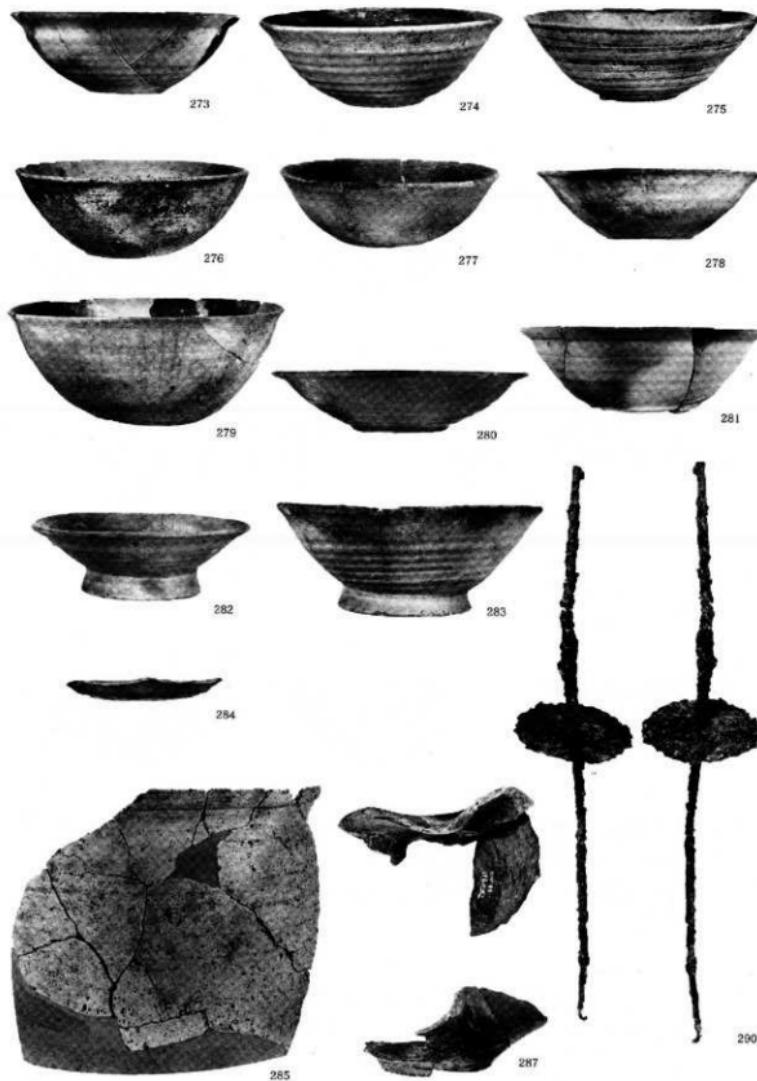


15号住居跡

写真図版86 遺構内出土遺物（17）



写真図版87 遺構内出土遺物 (18)



17号住居跡
写真図版88 遺構内出土遺物（19）



288

17号住居跡



291



292

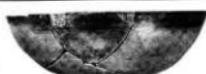


293

18号住居跡



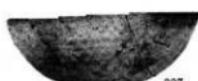
294



295



296



297

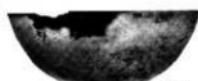


298



299

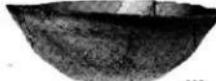
19号住居跡



300



301



302



303



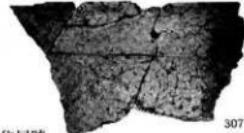
304



305



306



307



308

20号住居跡

写真図版89 遺構内出土遺物 (20)



309



310



311



312



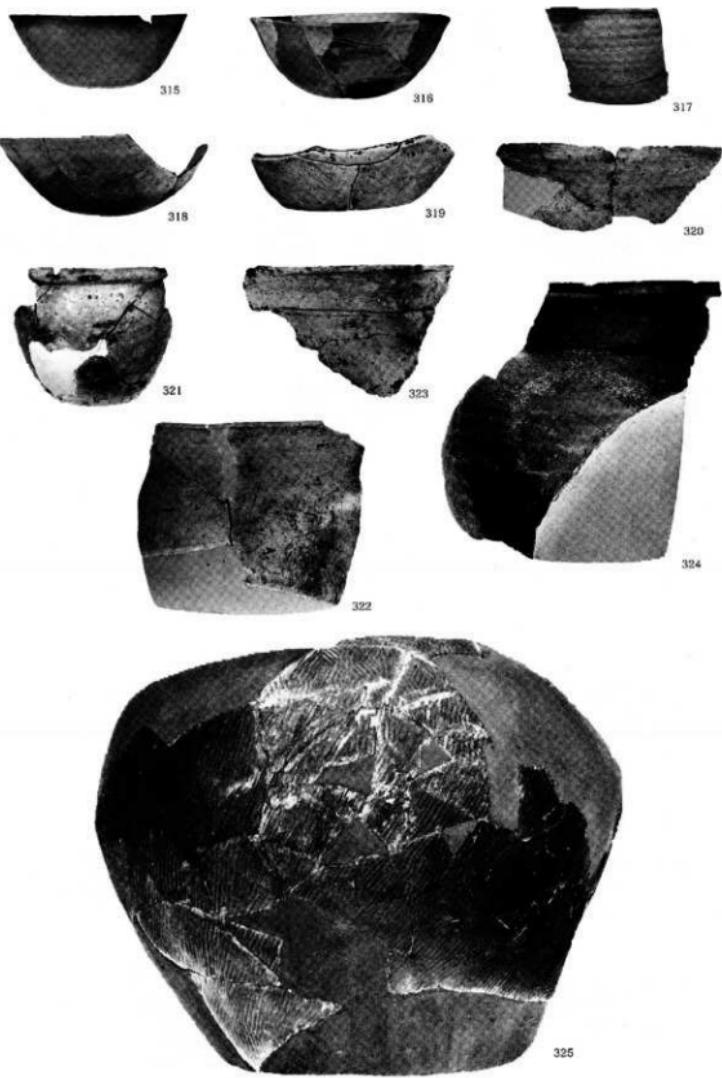
313



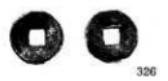
314

20号住居跡

写真図版90 遺構内出土遺物 (21)



21号住居跡
写真図版91 造構内出土遺物 (22)



21号住居跡



327



328



329

22号住居跡



330



331



332



333



334



335



336



337



338



339



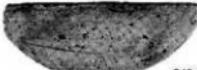
340



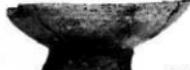
341



342



343



344



345



346



347



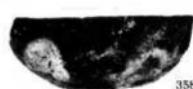
348

23号住居跡

写真図版92 遺構内出土遺物 (23)



23号住居跡



24号住居跡

写真図版93 遺構内出土遺物（24）



359



360



361



362



363



364



365



366



367

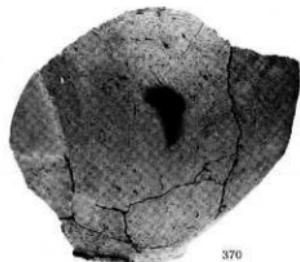


368



369

写真図版94 造構内出土遺物（25）



370



371

24号住居跡



372



373



374



375



376



377



378



379



380

25号住居跡

写真図版95 遺構内出土遺物 (26)



381



382



383



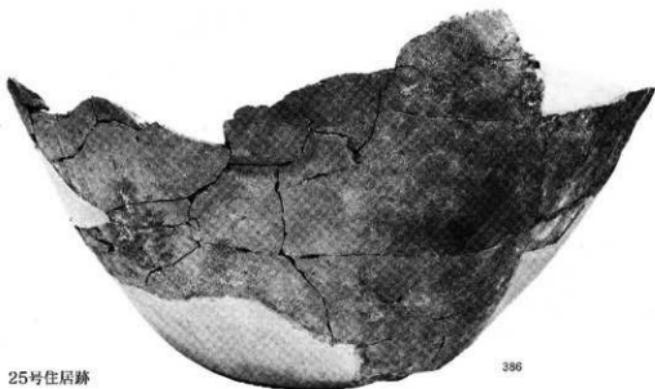
384

25号住居跡

写真図版96 遺構内出土遺物 (27)



385



386

25号住居跡

写真図版97 遺構内出土遺物 (28)



389



25号住居跡



390



391



392



393



394

26号住居跡



395



396



397

27号住居跡

写真図版98 遺構内出土遺物 (29)



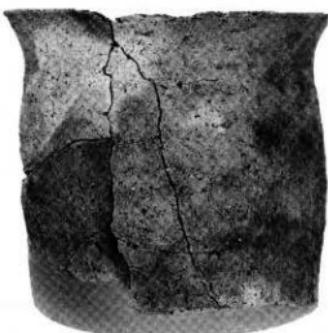
398 399 400



401



402



403



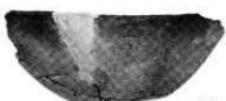
404



405

28号住居跡

写真図版99 遺構内出土遺物 (30)



406



407



408



409



410



411

29号住居跡



412



413



414



415

7号土坑



416



417

須恵器埋設遺構

8号土坑

写真図版 100 遺構内出土遺物 (31)



418



419



420



421



422



423



424



425

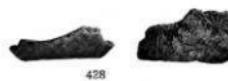


426

9号土坑



427



428



429



430



431

432

10号土坑



433

15号土坑



434



435



436



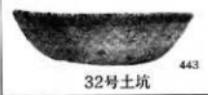
437



20号土坑



24号土坑



32号土坑



440



31号土坑



33号土坑

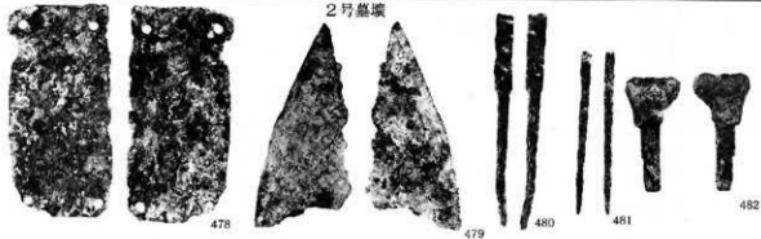
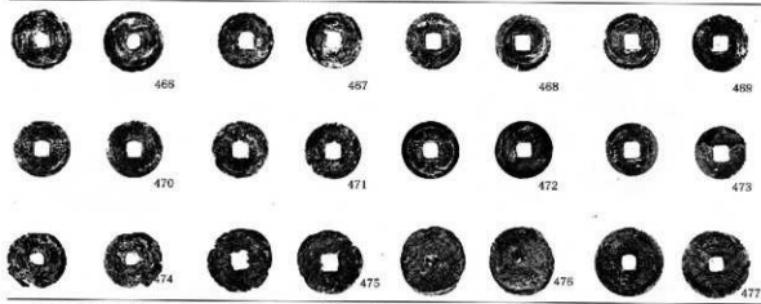


27号土坑

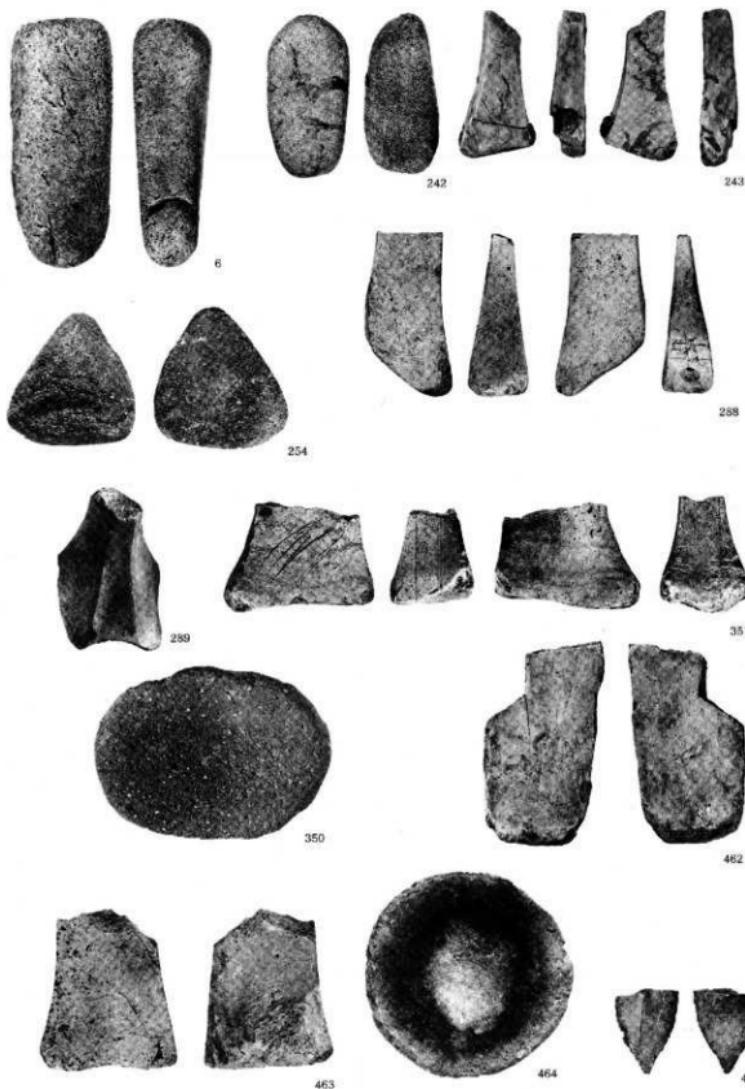


441

写真図版101 遺構内出土遺物 (32)



写真図版102 遺構内・遺構外出土遺物 (33)



写真図版103 遺構内・遺構外出土遺物（34）

報告書抄録

ふりがな 書名	にたないいせきはつくつちょうさほうくしょ 似内遺跡発掘調査報告書						
副書名	東北横断自動車道路関連遺跡発掘調査						
卷次							
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財報告書						
シリーズ番号	第344集						
編著者名	溜 浩二郎・金子昭彦・熊谷恵一・松川由次						
編集機関	財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター						
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185 TEL(019)-638-9001						
発行年月日	西暦2000年10月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村・遺跡番号	北緯 ° / ′ / ″	東経 ° / ′ / ″	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
にたないいせき 似内遺跡	いわてけんいなまわし 岩手県花巻市 かみかわせひやまわせ 上院内第10地区 66-1ほか	03205-ME16-2299	39度 24分 21秒	141度 08分 27秒	1998. 8.7~11.13 1999. 4.14~10.7	2,560m ² 7,853m ²	「東北横断自動車 道路建設事業」に 伴う緊急発掘調 査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
似内遺跡	集落跡	绳文時代	陥し穴状遺構	67基	土器類(壺、甕)	平安時代9世紀代の	
		平安時代	土坑	41基	須恵器(壺、甕)	集落跡	
		"	竪穴住居跡	31棟	鉄製品(鎌、鐵、刀子、 古銭など)	・住居(状)遺構の埋 土から金粒出土	
		"	須恵器壙設遺構	1基			
		中世以降	焼土遺構	14基	石器(砥石、磨石、 石錐)		
		"	溝状遺構	13条			
		"	掘立柱建物跡	21棟	土製品(土塹、耳皿) 金粒		
		"	柱穴列	15基			
		"	竪穴状遺構	3基			
		"	墓壙	2基			

平成12年度(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員名簿

【職員】

所長

伊藤民也

副所長

櫻田次男

【管理課】

管理課長

川浪清徳

嘱託

夫子ヨ重

管理課長補佐

山崎善光

"

芳恵ト光

主査

立花多加志

"

千藤新佐

主事

日影睦夫

"

タ木

【調査第一課】

調査第一課長

佐々木勝文

【調査第二課】

調査第二課長

門紀介子迪孝身濃幸徹穂計悟宏大晃彦一彦郎美)

調査第一課長補佐

佐々木清文

右衛義知

主任文化財専門調査員

小山内透

橋與川橋子佐

道貞真芳

文化財専門調査員

赤石登充

文化財専門調査員

由紀正淳武太直之

"

吉田一郎

"

"

小原眞一郎

"

"

笠原健一郎

"

"

金野達昭淳勝

"

"

鳥居昭二郎

"

"

東海林勝

"

"

阿部正靖

"

"

羽柴靖克

"

"

小野寺二貴

"

"

皆長潤

"

"

瀬村浩池

"

"

上上

"

"

多村準

"

"

北村忠浩

"

"

丸村弘

"

"

山村賢

"

"

木村信

"

"

藤井又

"

"

川吉真

"

期限付専門職員

"

期限付専門職員

木川田出里津紀弘

"

"

鈴吉古原麻原

"

"

山齋島

"

"

山

"

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第344集

似内遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道建設事業関連遺跡発掘調査

印刷 平成12年10月26日

発行 平成12年10月31日

発 行 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 盛岡市下飯岡11-185

TEL (019)638-9001

印 刷 杜陵高速印刷株式会社
〒020-0811 盛岡市川口23-1
TEL (019)651-2110

